

みんなが描いた福岡市の未来



平成 2 3 年 1 2 月 2 0 日

平成23年5月31日。

「福岡市の新しいビジョンを一緒につくりましょう！」という呼びかけから始まった、「アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクト」では、短い時間ではありましたが、地域、企業、大学等のたくさんの方々から、「25年後の福岡をどのようなまちにしたいか」について、思いあふれる、さまざまなご意見を頂きました。

意見を頂くにあたっては、インタビューの実施、フォーラムの開催、論文の募集、アンケート調査の実施などに加えて、新たな手法として、100回を超えるビジョンカフェ（ワールドカフェ）の開催や、ツイッター、フェイスブックなども導入することで、プロジェクト全体としては、延べ1万人を超える方々に関わって頂き、専用ホームページのアクセス件数は10万アクセスを超えました。

福岡市の将来について、みなさんから頂いたご意見は、一人ひとりの夢があふれ、思いがこもり、願いに満ちたものです。それらは、分野も価値観も多岐にわたっており、さまざまな内容に富んでいます。

たくさんのご意見を分類・整理していく中で、福岡市の将来を考えるにあたっての的確な課題認識や、貴重な視点・論点が明らかになってきました。そして、将来のまちのあり方についても、いくつかのまとまった姿が見えてきました。それらを取りまとめたのが、この「みんなが描いた福岡市の未来」です。

「みんなが描いた福岡市の未来」はとりまとめましたが、これは終わりではありません。これから続く、素晴らしい福岡市づくりの、始まりです。

みなさんから頂いたご意見に共通していたのは、みんな福岡が好きで、福岡をもっとよくしたいという思いです。この共通の思いをエンジンに、みんなでまちづくりを進めるためのみちしるべとして、この「みんなが描いた福岡市の未来」をしっかりと受け止めて、今後、福岡市では総合計画をつくっていきます。

今より素晴らしい福岡市になるよう、福岡市を好きだと自信を持って言い続けられるよう、一緒に進みましょう。現在の、そして未来の福岡市民のために。

目 次

第1部 みなさんの描いた福岡市の将来の姿 P 1～

新ビジョンの検討にあたって頂いたたくさんのご意見は、一つ一つがみなさんの描く福岡市の将来の姿です。ここでは、そんな福岡市の将来の姿について、とりまとめました。

第2部 福岡市の現状や課題に対する主なご意見 P 17～

皆さまからいただいた福岡市の現状や課題についてのご意見を集約・抜粋しました。また、ご意見等に関連するデータを市において抽出し、掲載しました。

第3部 意見募集メニューごとの意見集約又は抜粋など P 45～

様々な方法で皆さまからいただいたご意見を、大きく8つの括りに分けられる意見募集メニューごとに集約・抜粋しました。

第4部 意見募集メニューごとの実施方法 P137～

各意見募集メニューごとの主な実施方法等を記載しました。

用語集 P148～

第1部 みなさんの描いた福岡市の将来の姿

みなさんからの思いのこもったご提案、このまちがこうあって欲しいという願いは、それぞれ興味関心の分野、価値観などが多岐にわたっており、一つの姿にまではなりませんでしたが、しかし、思いあふれるそれらのご意見は、表現は違っていても同じ方向をめざしているものも多く、将来のまちのあり方についても、いくつかのまとまった姿が見えてきました。それが、この「みなさんの描いた福岡市の将来の姿」です。

(女性・こども・教育)

- ◆キラキラ輝く女性が日本で一番生き生きと活躍するまち
- ◆世界に羽ばたくオンリーワンの子どもたちが健やかに成長するまち
- ◆大学の魅力が人をひきつけ、学びから生まれる活力で、元気と活気があるまち

(健康・福祉・高齢化)

- ◆アジアの諸都市のモデルとなる、高齢者が活躍し安心して歳を重ねられるまち
- ◆ユニバーサルデザインですべての人が住みやすいまち
- ◆心をゆったり幸せに暮らせるストレスフリーなまち

(コミュニティ)

- ◆コミュニティの再デザイン、新たなつながりが生まれる対話と交流のまち

(生活基盤・交通)

- ◆既存のストックの利活用で美しさと新たな価値観を生み出すコンパクトなまち
- ◆量の交通から質の交通へ転換するまち

(自然・環境)

- ◆「もったいない」が一步進んだ、環境・エネルギー技術のショーケースとして発展するまち

(安全・安心)

- ◆発展と治安の両立した、皆が安全で安心して暮らせるまち

(歴史・文化・スポーツ)

- ◆歴史・文化・スポーツで充実した市民の時間が、世界をひきつけるまち

(観光・集客)

- ◆来街者がドラマを感じる、わざわざ行きたくなる吸引力のあるまち
- ◆祝祭が年中ある、非日常を楽しむエンターテインメントシティ

(農林水産)

- ◆九州の安全・安心で美味しい食を、アジアに売り出すまち

(アジア・国際化)

- ◆外国人も住みたがり、多文化が日常化した、ボーダーレスなアジアの拠点になるまち
- ◆学び続ける多言語教育のまち
- ◆九州が一つの都市圏になって成長し発展するための核となるまち

(港湾・空港)

- ◆利便性の高い空港と港湾でアジアに直結するまち

(産業振興)

- ◆働く場がたくさんあり、わたらしい働き方が選べるまち
- ◆国境を越えてプレイヤーが羽ばたき、夢が成長のエネルギーになるチャレンジのまち
- ◆企業から選ばれ、愛され住みたいと思われる憧れのまち

1. 女性・こども・教育

(女性・こども)

『キラキラ輝く女性が日本で一番生き生きと活躍するまち』

『世界に羽ばたくオンリーワンの子どもたちが健やかに成長するまち』

- 女性の力を社会で活かしていけるよう、安心して出産・育児ができるよう、ワークライフバランスを進める。
- 心のこもった独自の教育などにより、子どもが健やかに成長する支援を行う。
- まち全体で子どもを育てていくような体制をつくり、また、子育てを中心に働き暮らせるような価値観を根付かせていき、子どもを増やしていく。

<提案された取組み>

- ・ショッピングとネイル、美容室、エステを組み合わせた美容ツアー「きれいになるプロジェクト」を推進する。
- ・女性を惹きつける都市、子育てしやすいまち、合計特殊出生率日本一、というような都市のビジョンを掲げる。
- ・子づくり減税など、働く女性が2人目、3人目の子供を持てるような環境を整備する。
- ・女性の管理職比率、取締役比率の目標値を設定する。
- ・男性の育児休業取得率100%を目指す。
- ・家事サービスを安い金額で頼める仕組みをつくる。
- ・高齢者が生き甲斐として子どもと触れあい、面倒をみるような仕組みをつくる。
- ・入札制度に男女共同参画への取組みの指標を取り入れる。

(教育・大学)

『大学の魅力が人をひきつけ、学びから生まれる活力で、元気と活気があるまち』

- すべての世代に開かれた学びの場を創造し、住む人すべてに学びと活力があるまちにする。
- 「学びの場」、「知の拠点」としての大学の魅力が人を惹きつけ、大学生・留学生が快適に過ごせ、Uターン、Iターンなどで外の知識・経験が集まるようにする。
- 人材をテーマとして存在感を増していくことで、どのような時代になろうと、どのような分野が注目されようと魅力にあふれ活力を持った都市になる。
- 道徳教育、社会性を養う教育を中心とした、「福岡版生きる力」を育てる学習を充実させる。

＜提案された取組み＞

- ・福岡都市圏の大学を九州大学の跡地に集め、複合型キャンパスの新しいモデルをつくる。
- ・中小の大学が個々の特長を生かしてネットワーク化した「福岡大学連合システム」を整備する。
- ・百道における I S I T（財団法人九州先端科学技術研究所）のような知の呼び水となる研究施設を九大学研都市にも設け、第4次産業の核にしていく。
- ・九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学などを含めた医師の連携による医療観光を実施する。
- ・時代の変化の中で強く生きていく教育・訓練、健康的なハングリー精神を身につける教育を実施する。
- ・新エネルギー、ヘルスケア、ソーシャルサービスなど有望な産業分野に行政と大学群が連携して力を入れていく。
- ・アジア太平洋こども会議などを活用してグローバルシチズンを育成する。

2. 健康・福祉・高齢化

（健康・福祉・高齢化）

『アジアの諸都市のモデルとなる、高齢者が活躍し安心して歳を重ねられるまち』

- 少子高齢化が進展する中、高齢者がいきいきと健康に暮らせ、働け、活躍できる社会システムを構築することが必要である。
- 社会福祉や医療が充実したシステムを構築できれば、そのシステムは、今後、少子高齢化が進むアジアの明るい将来モデルとなり、アジア共有の財産となる。

＜提案された取組み＞

- ・日本より遅れて人口構造の変化（少子高齢化）が起こる東アジアなどへ、高齢化対応のノウハウを移転し、新たなビジネスチャンスにつなげる。
- ・ICカードを利用して高齢者の行動分析を行うなどにより、高齢者の就業機会や、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなどの新しい就業形態へつなげる。
- ・介護保険事業などで得られた有用なデータをデータベース化し、研究機能を備えたアジア地域の高齢化の拠点基盤化に取り組む。
- ・高齢者が年金等だけに依存せず、自己参加や役立ちによる収入財源を持つような生活、社会システムを構築する。
- ・農業・林業・水産業において、高齢者が活躍できる場をつくる。
- ・ふくおか恋愛都市宣言を行い、恋愛の力で健康になり、消費意欲が高まり、孤独死を防ぐ。

(ユニバーサルデザイン)

『ユニバーサルデザインですべての人が住みやすいまち』

- お互いがお互いのことを思いやり支えあう、みんなが優しい、世界で一番幸せなまちを目指して市民目線でまちづくりを進め、ユニバーサルデザインの先進都市になる。
- ハードを整備するだけでなく、ハードの不整合を解消するためのソフト面での努力が必要である。

＜提案された取組み＞

- ・佐賀の“パーキング・パーミット”や、熊本の“変わるタイミングや待ち時間を視覚的に表示する信号機”など、九州内の先進的な取組みを取り入れる。
- ・ブラインドサッカーなど、スポーツで自然に理解を深める。
- ・海外から訪れる人に対するユニバーサルデザインを進める。
- ・都心の回遊性を高めるため、歩道のバリアフリー化を進める。
- ・まち中の英語表記をより細かいところまで行き届かせる。
- ・外国人を交えたコミュニティづくりを進める。

(ライフスタイル)

『心をゆったり幸せに暮らせるストレスフリーなまち』

- 居心地のよいスローライフ、ゆったり過ごせる空間・生活を形成する。
- 自分らしく生きる夢を実現できる。

＜提案された取組み＞

- ・仕事と生活のバランスを保つことができるよう、福岡型のワークシェアリングを導入する。
- ・家族構成が変化しても住み慣れた地域に住み続けることができるような、地域内住み替えサポートサービスを整える。
- ・高齢者の外出の動機付けの一つとして、住宅街に残された未利用農地を市民農園（家庭菜園）として活用していく。
- ・通勤時間が短いコンパクトな都市であることを活かした、福岡らしいライフスタイルを提案・情報発信していく。
- ・子育てに優しいよう、高齢者だけの世帯が増えないよう、二世帯・三世帯同居を促進する。

3. コミュニティ

(コミュニティ)

『コミュニティの再デザイン、新たなつながりが生まれる対話と交流のまち』

- ふらっと行ける地域の居場所があるなど、世代間での対話の場が日々たくさん存在する、垣根が低いオープンコミュニティで、面識のあるつながりが生まれる。
- 住んでいる人が当事者として、ビジョンと志、誇りを持って、まちづくりに入り込むことが、よりよいまちづくりにつながり、シビックプライドの醸成につながる。

＜提案された取組み＞

- ・そのまちオリジナルの新たな現代の祭りを市民が手作りし、まちへの愛着・誇りを高めるといような仕組みを整える。
- ・その地域の個性が平準化して丸くならないように「アーバン・ビレッジ」（都市の中の村）をつくる。
- ・市内の公園や広場、オープンスペースを市民参加型の市場として活用する。
- ・家の近所で親や同級生以外と交流する場をつくる。
- ・地域に、医療・福祉・住宅・生活支援などのよろず相談のできる場（コンシェルジュ）を置く。
- ・公民館を活用して、誰もが気軽に集う「地域サロン」や、人や情報が集まり、地域との自発的な関わりを実現する場「まちのコラボステーション」や、地域問題解決を進める「フューチャーセンター」のような場を整備する。
- ・使用していない空き教室などを「生きがいカフェ」として、文化活動や学習の場として地域が運営する。

4. 生活基盤・交通

(都市計画・街並み)

『既存のストックの利活用で美しさと新たな価値観を生み出すコンパクトなまち』

- スクラップ・アンド・ビルドだけでなく、パリやニューヨークのような、既存のストックをうまく利活用することにシフトすることが必要である。
- 都市計画は住居、商業、工業地域をそれぞれ青、赤、黄色で「塗り分け」るのではなく、どう「混ぜ合わせ」て綺麗な色で描くか。
- 博多、天神といった大きな括りではなく、春吉、今泉、大名などそれぞれの場所ごとの個性、位置付けをもっと差別化して、しっかりした機能を作り込み、違いをいかに打ち出すかが、今後のまちづくりのポイント。

＜提案された取組み＞

- ・既存の建物を共有できるように手入れを行い、各世帯の人口変動に合わせて住空間を変えることが可能な仕組みを導入する。
- ・地域のまちづくり活動や団体間の連携活動を支援するアーバンデザインセンターを設定する。
- ・博多・天神といった大きな括りではなく、春吉、今泉、大名などそれぞれの地域の個性を分かりやすくプロデュースしていく。
- ・海外からの長期滞在や居住をクリアできるような交通・買い物・医療といった基盤を整備する。
- ・福岡市内で二酸化炭素を吸収できるよう、建物全てを屋上緑化にし、上空から見ると一面緑の森林都市にする。
- ・今後急増する海外の 100 万人都市に対して、人口増と並行して 3C（コンパクト、コンビニエント、クリーン）と整った交通体系を保つ「福岡モデル」を PR していく。

（交通・ネットワーク）

『量の交通から質の交通へ転換するまち』

- 車を中心としないで、連結バスの BRT や地下鉄のさらなる充実、ベロタクシーや自転車の利用を組み合わせる。
- 交通事故多発都市からの脱却にむけ、クルマから自転車へ大胆にシフトし、法律順守の徹底、自転車インフラの整備を進め、スマートでエコな自転車先進都市に転換する。
- 今あるインフラを最大限活用するため、つながりを考えたマネジメントで、使いやすいネットワークをつくる。

＜提案された取組み＞

- ・自転車やベロタクシーなど多様な交通手段を活用する。
- ・九大の伊都キャンパスやベイサイドプレイスへの交通アクセスを改善する。
- ・都心部に連結バスの BRT を走らせたり、外環状線や都市高速上に連結バスを走らせるなど、定時性とキャパシティ向上を兼備した新たな公共交通を研究・実験する。
- ・レンタサイクル、ベロタクシーの配備、タクシーやバス、LRT の活用、自転車インフラの整備を進める。
- ・幹線道路のトランジットモール化と合わせ、都心部への一般車両の乗り入れ規制を実施する。
- ・港から天神、博多につながる間をすべて歩行者天国化し、露天を設け、歩きたくなる仕掛けを行う。

5. 自然・環境

(自然・環境)

『「もったいない」が一步進んだ、環境・エネルギー技術のショーケースとして発展するまち』

- 自給できるクリーンエネルギーに支えられた、世界に誇れるエコシティになる。
- 自然と人が共生し、自然を損なわない。水を守り、水に親しむ。まちなかのたくさんのみどりが豊かさを生むまちになる。
- ごみの排出量抑制、リサイクルが自然にでき、“ものを大切にする”、“皆で使う”精神が根付いた賢い市民の住む循環のまちになる。
- 成熟した社会では、成長ではなく持続可能な地域社会を目指す必要がある。

＜提案された取組み＞

- ・ 自然エネルギーを活用する。
- ・ 多様な自然環境の財産を活かし、あらゆる場や機会を通して環境教育を行う。
- ・ 有機性廃棄物の循環システムをつくり、有機物のリサイクルを行う。
- ・ 大規模な開発を行う場合に、同等以上の自然を近くに再生させることを義務付ける日本初の「環境オフセット制度」を創設する。
- ・ 二重窓の設置により冷暖房によるエネルギー消費量を削減する。
- ・ 都心部ビルの建て替えにあわせ、壁面、屋上及びオープンスペースの緑化を奨励して、都心部ビル「総アクロス化計画」を実施する。
- ・ 通行車両の振動を元に発電する振動舗装など既存の道路空間を活用して新エネルギーを創出する。
- ・ 浄水場に小水力発電設備を積極的に導入し、電力消費量や温室効果ガス排出量の削減に取り組む。

6. 安全・安心

(安全・安心)

『発展と治安の両立した、皆が安全で安心して暮らせるまち』

- 発展の中にあっても犯罪が少なく治安がよいこと、飲酒運転をなくし交通安全であること、災害に強いこと、そしてマナーアップしていること。安全・安心な生活環境をつくり、守ることは、都市の大きな財産である。

＜提案された取組み＞

- ・ 行政や財界のリーダーが市民と一緒に取組みを進める。
- ・ 防災拠点の整備とともに、防災・減災に活用できる民間の施設も含めた整備を行う。
- ・ 市内にいる全ての人が、少しでも早く避難行動が始められるような情報伝達手段を

整える。

- ・飲酒運転を撲滅する。
- ・安全に安心して暮らせるよう、地域の防災リーダーの育成と活用、緊急情報サービスの充実など、防災活動を通じたコミュニティの強化などに取り組む。

7. 歴史・文化・スポーツ

『歴史・文化・スポーツで充実した市民の時間が、世界をひきつけるまち』

(歴史)

- 伝統や歴史を守る一方、歴史に関わる観光資源を掘り起こして、都市観光に活用すべきである。

＜提案された取り組み＞

- ・「福岡のまちの歴史を感じる日」を設ける。
- ・市民会館の立て替えの際に、福岡の歴史アーカイブ施設を作る。
- ・歴史的建造物、寺社仏閣、町屋、近代建築などを都市観光に活用する。併せて、税控除や助成などで形成・維持支援を行う。
- ・職人が博多織を織ったり、博多人形を作ったりしている様子などが全部見られるような博多の名所となる「門前町」を創る。
- ・福岡城天守閣、鴻ろ館を復元し、歴史的象徴として、観光資源や都市イメージの形成に活用する。

(文化)

- 文化・伝統そのものの保存と創造、文化に親しむ場や機会の提供、成熟した都市間競争において、文化は欠かせない魅力である。市民の幸せや楽しみにどう繋げるか、の観点が大切。

＜提案された取り組み＞

- ・博多座や九州国立博物館（太宰府市）など文化の高さをまちの魅力として情報発信を行う。
- ・伝統文化に裏付けされた地元コンテンツを創り、文化発信力を高める。
- ・芸術や文化の学術センター、大学をつくり、アジアの芸術家を育成し、「アジアの文化を学ぶのであれば福岡で」となるような情報発信を行う。
- ・九州やアジア各地から表現者達を集め、福岡、韓国、中国の海に面する都市を船でつなぐようなアジア文化祭的な仕掛けを行う。
- ・行政が行う文化や生涯学習事業などは、大学やカルチャーセンター等に任せ、その大学等に補助をしたり、受講者にクーポン券のような形で補助する。
- ・現在、行政が行っているホール施設などの運営を文化・芸術のプロが行う。

- ・才能ある創作者たちが表現を行う場をつくる。
- ・クリエイター、芸術家、富裕層・有名人らの活動地、居住地などとして、芸術村を整備する。

(スポーツ)

- プロなどトップ選手や国際的なスポーツ大会に身近に触れること、子どもから高齢者までいつでもスポーツを楽しめること、観光にも日常にも楽しめるスポーツの魅力を充実させる。

＜提案された取組み＞

- ・一人っ子政策の影響でわがままで協調性のない子が育っているという中国の問題などアジアの課題解決のため、トップ選手を育成するのではない幅広いスポーツ環境を活かして、解決し、健全にしていく。
- ・失われた外遊びの代用としてのスポーツが、自ら考えて自立する子ども達を育てるとの視点から、中学校の部活動に正しい指導者、指導方法を入れ、子どもを安全にきちんと育成するなどの取組みを進める。
- ・盛んなプロスポーツを活かし、アジアの選手を獲得するなどして、観光客誘致などにも活かす
- ・高校野球の決勝戦ができる球場をつくる。
- ・スポーツへの取組みをシーズン制にして、いろんなスポーツに関われる環境を作る。
- ・ホノルルマラソン、東京マラソンのような魅力的なスポーツイベントを開催し、スポーツツーリズムを推進する。
- ・欧米のように、まちがスポーツを育てるという文化を育む。

8. 観光・集客

(観光・コンベンション)

『来街者がドラマを感じる、わざわざ行きたくなる吸引力のあるまち』

- 思わず交流した来街者が、心通うおもてなしに魅せられ、その繰り返しが、福岡のすべての場所を交流のフィールドにする。
- コンベンションや国際会議などMICEに力を入れたり、滞在型観光を受け入れたりすることで、都市と人をつないでいく。
- アジアの中の福岡という視点で福岡ブランドを築き、国内だけでなく多言語でのPRに力を入れ、集客マーケティングをする必要があり、観光客が来れば来るほどまちが良くなっていくような整備をするべき。

＜提案された取組み＞

- ・プロモーションを実施する国をもっと広げ、質の高い英語や多言語での情報発信を

行う。

- ・当日や前日に予約が出来る仕組みなど、お客様の利便性に応える仕組みを整備する。
- ・公共施設だけでなく民間施設にも誘導するサインマップやガイドブックを充実させる。
- ・ヨーロッパにあるような情報提供のキオスクを明治通りや渡辺通りに設置する。
- ・博多の禅寺をめぐる観光コースを作る。
- ・柳橋連合市場や鮮魚市場といった都市内の市場を市民の日常生活にもっと近づけ、都市観光として活用したりする仕組みをつくる。
- ・工場見学など海外の方にも人気があるコンテンツを絡めて、姉妹都市と相互に観光・おもてなしに取り組む。
- ・コンベンションや国際会議などMICE（展示会、会議、研修、セミナー、学会、国際会議、視察など）を増やす。
- ・様々な展示会を誘致し、市民が気楽に訪れて色々なよさを体感し、体験したり勉強したりできるようなコンベンションを開催する。
- ・ベンチやポケットパーク、歩行者天国、オープンカフェを増やす。
- ・退職した方を中心とした観光客案内ボランティアを配置する。
- ・中洲を女性や子どもでも親しめるように整備する。
- ・福岡を拠点として九州各地を巡る観光ルートを確立する。
- ・海を活かしたリゾート、遊園地分野などで、核となる企業を誘致したり、国際スポーツ大会を誘致する。
- ・昼の魅力だけでは日帰りされるので、宿泊してもらえよう、夜と朝の魅力をつくる。
- ・市営地下鉄に、夏の「ビアトレイン」や、アニメキャラクターなどの「ラッピング列車」などの企画列車を運行して、普段利用の方以外の需要を取り込む。

（エンターテインメント）

『祝祭が年中ある、非日常を楽しむエンターテインメントシティ』

- 芸所・博多のイメージがあり、「山笠」や「どんたく」といったまつりを抱え、元来「まつり好き」の気質があるなど、エンターテインメントとの親和性が高いことを利用する。
- 新しいテーマパークなど集客施設の整備や、共通の趣味を持つ仲間と会えたりする場所の整備、食を活かす特徴あるイベントの開催などを通して、賑やかさを演出する。

＜提案された取組み＞

- ・数日から一週間滞在して楽しめるビッグイベントや祝祭が、年中開催されている状況を作る。
- ・大型レストランではなく、小さなお店がたくさん並ぶようなストリート文化を伸ばす。

- ・マニアックな心を爆発させることができたり、共通の趣味を持つ仲間とそこに行けば会えたりするような場づくりを行う。
- ・食を活かした特徴ある観光立市を目指す。
- ・福岡空港を移転し、その跡地に動植物園を移転させた上で、防災機能を持たせたテーマパークである森林公園「ディズニーの森」を創設する。

9. 農林水産

(農林水産)

『九州の安全・安心で美味しい食を、アジアに売り出すまち』

- 九州の農産物が「安全・安心で美味しい」とアジア市場で認知されるように、品質を高め、ブランディングしていく。
- 地産地消の広域での実施や、素材を加工して付加価値を上げるなど、第一次産業の発展を図る。

＜提案された取組み＞

- ・農家と消費者を直接つなげ地産地消を広域で実施する。
- ・国際地域ベンチマーク協議会で繋がっているような海外都市との間で、農業技術の交流、農家の交流、物々交換のような農産品の交流事業を実施する。
- ・九州の農産物がアジア市場で認知されるような仕組みを確立する。
- ・食について、「安心・安全」のキーワードで素材品質を高めるとともに、素材を加工して付加価値の高い商品を生産し、アジア・世界へ輸出する。
- ・図書館の玄関先で野菜等の食品を販売し、レシピ本の貸出や販売とリンクさせる。
- ・九州全域の農林漁業の産物、手工芸品、芸術家の優れた作品などを展示販売する市場「九州マルシェ」をつくる。
- ・九州大学農学部との共同研究により開発した農業新技術、改良品種、環境配慮型の減農薬農法を「知的財産」として海外に輸出する。
- ・鮮魚市場をリニューアルして観光地化し、新鮮な魚が味わえる福岡版“フィッシャーマンズワープ”として整備する。

10. アジア・国際化

(アジア・国際化)

『外国人も住みたがり、多文化が日常化した、ボーダーレスなアジアの拠点になるまち』

- 雇用機会が多く、住みたがる外国人が増え、多様な言語と国籍が存在し、多様性を包み込み、多文化が日常化するなど国際化が進んでいる。

- アジア内のビジネスを増やし、西日本との流れの結節点になることを目指す。手始めに、アジアの中核である九州とアジアの人の流動化を進め、国内市場を拡大させる。
- 勤勉な国民が多く経済成長もしていく潜在性の高いベトナムなど、政治的なリスクが低い東南アジア諸国との結びつきを深めたり、アジア太平洋こども会議に象徴されるような、アジアだけでなく日本とアジア太平洋地域をつなぐ架け橋として機能する。

＜提案された取組み＞

- ・外国人の居住や雇用、生活をケアするワンストップサービスを設ける。
- ・水などのインフラを軸に、企業の持つノウハウの海外展開と、技術者の技術伝承を図るという点の両方から東南アジアへの企業進出を進める。
- ・国際戦略特区として、法人税を15%引き下げ、傘下のアジア企業の経営者・従業員に対して長期ビザを発行する。
- ・アジア統括会社に対して金融機関、弁護士、会計士、税理士などが専門的なサービスを提供する。
- ・福岡証券取引所でアジアにリンクしたファンドを上場させて、地場銀行の窓口等で販売する仕組みを作る。
- ・勤勉な国民が多く経済成長もしていく潜在性の高いベトナム、政治的なリスクが低い東南アジア諸国、特にタイ、インドネシア、マレーシアとの結びつきを深める。
- ・少子高齢化のようにアジア諸国が同様に対処していかなければならない共通の課題について、日本（福岡）がさまざまなデータを分析してアジア共有の知的資産を作る役割を担う。
- ・アジア太平洋こども会議の人的ネットワークを活用し、ビジネスにつなげる。
- ・中国ビジネスに関して個別企業が個々にやるだけでなく、情報をお互いに共有し官民が一体となった「日中投資促進機構」のようなアジアビジネス推進組織の核を福岡で作る。
- ・広州や釜山に「リトル福岡」を作り、福岡や九州に「リトル広州・リトル釜山」を作って交流を活発化する。
- ・全市立学校でアジアの国々との姉妹校締結し、校内放送や掲示物など学校文化にアジアを取り込む。
- ・アジアとの交流の象徴的なものとして、アジアの日を設ける。
- ・釜山、青島や大連の心ある若者や中小企業を呼び寄せ、定住させる。

（外国語・インターナショナルスクール・留学生）

『学び続ける多言語教育のまち』

- 国際化人材育成のため、義務教育で多言語教育を実施したり、APU（立命館アジア太平洋大学）以上に英語教育を徹底して行う高等教育機関を整備したり、企業が従業員にモチベーションやインセンティブを与えて促すなど、社会全体で英語力を育てていく必要がある。

- 外国人の定住を促すためにも、海外のビジネスマンの子女の教育を任せられる質の高いインターナショナルスクールを整備する。
- 即戦力として外国人研修生や留学生がいるのだから、活用できるビジネス展開を図って、雇用を拡大していくことも考えるべき。

＜提案された取組み＞

- ・小中学校での多言語教育を進める。
- ・事情があり留学などができない学生や、学生の国際交流をサポートする取組みを行う。
- ・アジアの言葉を話せる通訳案内士の充実・強化を行う。
- ・インターナショナル・スクールの質や量を高めたり、APU（立命館アジア太平洋大学）以上に英語教育を徹底してやる高等教育機関を整備する。
- ・外国人教師の採用増や留学生の派遣・受け入れ増に加え、企業も従業員にモチベーションやインセンティブを与えるなど、社会全体で英語力を育てる。
- ・地理的優位性を生かして中国のトップクラス大学を卒業した優秀な人材を受け入れ、地場産業に取り込み、中国や韓国企業と連携する中核的人材などに活用する。
- ・福岡を出た人材がアジア諸国を回ってまた戻ってくる「福岡イニシアティブ」とも呼べる人材育成モデルをつくる。
- ・英語だけで話すような授業や韓国にある英語村のような施設を設置し、市民の英語力を高める。
- ・学校跡地、海の中道青少年海の家を活用した「地球っ子スクール」（英語村、中国語村、韓国語村）を創設する。

（広域）

『九州が一つの都市圏になって成長し発展するための核となるまち』

- 海外との競争で脅威にさらされる福岡は、九州プラス山口県ぐらいのエリアで「アジアに向けた窓口」をキーワードにバランスをとって都市圏になり、全体の発展につなげる発想も必要。
- 生産機能、観光拠点など福岡市単独で担えない機能や、広域の発想での空港の役割分担など、覇権主義ではなく一体となった発展をめざすべき。

＜提案された取組み＞

- ・北九州市のようなモノづくりが強い地域のメーカーによる技術革新、福岡市のような大学や研究機関が多い地域による人材供給など、それぞれの地域に特色ある取組みで九州一丸となって海外と競争をしていく。
- ・広域の観点から北九州空港、佐賀空港、熊本空港、長崎空港などをどう活用して広域都市圏および九州全体の成長につなげるか検討する。
- ・九州各地域のコーディネーター役を担う取組みを進める。

『利便性の高い空港と港湾でアジアに直結するまち』

(港湾)

- 港湾は物流・人流ともにアジアとの近接性を活かせる強みであり、ターミナルやその周辺の整備など、ウォーターフロントの整備を行うことで、その効果を高めていく必要がある。

＜提案された取組み＞

- ・ターミナルを整備、荷役や通関のサービスを向上して、RORO 船の航路とネットワークを充実させ付加価値を高める。
- ・アジアに向けた、楽しめる施設のある港湾整備を行う。
- ・(シドニー湾のように、) 港近くにホテルや結婚式場などを作って、博多湾クルージングが名物になるような仕掛けを作る。
- ・博多湾から市街地に吹き込む風を妨げないような工夫がされた建築が行われるようなインセンティブを設ける。
- ・海と街の間を塞いでいる施設を整理し、買い物ついでに海沿いも歩けるような場所を復活させる。
- ・博多港の優位性を利用して、東アジアのコンビニに、福岡の明太子を使った“明太子カルボナーラ”などのお惣菜を届ける仕組みをつくる。

(空港)

- 福岡空港の利便性の良さを最大限活用するために、空港へのアクセスをさらに改善したり、他の空港との役割分担により最も効果的な利用に努めるなどして、機能を高める必要がある。
- 福岡空港は、新たに滑走路 2 本の 24 時間空港として整備すべきである。

＜提案された取組み＞

- ・福岡空港の貨物便を 24 時間運用できる北九州空港にシフトさせ、空いた時間帯を活かして旅客便の新路線開設や増便に当てたり、九州新幹線を活用した近隣県とのアクセスを充実させる。
- ・朝アジアに飛んで、夜に帰って来ることができるダイヤを設定する。
- ・地下鉄は福岡空港国際線ターミナル本体まで延伸する。
- ・都心近郊に小型機用の空港を整備する。
- ・福岡空港と佐賀空港を連携させ、効率的に運用する。
- ・アメリカ直行便を復活させる。

1 2. 産業振興

(産業振興・雇用)

『働く場がたくさんあり、わたらしい働き方が選べるまち』

- 支店経済をはじめ従来の経済から脱却し、発展のための新しい地域経済戦略で、戦略的選択と持続性の経済へのチャレンジを行う。
- 学生が福岡で就職活動する際にも、あるいは東京などで働いている人が福岡に戻ろうと考える際にも、非常に有望な中小企業であっても就職を希望しないという現状を打破し、人材のミスマッチを解消する。
- 働く場がたくさんあり、就職、退職、再就職などを選べるような、わたらしい働き方・生き方ができる場になる。

<提案された取組み>

- ・ バイオ、ナノテク、アニメ、ゲーム、バーチャル技術、省電力技術や緑化技術など成長が期待できる「柔らかい」技術に力を入れる。
- ・ 「虚（ソフト）」と「実（ハード）」を組み合わせる第4次産業をおしていく。また、第3次産業を先進的なサイエンスに根ざした知的産業の集積と組み合わせる。
- ・ 分野を絞って戦略を立て、フォーカスする分野に積極的に助成し、振興する。
- ・ 規模は小さいが地域性があるクリエイティブな企業を集積し、雇用を確保する。
- ・ IT分野における産学連携では、教育・研究と企業活動を連携した長期的なインターンシップ制度を整える。
- ・ 沖縄に優位性があるコールセンター立地を、九州に来るようにインセンティブをつける。
- ・ 感性に訴える目に見えない価値を作るサービス・イノベーションを重視していく。
- ・ 音楽をはじめいろいろな分野で芽が出た人に、東京に行かなくても福岡でさらに活躍できるステージを提供できる受け皿をつくる。
- ・ マニュファクチュアリングではなく、サービスの分野で中小企業を育てていく。
- ・ 国際化した医療産業というのを一つの成長産業として育てていく。

(起業)

『国境を越えてプレイヤーが羽ばたき、夢が成長のエネルギーになるチャレンジのまち』

- 起業しやすく、チャレンジができ、夢が叶う。未来に出会うチャンスとチャレンジのフィールドとして、人材が集まり、人材を輩出する、チャレンジの聖地になる。
- 新しいベンチャー企業が相次ぐ創造都市になる。

<提案された取組み>

- ・ 図書館に起業者向けインキュベーション施設をつくり有償開放する。

- ・起業する人を増やすために、初期投資の資金提供をしたり、中小企業支援を厚くしたりする。
- ・ベンチャー支援として、エンジェルファンドをつくる。また、遊休施設を低価格で企業に賃貸する。
- ・九州・アジアビジネス協議会が実施する研修プログラム「実践アジア社長塾」のようなサポートを通じて、起業家や人材を育成する。
- ・中立的なオープンイノベーションを促進できるような場をつくる。

(企業誘致)

『企業から選ばれ、愛され住みたいと思われる憧れのまち』

- 福岡の魅力をきちんと伝え、国内外を問わず、アジア統括機能や本社機能、本社バックアップ機能を誘致する必要がある。

＜提案された取組み＞

- ・東京に本社を置いている事業会社のアジア統括機能を福岡に誘致する。
- ・国内企業の本社ないし本社バックアップ機能を誘致する。
- ・外資系企業のアジア本社や拠点を誘致し、東京以上のマーケティング機能を提供する。
- ・シアトルのマイクロソフト、スターバックス、ボーイングといった、世界展開している大企業を誘致する。
- ・研究部門やデザイン部門を誘致し、知的産業の受け皿を福岡に整備する。
- ・アジアに関する産学連携研究施設や研修施設を誘致・開設し、海外からそこに来る高度人材の2～3割に10年前後福岡に留まってもらうような仕掛けをつくる。

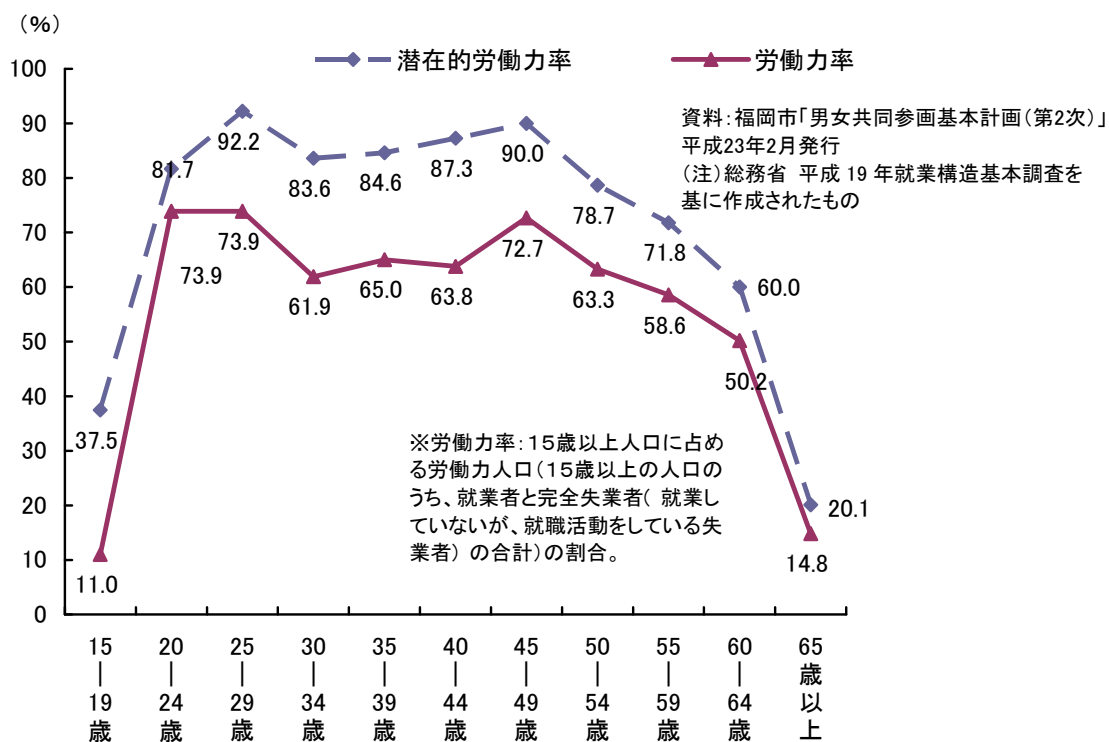
第2部 福岡市の現状や課題に対する主なご意見

皆さまからいただいた福岡市の現状や課題についてのご意見を集約・抜粋しました。
また、ご意見等に関連するデータを市において抽出し、掲載しました。

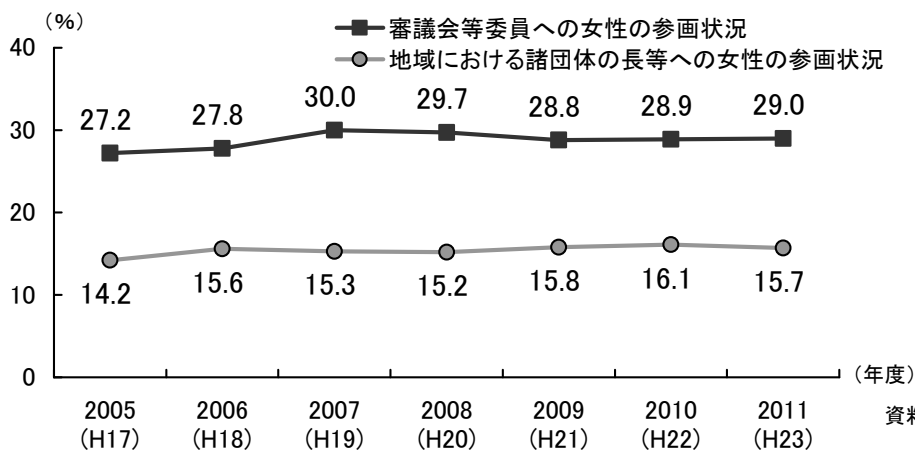
女性・こども・教育

- 女性の能力が十分活用されていない。30代の女性が子育てのために一旦仕事を離れており、もったいない。

・女性の年齢階級別労働力率・潜在的労働力率(福岡市)

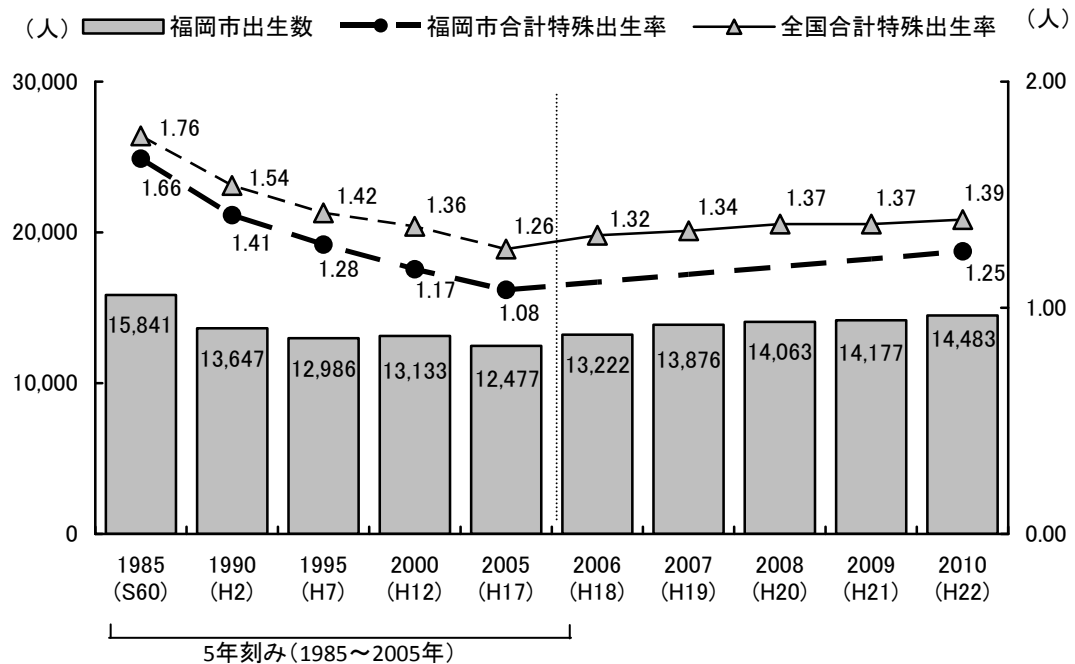


・福岡市の審議会等委員，地域における諸団体の長等への女性の参画状況



- 合計特殊出生率は低く、保育施設も不足している。今後、人口の自然増は見込めないのだから、本当に子どもを生み育てやすいまちになれるかが、都市の成長を左右する要素である。

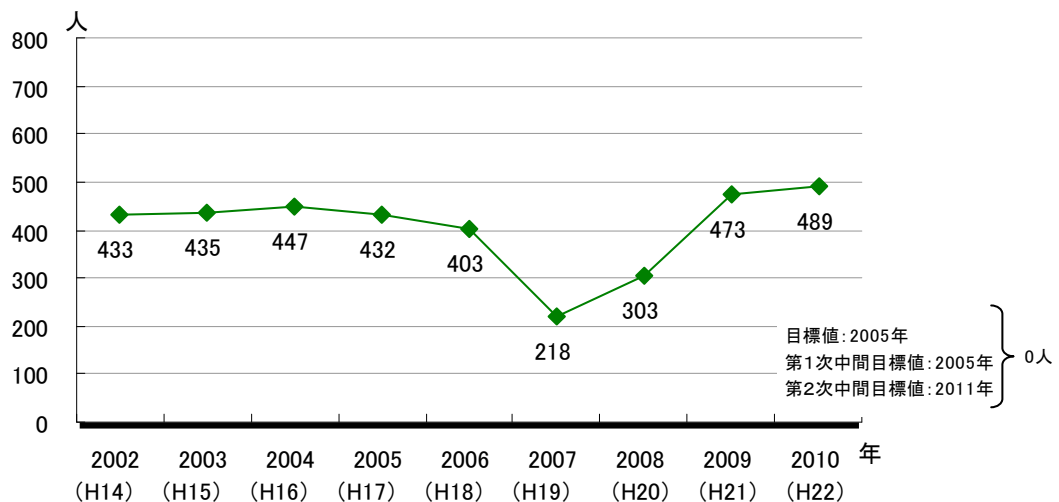
・ 出生数、合計特殊出生率



資料: 厚生労働省「人口動態統計」、福岡市こども未来局

(注) 合計特殊出生率: 一人の女性が、その年の年齢別出生率で一生の間に産むとしたときの子どもの数(政令指定都市は5年おきの調査)

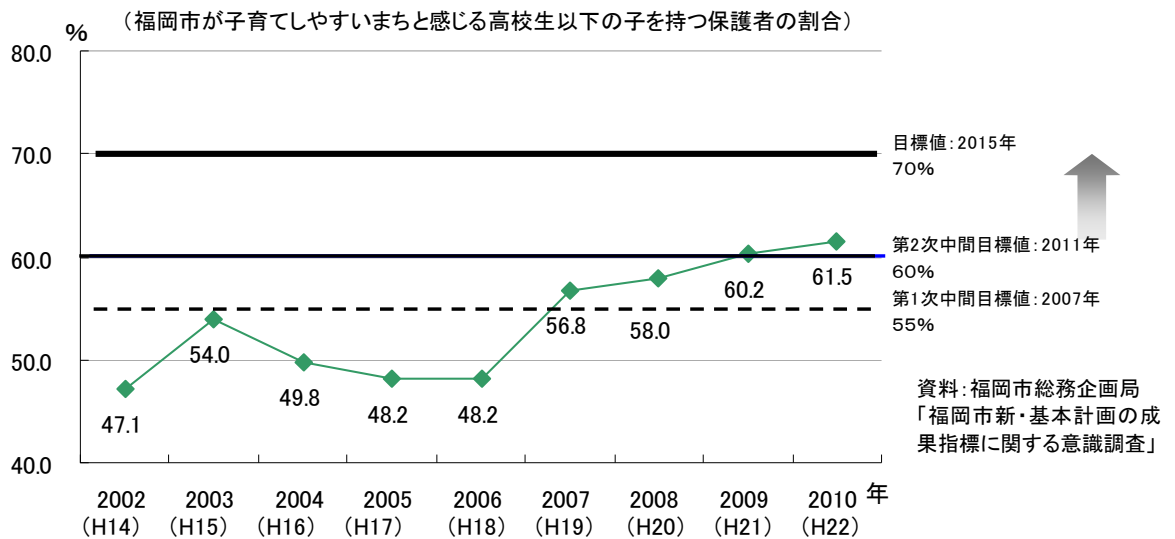
・ 保育所入所待機児童数



資料: 福岡市こども未来局 (注) 各年4月1日現在

◇目標値: 平成15年(2003年)に策定した福岡市新・基本計画で設定
◇第1次中間目標値: 平成16年(2004年)に策定した新・基本計画第1次実施計画で設定
◇第2次中間目標値: 平成20年(2008年)に策定した新・基本計画第2次実施計画で設定

・子育て環境満足度

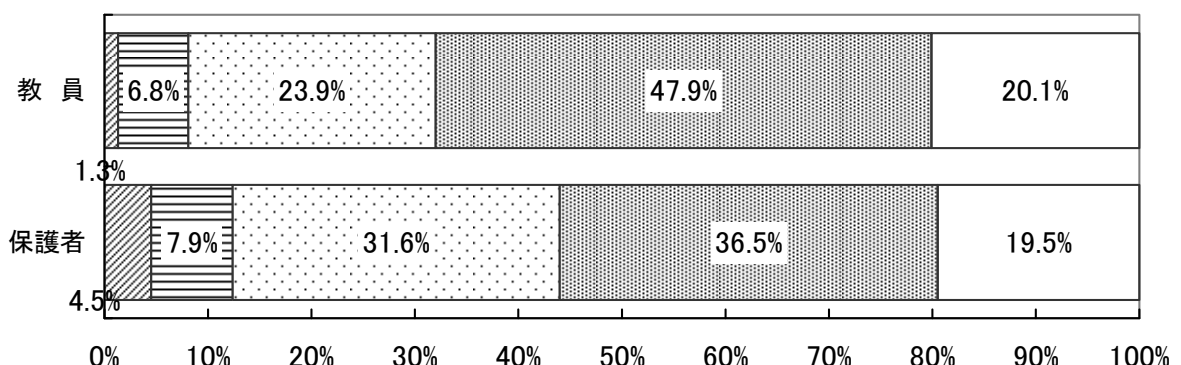


- 挨拶をしない、人の話をじっと聞くことができない子どもの割合が増えてきている。また、子ども達が外遊びをしなくなったことにより、体力が低下している。
- グローバルな時代では、様々な国と共存しコミュニケーションを取っていかなければならず、討論をし、自分の考えを他人にきちんと伝える能力を学校で育む必要がある。
- 海外、とりわけアジアとの関わり合いなくして、日本は生き残っていけない。英語に触れる場、体験する場を増やすことが大事である。

・子どもの基本的生活習慣（規則正しい生活や自分のことは自分でやるという習慣）

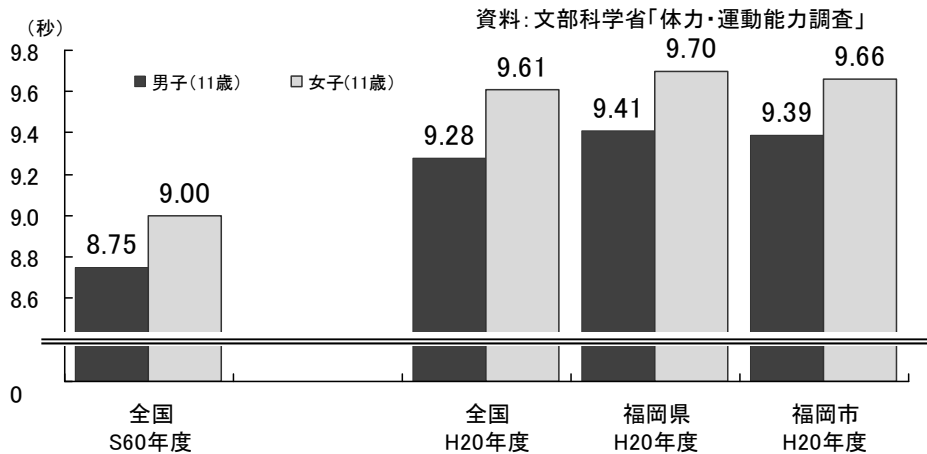
Q. あなたが子どもだった頃に比べてまわりの子どもたちの状況をどのように感じますか。

☒ 向上している ☐ どちらかといえば向上している ☐ ほとんど変わっていない
☒ どちらかといえば低下している ☐ 低下している

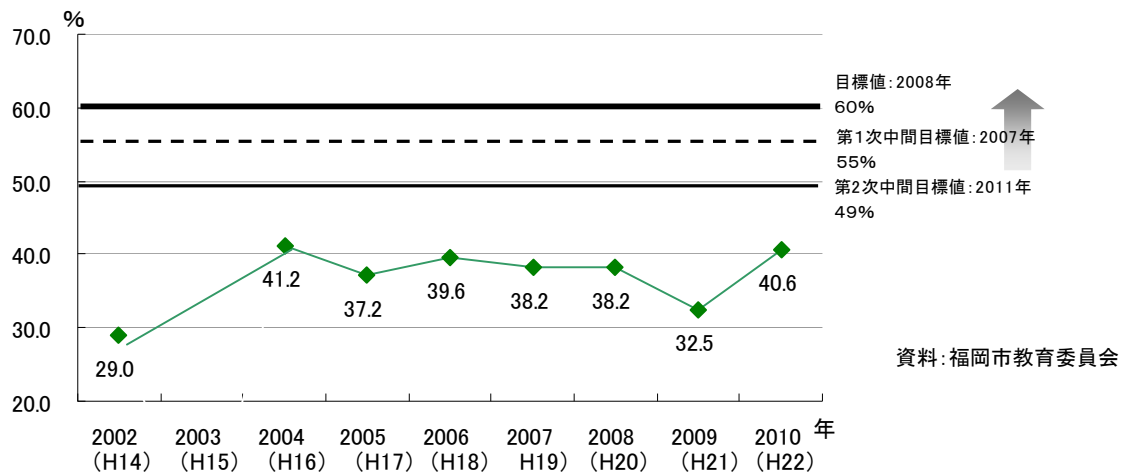


資料: 福岡市教育委員会「福岡市教育に関するアンケート」(2008(H20)年度)

・子どもの体力・運動能力の変化（50m走記録 小学5年生／男子・女子）

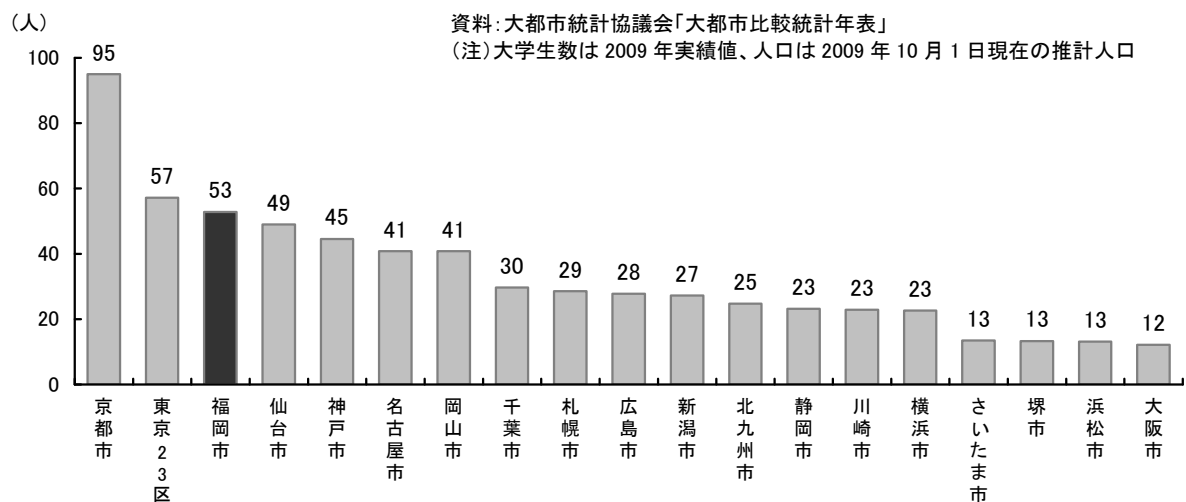


・外国語で簡単な日常会話ができる自信がある生徒の割合

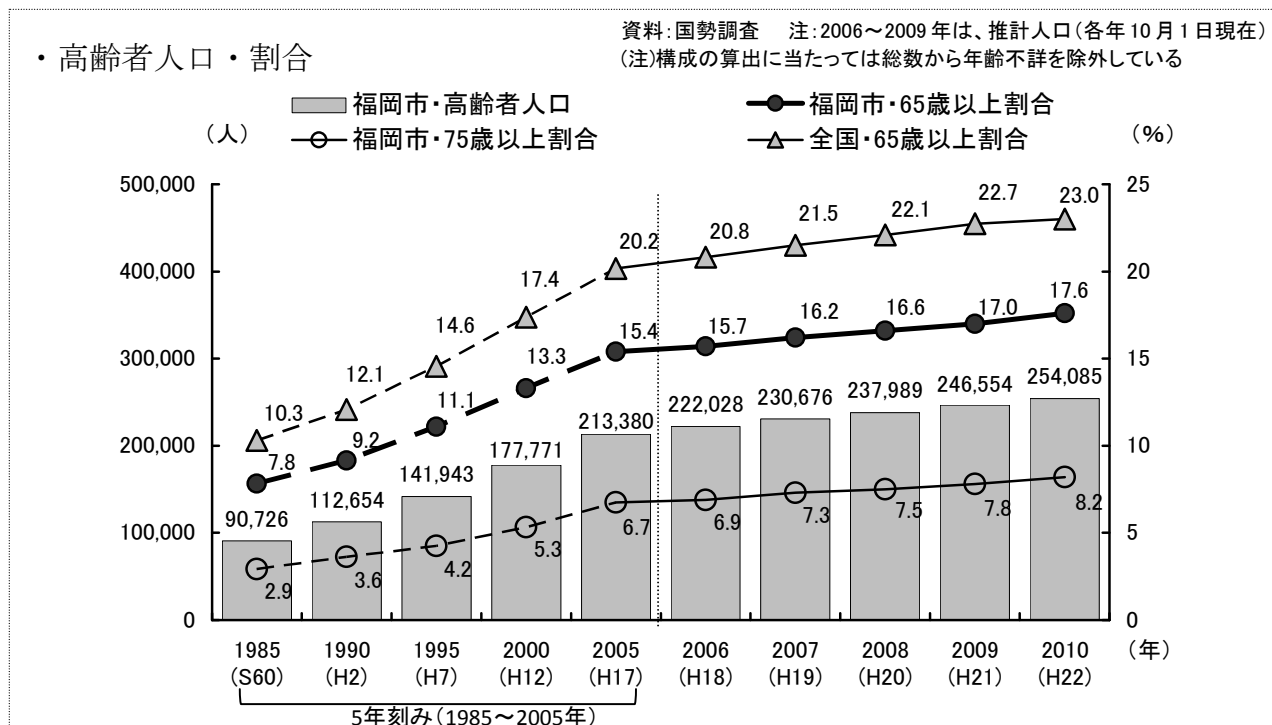


○ 学生の多いまちであるが就職となると多くは福岡を離れて東京や大阪に行ってしまう。

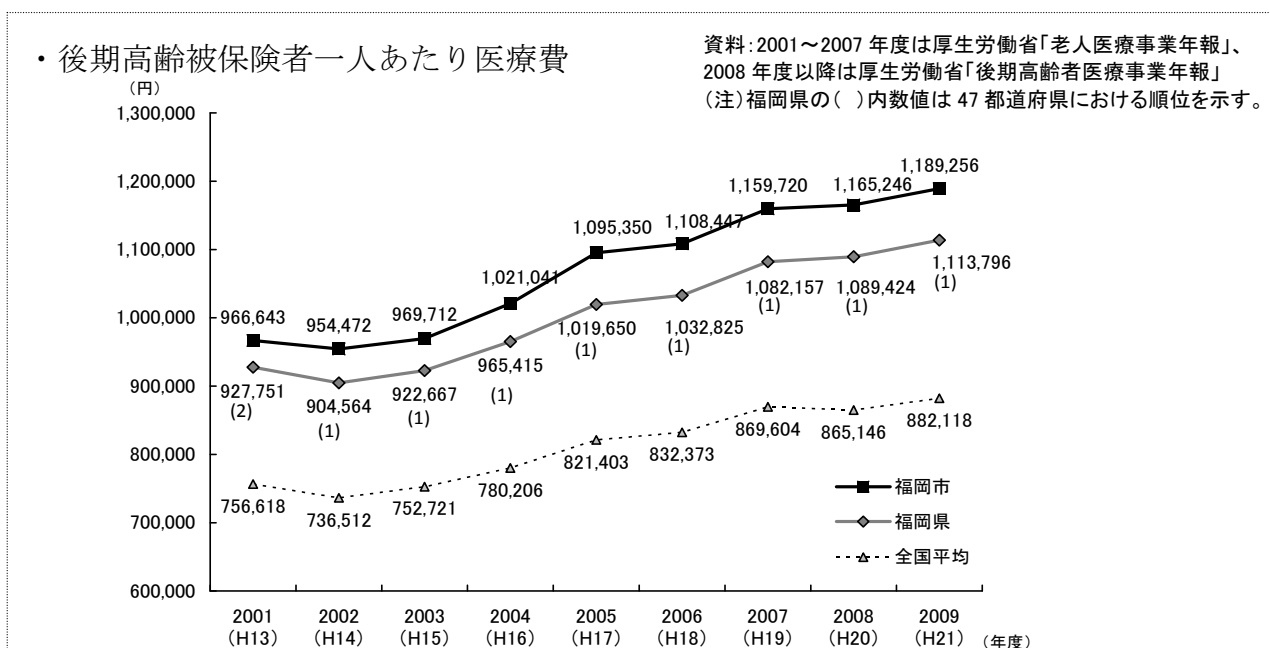
・人口千人あたりの大学生数（短大生含む）【大都市比較】（2009年）



- 福岡市は、若い都市を掲げているが、既に29歳以下の人口は減っている。一方で2045年までに65歳～74歳は2005年比で1.5倍に、75歳以上は2.5倍に増えると予想されている。若い人がたくさんいるときにできた制度では対応できなくなる。

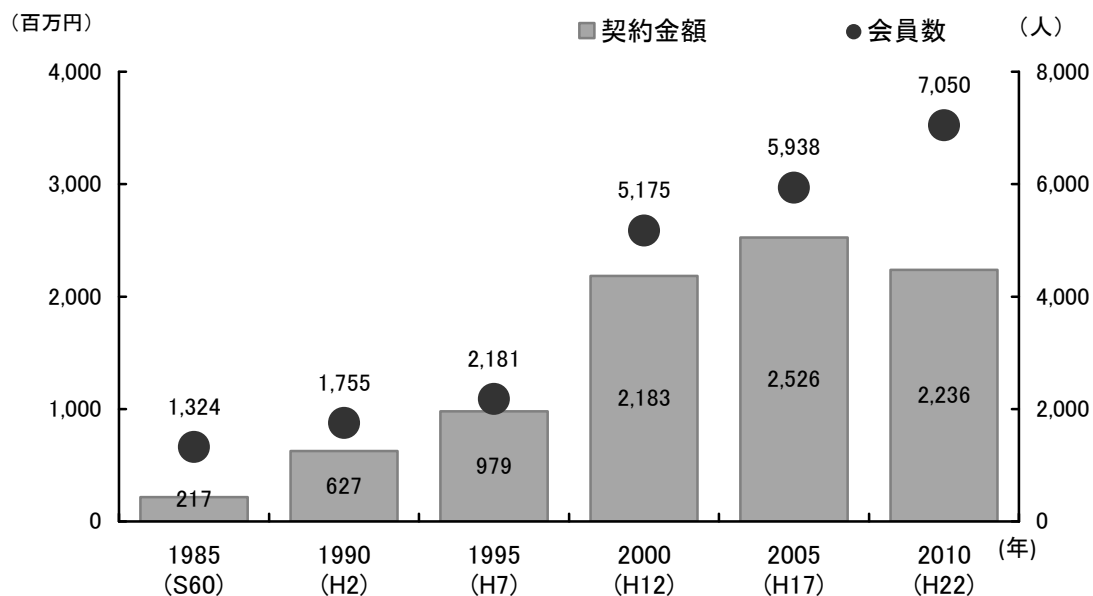


- 福岡市の一人あたりの医療費・介護費の負担は他都市と比較しても非常に高く、医療・介護・福祉に対しお金のかかる構造が改善できていない。



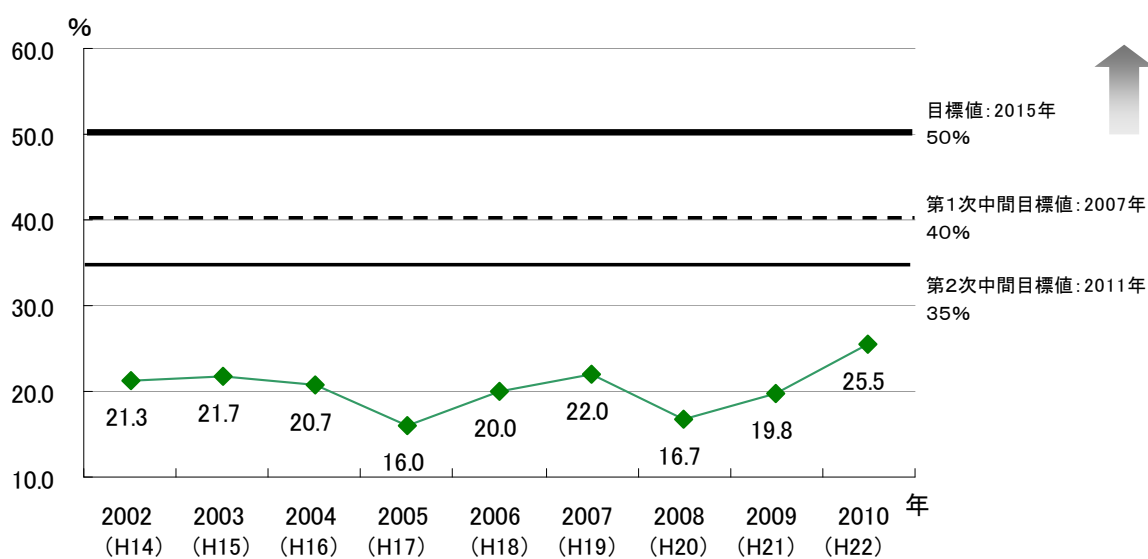
- 高齢者の持っている力を引き出し、若者と同等の“主人公”として活躍できる社会へと変えていかなくては、これから活力は持続できない。
- 地域にファシリテーター（協働促進者）やコーディネーターとして入り、時間とやる気のある高齢者と行政、専門家などの橋渡しをする中立的立場からの人材が必要。

・シルバー人材センターの状況



資料:福岡市保健福祉局

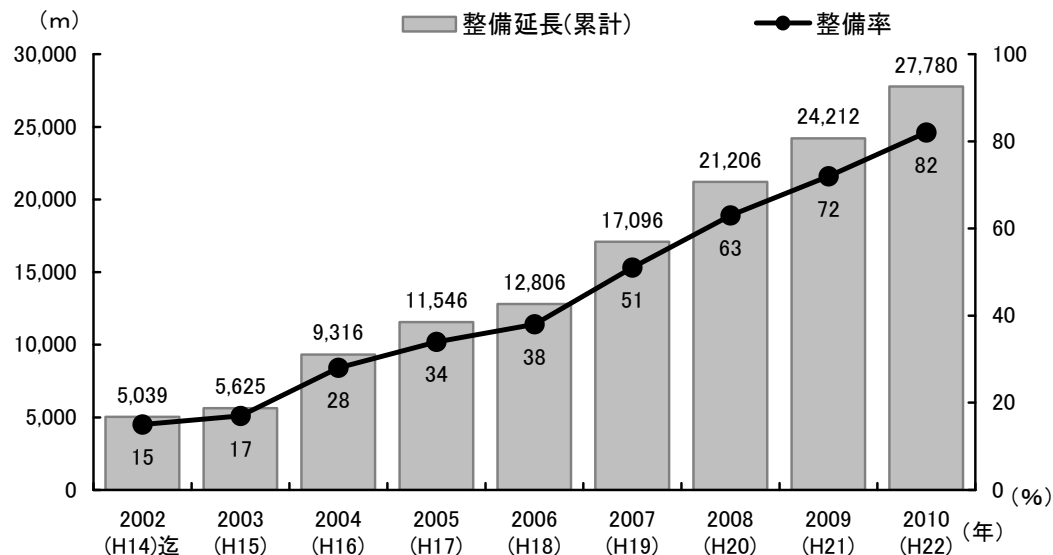
・高齢者の活動度（ボランティア活動を行う高齢者の割合）



資料:福岡市総務企画局
「福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査」

- 以前にくらべて、障がい者が外出しやすくなったが、まだ気軽に出歩くことはできない。

・道路のバリアフリー整備状況

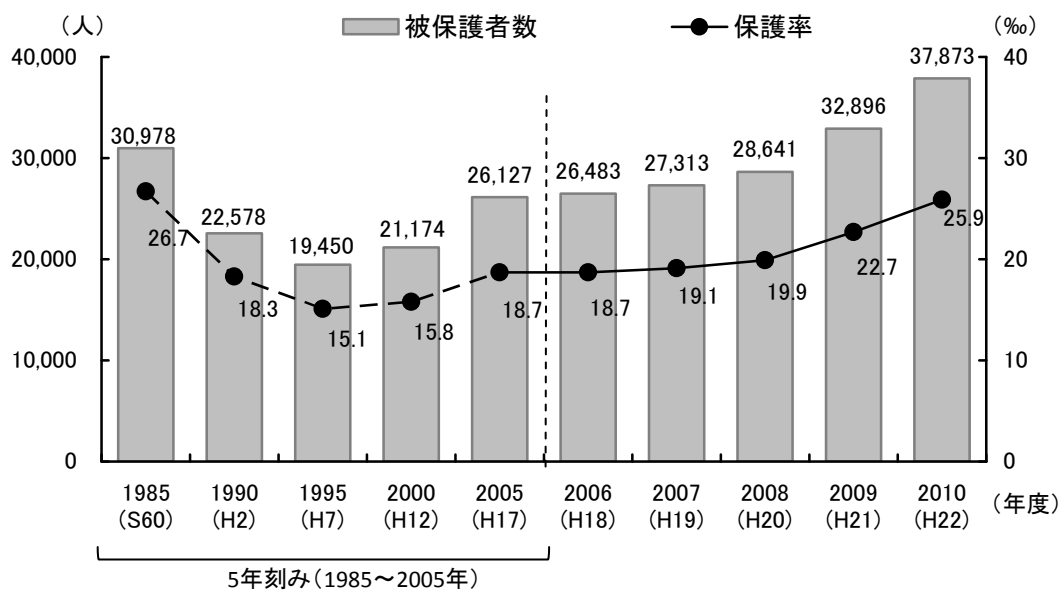


資料:福岡市道路下水道局

(注)重点整備地区における特定経路整備(バリアフリー化)率

- 雇用情勢の悪化などに伴い、被保護者数が急激に増加している。

・生活保護の状況



資料:被保護者数…福岡市保健福祉局

保護率算出人口…各年度10月の推計人口

(注)保護率:人口千人に対する被保護者数

市民・コミュニティ

- 市民は、人情味があり、あたたかい・おおらか・フレンドリー・ホスピタリティにあふれているという印象。
- 流入人口の多さと、共同住宅中心の住環境により、コミュニティが希薄化している。
- 若い人たちのコミュニティは主にウェブ上で結びついた仮想空間などであり、「コミュニティ」の捉え方に若者と高齢者との間でずれが生じている。

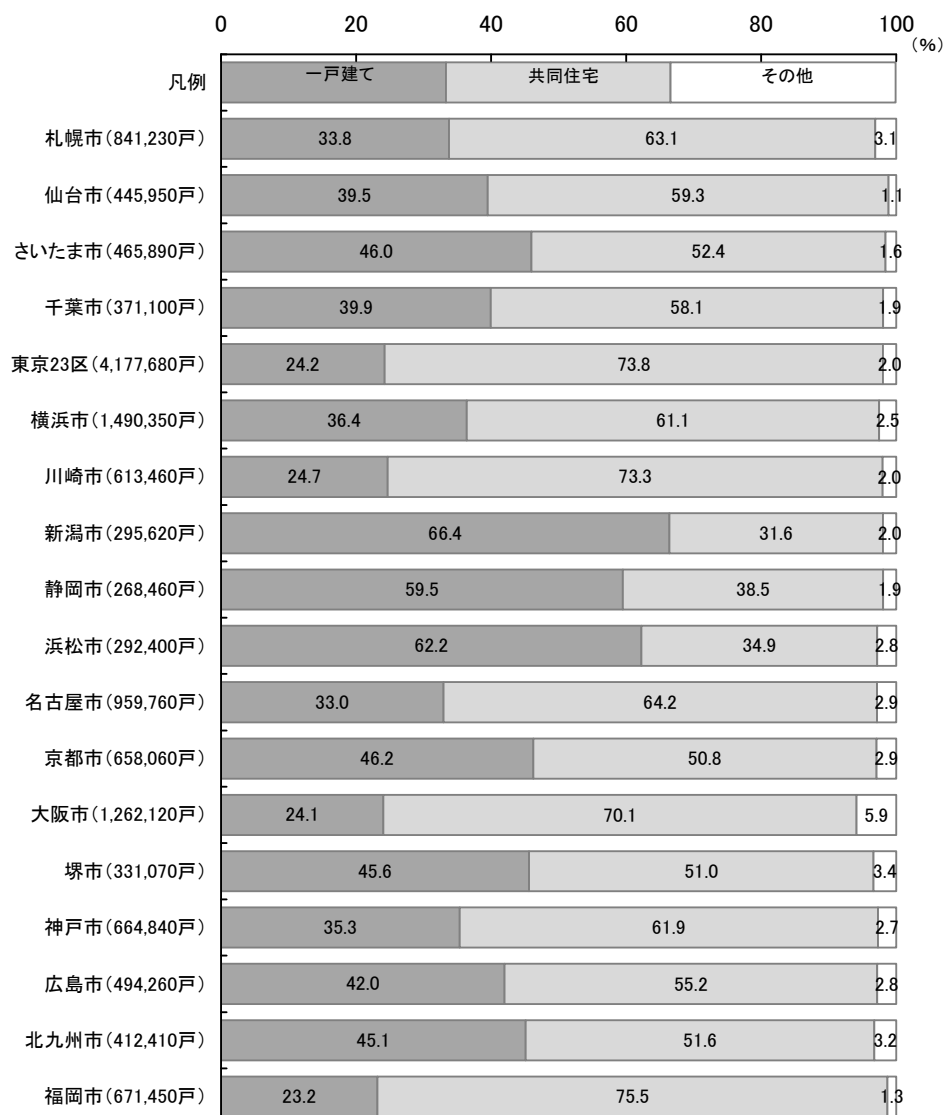
・自治協議会設立数

資料：福岡市市民局（注）数値は各年度末現在

年度	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	2009 (H21)	2010 (H22)
設立数	127	135	140	142	144	145	146
校区・地区数	146	146	147	149	149	149	149

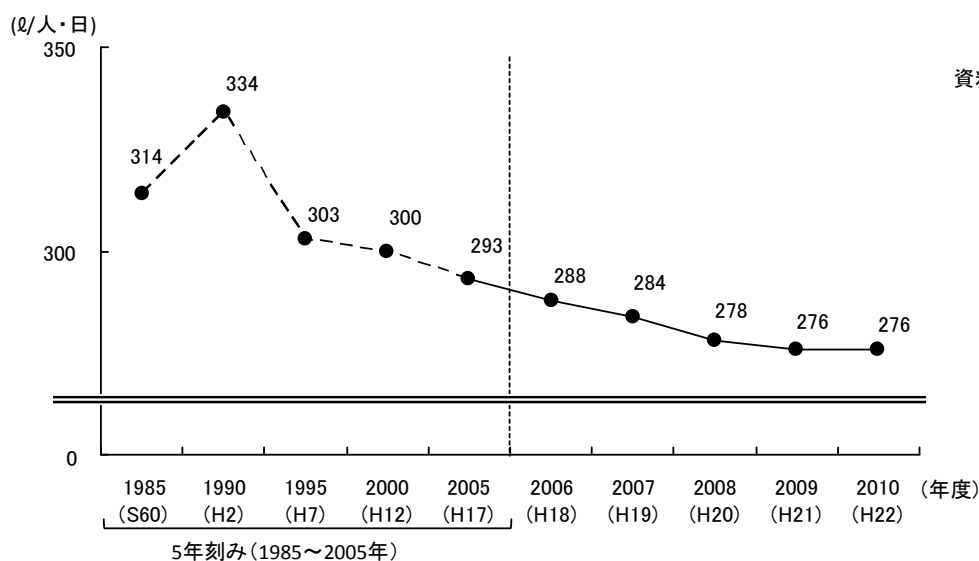
・建て方別住宅数（全国比較）

資料：平成 20 年住宅・土地統計調査

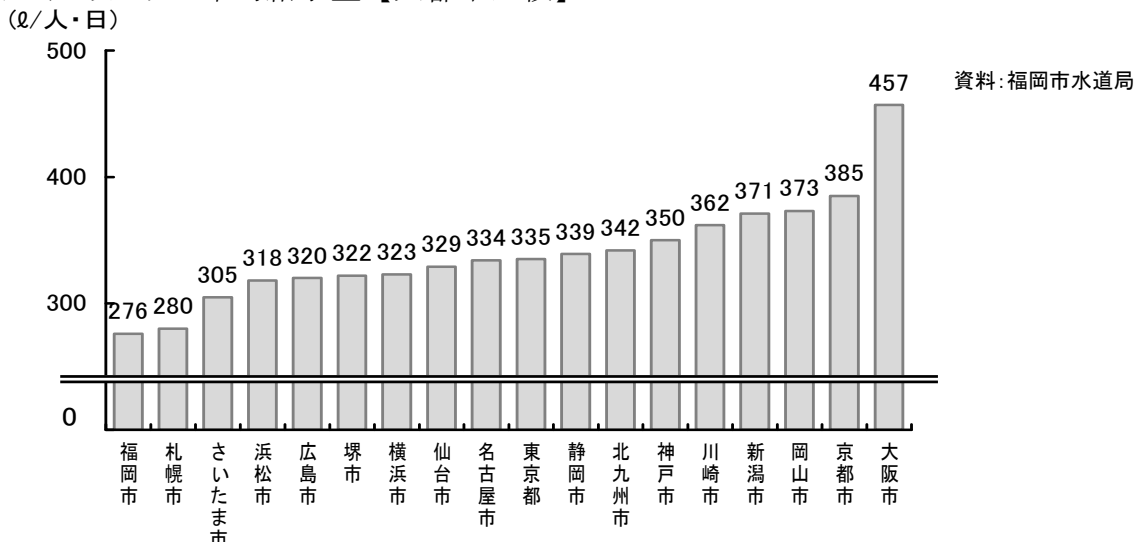


- 都市機能がコンパクトにまとまり、都市環境と自然環境が調和していて生活しやすい都市である。
- 都市計画道路整備率、下水道人口普及率、河川改修率は飛躍的に伸びており、都市としての利便性や安全性が向上している。
- 高速交通体系が集中し、重要な交通結節点となっている。
- 市民一人当たりの水使用量の少なさは全国トップクラスである。
- 来街者へのユニバーサルデザイン整備（ハード・ソフト）が不足している。
- 1960年代から集中的に建設された都心部の民間ビルなどの多くは更新時期が到来している。
- 空港、港湾、鉄道など都市交通の整備は進んでいる。しかし、効率的な運用には課題がある。
- 郊外では、地域コミュニティの維持をはじめ、バス等の生活交通の維持・確保、地域拠点への結節機能の強化が必要である。

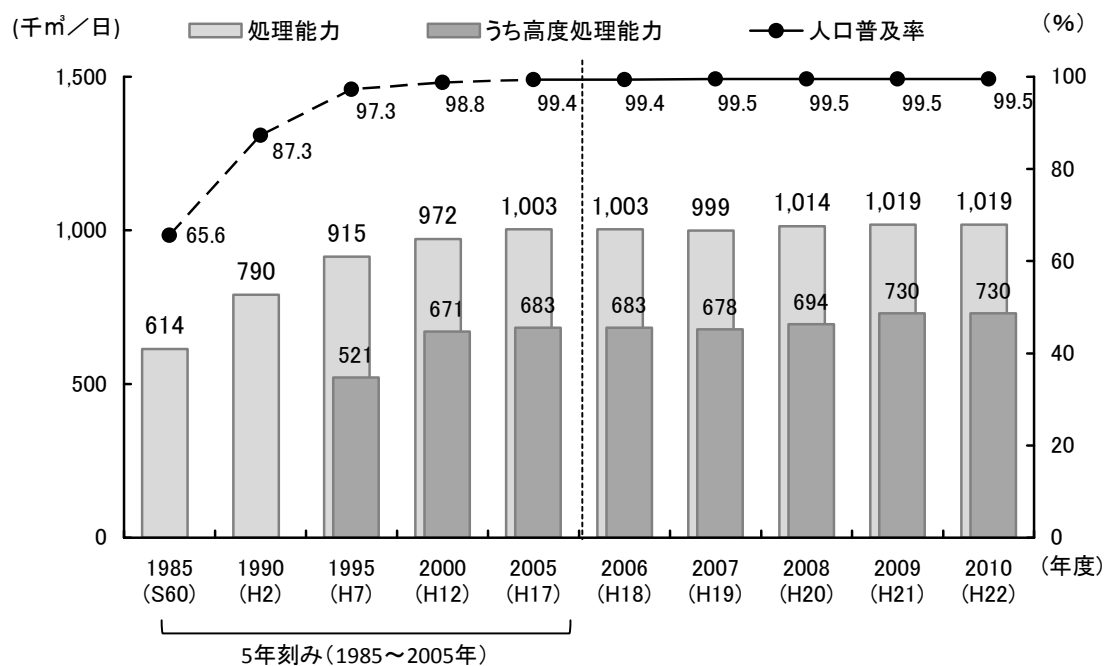
・ 1人1日当たりの平均給水量



・ 1人1日あたりの平均給水量【大都市比較】



・下水道施設処理能力と人口普及率



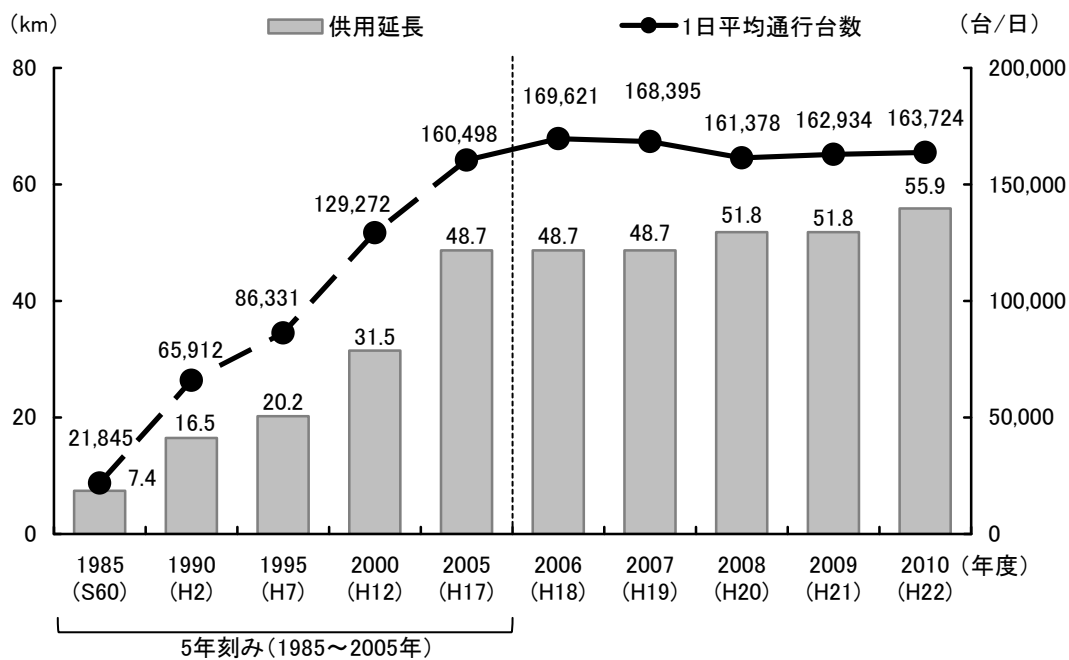
資料: 福岡市道路下水道局

(注) 「処理能力」には御笠川浄化センター(県下水道公社)を含む

(注) 高度処理: 標準的下水処理よりも高度に窒素、リン等を除去する処理

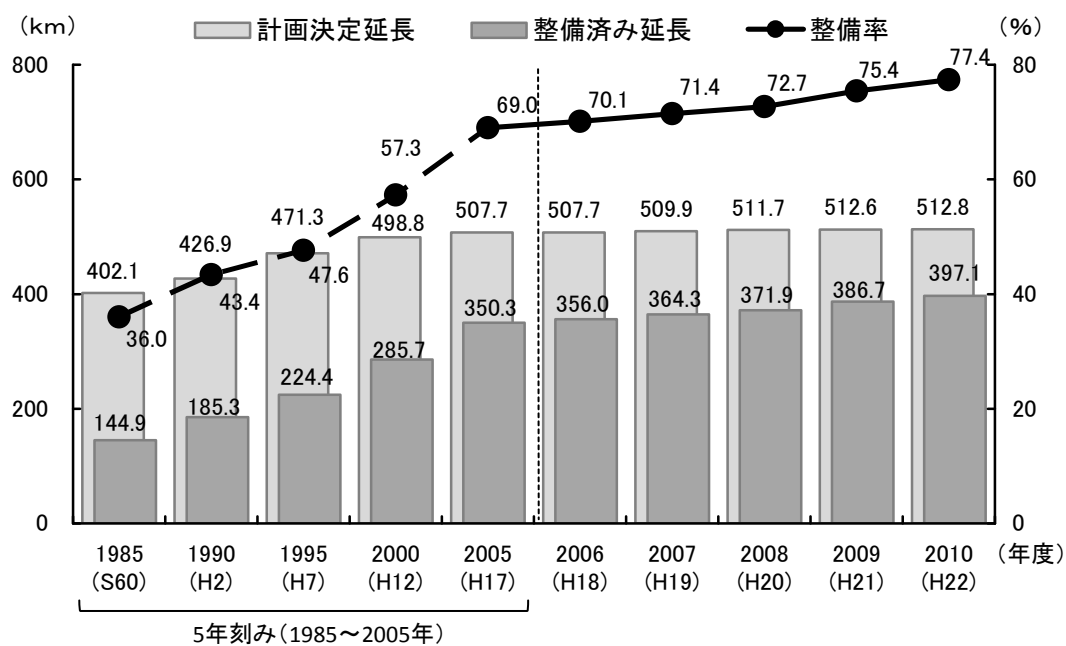
御笠川浄化センターを除く全ての水処理センターで脱リン処理を行っている

・都市高速道路の状況



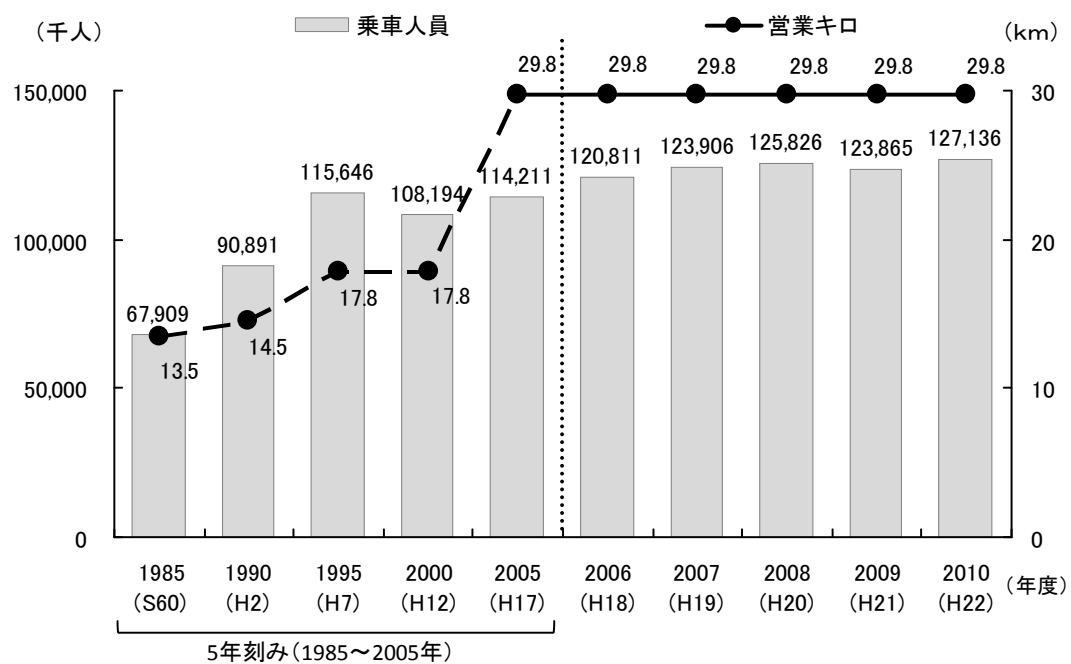
資料: 福岡市道路下水道局

・都市計画道路の整備状況



資料: 福岡市道路下水道局

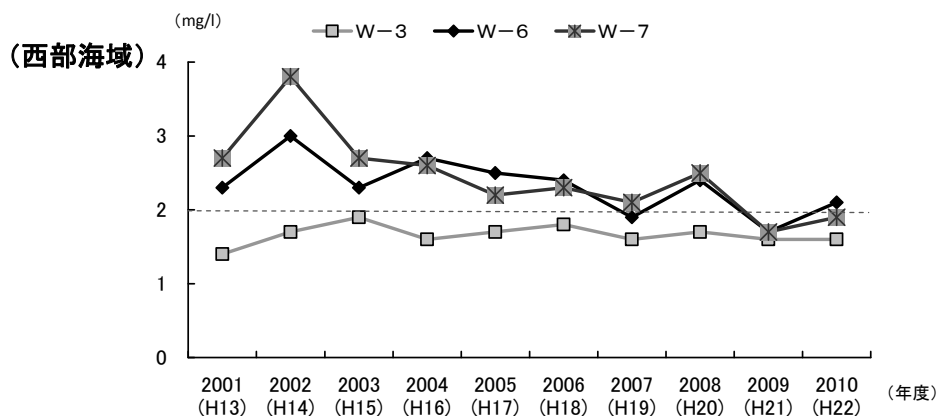
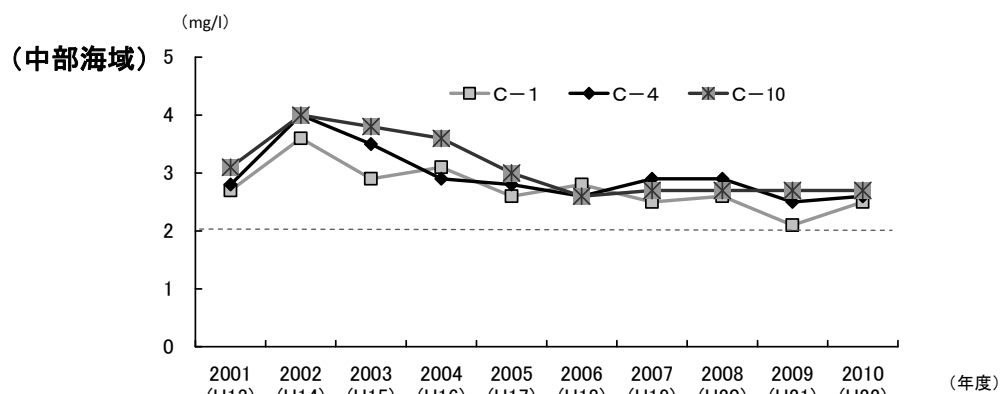
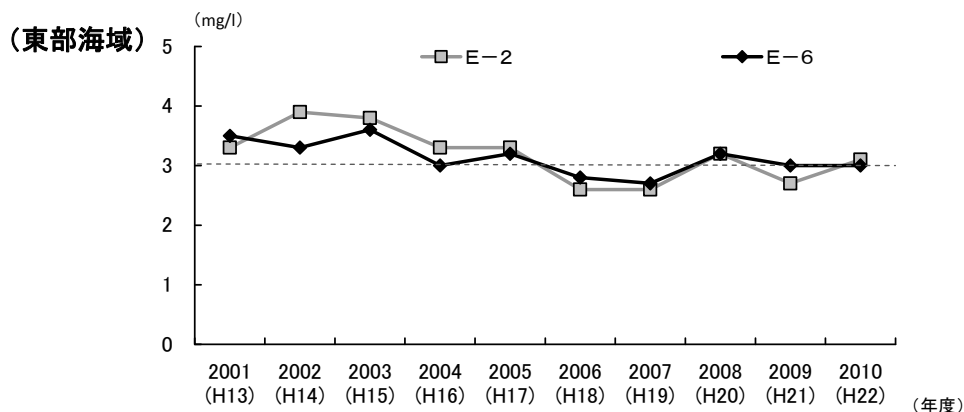
・市営地下鉄の状況 (乗車人員・営業キロ)



資料: 福岡市交通局

- 都市と自然との距離が近く、車で海のそばまで行って海岸線を散歩でき、自然を身近に感じることができる。
- 下水道整備が進んだおかげで「水質」が改善されている。

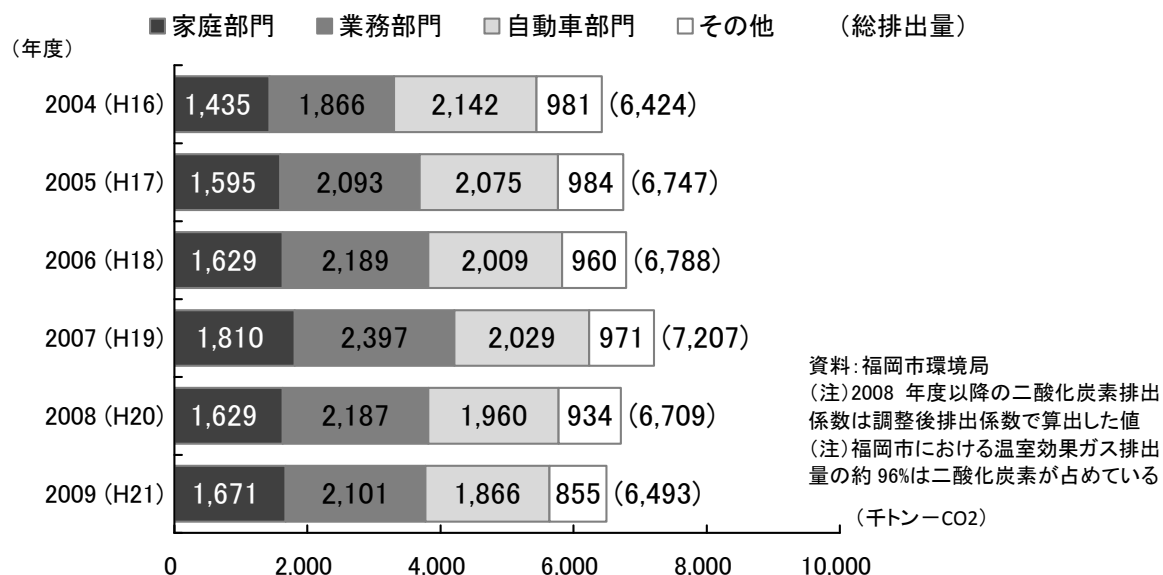
・博多湾の水質（COD 75%値の推移）



※COD (化学的酸素要求量)
 水中の有機物等が酸化剤によって酸化されるとき、消費された酸化剤の量をそれに相当する酸素の量で表したものです。数字が大きいのことは、消費された酸化剤が多いということになり、水中の有機物が多いことを意味し、汚濁度が高いといえます。CODは海域・湖沼での汚濁の指標として用いられています。

- 大陸に近く黄砂など大陸の環境悪化の影響を受けやすい都市である。
- 福岡市の平均気温は、この100年間で3.2度上昇し、上昇幅は東京に次いで2番目。最低気温については5.2度も上昇しており日本一となっている。
- コンパクトな都市であり、都市（建築物・交通）の低炭素化に有利な都市である。

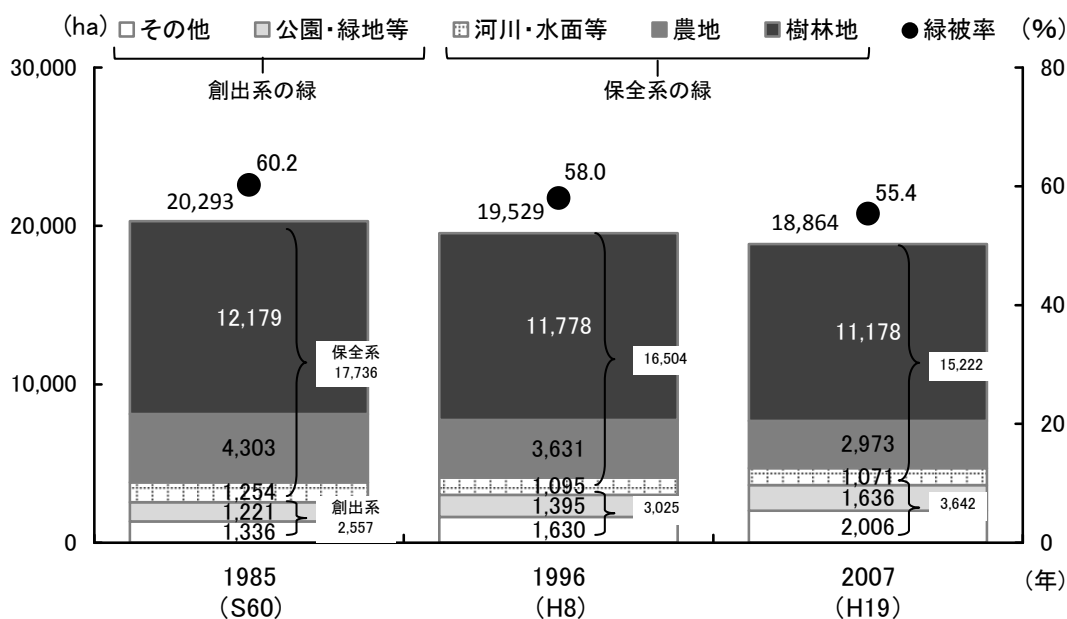
・二酸化炭素総排出量



- 生きものを大切にする開発が課題である。
- 公園・緑地等の「創出系の緑」は増加しているが、樹林地や農地などの「保全系の緑」が減少し、全体的に市域の緑は減少している。

・緑地面積・緑被率

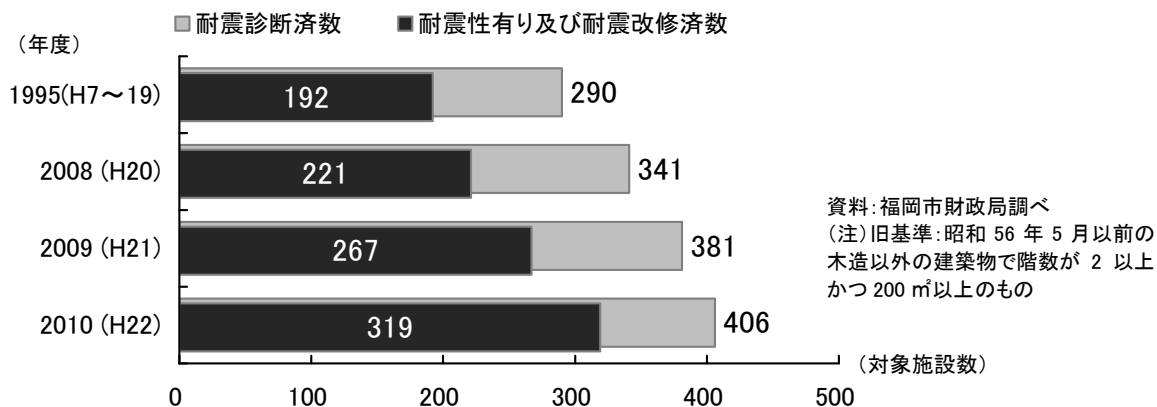
資料: 福岡市住宅都市局「福岡市 新・緑の基本計画」(2009 年)



安全・安心

- 自然災害が少ない都市である。
- 安心できる防災拠点が少ない。(避難施設、備蓄施設など)

・公共建築物の耐震化の状況（旧基準による全 406 箇所）



- 安全安心なまちづくりが十分でないと感じる。

・政令指定都市における人口千人当たりの街頭犯罪認知件数のワースト 5

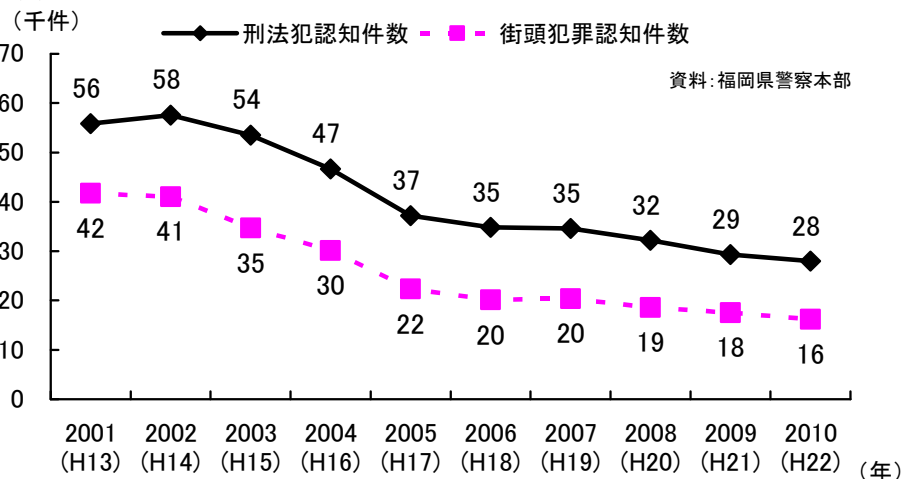
（2010（H22）年）

（注）人口は2010（H22）年12月1日付推計人口

順位	自転車盗		オートバイ盗		自販機ねらい		強制わいせつ等		空き巣		ひったくり	
	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり	市名	千人当たり
1	大阪市	5.56	福岡市	2.1	名古屋市	0.34	大阪市	0.139	名古屋市	1.22	名古屋市	0.47
2	福岡市	5.43	神戸市	1.51	福岡市	0.3	堺市	0.128	堺市	0.72	千葉市	0.44
3	千葉市	5.21	京都市	1.45	北九州市	0.28	福岡市	0.124	福岡市	0.63	大阪市	0.38
4	京都市	4.99	相模原市	1.14	新潟市	0.28	仙台市	0.121	さいたま市	0.56	京都市	0.32
5	岡山市	4.95	堺市	0.97	大阪市	0.25	北九州市	0.121	大阪市	0.56	福岡市	0.29

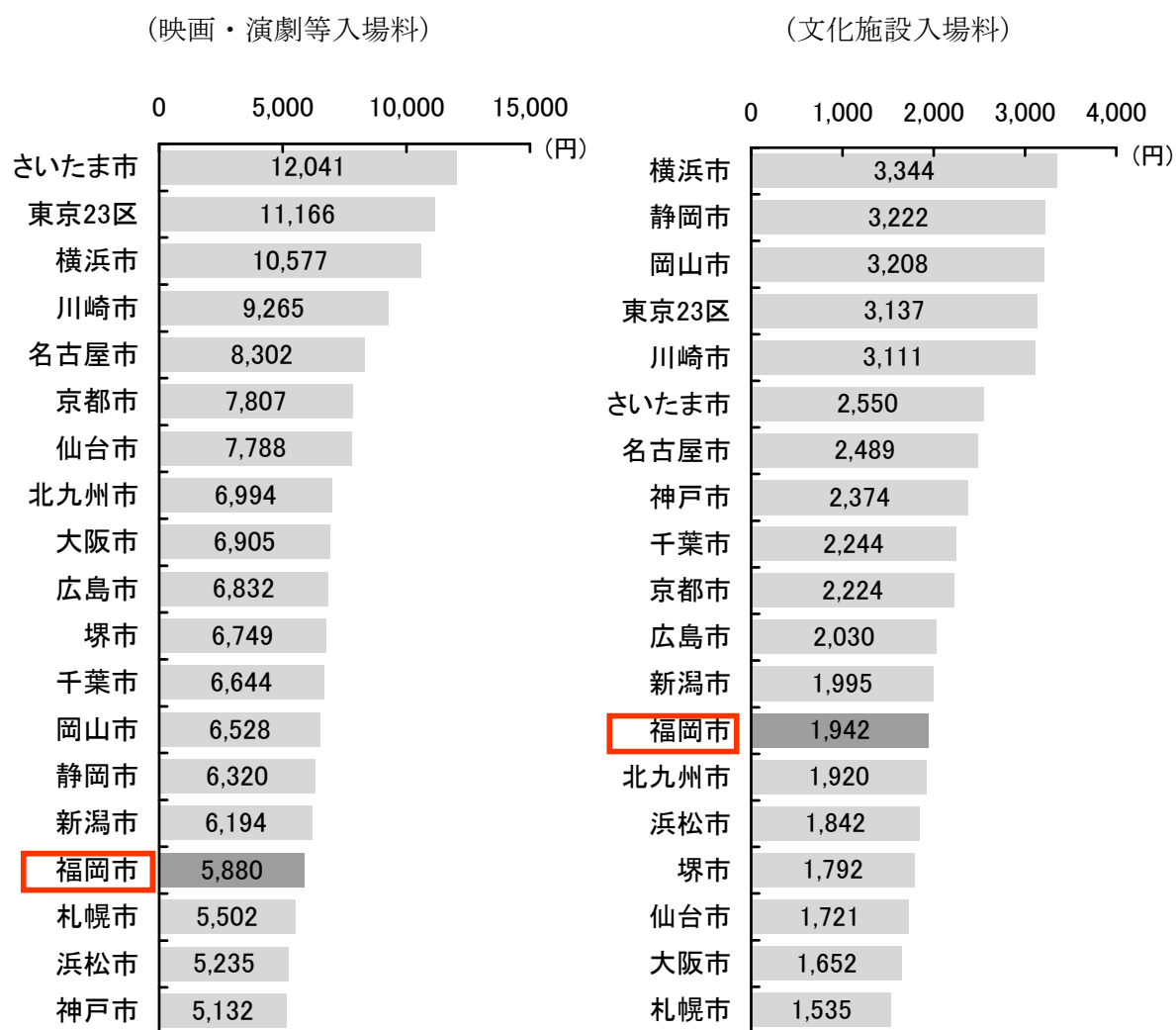
資料: 福岡市市民局

・刑法犯・街頭犯罪認知件数（福岡市）



- 元々芸所であり、劇団も多く、音楽文化も盛んであるが、地元コンテンツを活かしきれていない。
- 歴史的な都市であるにもかかわらず、歴史的な建造物がほとんど残っていない。歴史的建造物を都市観光の施策に活用したり、固定資産として重視し、これらの形成・維持支援に取り組む必要がある。
- 歴史・文化に関わる資源はあるが、観光資源や魅力として活かされていない。

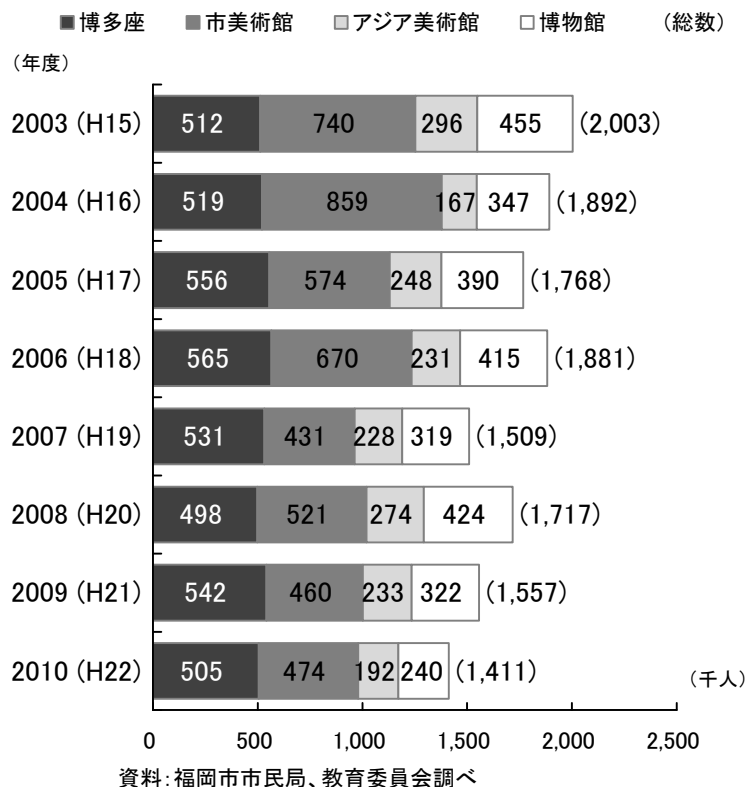
・ 1世帯あたり年間支出金額（大都市比較）



資料：平成22年家計調査年報

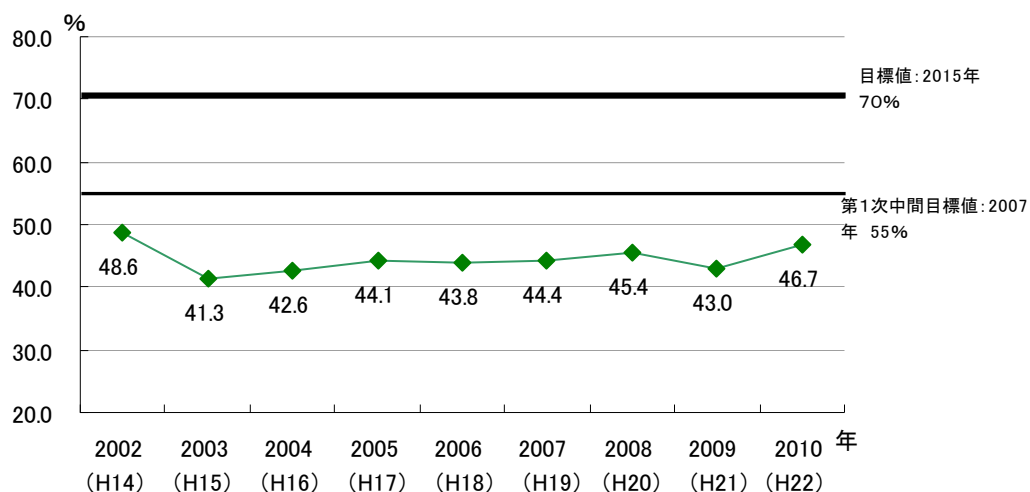
資料：平成22年家計調査年報

・主な文化施設入場者（観覧）数



- 野球、サッカー、バスケットボール、ラグビーのプロチームの拠点があり、柔剣道などの武道も含めてスポーツが盛んである。
- 外遊びをしなくなった子ども達にたくましく、生きる力をつけるというスポーツの役割を考えると指導者の育成が重要となっている。

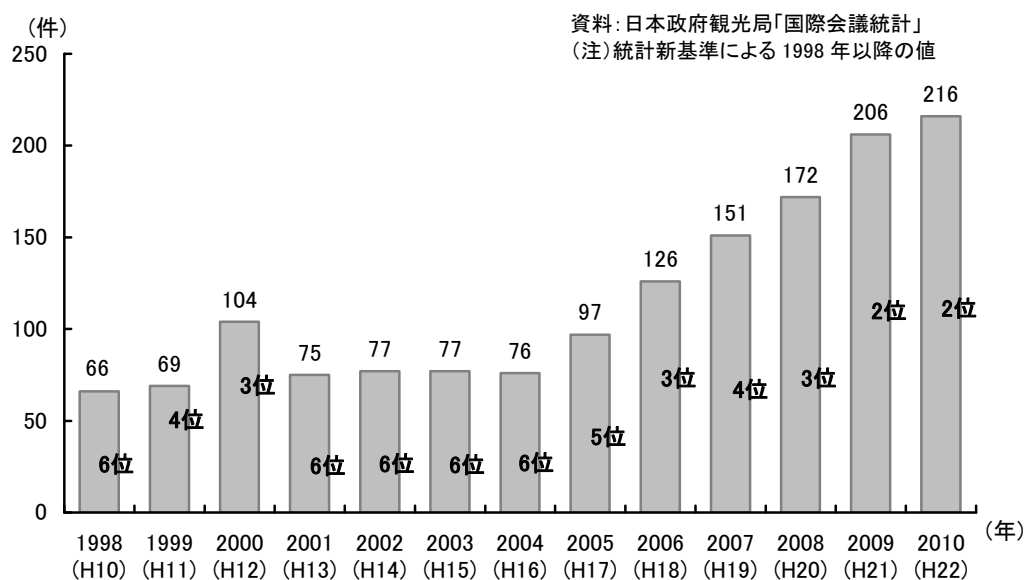
・身近なスポーツ環境への満足度（スポーツする場や機会が身近にあると感じる市民の割合）



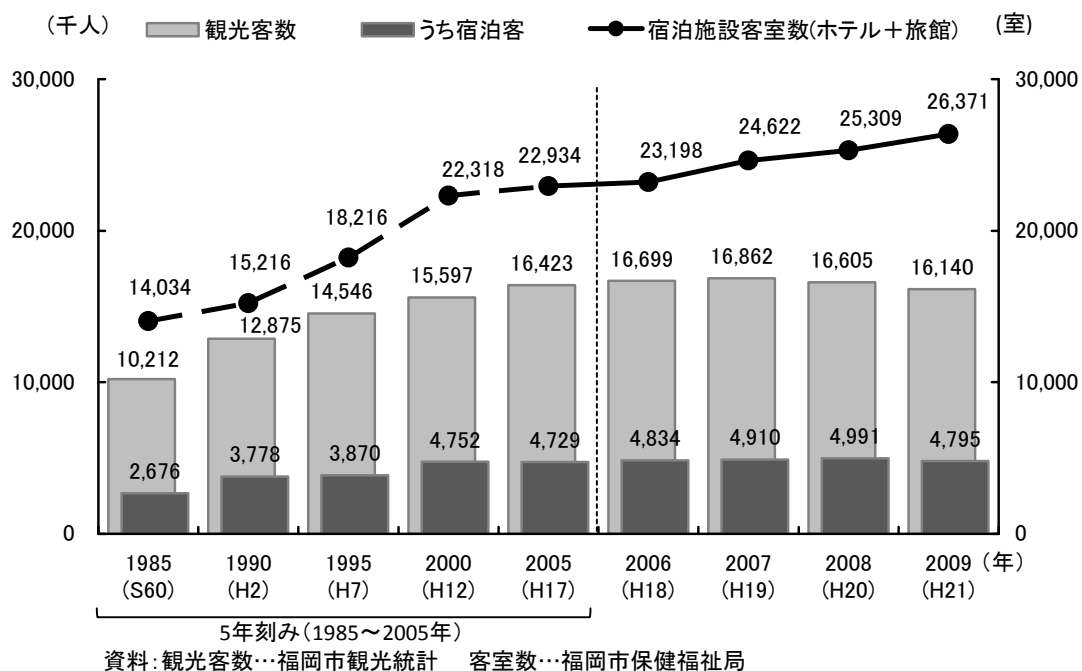
資料: 福岡市総務企画局
「福岡市新・基本計画の成果指標に関する意識調査」

- オープンな体質や環境があり、新しい人、モノをひきつけられる可能性はある。
- 美味しいものや食は福岡の魅力である。
- 海辺の整備は不十分。海に近い都市部の好条件を活用していない。
- 福岡は「最も住みやすい都市」の上位にランキングされながら、観光の部分では弱いというギャップがある。
- 「これ」という「売り」が少なく、都市ブランドが弱い。(観光スポットがない)
- 東京や大阪に比べて観光客を取り込もうとするエネルギーが小さいように感じる。

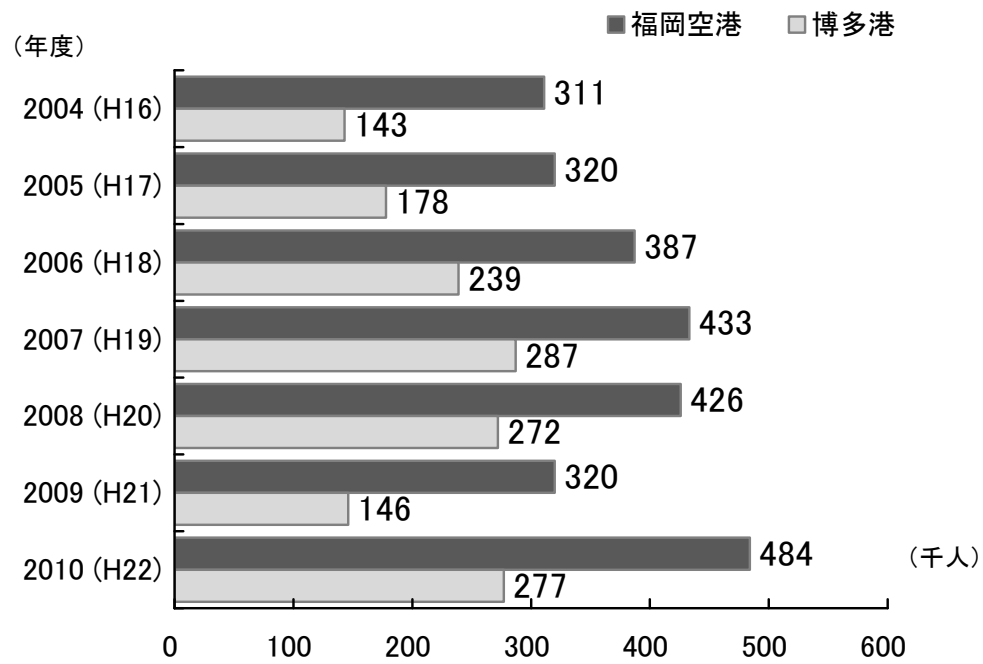
・国際会議開催状況（開催件数＋順位）



・入込観光客数、ホテル客室数

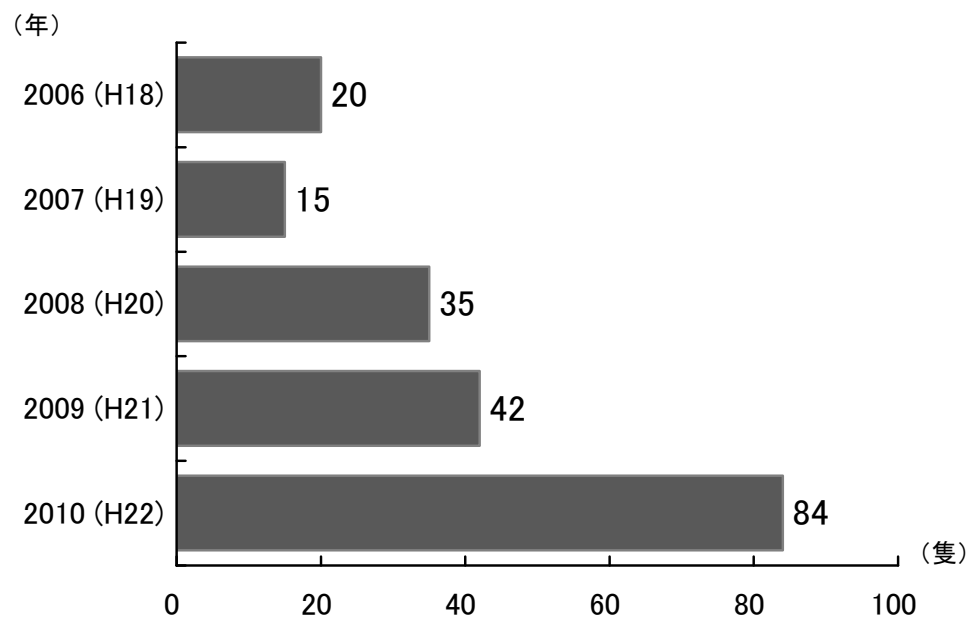


・外国人入国者数（福岡空港、博多港）



資料: 出入国管理統計年報

・クルーズ客船の入港数

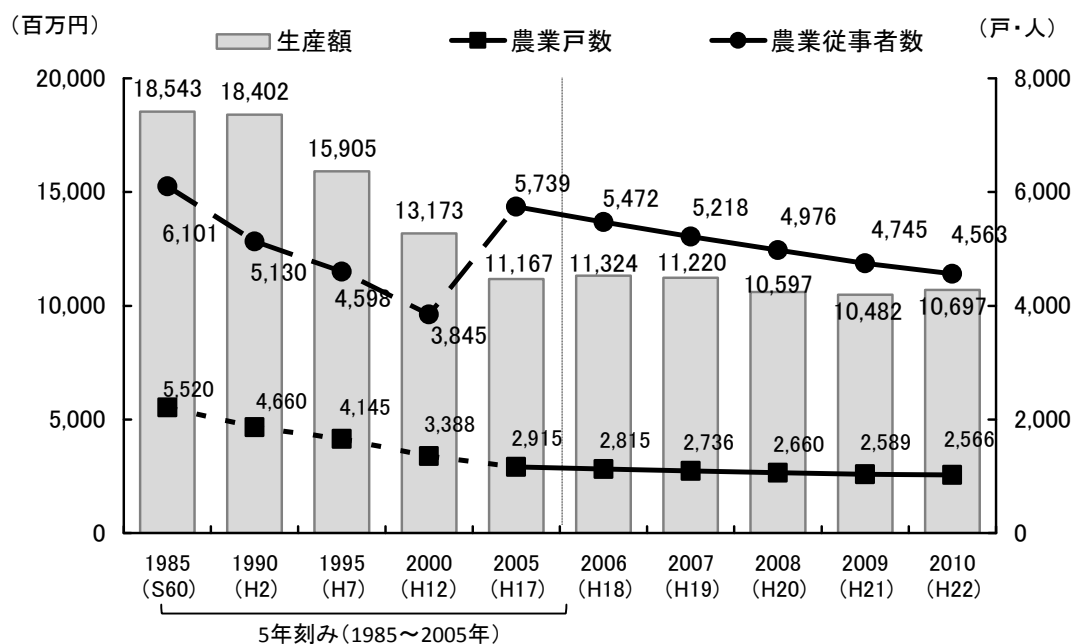


資料: 福岡市港湾局

農林水産

- 全国有数の花き産地である。
- 博多漁港は取扱金額が全国1位である。
- 生産・流通・消費が近接しており、新鮮な魚が食べられる。

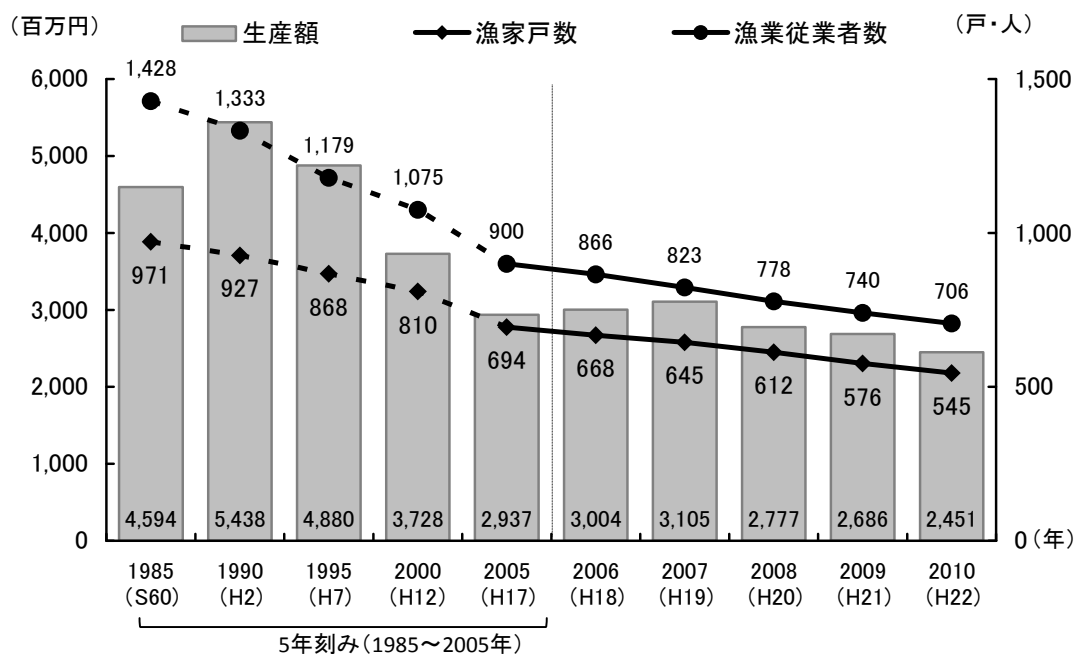
・農業の状況(生産額と農業従業者数・戸数)



資料:福岡市「農林水産統計」

(注)従業者数は2005年より「自営農業に従事した販売農家の世帯員数」に変更

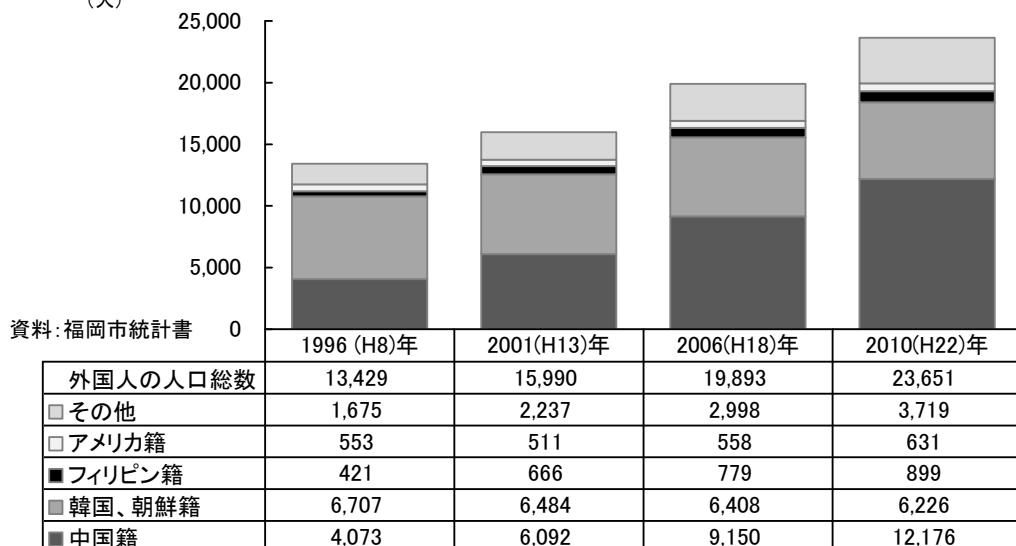
・水産業の状況(沿岸漁業:生産額と漁業従業者数・戸数)



資料:福岡市「農林水産統計」

- アジアとの地理的近接性はメリットである。
- アジア太平洋こども会議やアジアマンスなど、早い時期からアジアに注目して様々な事業を進めてきたことは評価される。
- アジアとの人的交流は進んでいるものの、経済的交流はまだ十分でない。
- 「アジアの交流拠点都市」や「玄関口」を掲げている割には、名実ともにそこまで至っていない。
- 25年前と比較すると、多言語看板が増えるなど外国人には住みやすくなったが、まだ十分ではない。外国人の子どもの就学環境の整備など、量と質の両面からもっと多様性を受け入れる対応が必要である。
- 他の日本の都市と同様、英語やアジア言語を話せる人材が不足している。
- 外国人就労数は、留学生数に比べて少ない。

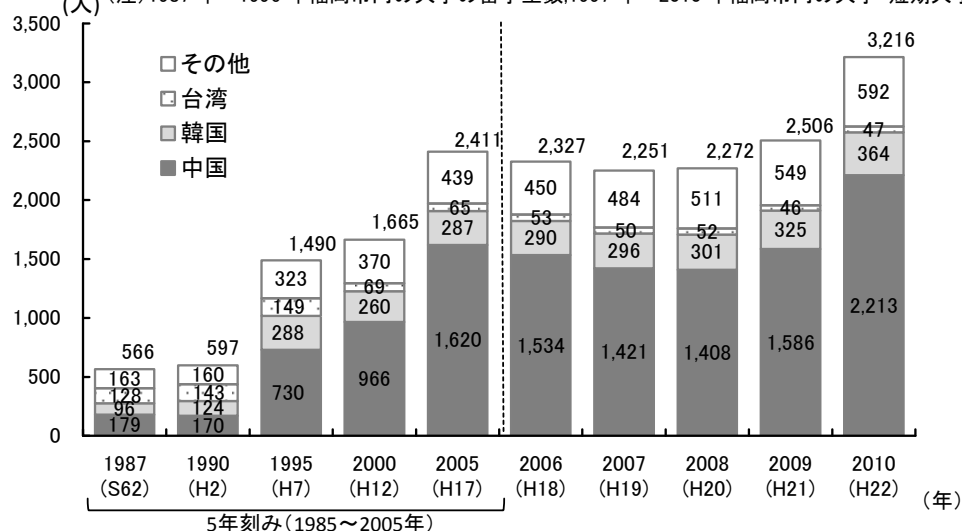
・外国人登録者数
(人)



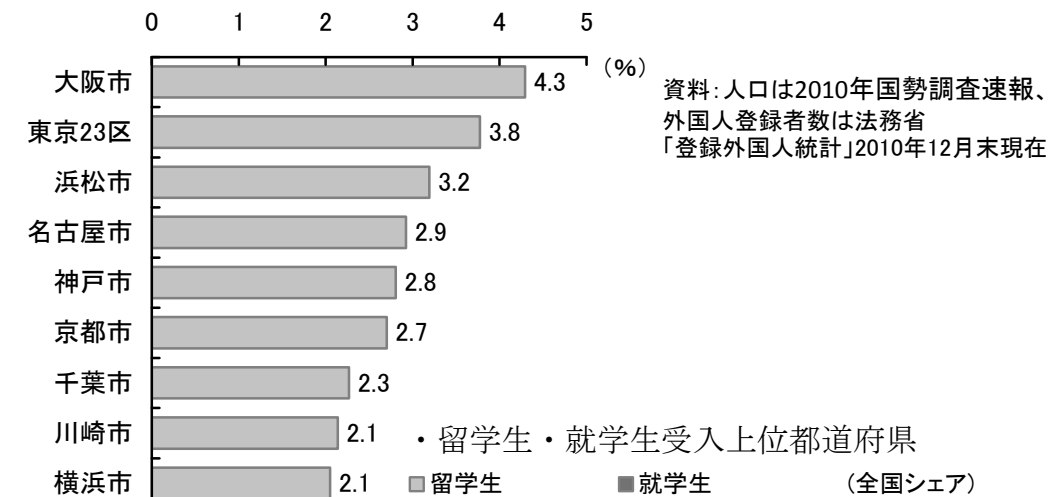
・留学生の状況

資料: 1987年～2005年(財)福岡国際交流協会, 2006年～2010年福岡地域留学生交流推進協議会

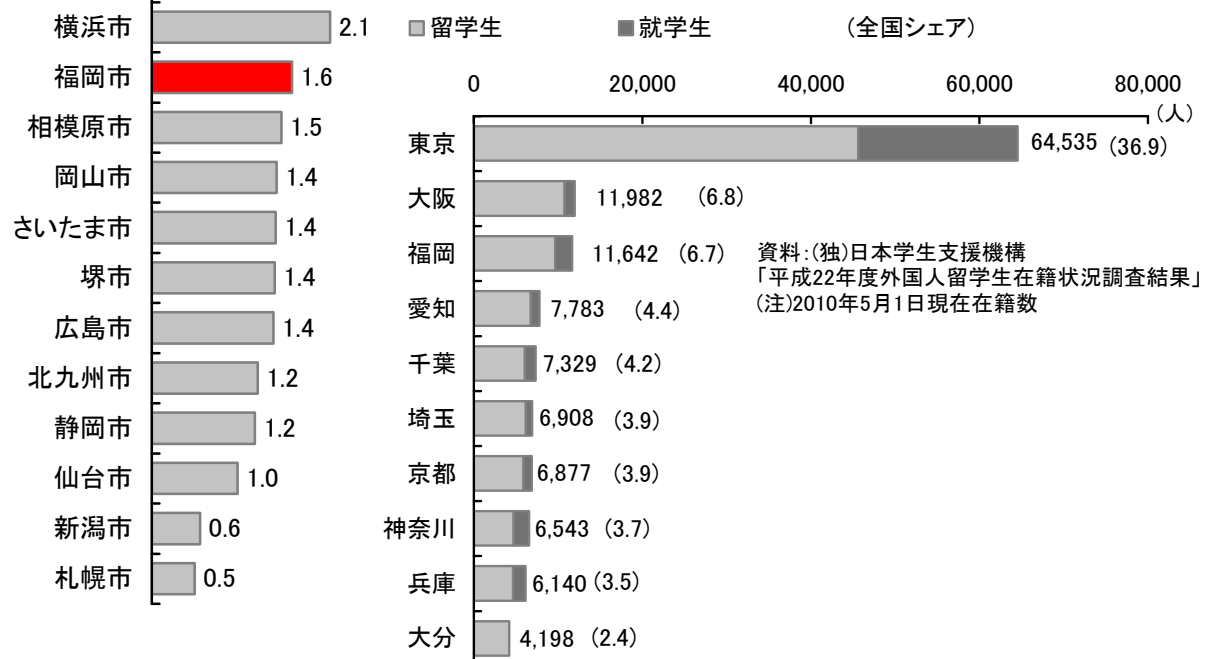
(注) 1987年～1996年福岡市内の大学の留学生数, 1997年～2010年福岡市内の大学・短期大学の留学生数



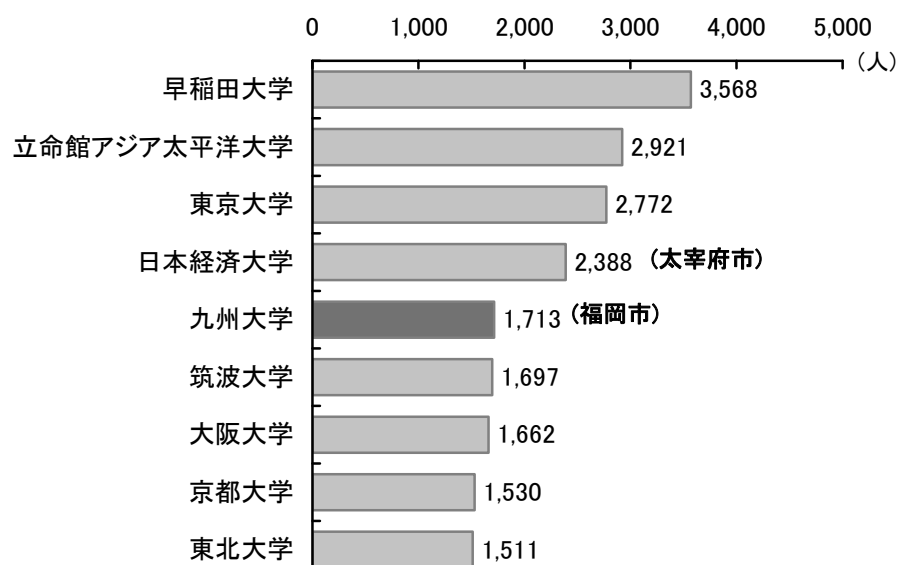
・総人口に占める外国人登録者の割合（大都市比較）



・留学生・就学生受入上位都道府県



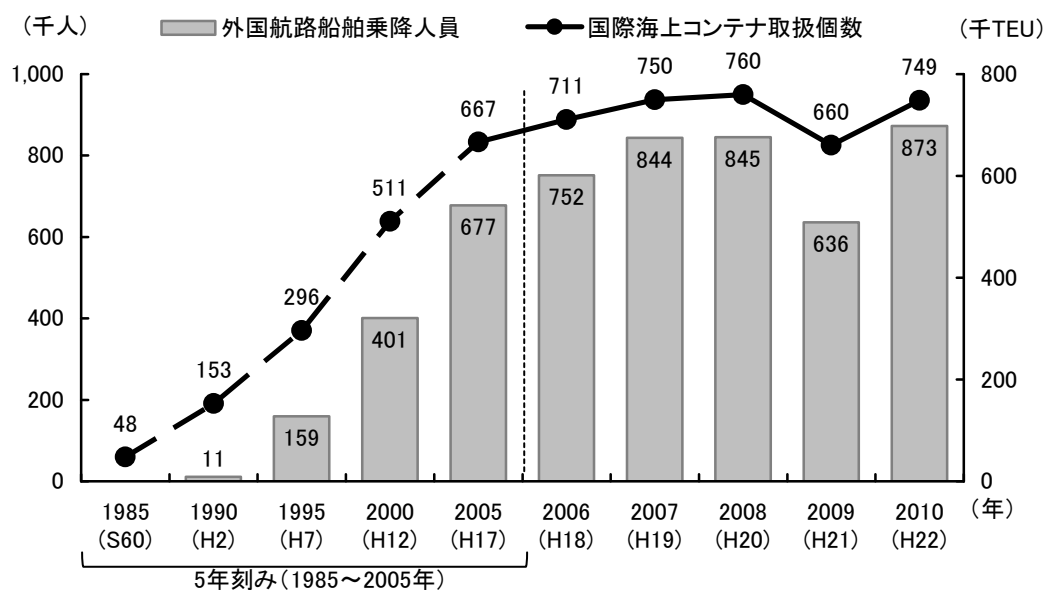
・国内の留学生受入数上位大学



資料：(独)日本学生支援機構「平成22年度外国人留学生在籍状況調査結果」(注)2010年5月1日現在在籍数

- 外国航路船舶乗降人員数が、18年連続全国第1位である。
- 外航クルーズ入港数63回は、全国第1位である。
- 海外へもアクセスがすぐれた都市型空港がある。
- 大陸、半島へ向かっている港湾、空港を持っている点は、アジアとの人流、物流の結節点という意味で大きなアドバンテージである。

・外国航路船舶乗降人員と国際海上コンテナ取扱個数

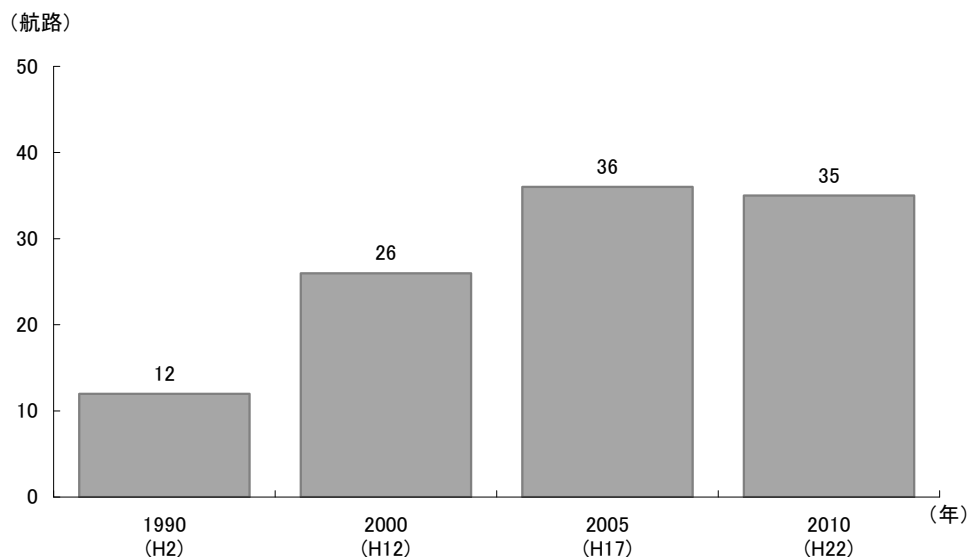


資料: 福岡市港湾局「博多港統計年報」

(注) 四捨五入しているため、合計値の合わないところがある

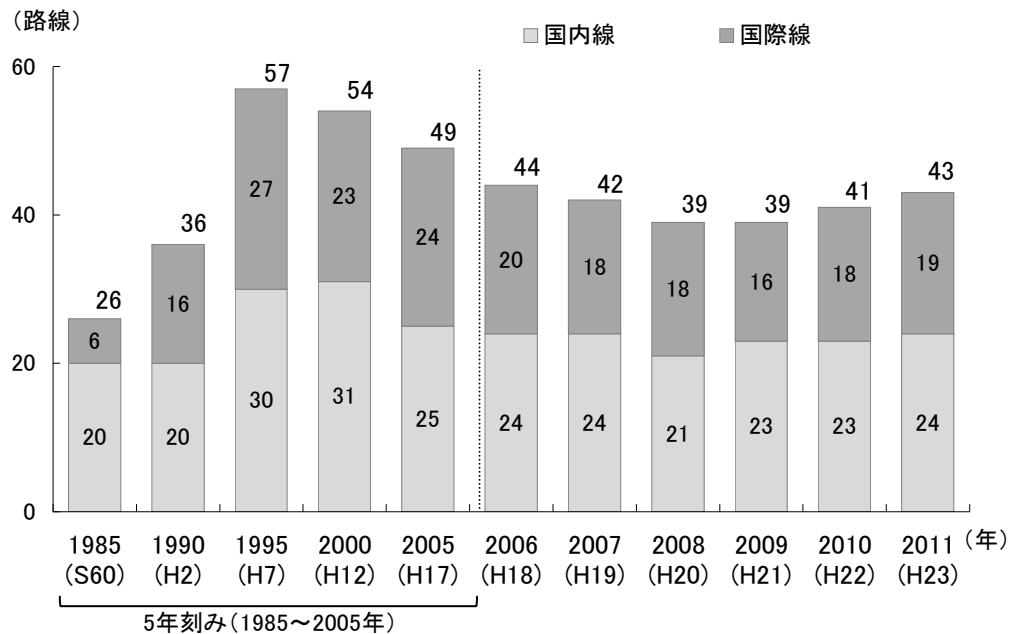
(注) TEU: Twenty-foot Equivalent Unit 20フィートコンテナ換算個数1個のこと

・国際コンテナ定期航路数



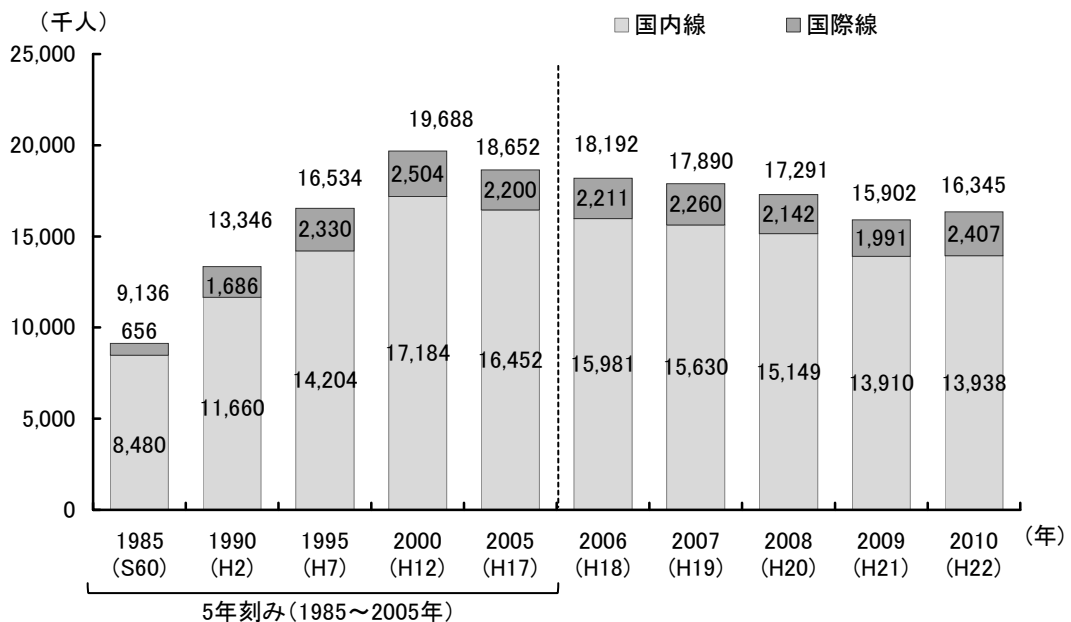
資料: 福岡市港湾局

・航空路線数



資料: 福岡空港ビルディング時刻表(各年6月実績)

・福岡空港乗降客数



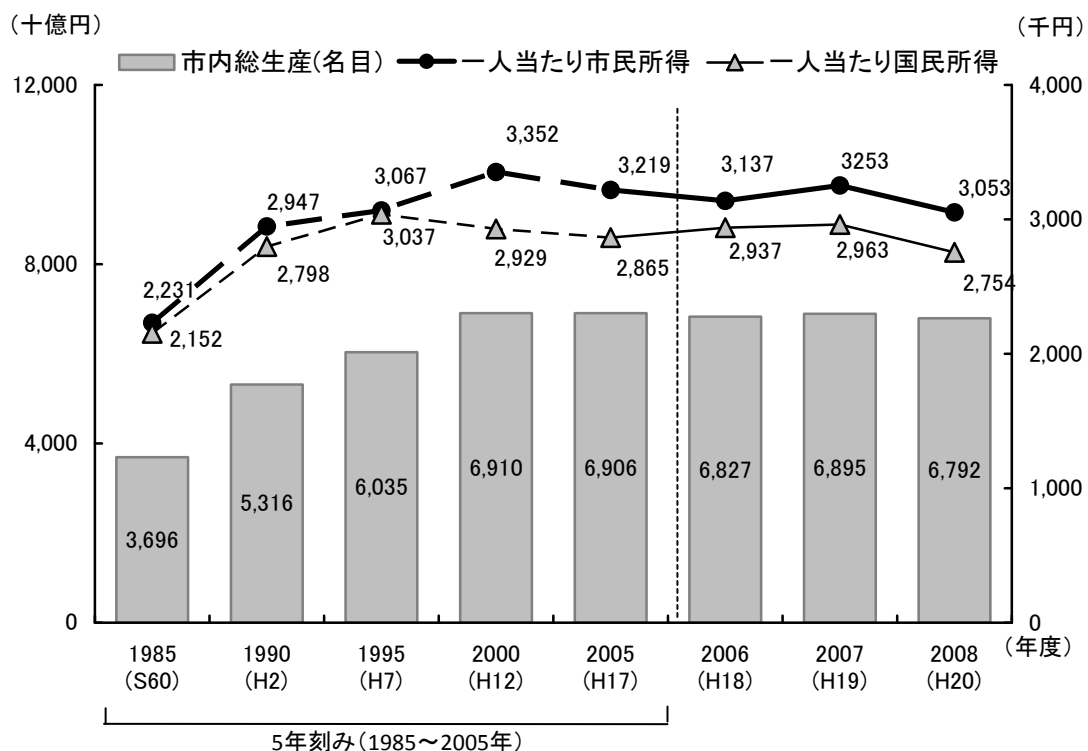
資料: 国土交通省「空港管理状況調書」

(注) 2010年は国土交通省速報値

産業振興

- ビジネスへの関心が低い。起業やリスクをとることに意欲がない。
- 現状に甘んじてしまい「一番になろう」「トップを目指す」と思わなくなっている。
- 支店経済と言われるように、企業間の競争が少ない都市である。グローバル競争に対して関心が低い都市であるように思う。
- ソフト産業にはポテンシャルがある。
- 対アジアのビジネス交流は進んでいない。
- 人材を受け入れる雇用の場がない。学生や若者は九州の就職先が少ないため、他地域へ流出する。女性（特に育児後）の再就職も難しい。
- 若者や女性の割合は高いが、その労働力が十分に活かされておらず就業機会も少ない。
- 大学卒業者（特に理系）の就職先が少ない。
- 第3次産業に偏った産業構造である。

・ 市内総生産、市民所得



資料: 福岡市総務企画局「福岡市民経済計算」、

国民所得…内閣府経済社会総合研究所「国民経済計算年報」

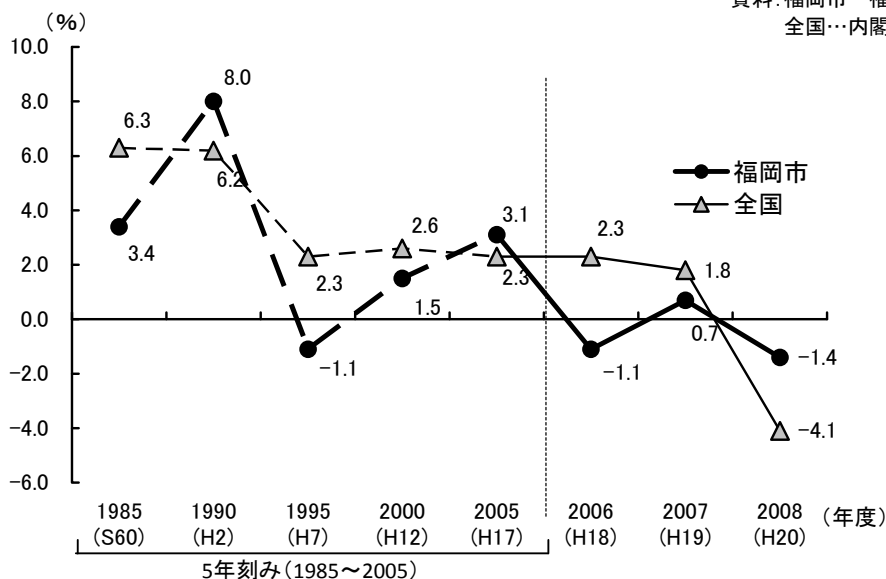
(注)1985・1990・1995は、平成11年度当時の推計方法とデータによる遡及改訂の結果

(注)2000・2005～2008は、平成20年度当時の推計方法とデータによる遡及改訂の結果

(注)1985・1990・1995の一人当たりの国民所得は2001年の集計による

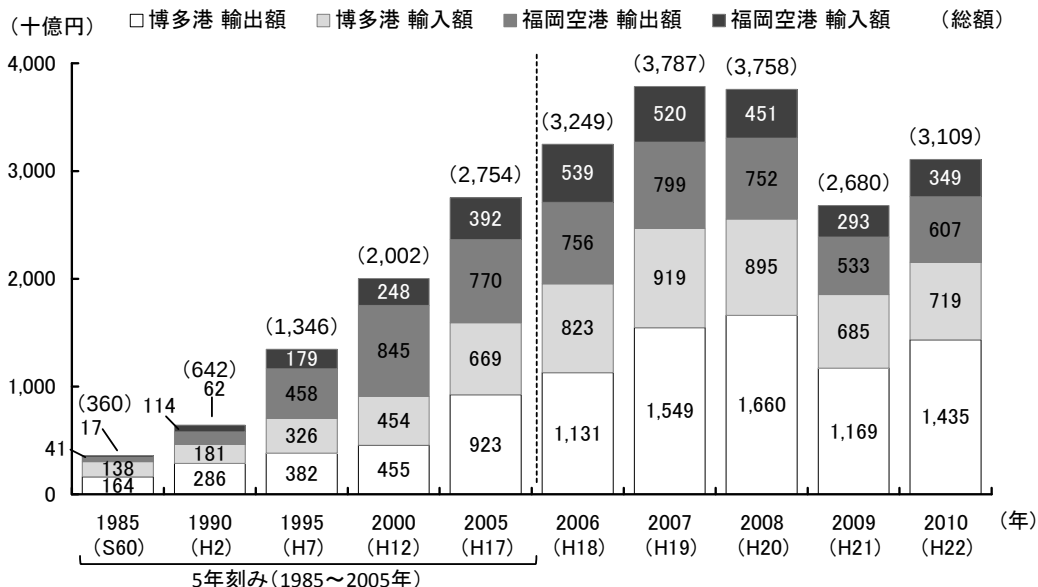
・ 経済成長率の状況

資料:福岡市…福岡市総務企画局
全国…内閣府



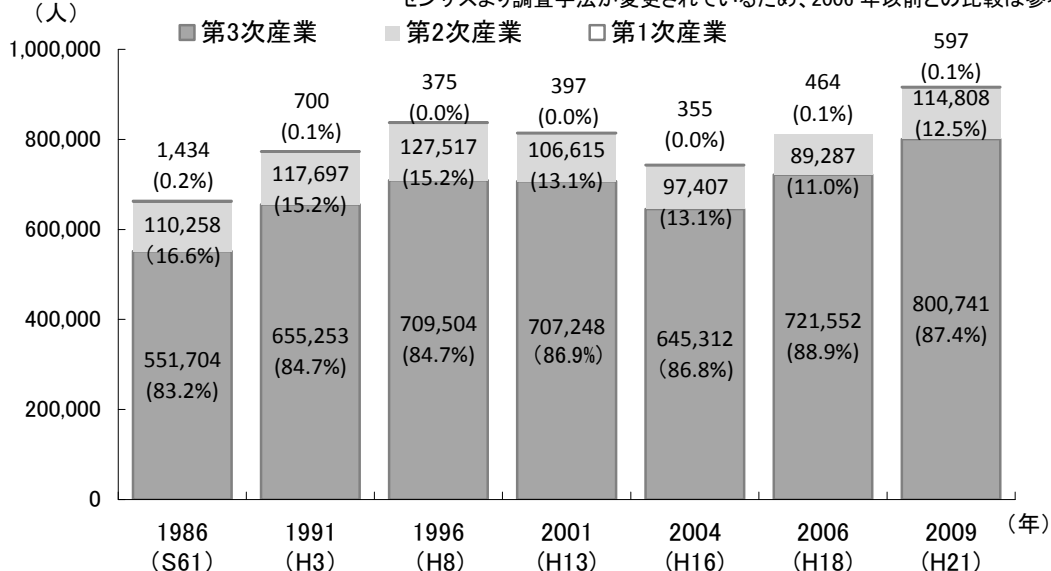
・ 貿易額

資料:門司税関「外国貿易年表」 (注)四捨五入しているため、合計値の合わないところがある



・ 産業構造 (従業者数)

資料:事業所・企業統計調査、平成 21 年経済センサス基礎調査 (注)平成 21 年経済センサスより調査手法が変更されているため、2006 年以前の比較は参考程度

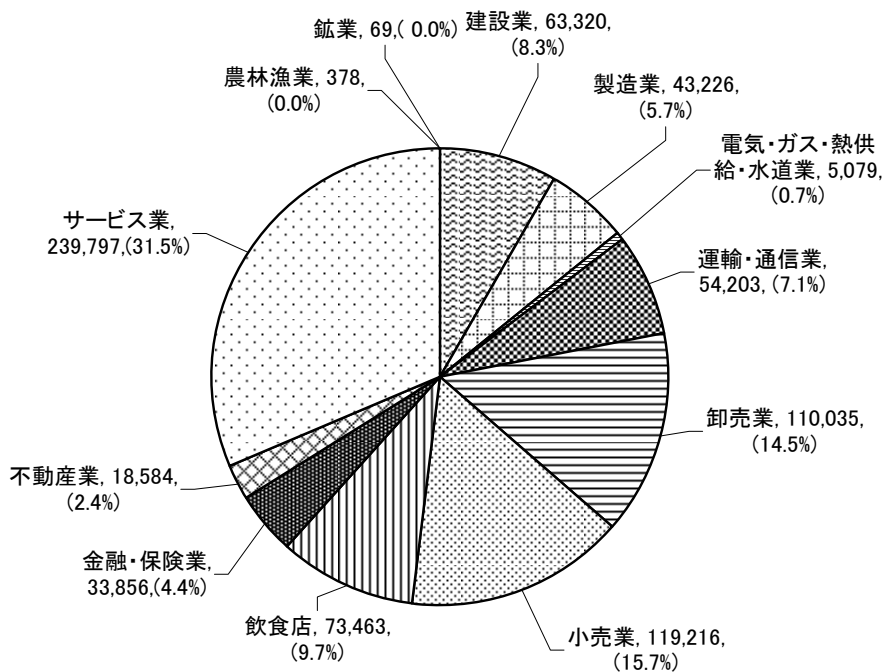


・従業者数の割合(産業大分類別構成比)

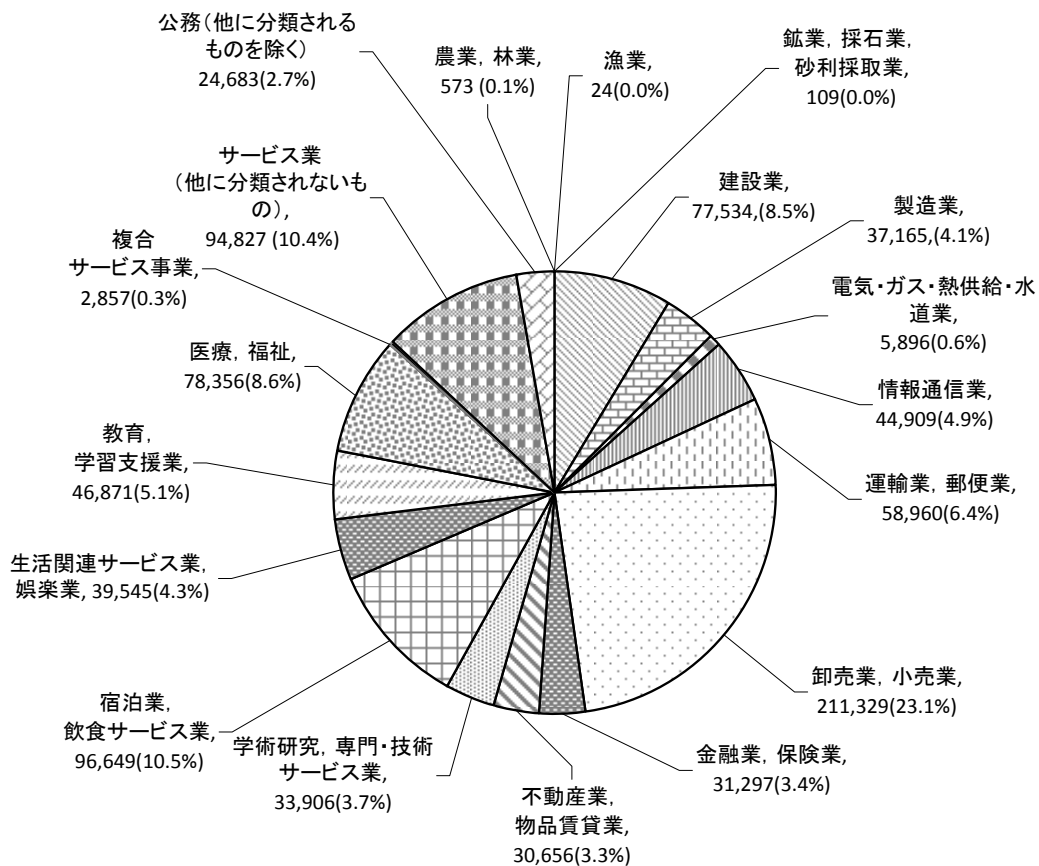
資料:事業所・企業統計調査(平成13年)、平成21年経済センサス基礎調査

(注)平成21年経済センサスより調査手法が変更されているため、比較は参考程度

【2001年(平成13年)】総数=761,226人



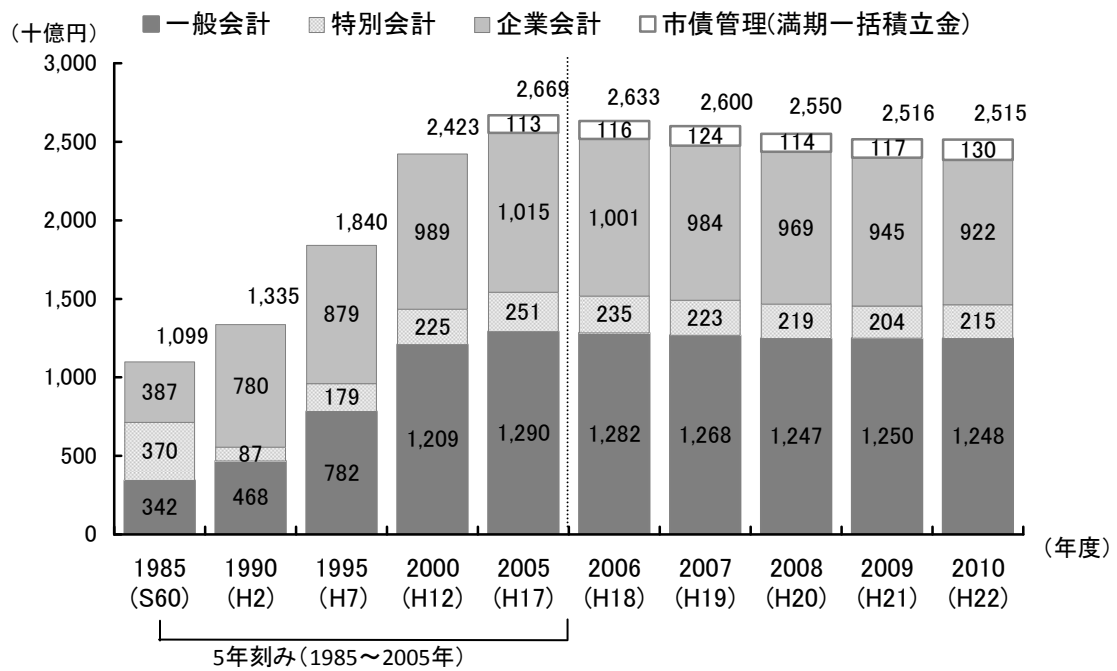
【2009年(平成21年)】総数=916,146人



その他

- 北九州市との役割分担や九州全体における位置づけを考えなくてはならない。
- 市債残高は減少傾向にあるが、依然として高い。

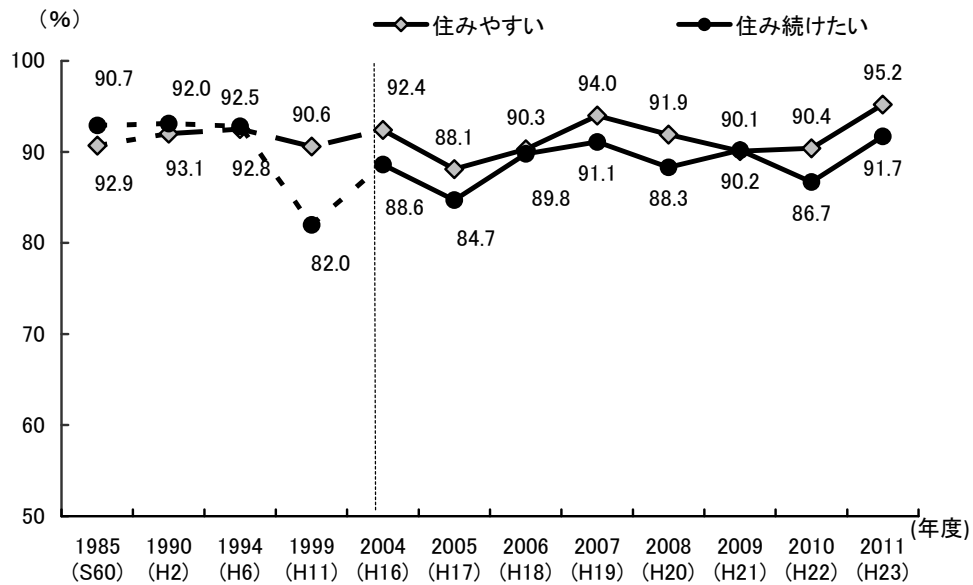
・市債残高の状況



資料:福岡市財政局

【参考】

・福岡市の住みやすさ・定住志向について



資料：福岡市「市政に関する意識調査」の該当設問のある年度から抽出

(注) 2004年は、「市政に関する信頼度調査」

(注) 1999年以前の住みやすさについての設問は「非常に住みやすい」「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合算

(注) 2004年以降の住みやすさについての設問は「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」の合算

(注) 1999年以前の定住志向についての設問は「ぜひいつまでも住み続けたい」「なるべく住んでいたい」の合算

(注) 2004年以降の定住志向についての設問は「ぜひ住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合算

(注) 件数：1985年=1,630件、1990年=1,672件、1994年=1,763件、1999年=1,704件
2004年=1,745件、2005年=1,779件、2006年=2,254件、2007年=2,373件、2008年=2,322件
2009年=2,633件、2010年=2,531件

・市民が望む都市像について

	1985 (S60)	1990 (H2)	1995 (H7)	1999 (H11)	2011 (H23)
1位	事故や災害、犯罪のない安全な都市 (43.8)	自然に恵まれた緑豊かな都市 (43.3)	生活環境がよく整備された暮らしやすい都市 (41.2)	生活環境が整備された暮らしやすい都市 (46.8)	事故や犯罪の少なさ (52.0)
2位	自然に恵まれた緑豊かな都市 (42.1)	住環境が整備された暮らしやすい都市 (42.3)	自然に恵まれた緑豊かな都市 (40.9)	障害者やお年寄り、子どもなど弱い立場の人を大切にする福祉都市 (36.9)	十分に整備された生活環境 (36.7)
3位	住環境が整備された暮らしやすい都市 (41.9)	事故や災害、犯罪のない安全な都市 (41.4)	事故や災害、犯罪のない安全な都市 (36.1)	自然に恵まれた緑豊かな都市 (36.3)	活力ある経済活動 (31.5)
4位	公害のない清潔な都市 (24.7)	障害者や老人など弱い立場にある人を大切にする福祉都市 (26.1)	障害者やお年寄り、子どもなど弱い立場の人を大切にする福祉都市 (30.6)	事故や災害、犯罪のない安全な都市 (34.3)	高齢者や障がい者などすべての方が社会参加しやすい環境 (30.7)
5位	弱い人の立場を大切にする福祉都市 (22.8)	公害のない清潔な都市 (20.7)	水に強い節水型都市 (30.3)	災害時の備えが整った安心して暮らせる都市 (17.9)	災害への備え (27.0)

資料：福岡市「市政に関する意識調査」の該当設問のある年度から抽出

(注) 各年度1位から3位までの合計による上位5項目

第3部 意見募集メニューごとの意見集約又は抜粋など

様々な方法で皆さまからいただいた主なご意見・ご提案を、大きく8つの括りに分けられる意見募集メニューごとに集約・抜粋しました。

1 有識者インタビュー

- (1) 分野別
- (2) 有識者別

2 フォーラム（アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクトリレーフォーラム）

3 市民アンケート

- (1) 市民の皆さま4,500人対象（回答数2,588人）
- (2) 各区自治協議会会長の皆さま
- (3) 外国人留学生と日本人ボランティアスタッフ
- (4) フォーラム参加者

4 論文（私の提言『25年後のふくおか～人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市を目指して』）

- (1) 優秀賞論文
- (2) 佳作論文
- (3) その他の論文

5 ワークショップ（ビジョンカフェ）

- (1) 市民ワークショップ
- (2) 市職員ワークショップ

6 団体等からの提言

- (1) 団体の皆さま
- (2) 市職員提言検討チーム

7 お手紙、ホームページなどによる提案

- (1) 市民の皆さま
- (2) 市職員（研修等参加者）

8 ソーシャルメディア（ツイッター、フェイスブック）

1 有識者インタビュー

将来像を検討するにあたり、経済社会の動向などについての現状認識や将来の見通しを確認するため、学識経験者や経済界の方などを中心にご意見を伺いました。

今後、必要になると思われる都市の機能や、日本やアジアの中で福岡が担うべき役割、福岡の持っている潜在的な可能性など、各方面で活躍している方々ならではの説得力のあるご指摘を福岡市の未来を考えるための視点・論点として頂きました。

○めざす都市像について

○新たなモデルをつくる試みについて

○都市がつけるべき付加価値について

○女性の活躍や子どもの健やかな成長のための仕組みについて

○人材の教育、育成について

○超高齢化社会に向けたビジネスや仕組みについて

○市民参加の仕掛けについて

○まちに必要な機能とマネジメントについて

○交通ネットワークの改善について

○歴史や文化の活用、発信について

○エンターテインメントや食文化の活用について

○観光に関する多言語表記やマーケティングについて

○観光の活性化について

○第一次産業の展開について

○高いレベルの国際化について

○外国語教育とインターナショナルスクール の充実について

○留学生・海外人材の活用について

○企業やビジネスのアジア進出について

○アジアとの交流や近接性を活かした役割について

○つながりが強い韓国と中国との関係について

○港湾機能の強化とウォーターフロントの活用について

○空港の機能の強化について

○成長する産業や技術分野と強化の仕組みについて

○起業やベンチャーの支援について

○戦略的な企業誘致について

○大学の持つ機能や資源の活用について

○産学官民連携での取組みについて

○九州全体といった、より広域的な視点について

○高い意識を持った柔軟な行政運営について

(1) 分野別

○めざす都市像について

- ・「よそ者・若者・ばか者」といった異端を受け入れ「“異”ノベーション」を生む、世界一オープンな都市を目指してはどうか。(鍋山徹氏)
- ・多様な人々をひきつけるインテリジェンスのある街を目指してはどうか。(ニック・サーズ氏)
- ・札幌市や仙台市が既に標榜しているような「コンパクトシティ化」を掲げてはどうか。(藻谷浩介氏)
- ・他都市とは違った「生活分野のデザイン」を志向したらどうか。(橋爪紳也氏)
- ・「建物全てを屋上緑化にし、上空から見ると一面緑の森林都市にする、そして福岡市内で二酸化炭素を吸収してしまう」というコンセプトを打ち出してはどうか。(山崎朗氏)
- ・ハードだけでなくハードの不整合を解消するためのソフト面での努力、お互いがお互いのことを思いやり支えあうみんなが優しい、世界で一番幸せなまちを目指してほしい。(定村俊満氏)
- ・UD(ユニバーサルデザイン)が遅れている福岡は、25年後に日本で一番進んでいるまちになってほしい。(関根千佳氏)
- ・日本のために福岡ができることを考えて、日本のために頑張る都市を目指してはどうか。(伊藤敬生氏)
- ・定住人口、滞在人口、回遊人口が集まるような「ハブシティ」になってほしい。(長尾亜夫氏)
- ・「可処分時間」が多い福岡市の魅力を評価、強化してほしい。(出口敦氏)
- ・屋台、新天町商店街、都市高速など「粋な福岡スタイルの独創」をもってまちづくりに取り組むべき。(出口敦氏)
- ・標準化の時代からいち早く脱出して、差別化、個性化を図ってほしい。(古川洽次氏)
- ・「女性が日本で一番生き生きと活躍する都市」を目指してほしい。(村山由香里氏)
- ・本人が満足できる生活ができる世の中、生活の多様性を提示できる社会になればいい。(まつもとゆきひろ氏)
- ・人々の幸せと都市の問題、文化と都市の問題を含め、世界の頭脳が結集するところになるのはどうでしょうか。(長谷川裕一氏)

○新たなモデルをつくる試みについて

- ・アイランドシティを完璧な共生モデル地区にしたらどうか。(星野裕志氏)
- ・ホームレスが多い状況を劇的に改善したモデル都市を目指してはどうか。(星野裕志氏)
- ・「アジア都市のモデルになる」努力をもっとしてはどうか。(西村幸夫氏)
- ・人口100万～200万規模の都市で「ここが参考になる」というモデルを作り、他国の20～30年後の目標になってはどうか。(西村幸夫氏)

- ・人々のサイクルに合わせ、大きな世代交代の流れと局所的なマネジメントをうまくマッチングさせた観光ビジネスモデルを作ってはどうか。（森地茂氏）
- ・今後急増する海外の 100 万人都市に対して、人口増と並行して 3 C（コンパクト、コンビニエント、クリーン）と整った交通体系を保つ「福岡モデル」を P R してはどうか。（野田順康氏）
- ・専門家と市民の「協働」、中国や韓国など世界中の人と「創発」が醸成されていくといい。福岡が専門家の知識や経験に「市民知」が上手く融合したモデルとなってはどうか。（田上健一氏）
- ・福岡市は未来社会を受け入れ、新しい社会実験をどんどん受け入れる実験の場になってはどうか。（安浦寛人氏）
- ・インフラ輸出は有益である。（松尾新吾氏）
- ・都心がエンジンとして、アイランドシティと九大学研都市がチャレンジできる実験都市としての両翼として、都市戦略を推進してほしい。（出口敦氏）
- ・アイランドシティには新しいコンセプトの遊戯施設やテーマパークのような集客力のある施設等をつくってはどうか。（古川洽次氏）

○都市がつけるべき付加価値について

- ・自然資本を生かし、付加価値にしたビジネスを生み出してはどうか。（例えば、日本の農産品、住宅）（武内和彦氏）
- ・地方に付加価値の高い産業（例えば一次産業）を育て、分散した地域圏をつくってはどうか。（中垣量文氏）
- ・モノと情報通信技術の組み合わせが経済を動かし、付加価値で収益を上げる構造に変わってきた。（安浦寛人氏）
- ・都市も「ハブ・アンド・スポーク」におけるハブ機能を担うため、文化、芸術、人、モノ、カネ、情報を集め、それを加工したり、取捨選択したり、付加価値をつけるべき。（長尾亜夫氏）
- ・感性に訴える目に見えない価値を作るサービス・イノベーションを重視してはどうか。（鍋山徹氏）
- ・日本ならではの組織的なチームプレーによる完成度の高いサービスモデルは、世界に対して新しい「価値」として発信できるのではない。（川原洋氏）
- ・地域のユニークな伝統を産業と活力に繋げていくことは、どのまちでも大事だと私は考えています。（有馬裕之氏）
- ・都市の快適さが、日本や福岡が世界に対し提供していく価値になると考えます。ただし、快適とは何かは、あくまでも市民が決めることです。（宮本雄二氏）

○女性の活躍やこどもの健やかな成長のための仕組みについて

- ・子作り減税や、働く女性が 2 人目、3 人目の子供を持てるようなインフラ整備が必要ではないか。（上野泰也氏）

- ・「女性をひきつける都市」を戦略として磨いていってはどうか。優秀な男性が東京へ出ていかずに福岡に住みたい、福岡に戻って来たい、と思わせる仕掛けができないか。(村山由香里氏)
- ・大学と一緒に優秀な女性を社会で生かすための取組みができないか。(村山由香里氏)
- ・女性の管理職比率、取締役比率の目標値を立ててはどうか。(村山由香里氏)
- ・安心して出産・育児できる状況を作り出してはどうか。(上野泰也氏)
- ・就業機会の少なさは問題。若者と出産・育児後の女性の就職先の創出が重要ではないか。(藻谷浩介氏)
- ・福岡市は九州内でも最低の出生率であるから、福岡市自らが「子育てしやすいまち」というビジョンを具体的に示してはどうか。(藻谷浩介氏)
- ・高学歴就業者のWLB（ワーク・ライフ・バランス）が進み、結婚や出産・育児がキャリア上ハンデにならない、と認識してもらえる制度を整えるべき。(関幸子氏)
- ・男性の育児休業取得率 100%を目指すべき。(村山由香里氏)
- ・女性が出産などで一度職場を離れると再就職が難しい現状を変えられないか。(村山由香里氏)
- ・家事サービスをもう少し安い金額で頼めるような仕組みを作れないか。(村山由香里氏)
- ・保育園の整備だけでなく、高齢者が生き甲斐として子どもと触れ、面倒をみるような仕組みを作れないか。(村山由香里氏)
- ・子供を持つ家族を市全体が支援するような体制作りが必要ではないか。(藻谷浩介氏)

○人材の教育・育成について

- ・データの加工・分析ニーズに対応できる高度な人材輩出機能を担ってはどうか。(小林修氏)
- ・ITではない「ソフト」産業に欠かせない博士課程を含む高度人材育成教育を実施してはどうか。(小林修氏)
- ・地場産業との相乗的な活性化につながる高度人材の育成をしてはどうか。(小林修氏)
- ・PC一台あれば分析・評価を行える高度人材を戦略的に育成してはどうか。(小林修氏)
- ・「人材のサプライチェーン」に関する情報を共有していく役割を担ってはどうか。(小林修氏)
- ・外部の人材を活用し、人材の厚みを増して持続可能な成長を考えてはどうか。(細川昌彦氏)
- ・福岡には知的人材をひきつける潜在力があり、それを表に引きだし、情報発信してはどうか。(新海征治氏)
- ・上の層から産業や研究開発などを考えられる人材を育ててはどうか。(安浦寛人氏)
- ・付加価値の高い産業や、人材の育成に投資すべき。(川原洋氏)
- ・九州に就職して頑張りたいと思わせるような魅力ある企業や産業が育ち、優秀な人

- 材を確保して育成しなければならない。(河部浩幸氏)
- ・「九州・アジア経営塾」のような地域の人材をみんなで育成する取組みは強み。(長尾亜夫氏)
 - ・大学のような教育機関でも、学生に歴史、世界の流れ、法体系から科学技術まで上から下まで全ての階層を一通り勉強させるべき。(安浦寛人氏)
 - ・変化の中で強く生きていく教育・訓練、健康的なハングリー精神を身につけるような教育をしていってはどうか。(ロバート・ファン氏)
 - ・アジア太平洋こども会議などを利用して、グローバルシチズンの育成をしてはどうか。(麻生泰氏)
 - ・九州域内の大学ネットワークを形成し、「現場力」を磨く教育をさせてはどうか。(家田仁氏)
 - ・私は人間力を高める文化こそが、地域に関係なく対等に勝負できる強みになるのではないかと考えています。(長谷川裕一氏)
 - ・一番基本的な人間観についての教育を徹底することが重要だと思います。(長谷川裕一氏)
 - ・九州に英語力、デザイン力、科学技術など様々な能力を育て、世界中の知識を集めていってはどうか。(長谷川裕一氏)
 - ・デザイン力をビジネスに結びつけ、多彩で多才な博多人の育成と、それをビジネスにつなげ、蓄積を都市観光につなげていくマネジメントをもっとしてはどうか。(出口敦氏)
 - ・厳しい場面でも事実や状況を“見える化”し、顧客を納得させる現場の説明能力を上げなければならない。(古川洽次氏)

○超高齢化社会に向けたビジネスや仕組みについて

- ・高齢者がいきいきと暮らせるコミュニティ再建と医療や介護サービスの供給量を、コストを増やさずに工夫しつつ増やすべき。(藻谷浩介氏)
- ・日本より遅れて人口構造の変化（少子高齢化）が起こる東アジアに対して、注目を集める例となってはどうか。(小川全夫氏)
- ・高齢者や市民全体に対し、ビジネス面や公共的な対応策をきちんと講じられている都市であることを示してはどうか。(小川全夫氏)
- ・高齢者はもちろん、市民も交流人口も楽しく満足できるような都市をコンセプトにしてはどうか。(小川全夫氏)
- ・高齢化対応を新たなビジネスチャンスにしていったり、生産性の向上を進めたり、海外移転可能なビジネスモデルを作ったり、市民も一緒になってビジネスを成り立たせてはどうか。(小川全夫氏)
- ・ＩＣカードを利用して高齢者の行動分析を行うなどして、高齢者の就業機会、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなど新しい就業の形態を考え出してはどうか。(小川全夫氏)
- ・介護保険事業などで得られた有用なデータをデータベース化し、研究機能を備え、

アジア全体を見通したアジアエイジングのプラットフォームになってはどうか。

(小川全夫氏)

- ・高齢社会への取組みをアジアに向けて見せている福岡は、そうした経験を欲するアジア諸国のハブになり得るのではないかと。(関根千佳氏)
- ・65歳以上の健康な高齢者がポジティブに働けるようにすべき。(武内和彦氏)
- ・知的な高齢者や年齢と関係なく一生懸命に生きようとする高齢者の活躍の場が必要ではないかと。(新海征治氏)
- ・高齢化については住居のシェアリングをしてはどうか。(安浦寛人氏)
- ・高齢者が年金等だけに依存せず、自己参加や役立ちによる収入財源を持つような生活、社会システムを構築してはどうか。(麻生泰氏)
- ・農業、林業、水産業は高齢者が活躍できる場になるのではないかと。(麻生泰氏)

○市民参加の仕掛けについて

- ・よりよいまちづくりは、行政だけでなく市民がどれだけ入り込むかにかかっている。(定村俊満氏)
- ・市民の中から何か新しいものが沸き立つ仕掛けと、それを実行するスピード感も重要ではないかと。(橋爪紳也氏)
- ・市民の手作りで、そのまちオリジナルの新たな現代の祭りを作っていくことでシビックプライドを高めてはどうか。(橋爪紳也氏)
- ・時間の余裕がある都市や自然の豊かな都市はより選択されやすい。福岡にはそのポテンシャルがあるのではないかと。(西村幸夫氏)
- ・文化に理解を示す市民や組織から、資金やボランティアなどのサポートを引き出すことがポイントではないかと。(垣内恵美子氏)
- ・市民の参加を促し、その地域の個性が平準化して丸くならないように「アーバン・ビレッジ」(都市の中の村)をつくってはどうか。(田上健一氏)
- ・「市民参加型のマーケットの仕掛け」：柳橋連合市場や鮮魚市場といった都市内の市場を市民の日常生活にもっと近づけ、都市観光として活用したり、市内の公園や広場、オープンスペースを市民参加型のマルシェとして活用してはどうか。(出口敦氏)
- ・福岡のことは市民が責任を持って決める、活気に満ちた地域主権を確立させてはどうか。(岡野博一氏)
- ・市民の意識を高めるため、「福岡県」を「博多府」にしてはどうか。(岡野博一氏)
- ・新しいもの好きの福岡市民には何かリアルなものを見せて、目にしやすくすれば理解も得やすいのでは。(松下美紀氏)

○まちに必要な機能とマネジメントについて

- ・都市計画をきちんと運用して、マンションのすぐ横にマンションが建つようなことを止めさせてはどうか。(藻谷浩介氏)
- ・「再開発の再開発」にはこれまでのようにスクラップ・アンド・ビルドだけでなく、

- 既存のストックをうまく利活用する方法論と実践が求められる。(例えばパリ、ニューヨーク) (橋爪紳也氏)
- ・既存のストックをシェアできるようにメンテナンスし、各世帯の人口変動に合わせて住空間を変えることが可能な仕組みを導入してはどうか。市や政府が土地を徐々に買い上げていく仕組みもあってはどうか。(安浦寛人氏)
 - ・公的な住宅政策が不十分で、パブリックスペースなど共有の場の作り方をもっと政策的にリード(プロパティマネジメント)すべき。(田上健一氏)
 - ・都市計画は住居、商業、工業地域をそれぞれ青、赤、黄色で「塗り分け」るのではなく、どう「混ぜ合わせ」て綺麗な色で描くか考えるべき。(田上健一氏)
 - ・一定のルールをつくって地区ごとに建物の高さや用途を限定したり、容積率の下限を設けるなど、都心の土地利用効率、機能を高めてはどうか。(長尾亜夫氏)
 - ・地域のまちづくり活動や団体間の連携活動を支援するアーバンデザインセンターを設定してはどうか。(出口敦氏)
 - ・海外から福岡を訪れる人に対するユニバーサルデザインが必要ではないか。(定村俊満氏)
 - ・都心の回遊性を高めるため、歩道を整備し、バリアフリー化を進め、自転車に占拠された歩道は歩行者に返すべき。(長尾亜夫氏)
 - ・具体的なまちのイメージなど、地域独自の面白さ、楽しさをつくることが重要です。(有馬裕之氏)
 - ・パーキング・パーミット(佐賀)、変わるタイミングや待ち時間を視覚的に表示してくれる信号機(熊本、徳島)など、九州内の各自治体の取組みを知り、市民目線でまちづくりをしてはどうか。(関根千佳氏)
 - ・私は、「違いをいかに打ち出すかが、今後のまちづくりだ」と言っています。(宮本雄二氏)
 - ・博多、天神といった大きな括りではなく、春吉、今泉、大名などそれぞれの街の個性を分かりやすくプロデュースしてはどうか。(ニック・サーズ氏)
 - ・福岡でも都市全体の、場所ごとの位置付けをもっと差別化して、しっかりした機能を作り込むことが必要だと思います。(日野晃博氏)

○交通ネットワークの改善について

- ・明治通りは回遊性のある歩けるスケール感を持った都市の背骨であるから、通り沿いの建物も含めた空間全体、都市に貢献する方策を考えてはどうか。(西村幸夫氏)
- ・明治通りと大博通りが作る南北軸を復活させてはどうか。(西村幸夫氏)
- ・海外からの長期滞在や居住をクリアできるような交通、買い物、医療といった基盤の整備をしてはどうか。(上野泰也氏)
- ・シティマラソン福岡のコースは、走って楽しい、眺めのいい場所にしてはどうか。(ニック・サーズ氏)
- ・九大の伊都キャンパス周辺に人口を集積させ、LRT(軌道交通)を設置してはどうか。(有川節夫氏)

- ・鉄道路線の縮小放置など、公共交通の細りが都心への来街者減や地盤沈下につながっているのではないか。この機にきちんと総括し、反省すべきではないか。
(藻谷浩介氏)
- ・西区の筑肥線を福岡市営にしたり、西九州自動車道の西区の区域内を都市高速の扱いにするなど西区住民に対するサービスを考えてはどうか。
(有川節夫氏)
- ・ベイサイドへの交通アクセスの改善は喫緊の課題。
(河部浩幸氏)
- ・公共交通で都心にアクセスする環境を整えるべきだ。
(長尾亜夫氏)
- ・「モビリティの環をつなぐこと」：都心部に連結バスのBRTを走らせたり、外環状線や都市高速上に連結バスを走らせるなど、定時性とキャパシティ向上を兼備した新たな公共交通を研究・実験し、整備してはどうか。
(出口敦氏)
- ・住まいや交通のメリットをきちんと情報発信すべき。
(松下美紀氏)
- ・レンタサイクル、ベロタクシーの配備、タクシーやバス、LRT（軌道交通）を活用、充実させては。
(長尾亜夫氏)
- ・インフラ整備など都市の骨格をどう活用していくか、使いこなしていくかを考えながらまちづくりに取り組むべき。
(出口敦氏)

○歴史や文化の活用、発信について

- ・観光に連れて行ける場所がなかなかないので、もっと歴史的・文化的価値が高い資源を利用して、PRすればどうか。
(G.W. バークレー氏)
- ・歴史、文化に関わる観光資源を掘り起こし、PRしてはどうか。
(河部浩幸氏)
- ・博多座や九州国立博物館など文化の高さをまちの魅力としてPRしてはどうか。
(吉元利夫氏)
- ・福岡の「まちの歴史を感じる日」を設けてはどうか。
(大塚ムネト氏)
- ・市民会館の立て替えに際し、福岡の歴史アーカイブのようなものがないか。
(大塚ムネト氏)
- ・歴史や文明遺産を使った観光にもっと力をいれてはどうか。
(ロバート・ファン氏)
- ・「ストックの活用」：歴史的建造物、寺社仏閣、町屋、近代建築などを都市観光に活用すべき。税控除や助成などで形成・維持支援にも取り組むべき。
(出口敦氏)
- ・文化施設などのストックを「市民の幸せや楽しみにどう繋げるか」の観点で活用してはどうか。
(垣内恵美子氏)
- ・食文化やデザインなど「なんとなくセンスがいい」DNAを上手くビジネスに活かしてはどうか。
(馬場貞仁氏)
- ・九州やアジア各地から表現者達を集め、福岡、韓国、中国の海に面する都市を船でつなぐようなアジア文化祭的な仕掛けができないか。
(大塚ムネト氏)
- ・「文化経済大国」を狙うべく、伝統文化に裏づけされたブランドの存在を認識すべき。
(岡野博一氏)
- ・地元の歴史、伝統、文化などのコンテンツを現代風に再編集してアピールしてはどうか。
(岡野博一氏)
- ・地元コンテンツを創り、文化発信力を高めてはどうか。
(藻谷浩介氏)

- ・「アジアの文化を学ぶのであれば福岡で」となるような情報発信をすればどうか。
(岡野博一氏)
- ・文化度の高い「花街」という視点で、中洲エリアを再編成してはどうか。
(岡野博一氏)
- ・アジアの芸術家育成。芸術や文化の学術センター、大学をつくってはどうか。
(岡野博一氏)
- ・街の人が普通に歴史を語り、文化人が集い、ネットからリアルへの様々なコミュニティが街の活気を作る都市になってほしい。
(村山由香里氏)
- ・コンサートや美術展など、人が集い生の体験ができる場を提供するハブは必要。
(まつもとゆきひろ氏)

○エンターテインメントや食文化の活用について

- ・数日から一週間滞在できるエンターテインメントがたくさんあるようにしてはどうか。
(橋爪紳也氏)
- ・「エンターテインメント（みんなで盛り上がり同じ気持ちになるためのもの）」を前面に出すまちになってはどうか。
(伊藤敬生氏)
- ・歩行者天国と同時にオープンカフェも開催してはどうか。
(ニック・サーズ氏)
- ・オープンカフェのような「開放都市」のイメージを体験できる、知る人ぞ知る特別な場所を作ってはどうか。
(小林修氏)
- ・大型レストランではなく、小さなお店がたくさん並ぶようなストリート文化を伸ばしてはどうか。
(出口敦氏)
- ・秋葉原のようにコンテンツビジネスを軸とし、マニアックな心を爆発させることができたり、共通の趣味を持つ仲間とそこに行けば会えたりするような場所があるといいな、とは思います。
(日野晃博氏)
- ・食を活かした特徴ある観光立市を目指すべき。
(古川洽次氏)

○観光に関する多言語表記やマーケティングについて

- ・国内だけでなく、多言語でもっと多くのPR活動をしてはどうか。
(小林修氏)
- ・4カ国語表記の看板などからもう一步踏み込んだ観点からのインフラ整備が必要ではないか。
(上野泰也氏)
- ・海外観光客はバンコクぐらいまでをターゲットに集客マーケティングをしてはどうか。
(野田順康氏)
- ・日本の道路には名前がついていないので、海外からの観光客が分かるような工夫が必要では。
(長尾亜夫氏)
- ・公共施設だけでなく民間施設にも誘導するサインマップや、ガイドブックを充実させては。
(長尾亜夫氏)
- ・シンガポールや香港のように質の高い英語を使ったPRが必要ではないか。
(ニック・サーズ氏)

- ・ヨーロッパにあるような情報提供のキオスクを明治通りや渡辺通りに設置してはどうか。
(ニック・サーズ氏)

○観光の活性化について

- ・身銭を切る形で航空券の購入補助をしたり、空港で金券を配ったりと、何らかの優遇やおまけをしてでも人を呼んではどうか。
(上野泰也氏)
- ・福岡・九州への海外リピーター客を増やすように、また中国人に商品を買ってもらいよう知恵を絞ったり、博多の禅寺をめぐる観光コースを作ってはどうか。
(馬場貞仁氏)
- ・工場見学など海外の方にも人気があるコンテンツを絡めて、姉妹都市と相互に観光・おもてなしに取り組んでみてはどうか。
(馬場貞仁氏)
- ・遊休資産を活用した観光スポットを創り出し、農村と都市の調和する地域づくりをしてはどうか。
(小川全夫氏)
- ・コンベンションや国際会議などMICEを増やしたり、滞在型観光を受け入れる都市にしてどうか。
(橋爪紳也氏)
- ・(京都のように)観光客が来れば来るほどまちが良くなっていくような整備を進めてはどうか。
(橋爪紳也氏)
- ・長崎のように退職者を活用した観光客案内ボランティアなどを参考にしてはどうか。
(河部浩幸氏)
- ・パブリックスペースを上手く活用したイベントをしてはどうか。(ニック・サーズ氏)
- ・ベンチやポケットパークを適度に配置したり、オープンカフェを許可して増やしたり、花や緑のアレンジを工夫したり、歴史・文化を知らながらまちを歩けるようにしたり、ビル1階のディスプレイなどで面白い仕掛けが連続する働きかけはどうか。
(長尾亜夫氏)
- ・日本の車を買いたいと言う海外客には、直接九州で販売できる仕組みを整えてはどうか。
(馬場貞仁氏)
- ・ソウルのような(胸に星条旗や日の丸のバッジを付けたボランティアが、困っている外国人をサポートする)ことをしてはどうか。
(野田順康氏)
- ・ホスピタリティをもって海辺を綺麗に変えていくべき。
(松下美紀氏)
- ・旧時代的な歓楽街がある中洲は、女性や子どもでも親しめるような整備をしてはどうか。
(ロバート・ファン氏)
- ・優位性を持つ空港と新幹線駅の近接性を活かした観光に注力すべきでは。
(古川洽次氏)
- ・山口あたりから博多を中心に熊本、鹿児島で少なくとも2箇所周遊できるように売り込んでどうか。
(古川洽次氏)
- ・福岡に滞在することで安心を与えるような九州観光のハブ機能を備えた快適性を追求すべき。
(松尾新吾氏)
- ・福岡を拠点として九州各地を巡る観光ルートを確立してはどうか。
(河部浩幸氏)

○第一次産業の展開について

- ・農家と消費者を直接つなげ地産地消を広域で実施してはどうか。 (森地茂氏)
- ・国際地域ベンチマーク協議会で繋がっているような海外都市との間で、農業技術の交流、農家の交流、物々交換のような農産品の交流事業を実施してはどうか。 (藤野直人氏)
- ・九州の農産物（マル福ブランド）がアジア市場で認知されるような仕組みを確立してはどうか。 (松尾新吾氏)
- ・一次産業は安全で美味しい食を地産地消でまかなえるような産業に発展させて、九州各地の農漁業地域で生活が成り立つ制度を作って運用してはどうか。 (河部浩幸氏)
- ・食に関する分野は「安心・安全」のキーワードで素材品質を高めるとともに、素材を加工して付加価値の高い商品を生産し、アジア・世界へ輸出してはどうか。 (中垣量文氏)

○高いレベルの国際化について

- ・市民レベルでの「内なる国際化」を意識的に進め、福岡でしっかり買い物をしてもらう仕掛けが必要ではないか。 (星野裕志氏)
- ・長期滞在者が増えるような交流を増やしたり、引き続き国際会議などのイベントを数多く開催してはどうか。 (有川節夫氏)
- ・外国人が大学の学部生の時期から日本語で勉強することが普通になって、卒業生が日本に残って、日本社会の中で高いレベルの外国人が活躍するという国際化が必要。 (武内和彦氏)
- ・事情があり留学などができない学生や、学生の国際交流をサポートする具体的な取り組みをしてはどうか。 (G. W. バークレー氏)
- ・国ができない国際教育は市や県が補い、大学の都市として発展してはどうか。 (G. W. バークレー氏)
- ・外国人を受け入れる雇用の場、様々な民族が一緒に暮らし、働き、意見を言い合う自然な社会のつながりが、都市の国際化には必要。 (G. W. バークレー氏)
- ・福岡は九州の国際化の窓口として、海外企業の誘致活動に取り組むべきである。アジア都市の取り組みを見習うべき。 (畑伴子氏)
- ・英語標記は細かいところまで行き届いていない。 (ミーナー ラッタウィシット氏)
- ・家具付住居が見つけにくい。 (ミーナー ラッタウィシット氏)
- ・外国人の居住や雇用、生活をケアするワンストップサービスを設けてはどうか。 (ミーナー ラッタウィシット氏)
- ・富裕層を含めた長期滞在者の積極的な受け入れ、さらには移民の受け入れと活用などを全国に先駆けてチャレンジしてはどうか。 (上野泰也氏)
- ・外国人を交えたコミュニティづくりをしてはどうか。 (上野泰也氏)

○外国語教育とインターナショナル・スクールの充実について

- ・小中学校での多言語教育を進め、実現してみてはどうか。 (星野裕志氏)
- ・国際化人材育成のための言語教育を学校で行ってはどうか。 (関幸子氏)
- ・英語や中国語で問題なく仕事ができるビジネス環境づくり、特に多言語を話せる人材の教育と供給に取り組んではどうか。 (藻谷浩介氏)
- ・多言語の案内板の充実やアジアの言葉を話せる通訳案内士の充実・強化をしてはどうか。 (松尾新吾氏)
- ・決して流暢に話す必要はないが、一定の英語力が必要ではないか。 (吉元利夫氏)
- ・「福岡に行けばアジアや世界で活躍できる人材になる可能性が開ける」と言えるよう、インターナショナル・スクールの質や量を高めたり、APU（立命館アジア太平洋大学）以上に英語教育を徹底してやる高等教育機関を整備してはどうか。 (藻谷浩介氏)
- ・英語教育の改革は必要不可欠。外国人教師の採用増や留学生の派遣・受け入れ増に加え、企業も従業員にモチベーションやインセンティブを与えるなど、社会全体で英語力を育てていく必要がある。 (ロバート・ファン氏)
- ・大学教育では、日本語、英語、中国語、韓国語等の3～4カ国語で授業を受けられるようにしてはどうか。 (古川洽次氏)
- ・海外のビジネスマンの子女の教育を任せられるインターナショナル・スクールは十分整備すべきではないか。 (星野裕志氏)
- ・外国人の定住を促進するためにも、子供を通わせたいと思えるようなレベルのインターナショナル・スクールを整備すべきではないか。もしくは、日本の学校が外国人をどんどん受け入れられればよいのでは。 (ニック・サーズ氏)
- ・廃校になった小学校の跡地を使って、市立のインターナショナル・スクールを開設してはどうか。 (有川節夫氏)
- ・海外からの人材に活躍してもらうためには、ソフト面の生活環境が必要。英語で生活できる環境、子弟の高等教育環境などを充実させては。 (新海征治氏)

○留学生・海外人材の活用について

- ・外国人受け入れをオープンにするのは難しいかもしれないが、外国人研修生や留学生を巻き込んで都市を成長させてはどうか。 (星野裕志氏)
- ・留学生などを活用し、アジアとの関係性も生かして現代アートを福岡に根付かせてはどうか。 (藻谷浩介氏)
- ・ベンチャー精神をもって海外に進出する人材を育てる必要があるし、即戦力としては留学生を最大限に活用してはどうか。 (野田順康氏)
- ・地場大手企業には5～10年のタイムスパンで、アジア留学生を採用し人材育成してほしい。 (河部浩幸氏)
- ・地理的優位性を生かして中国のトップクラス大学を卒業した優秀な人材を受け入れ、地場産業に取り込んだり、中国や韓国企業と連携する中核的人材などに活用してはどうか。 (川原洋氏)

- ・長期に貢献してもらえ外国人人材を活用するには、過去の日本企業の人事や企業統治のやり方を変えなければならない。(畑伴子氏)
- ・若い人が海外で学ぶ機会があるといい。(マイケル J. チャドウィック氏)
- ・地域の事情に通じた外国人のプロと、コミュニケーションが上手な日本人がタッグを組んで情報を発信してはどうか。(ニック・サーズ氏)
- ・福岡を出た人材がアジア諸国を回ってまた戻ってくる「福岡イニシアティブ」とも呼べる人材育成モデルをつくってはどうか。(新海征治氏)
- ・現場レベルで、韓国などアジア諸国と福岡・九州の若い人材が交流し育っていくような環境ができないか。(河部浩幸氏)

○企業やビジネスのアジア進出について

- ・アジア内のビジネスを増やし、西日本との流れの結節点になることを目指したらどうか。(星野裕志氏)
- ・水や電力、新幹線といったインフラを軸に、企業の持つノウハウの海外展開と、技術者の技術伝承を図るという点の両方から東南アジアへの企業進出をしてはどうか。(吉元利夫氏)
- ・企業の海外進出とノウハウの移転をすることで、福岡がアジアで尊敬される都市になってはどうか。(吉元利夫氏)
- ・九州の企業は気概を持ってアジア進出に取り組むべき。(村藤功氏)
- ・福岡アジア特区を国際戦略特区として、法人税を 15%引き下げ、傘下のアジア企業の経営者・従業員に対して長期ビザを発行してはどうか。(村藤功氏)
- ・アジア統括会社に対して金融機関、弁護士、会計士、税理士などが専門的なサービスを提供してはどうか。(村藤功氏)
- ・福岡証券取引所でアジアにリンクしたファンドを上場させて、地場銀行の窓口等で販売する仕組みを作ってはどうか。(村藤功氏)
- ・地域のみんなが積極的にアジア市場に着目し、アジアを受け入れてはどうか。(森地茂氏)
- ・対アジアビジネスに関する失敗例はよく聞くが、成功話や良い事例も情報として発信してほしい。(藤野直人氏)
- ・(移民社会になることは難しいが) アジアの中核である九州とアジアの人の流動化を進めて、国内市場を拡大させてはどうか。(馬場貞仁氏)
- ・政府のみならずビジネス界も一緒に、アジアマーケットで通用する新ビジネスは何であるかを認識し、そのようなビジネスの雇用を生み出し、人々がそのような職業に就くための誘導をしていてはどうか。(小川全夫氏)
- ・アジアビジネスの拠点の必要性を感じる。アジアの言葉で語れる人材が集まり国内外の認知を受けた新ABC(アジアビジネスセンター) を設立してはどうか。(松尾新吾氏)
- ・ハイテク産業、ITなどのコアとなる独自産業の企業を、東京ではなく東アジアに向かせなければならない。(川原洋氏)

- ・仕事をする上ではアジアではなく、欧米との作業がやりやすい。アジアを気にすることは不要になってくるのではないかな。(伊藤敬生氏)
- ・勤勉な国民が多く経済成長もしていく潜在性の高いベトナムは、福岡の取組み相手としていい。(上野泰也氏)
- ・私は「アジアとの一体化」が、福岡経済、ひいては九州経済の位置付けをもう一度考え直すキーワードになると考えます。(宮本雄二氏)

○アジアとの交流や近接性を活かした役割について

- ・政治的なリスクが低い東南アジア諸国との結びつきを深めてはどうか。(吉元利夫氏)
- ・少子高齢化のようにアジア他国が同様に対処してかなければならない共通の課題について、日本（福岡）がさまざまなデータを分析してアジア共有の知的資産を作る役割を担えるのではないかな。(小林修氏)
- ・アジアに地理的に近く、心理的な近接感にもつながっている福岡市の魅力を活用すべきではないかな。(吉元利夫氏)
- ・東南アジア諸国連合（ASEAN）、特にタイ、インドネシア、マレーシアにもフォーカスを当ててはどうか。(古川洽次氏)
- ・アジアとの交流、コーディネート機能を担ってはどうか。(国吉澄夫氏)
- ・「福岡に行けばアジアが分かる」といった人材と情報が集まるアジアの交流拠点を目指してはどうか。(国吉澄夫氏)
- ・空港や港湾をもう少し整備してアジアのハブになり、アジアから福岡、福岡から欧米といった人の流れをつくれないうか。(G. W. バークレー氏)
- ・アジアの交流拠点都市と言うわりには内向きでアジアを向いていないと感じる。九州は国内ではなくもっと海外に目を向けるべきではないかな。(藤野直人氏)
- ・時代のニーズにあった教育により多様な人材の活躍する場を提供し、アジアの人材が九州に学びに来たり働きに来たり、集まってくるようにしてはどうか。(馬場貞仁氏)
- ・アジア太平洋子ども会議のような人的ネットワークをどう活用していくか、議論が必要ではないかな。(馬場貞仁氏)
- ・日本より遅れて人口構造の変化（少子高齢化）が起こる東アジアに対して、注目を集める例となってはどうか。(小川全夫氏)
- ・福岡はアジアだけでなく、日本とアジア太平洋地域をつなぐ架け橋として機能するのがいいのではないかな。(マイケル J. チャドウィック氏)
- ・内向き半分、外向き半分の心構えでアジアと共に創っていく「共創都市」になってはどうか。(松尾新吾氏)
- ・名実共にアジアの玄関口になってほしい。(G. W. バークレー氏)
- ・「ジャパン・エンジニアリングのポータル（玄関）」が福岡にあれば、東アジアなどから人が集まるのではないかな。(川原洋氏)
- ・福岡が今「アジア」や「リーダー都市」と言っても、生活者にとってはリアリティがないのではないかな。(伊藤敬生氏)

- ・アジアとの向き合い方を考え、ポジションをどう捉え、どうしていきたいかを考えなくてはならない。(まつもとゆきひろ氏)
- ・九州・福岡はアジアに向かう第三発展軸のもと、アジアと一衣帯水で進むことを常に考えておくことが必要であると思います。(長谷川裕一氏)

○つながりが強い韓国と中国との関係について

- ・福岡が研究開発機能を持って、海外企業の中国移転を水際で阻止する役割を果たしてはどうか。(村藤功氏)
- ・中国ビジネスに関して個別企業が個々にやるだけでなく、情報をお互いに共有し官民が一体となった「日中投資促進機構」のようなアジアビジネス推進組織の核を福岡で作ってはどうか。(国吉澄夫氏)
- ・高校の進学先に中国の有名大学を目指せるような交流制度や仕組みをつくってはどうか。(畑伴子氏)
- ・福岡空港から飛ぶ中国便は、全てが中国の航空会社で、日中のバランスが取れていない。(畑伴子氏)
- ・「スポーク」部分の強化として、中国、韓国とのつながり、欧米とのつながりを持たないといけない。(長尾亜夫氏)
- ・広州や釜山に「リトル福岡」を作り、福岡や九州に「リトル広州・リトル釜山」を作って交流を活発化してはどうか。(馬場貞仁氏)
- ・特定の人種が集まるような地域(例：チャイナタウン)をつくる必要はないのでは。(G. W. バークレー氏)
- ・シンガポールや韓国の都市政策から学んではどうか。(吉元利夫氏)
- ・福岡から東京・大阪に行って韓国へ行くのではなく、福岡で頑張っただけで認められれば韓国へ行けるようなルートができないか。(大塚ムネト氏)
- ・シンガポールや釜山をベンチマークにするなど、海外を向いて海外の競争相手と比較することが重要。(細川昌彦氏)
- ・インバウンド観光も含めた新中華街構想を今一度練り直してみてもどうか。(国吉澄夫氏)

○港湾機能の強化とウォーターフロントの活用について

- ・「高速船ビートルにより人流、ビジネスが増えた」ような事例をもっと増やしたらどうか。(星野裕志氏)
- ・ターミナルを整備したり、荷役や通関のサービスを向上して、RORO船の航路とネットワークを充実させ付加価値を高めたらどうか。(星野裕志氏)
- ・博多港を経由してモノが多都市間を行き来するような機能を発揮できるようになればどうか。(星野裕志氏)
- ・博多港はアジアに向けた港湾整備、楽しい港湾整備をしてはどうか。(橋爪紳也氏)
- ・(シドニー湾のように、) 港近くにホテルや結婚式場などを作って、博多湾クルージ

- ングが名物になるような仕掛けを作ってはどうか。(河部浩幸氏)
- ・物流のため、人流のためウォーターフロントを都心に取り込む港湾整備をしてはどうか。(長尾亜夫氏)
 - ・都市の「裏」にある地域に動線を作ったりイベントを実施して「表」にする戦略を取ってはどうか。(例えば、須崎公園、競艇場のエリア、ウォーターフロント)(西村幸夫氏)
 - ・ウォーターフロントの再整備が急務。(河部浩幸氏)
 - ・「目指せ！博多湾」：博多湾と都心部の一体的な土地利用を計画すべき。(出口敦氏)
 - ・「風の道を切り拓く」：博多湾から市街地に吹き込む風を妨げないような工夫がされた建築物を建てさせるインセンティブを設けてはどうか。(出口敦氏)
 - ・須崎埠頭は大企業の誘致を進めることで、穀物基地にもなるし、再開発することで観光スポットにもなるのではないかと。(河部浩幸氏)
 - ・海と街の間を塞いでいる施設を整理し、買い物ついでに海沿いも歩けるような場所を復活させてはどうか。(藻谷浩介氏)

○空港の機能の強化について

- ・福岡空港の貨物便を24時間運用できる北九州空港にシフトさせ、空いたスロットを活かして旅客便の新路線開設や増便に当てたり、九州新幹線を活用した近隣県とのアクセスを充実させてはどうか。(吉元利夫氏)
- ・福岡空港では朝アジアに飛んで夜に帰ってこられるダイヤを設定してはどうか。(藻谷浩介氏)
- ・地下鉄は福岡空港国際線ターミナル本体まで延伸してはどうか。(山崎朗氏)
- ・都心近郊に小型機用の空港を整備してはどうか。(山崎朗氏)
- ・福岡空港と佐賀空港で機能を分担し、東京に向かう便は福岡空港から、別のある地域に向かう便は佐賀空港を利用するなどとし、近隣の地域で連携と機能分担を図ってはどうか。(有川節夫氏)
- ・福岡空港国際線はアクセス、サービスを改善してはどうか。(武内和彦氏)
- ・福岡空港と佐賀空港を連携させ、効率的に運用してはどうか。(松尾新吾氏)
- ・アメリカ直行便が復活すると嬉しい。(G. W. バークレー氏)
- ・福岡とのダイレクトフライトやダイレクトサーフェイスのある各都市とピンポイントでの結びつきを強化してはどうか。(野田順康氏)
- ・私は空港に1兆円規模の投資をするべきだと思います。遅きに失してはいますが、今からでもやらないよりやったほうがいいでしょう。(長谷川裕一氏)

○成長する産業や技術分野と強化の仕組みについて

- ・「柔体信仰」：バイオ、ナノテク、アニメ、ゲーム、バーチャル技術、省電力技術や緑化技術など「柔らかい」技術は成長が期待できる。(鍋山徹氏)
- ・「医」のニーズを九州全域で受け止めてはどうか。(鍋山徹氏)

- ・水不足で節水に力を入れている福岡市は、水にかかわる技術に力を入れてはどうか。
(鍋山徹氏)
- ・小粒だが多種多様な職業が集まるまちにしたらどうか。
(鍋山徹氏)
- ・映画産業、コンテンツ産業などは有望でないか。
(上野泰也氏)
- ・得意分野を伸ばしたり、新たな得意分野を作ったり、他の都市や地域にない産業、文化や生活を生み出さないといけない。
(橋爪紳也氏)
- ・環境、医療産業、医療ツーリズムなど多種多様なサービス業が新しく生まれ育つ街にしてはどうか。
(山崎朗氏)
- ・産業の縦割り構造をなくした、地域の産業システムがあればどうか。(武内和彦氏)
- ・「虚(ソフト)」と「実(ハード)」を組み合わせる第4次産業を興すべき。第3次産業を先進的なサイエンスに根ざした知的産業の集積と組み合わせるはどうか。
(新海征治氏)
- ・社会の階層を上から下に向かう考え方で産業をつくらないといけないのでは。つまり、どのような社会をつくっていききたいか、そのために必要なサービスは、デバイスは、製品は、技術は・・・と考えていく。
(安浦寛人氏)
- ・沖縄に優位性があるコールセンター立地を、九州に来るようにインセンティブをつけてはどうか。
(ロバート・ファン氏)
- ・福岡には大学病院など病院が多く、また中国との交流も多いので、医療は特色ある産業分野ではないか。
(川原洋氏)
- ・技術移転などの分野で本気で海外展開してはどうか。
(野田順康氏)
- ・目指すべき未来を描いて、それに向かって技術の方向性を定め、技術を活用していく発想が重要。
(ムハマド・ユヌス氏)
- ・福岡は日本の技術やソリューションを活用できるポジションにあり、日本のエンジンになることも可能。福岡が技術活用の方角性を世界に示してはどうか。
(ムハマド・ユヌス氏)
- ・情報通信技術は大衆化された道具になり、「環境」になり、社会の構造、ビジネスの構造を変えた。
(安浦寛人氏)
- ・分野を絞って戦略を立ててはどうか。フォーカス分野には積極的に助成・振興すべき。
(ロバート・ファン氏)
- ・規模は小さいが地域性があるクリエイティブな企業を集積し、雇用を確保してはどうか。
(垣内恵美子氏)

○起業やベンチャーの支援について

- ・起業や産学連携に関しては、アメリカの取組みが参考になる部分が多いのではない
か。
(マイケル J. チャドウィック氏)
- ・図書館に起業家向けインキュベーション施設をつくり、有償開放してはどうか。
(関幸子氏)
- ・起業する人を増やすために、中小企業支援を厚くしてはどうか。(村山由香里氏)
- ・ベンチャー支援として、エンジェルファンドがあればよいが、遊休施設を低価格で

企業に賃貸してはどうか。 (ロバート・ファン氏)

- ・創造都市というのは新しいベンチャー企業が相次ぐような都市で、次世代の若い基軸となる地域の産業が何かを示し、それが地域全体に良い影響を与えるものだと市民に認識してもらいながら、短時間で特定の分野に焦点を当てて進めてはどうか。

(橋爪紳也氏)

- ・九州・アジアビジネス協議会が実施する研修プログラム「実践アジア社長塾」のようなサポートを通じて、起業家や人材を育成してはどうか。 (藤野直人氏)

○戦略的な企業誘致について

- ・東京に本社を置いている事業会社のアジア統括機能を、福岡に誘致してはどうか。

(村藤功氏)

- ・国内企業の本社ないし本社バックアップ機能を誘致してはどうか。 (藻谷浩介氏)

- ・外資系企業のアジア本社や拠点を誘致し、東京以上のマーケティング機能を提供してはどうか。 (小川全夫氏)

- ・研究部門やデザイン部門を誘致し、知的産業の受け皿を福岡に整備してはどうか。

(新海征治氏)

- ・アジアに関する産学連携研究施設や研修施設を誘致・開設し、海外からそこに来る高度人材の2～3割に10年前後福岡に留まってもらうような仕掛けができないか。

(新海征治氏)

- ・福岡には世界展開する企業が、誘致してでも、必要ではないか。(例えばシアトルのマイクロソフト、スターバックス、ボーイング)

(安浦寛人氏)

- ・様々な展示会を誘致し、市民が気楽に訪れて色々なよさを体感し、体験したり勉強したりできるようなコンベンションシティを目指してはどうか。 (松下美紀氏)

○大学の持つ機能や資源の活用について

- ・福岡都市圏の大学を九州大学の跡地に集めて、複合型キャンパスの新しいモデルにしてはどうか。県立図書館なども移転させてはどうか。 (山崎朗氏)

- ・市立大学という「箱」を作る必要はないが、しっかりデータを分析した上で社会に実際役立てるソフトパワーを育てる機能を持てはどうか。 (小林修氏)

- ・知識基盤社会の面では、もし市立大学を持っていたら投入したであろう資金や資源を新しい仕掛けに投入してはどうか。 (有川節夫氏)

- ・中小の大学が個々の特長を生かしてネットワーク化した「福岡大学連合システム」を整えてはどうか。 (川原洋氏)

- ・単独では教育できない新しい分野で求められる人材を、他大学や研究所と共同で輩出してはどうか。 (川原洋氏)

- ・大学間ネットワークにはアジアに関連する大学も連携させ、発展させてはどうか。

(川原洋氏)

- ・大学を中心に新しいビジネスを創造し、雇用の場をつくっていくなど大学都市とし

ての成長戦略を立て推進していくべき。(出口敦氏)

- ・今の若者の熱意を生かすのは、国・自治体だけでなく、大学、義務教育・高校教育にも関わる問題ではないか。(G. W. バークレー氏)
- ・行政が行う文化や生涯学習事業などは、大学やカルチャーセンター等に任せ、その大学等に補助をしたり、受講者にバウチャーで補助してはどうか。(関幸子氏)
- ・九大学研都市にも百道における財団法人九州先端科学技術研究所（I S I T）のような知の呼び水となる研究施設を設け、第4次産業の核にしてはどうか。(新海征治氏)
- ・九大のビジネススクールや外部コンサルを使って、フォーカス領域を研究してはどうか。(ロバート・ファン氏)
- ・九州大学、福岡大学、久留米大学、産業医科大学などを含めた医師との連携を図って医療観光をしてはどうか。(河部浩幸氏)

○産官学民連携での取組みについて

- ・人材が課題であるから、受け皿となる雇用と文化の面で大学、行政、産業界の連携を活用してはどうか。(垣内恵美子氏)
- ・大学や民間ともタッグを組んでダイナミックな動きをしてはどうか。(馬場貞仁氏)
- ・市民が大学のことを誇りに思い、頼りにできるような都市と大学の関係が大事。(有川節夫氏)
- ・大学での地震調査などの研究成果を都市計画に含め、新しい社会システムに反映させるのが行政の役割ではないか。(有川節夫氏)
- ・新エネルギー、ヘルスケア、ソーシャルサービスなど有望な産業分野を、行政と大学群が連携して進めてはどうか。(川原洋氏)
- ・大学や企業を回ってシーズを把握したり、長期的な観点からどのような分野の研究が進みそうか分析したり、技術面や輸出入面での対アジア優位性を検証して、20年単位のタイムスパンで、フォーカス分野を見極めてはどうか。(ロバート・ファン氏)
- ・都心のまちづくりをトータルでマネジメントする組織を企業、行政、大学、市民で組成してはどうか。(長尾亜夫氏)
- ・産学官連携で「学びの場」、「知の拠点」づくりを推進してはどうか。(中垣量文氏)
- ・外国を含む民間の力をもっと活用してはどうか。(森地茂氏)
- ・IT分野における産学連携では、教育・研究と企業活動を連携した長期的なインターンシップ制度を整えてはどうか。(川原洋氏)
- ・都市政策の一環としてコンテンツビジネスを育てるのであれば、明確なビジョンを持ち、本気の取組みを行うことで、街全体の盛り上がりにもつながっていくのだと思います。(日野晃博氏)
- ・安心安全なまちづくりは、行政や財界のリーダーが市民と一緒に取り組んでいかねばならない。(河部浩幸氏)
- ・定年退職した市民には大学に戻ってジェロントロジー（加齢学）やまちづくりを学

び、新たに地域のために働いたりできるように、大学も企業もユニバーサルデザイン（UD）に取り組んではどうか。（関根千佳氏）

- ・改革が出来る強いリーダーシップや専門的に研究する機関、そのベースになる市民の意識は欠かせない。産官学と市民が連携して努力を続けるべき。（河部浩幸氏）
- ・「何をすべきか」をしっかりと考え、それを考える市職員だけでなく民の力を借り、多くの人を巻き込む専門チームを立ち上げてはどうか。（古川洽次氏）

○九州全体といった、より広域的な視点について

- ・生産機能、観光拠点など福岡市単独では担えない機能は、広域の発想を政策体系に入れていってはどうか。（森地茂氏）
- ・福岡市の繁栄を九州全体の発展につなげる仕組みづくりを考えてはどうか。（吉元利夫氏）
- ・自治体ごとの企業誘致ではなく広域一体化で進めてはどうか。（細川昌彦氏）
- ・グローバル市場、東アジア、その中の九州の役割を考えてから福岡の位置づけを考えてはどうか。（細川昌彦氏）
- ・北九州市のスマートシティプロジェクトに面的な広がりを持たせてはどうか。福岡市の役割があるはず。（細川昌彦氏）
- ・九州の市町村の水道事業は水平統合して九州単位で広域化し、民営化してはどうか。（村藤功氏）
- ・北九州のようなモノづくりが強い地域のメーカーが技術革新を進めたり、福岡市のような大学や研究機関が多いまちが人材を供給したりする、それぞれの地域に特色ある取組みで九州一丸となって海外と競争してはどうか。（馬場貞仁氏）
- ・広域の観点から北九州空港、佐賀空港、熊本空港、長崎空港などをどう活用して広域都市圏および九州全体の成長につなげるか考えてはどうか。（山崎朗氏）
- ・福岡から北九州にかけての港湾で物流・流通機能を整備しつつ、鉄道もフェリーも活用しながら、近隣地域と一体となって対応し、その中でも全体をリードしてはどうか。（有川節夫氏）
- ・福岡市は北九州市に頑張ってもらい、都市圏全体として成長していく策を取るほうが、結局は福岡のためになるのではないかと。（家田仁氏）
- ・海外との競争で脅威にさらされる福岡は、九州7県プラス山口県ぐらいのエリアで都市圏にならないとダメではないかと。（家田仁氏）
- ・福岡市には工業を担う地域がないが、その役割は北九州市が担えば良い。福岡は覇権主義を唱えるのではなく、各地域のコーディネーターになればどうか。（家田仁氏）
- ・日本は中央官庁を中心とした集権的な規制が強い。オール九州を基本に地域の特色を打ち出し、活性化させては。（中垣量文氏）
- ・「アジアに向けた窓口」をキーワードに九州全体のバランスを取ることを考えるべき。（中垣量文氏）
- ・総合特区などと組み合わせて福岡が九州のリーダーシップを取るべき。（河部浩幸氏）
- ・一地域のことを考えるにあたって、国家の形をどのように変えていくべきかの考

えを持つ必要があるのです。

(長谷川裕一氏)

○高い意識を持った柔軟な行政運営について

- ・海外エリートの留学生や行政職員を招き、市長と互いに顔が見える人事交流をしてはどうか。(関幸子氏)
- ・変革には行政の仕組みや組織を変える必要もある。(武内和彦氏)
- ・行政は前例主義でなく、周囲が市長をサポートし、変革をどんどん進めるべき。(古川洽次氏)
- ・福岡市と北九州市の二つの政令指定都市は、それぞれの行政区域内で物事を考えていてはもったいない。(馬場貞仁氏)
- ・高齢化に対して行政は各局はこれまでと違った目を向けて、総合的な取り組みが必要ではないか。(小川全夫氏)
- ・福岡市がアジアの中心、情報のハブになるには情報通信技術（ＩＣＴ）を使いこなす必要がある。ＩＣＴとユニバーサルデザイン（ＵＤ）の推進における行政の役割は大きく、それらを当たり前のもものと認識すべき。(関根千佳氏)
- ・福岡の将来はこうあるべきだという「十年の計」を持って、行政には揺るぎなくリードしてほしい。(川原洋氏)
- ・行政は多様性や柔軟性のある施策展開をすべき。(松下美紀氏)
- ・市民には当事者意識を持たせ、福岡市も職員の教育に時間とお金をかけてはどうか。(関幸子氏)
- ・法律や制度が障害になる場合も諦めずに動かしてほしい。(関幸子氏)
- ・職員の研修や教育にはお金を惜しまず、国内外の現地視察や民間との交流を盛んにすることで、職員の知見を広め勉強すべき。(古川洽次氏)
- ・グローバルな視野を持って縦割りではない複合的に事業を進めてはどうか。(細川昌彦氏)
- ・日本人の発想の原点は極めてドメスティック。アジアのリーダー都市になりたいなら、海外都市と比較すべき。(武内和彦氏)
- ・福岡には危機感、ロマン、強力なリーダーシップが不足している。(麻生泰氏)
- ・市役所内で外国人がもっと働いている状況にしてはどうか。(麻生泰氏)
- ・ビジョンを作ることではなく、目標数値を設定し、計画の実現を“約束”する体制にしてほしい。(麻生泰氏)
- ・日本の極端な中央集権構造は是正が必要。(ロバート・ファン氏)
- ・日本の法的システムは国際化が必要。(ロバート・ファン氏)
- ・国に過度に依存せず自力で生き延びる発想を持ち、「ありたい未来」を作るべき。(鍋山徹氏)
- ・自ら「まちのためにやりたい！」と手を上げる人や取組みに支援をすべき。(松下美紀氏)
- ・ソフト事業には、トップの明確なリーダーシップと民意のコンセンサスを得て、ニーズを顕在化させていくことが重要ではないか。(垣内恵美子氏)

- ・国際競争に勝つには本気でビジネスできる人材が増えないといけない。行政は「営業の意識を持つ」という全体の意識改革が必要。（野田順康氏）
- ・行政は9割は堅く進めるとしても、1割はリスクを取って色々な利（利潤）を追求してはどうか。（古川洽次氏）
- ・まず行政と民間が理念を共有し、意識的なプロジェクトをどう起こしていくのが重要です。（有馬裕之氏）
- ・男女共同参画の指標を細かく決め、入札の点数を大幅加点してはどうか。（村山由香里氏）
- ・ホール施設なども行政が自前で持たず、文化・芸術のプロに任せてはどうか。（関幸子氏）
- ・図書館の玄関先で野菜等の食品を販売し、レシピ本の貸出や販売とリンクさせてはどうか。（関幸子氏）
- ・PDCAのPとCの段階で多様な市民を巻き込み、市民の声を収集しながら改善を進めなければならない。（関根千佳氏）
- ・福岡市と県が良い関係を作り、周辺の市町村も引っ張っていくべき。（有川節夫氏）

(2) 有識者別

(インタビュー日順、全52人、肩書きはインタビュー時点)

インタビュー日	有 識 者	メッセージ
2011.6.21	九州大学経済学研究院 教授 星野裕志氏	「内なる国際化」を進め、コスモポリタンシティを目指して欲しい
2011.6.22	(株)九州食品流通科学研究所 社長 小林修氏	分析人材のサプライチェーンが作り込まれた都市を目指して欲しい
2011.6.24	東京大学大学院 教授 西村幸夫氏	都心の軸を作りこむことで魅力を高め、アジアのモデル都市を目指して欲しい
2011.6.27	(株)富士通九州システムズ 事業推進本部 本部長 代理 吉元利夫氏	東南アジアともつながりを深め、九州の発展を牽引する都市になって欲しい
2011.6.28	(株)日本政策投資銀行 産業調査部 チーフエコノミスト 鍋山徹氏	日本本来の良さを復興させる先鞭となる、灯台のような都市になって欲しい
2011.7.5	みずほ証券株式会社 チーフマーケットエコノミスト 上野泰也氏	厳しい経済展望の中で、海外の力を活用して突破する都市になって欲しい
2011.7.5	中部大学中部高等学術研究所 教授 細川昌彦氏	アジア市場を見据えた広域一体化戦略のもとで、機能を発揮する都市になって欲しい
2011.7.5	九州大学ビジネススクール 教授 村藤功氏	アジア統括機能を集積させ、日本で一番成長する幸せな都市になって欲しい
2011.7.6	「FUKUOKA NOW」 CEO 兼 編集長 ニック・サーズ氏	生活や情報の質の向上にチャレンジし、インテリジェンスのある都市になって欲しい
2011.7.7	九州・アジアビジネス連携協議会 理事・事務局長 国吉澄夫氏	福岡に行けばアジアが分かる、そんな情報と人材が集まる拠点都市を目指して欲しい
2011.7.7	株式会社ジーエータップ 代表取締役社長 定村俊満氏	世界一暮らしやすいまち、優しいまち、幸せなまちになって欲しい

インタビュー日	有 識 者	メッセージ
2011.7.8	株式会社日本政策投資銀行 地域計画部 地域振興グループ参事役 藻谷浩介氏	急速に進む人口成熟に対処し、コンパクトシティな国際業務中枢都市を目指して欲しい
2011.7.11	政策研究大学院大学 特別教授 森地茂氏	みんなが地域のことを考える、地域力が結集された都市を目指して欲しい
2011.7.11	政策研究大学院大学 文化政策プログラムディレクター 教授 垣内恵美子氏	市民のサポートを引き出し、豊かな文化力ある都市を目指して欲しい
2011.7.12	株式会社クロスエイジ 代表取締役社長 藤野直人氏	福岡が好きで、特にこれといった不満はありません。ただ、本当の意味でアジアに開かれた都市になるといいですけど
2011.7.13	トヨタ自動車九州株式会社 専務取締役 馬場貞仁氏	アジアの中核都市として、九州全体を引っばるリーダー都市を目指して欲しい
2011.7.14	熊本学園大学社会福祉学部 教授 小川全夫氏	高齢者はもちろん、市民も交流人口も楽しく満足できるような都市を目指して欲しい
2011.7.15	大阪府立大学 21 世紀科学研究機構 教授 橋爪紳也氏	福岡独自の魅力を作って、世界中の人々があこがれる都市を目指して欲しい
2011.7.15	中央大学大学院経済学研究科 教授 山崎朗氏	先導的イノベーションと長期的リノベーションの下、若さと緑溢れる都市を目指して欲しい
2011.7.19	国連人間居住計画福岡本部 本部長 野田順康氏	本気で海外とビジネスする気風を醸成し、創造都市、集客都市を目指して欲しい
2011.7.19	福岡アメリカン・センター 館長 マイケル J. チャドウィック氏	アジア太平洋と日本の架け橋として機能する都市になって欲しい
2011.7.19	九州大学 総長 有川節夫氏	都市と大学が良い関係を築きつつ、ともに発展するようなまちになってほしい
2011.7.19	劇団「ギンギラ太陽's」 主宰 大塚ムネト氏	市民全員がまちを知り、まちを語るような都市を目指して欲しい

インタビュー日	有 識 者	メッセージ
2011.7.20	(株)ローカルファースト研究所 代表取締役 関幸子氏	新たな公の育成や行政内部の改革の下、地域戦略を推進する都市を目指して欲しい
2011.7.20	株式会社ユーディット 代表取締役 関根千佳氏	日本で一番ユニバーサルデザインが進んだ、アジアの中心都市になって欲しい
2011.7.21	東京大学大学院工学系研究科 教授 家田仁氏	地域の多様性を大切にし、都市圏の成長をコーディネートしていく都市を目指して欲しい
2011.7.21	東京大学サステイナビリティ学連携研究機構 副機構長 武内和彦氏	口先だけではなく、真正面からサステイナビリティとアジアに取り組む都市を目指して欲しい
2011.7.22	財団法人九州先端科学技術研究所 所長 新海征治氏	知的人材が集積することで、新たな産業が次々と生まれる都市を目指して欲しい
2011.7.22	社団法人九州経済連合会 会長 松尾新吾氏	九州全体の中心としてアジアに向い合う「共創都市」を目指して欲しい
2011.7.23	グラミン銀行創設者 九州大学名誉教授 ムハマド・ユヌス氏	予測不能な未来だからこそ、目指したい未来を描いて、誇りを持って進むべき
2011.7.26	全教研グループ インフィニットマインド株式会社 代表取締役社長 中垣量文氏	新たな価値観を共有して次世代へつなげる都市を目指して欲しい
2011.7.26	九州大学 理事 副学長 安浦寛人氏	生活空間の中で、未来社会に向けた社会実験の場を提供できる都市を目指して欲しい
2011.7.27	麻生ラファージュセメント株式会社 取締役社長 (CEO) 麻生泰氏	危機感の下、グローバルシチズンを育て、高齢者が参加する都市を目指して欲しい
2011.7.27	九州大学大学院芸術工学研究院 准教授 田上健一氏	住まいと働く場が融合調和し、個性を放つ魅力ある都市を目指して欲しい
2011.7.28	西南学院大学 学長 G.W.バークレー氏	多様な民族が一緒に暮らし、働き、意見を言い合える、魅力ある国際都市を目指して欲しい

インタビュー日	有 識 者	メッセージ
2011.7.28	サイバー大学 IT 総合学部長 教授 川原洋氏	大学間連携を軸に、付加価値の高い 新産業と新人材を育める都市を目指し て欲しい
2011.7.28	米シネックスグループ 創設者 ロバート・ファン氏	グローバリゼーションの変化に対応でき る、戦略が明確な都市を目指して欲し い
2011.7.29	上海市对外服务有限公司 日本部部长 畑伴子氏	個人レベルのアジア交流が盛んで、ビ ジネス感覚のある都市を目指して欲し い
2011.8.1	株式会社電通九州 クリエーティブディレクション局 アートディレクター 伊藤敬生氏	エンターテインメントという良さをもっと伸 ばして、日本のために頑張る都市を目 指して欲しい
2011.8.2	株式会社ネットワーク応用通信研究所 フェロー まつもとゆきひろ氏	人々が満足する生活とやりがいを提示 できる都市を目指して欲しい
2011.8.3	福岡商工会議所 会頭 河部浩幸氏	九州が一つになることをリードする、日 本第二の都市を目指して欲しい
2011.8.3	西日本鉄道株式会社 取締役会長 長尾重夫氏	定住、滞在、回遊人口が多い、存在感 のあるコンパクト・ハブシティを目指して 欲しい
2011.8.3	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授 出口敦氏	グリーンでコンパクトな街の魅力を磨 き、チャレンジし続ける都市を目指して ほしい
2011.8.4	タイ国政府貿易センター福岡 所長 ミーナー ラッタウィシット氏	各国の人々にとって住みやすい都市を 目指して欲しい
2011.8.4	株式会社岡野 代表取締役 岡野博一氏	伝統文化を再編集した福岡ブランドを アジアに発信できる都市を目指して欲 しい
2011.8.5	株式会社松下美紀照明設計事務所 代表取締役 松下美紀氏	市民も行政も美意識を高め、夜の景観 や海辺が綺麗な都市を目指して欲しい

インタビュー日	有 識 者	メッセージ
2011.8.9	福岡県男女共同参画センターあすばる 館長 村山由香里氏	「女性をひきつける都市ふくおか」から、「日本でいちばん女性が活躍する都市ふくおか」へ
2011.8.9	株式会社レベルファイブ 代表取締役社長／CEO 日野晃博氏	特徴のあるエリアを増やし、機能が分散された都市へ
2011.8.12	郵便局株式会社 代表取締役会長（CEO） 古川洽次氏	常に変革をする、アジアを向いた都市を目指して欲しい
2011.8.19	Hiroyuki Arima＋Urban Fourth 代表 建築家 有馬裕之氏	福岡のありのままの姿と未来への獨創性を、世界につなげていく都市を目指して欲しい
2011.8.26	株式会社はせがわ 代表取締役会長 長谷川裕一氏	九州と日本のために、アジアに向けた国際軸を作り込む都市を目指して欲しい
2011.9.6	外務省顧問 宮本雄二氏	市民参画で快適なまちづくりを進め、外資や規制を活用し発展する都市を目指して欲しい

2 フォーラム（アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクトリレーフォーラム）

将来像を検討するにあたり、切り口や、視点・論点になるのではないかと考えられるテーマを設定し、そのテーマに造詣が深い多彩なゲストを迎え、全11回のフォーラムを開催しました。

多彩なゲストに異なる立場から、課題と捉えている点やその解決の道筋、福岡市に抱く希望など、活発な意見交換を行って頂きました。

※全11回の開催概要は、第4部（138 ページ）をご参照下さい。

- まちを変える原動力や挑戦について
- 高齢者も子どもも活躍できるまちづくりについて
- ユニバーサルシティ福岡の実現について
- よりよい都心づくりについて
- 環境共生型の都市のあり方について
- クリエイティブなまちや人材について
- スポーツの幅広い活用について
- おもてなしのまちづくりについて
- アジア・世界の中で、という視点について
- 多様な働き方や様々な挑戦の実現について

○まちを変える原動力や挑戦について

- ・まちづくりの話し合いにたくさんの世代の人が入ってきて、思いを共有することが一番大事。
- ・企業誘致のネックの検証とともに、熊本や北九州も含めた広い視野で考えることも必要。
- ・今の福岡は個の力はあるのに都市の顔が見えない。これまでの価値を変えるような活動が街の活力を生む。動くんなら動けよ、という感じ。
- ・今はぬるさが街にある。ぬるさを熱さに変えて外に飛び出すように仕向けないと、単なるいい街になる。
- ・自分たちで未来を考えるのが先進国。「どうなるか」ではなく「どうするか」が大切。
- ・摩擦を恐れずに挑戦する「出る杭力」がある個人・企業を大切にすることが必要だ。
- ・海外の雑誌が高評価している福岡の住みやすさをもっと追求していくこともいい。
- ・福岡市は2000年から10年にかけて、5年ごとに6万人ずつ伸びている。単純にトレンド集計すると20年には158万人になる。25年後の人口は160万人とみて都市設計する必要があると考える。

○高齢者も子どもも活躍できるまちづくりについて

- ・家族以上に地域が頼りになる時代となるのではないか。働いているときから地域との関わりを持てるようにすることが必要。

- ・行政ができるのはミニマムサービス。行政に代わって市民の健康づくりを担うのは、心ある人たちの動きと地域、NPO。
- ・高齢化、人口減少に直面した福岡がそうした課題を正面に見据え、高齢者の力を上手に引き出すさまざまな取組みを進めている、と情報発信されれば、アジアから先駆的な都市・福岡市をどんどん訪れるのではないか。
- ・高齢者の職務再設計が必要。若い人たちだけでなく、高齢者も働きやすい職場づくり。多様な働き方のできる環境を整え、力を引き出す工夫をすることが求められている。
- ・高齢者問題への対策を組み入れた都市モデルをつくりあげることができれば、アジアの都市にとっては参考にしやすくなる。
- ・日本は歳相応の行動を求める発想が強すぎる。高齢者をお客様扱いしすぎる社会の仕組みが問題。高齢者の持っている力を引き出し、活躍できる社会へ変えていかなくては。
- ・シニア世代は、非常に強い責任感、忍耐力を含め能力が高く、企業内の流れをプラスに変える。
- ・子どもは体験不足。家庭と地域の教育力を高める、具体的には、家の近所で親や同級生以外と交流する場がたくさんあり、地域であいさつをして、みんなで子どもを育てるといような場をつくる必要がある。
- ・子ども達が自分で考えて行動することや体験したことから学ぶことが大事。体験する機会が減ってきていると思うので、今後伸ばしてほしい。

○ユニバーサルシティ福岡の実現について

- ・みんなが一緒に考えて問題意識を共有し、それを解決するためのきっかけをたくさん作れる社会に。
- ・一人一人が「振れ幅」を広げる体験を積む工夫が必要。多様なことを“自分事”にしたときにユニバーサルシティが実現すると思う。
- ・幸せを感じるもとは選択の自由や連帯意識。皆が気楽に生活できるまちになって欲しい。
- ・障がい者への対応に多くの人が高い意識を持つようになればもっと住みやすいまちになる。ユニバーサルデザインには、「住民の心のデザイン」も含まれる。
- ・男性になりきらないと職場でやっていけない女性。日本人になりきらないと日本で暮らしにくい外国人。大人に気を使いすぎる子ども。無理して向かい側に行かなくても、「自分は自分のままでいいのだ」と思える。これが、本当に優しい社会。
- ・一部の人に任せておくのではなく、みんなで解決しなければならないということを学び合い、情報交換し合うような場所が必要なのではないか。
- ・多様な立ち位置、性格、キャラクターの人が一緒に相手のことを思い、みんなが楽に生活できるまち。みんながありのままに知り合い、気軽に付き合い、肩の力を抜いてサポートできるまち。25年後の福岡はそうなって欲しい。

○よりよい都心づくりについて

- ・街のデザインとは、味覚を含む五感で街全体が楽しめる環境をデザインすることであり、そのためにも美味しさやデザインされた美しさを楽しむ店が建ち並ぶストリート魅力を創り出していくべき。
- ・都市空間のデザインに関しては、鍼治療のような考え方で都市開発を誘導し、交通

システムの整備と一体化して進めていくべき。

- ・ 港と都心をつなぐ「風の道」が必要。
- ・ 計画して新しく造るだけでなく、歴史的建造物を長く大事にし、生命を感じられるような場をつくることも必要。
- ・ 単に博多駅—キャナル—天神という導線ができるだけでは、都心全体の盛り上がりにつながらない。周辺地域を取り込んだ開発が必要。
- ・ 福岡の都心部内に、路線バスを軌道系交通並みの幹線輸送システムとするBRTを導入して、埠頭などを結んではどうでしょうか。BRTができれば都心部から埠頭へ人がすいすい行けるので、これまで以上に面白いエンターテインメントをやってもいいのでは。

○環境共生型の都市のあり方について

- ・ 多様な自然環境の財産を活かして、いつでも環境教育が行える都市を目指してはどうか。
- ・ 環境学習をしようと持ちかけるのではなく、農地を借りて野菜を育てると持ち帰れるというように、人の欲求を刺激する仕掛けとし、結果として地球のためになることが重要。
- ・ 山の栄養分を含んだ水が生活用水として使われる。その排水を生きた水に再生して、博多湾に流れ込むようにする。そうやって人間による里海づくりを行っていくことが必要。
- ・ 人間の排せつ物や食べ物ゴミなどをエネルギーをかけて処理するのは無駄。有機性廃棄物の循環システムをつくり、有機物のリサイクルを行うといい。
- ・ 大規模な開発を行う場合に、同等以上の自然を近くに再生させることを義務付ける「環境オフセット制度」を福岡市が日本で初めて創設してはどうか。
- ・ 畑を耕す、海で魚を捕まえるといったことが気軽にできる都市になれば、豊かなまちになる。
- ・ 二酸化炭素排出量削減については、二重窓の設置により冷暖房によるエネルギー消費量を削減できる。家庭やオフィスなどにおいて、福岡市でやれることはある。

○クリエイティブなまちや人材について

- ・ まちにつくる場がない。作品だけでなくつくる場が見えることで、人が集う。
- ・ 作品を楽しむ市民の感性や感覚といった心を育てる場がない。心が育つ仕掛けが必要。
- ・ 創作の現場では多くの才能が福岡から生まれている。クリエイターは育ちやすい環境だが、人材が流出している。表現を行う場が福岡には少ない。
- ・ 農業などクリエイティブでない既存の産業を、面白くするために価値を変換するという、クリエイティブなことをやっているまちもある。クリエイティブは個々のテクニカルな話ではなく、今生きていることの価値を変換するようなことだと思う。
- ・ 福岡は、地元のクリエイティブに対してリアクションが薄い。一方で、外で評価されたものは、ものすごく受け入れられる。田舎だから、判断基準がない。
- ・ 福岡は東京に比べると制作予算が非常に少ないです。その分、アイデアで勝負するしかないからクリエイティブなジャンプができる素地があるのではないかな。
- ・ 居住性、利便性が高い都市には「クリエイティブクラス」と呼ばれる知識層が集まるとされており、福岡市は「創造都市」としても伸びていけるだろう。

○スポーツの幅広い活用について

- ・アジアを市場としてみるのではなく、アジアの諸課題を解決していくというソーシャルビジネスの視点が必要。例えば、今、上海の親は、子供に協調性や人と仲良くやれる力を身につけさせたいと考えており、我々はスポーツでその課題解決に取り組んでいる。
- ・サッカーで知られたマンチェスターのように、ホークスを一緒に盛り上げて、福岡の名前を世界に広げたい。
- ・(一つのスポーツを一年中続けるのではなく) スポーツへの取組みをシーズン制にして、いろんなスポーツに携わる環境を作れたら、より素晴らしいまちになると思う。
- ・スポーツツーリズムの推進。ホノルルマラソン、東京マラソンのような魅力的なスポーツイベントを持つことによってまちの存在感が高まりまちが潤う。
- ・欧米は、まちがスポーツを育てるという文化がある。まちがスポーツを公共の財産として扱ってくれている。みんなでスポーツチームを育てて欲しい。
- ・失われた外遊びの代用としてのスポーツが、自ら考えて自立する子供たちを育てる。
- ・福岡市に高校野球決勝が開ける球場を。
- ・体罰やしごきでなく正しい指導法を持つ指導者が、明るく楽しくスポーツに取り組ませ、子どもたちの健全な成長につなげることが一番大切ではないか。
- ・子ども達が、いつでもどこでも気軽にスポーツに関われる環境の整備が急務。

○おもてなしのまちづくりについて

- ・お得感、特別感、オリジナリティーがあると、よそから来た人はいいい。また、当日や前日に予約が出来る仕組みなど、お客様の利便性に応えることが必要。
- ・そこにいけば博多のものが全部揃うような、名所となる「門前町」をつくりたい。
- ・九州という島の玄関口である福岡市が、島全体の情報発信をできていないのは残念。
- ・福岡に来てくださいと言うだけでなく、海外に飛び出して、現地の人と交流することが福岡の観光にとっては実は大事。
- ・福岡市に住む一人ひとりの動きが大事。いらっしゃいとお客様をお迎えする、おもてなしのまち・福岡を育んでいきたい。
- ・福岡市民がどれだけまちを面白がっているかが大事。観光客のためというより、地域住民が主役になることが、ほかの地域の人の旅心をくすぐる。
- ・マナーの悪さや犯罪の多さが指摘されているが、それはまちへの無関心が生んだ結果だと思う。人と人がどんどんつながる場を提供することで、人の目が届き悪いことができない“ムラ”社会のような文化をつくっていきたい。
- ・自転車のマナーなどの問題点があがっていましたが、意識が変わっていけば良いと思う。

○アジア・世界の中で、という視点について

- ・22年前から続けている「アジア太平洋子ども会議」の卒業生が、国や地域で社会的に重要なポストに就いていく。福岡の子どもたちが対等に付き合えるよう、しっかりした教育をしておかなくてはならない。
- ・福岡市は国際コンベンションシティとしてアクセス、コスト、周辺の自然環境の面から競争力がずばぬけて高い。国際会議誘致の営業能力を鍛えれば実績は確実に伸びる。
- ・福岡が記憶に残るためにも、多くの人が多言語を話せる街づくりが進めば、アジアの競争の中で、小粒でもキラリと光る街になると思う。

- ・グローバルな時代、様々な国と共存しコミュニケーションをとっていかなければならない。討論をし、自分の考えを他人にきちんと伝える能力を学校で育む必要がある。
- ・語学力の高いまちとなるために、留学生の力を是非借りたい。英語だけで話すような授業や韓国にある英語村みたいなものが福岡にあっても良いと思う。
- ・日本人は積極的にしゃべらないが、人の話をよく聞いて、まとめることはしっかり出来る。まとめることも大事な役割であり、日本の美德を活かせる。そういう意味で福岡は「アジアの交差点」みたいな形で果たせる役割があると思う。
- ・福岡市は東京や大阪の都市に比べて外国人留学生の受け皿が少ない。
- ・福岡は中国に最も近い都市。中国とアジアの交流の拠点になって欲しい。
- ・自然環境の良さが保たれ、アジアと結びつくビジネスチャンスが豊富であれば、将来、転勤や転職で福岡を選びたいと思う人が増えるのではないかな。
- ・求心力のある福岡市がアジアを取り込み強くなるのはいいが、国土の狭い日本だから、周辺地域をうまく使って成長する知恵が必要ではないかな。
- ・「アジア太平洋子ども会議・イン福岡」は大事な財産。イベント参加者へのフォローアップ、交流を継続することが、福岡市の多様化につながるのではないかな。

○多様な働き方や様々な挑戦の実現について

- ・セーフティーネットも単に金銭的な支援だけでなく、職業訓練みたいな人と人とのコミュニケーションが大切。その一方で、チャレンジの芽をつぶさないような仕組みをどんどん作っていかないと、福岡がアジアの中でイニシアチブをとっていくのは難しい。
- ・まずは若い人材を東京や大阪に輩出し、いずれ戻ってくればいいというキャンペーンをやり、そういう生き方があることを示すのも、一つの方法。
- ・今は日曜日も夜も仕事がある時代。多様な支援をして、女性が生涯働ける社会、かつ女性が子どもを産める社会にしていくこと。それが、経済にも何にでも大きな影響があるということを、自治体だけでなく企業や私たち個人も認識してやっていく必要がある。
- ・若者が集まってくるのは、何かできるかもというワクワク感があるから。若者が福岡でチャンスをつかみ、アジアに出て行ける仕掛けなど、行政が踏み込んで支援してもいい。
- ・女性が子どもを産んでも仕事を続けていける街にするために、企業側も配慮する姿勢が必要である。社会的に女性の能力を生かしていかななくては。
- ・福岡市を活性化するためには、女性の能力をいかに活用するかが鍵。今はITが発達しているので、会社を作らなくても個人事業主のネットワークで仕事ができる。そういう面を行政機関が支援するのもいいのではないかな。
- ・音楽をはじめいろいろな分野で芽が出た人に、東京に行かなくても福岡でさらに活躍できるステージを提供できる受け皿をつくり、新陳代謝のいいまちにできればいい。

3 市民アンケート

市民の皆さま4,500人及び各区自治協議会会長の皆さまなどを対象としてアンケートを実施しました。

【概要】現在の福岡市の都市環境等における満足度トップ3

1)「満足している」、もしくは「どちらかといえば満足」と回答された項目トップ3

	市民4,500人を対象としたアンケート	各区自治協議会会長等へのアンケート	外国人留学生と日本人ボランティアスタッフ	フォーラム参加者
1	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	買い物の便利さ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ
2	買い物の便利さ	自然環境の豊かさ	新鮮でおいしい食べ物の豊富さ	買い物の便利さ
3	自然環境の豊かさ	自然災害の少なさ	交通の便	自然環境の豊かさ

2)「不満がある」、もしくは「どちらかといえば不満」と回答された項目トップ3

	市民4,500人を対象としたアンケート	各区自治協議会会長等へのアンケート	外国人留学生と日本人ボランティアスタッフ	フォーラム参加者
1	市民のマナー	市民のマナー	就業機会	犯罪数
2	犯罪数	犯罪数	市民のマナー	市民のマナー
3	就業機会	就業機会	犯罪数	就業機会

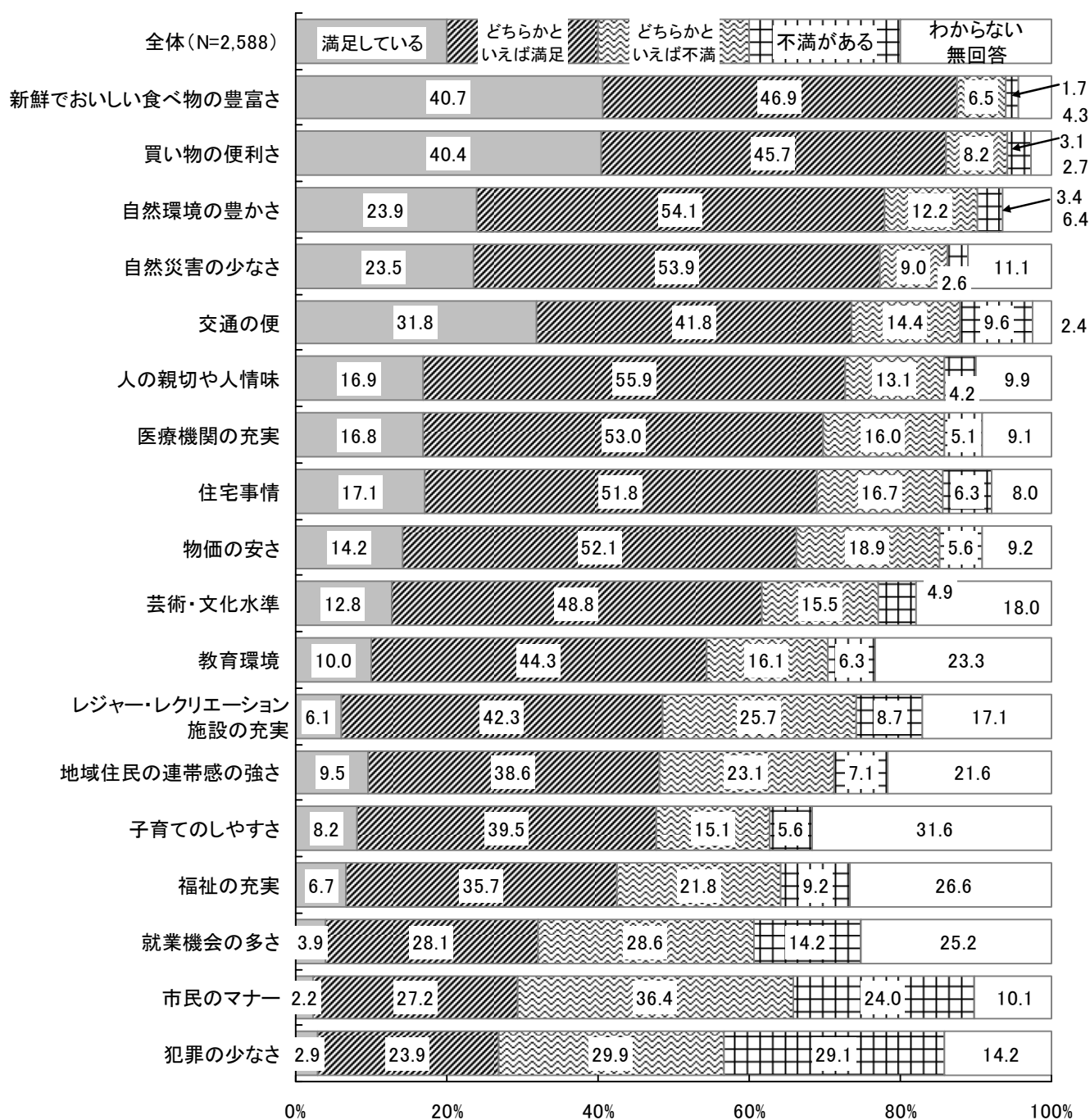
3) 福岡市を将来どのような点で魅力ある都市にしたいかトップ3

	市民4,500人を対象としたアンケート	各区自治協議会会長等へのアンケート	外国人留学生と日本人ボランティアスタッフ	フォーラム参加者
1	事故や犯罪の少なさ	生活のしやすさ	生活のしやすさ	生活のしやすさ
2	十分に整備された生活環境*	事故や犯罪の少なさ	海や山などの自然に恵まれアクセスがよいこと	活力ある経済活動
3	活力ある経済活動	海や山などの自然に恵まれアクセスがよいこと	多彩・多様な国際交流	多彩・多様な国際交流

* 市民4,500人を対象としたアンケートについては、“生活のしやすさ”を、“十分に整備された生活環境”としました。

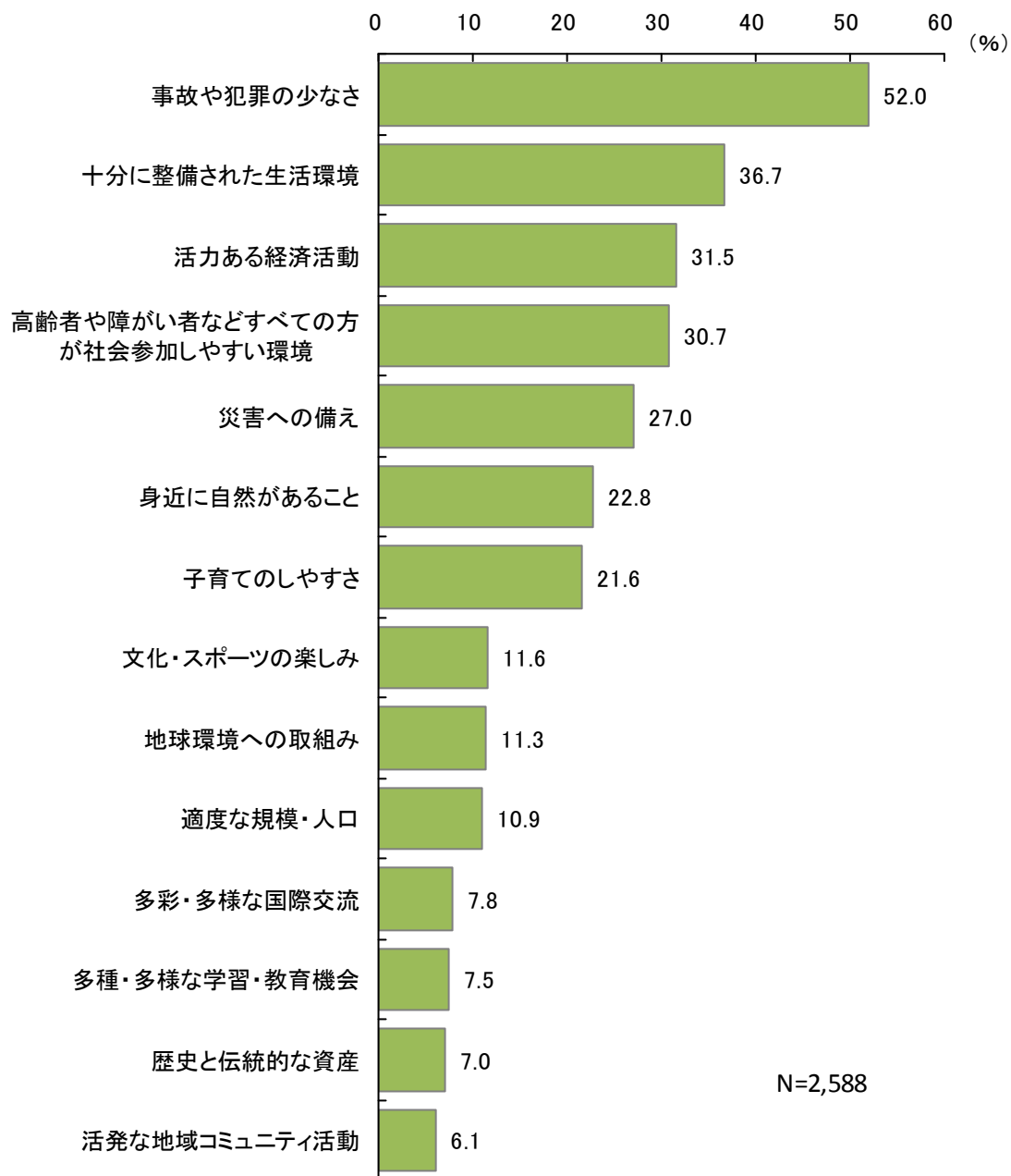
(1) 市民の皆さま4,500人対象(回答数2,588人)

○現在の福岡市の都市環境等についての満足度



※「満足している」と「どちらかといえば満足」を足した計が高い順に並べています。
 ※四捨五入しているため、横の計は100%とならない項目があります。

○福岡市を将来どのような点で魅力ある都市にしたいか（3つ回答）



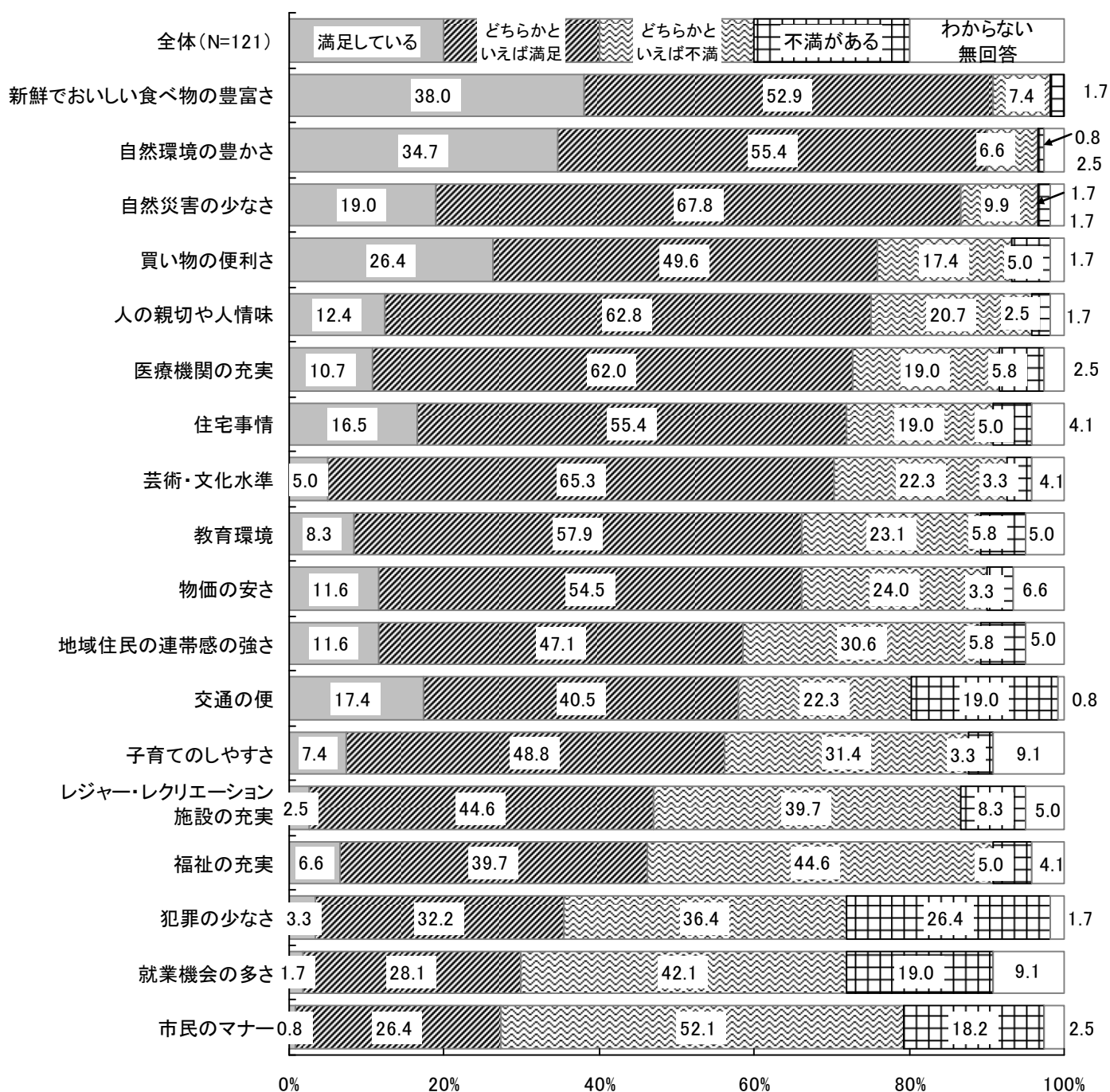
（参考）

昭和 60 年の調査時において
要望度が高かった項目

- ・ 自然に恵まれ緑豊か
- ・ 生活のしやすさ
- ・ 事故や犯罪、災害のないまち

(2) 各区自治協議会会長の皆さま（回答数121人）

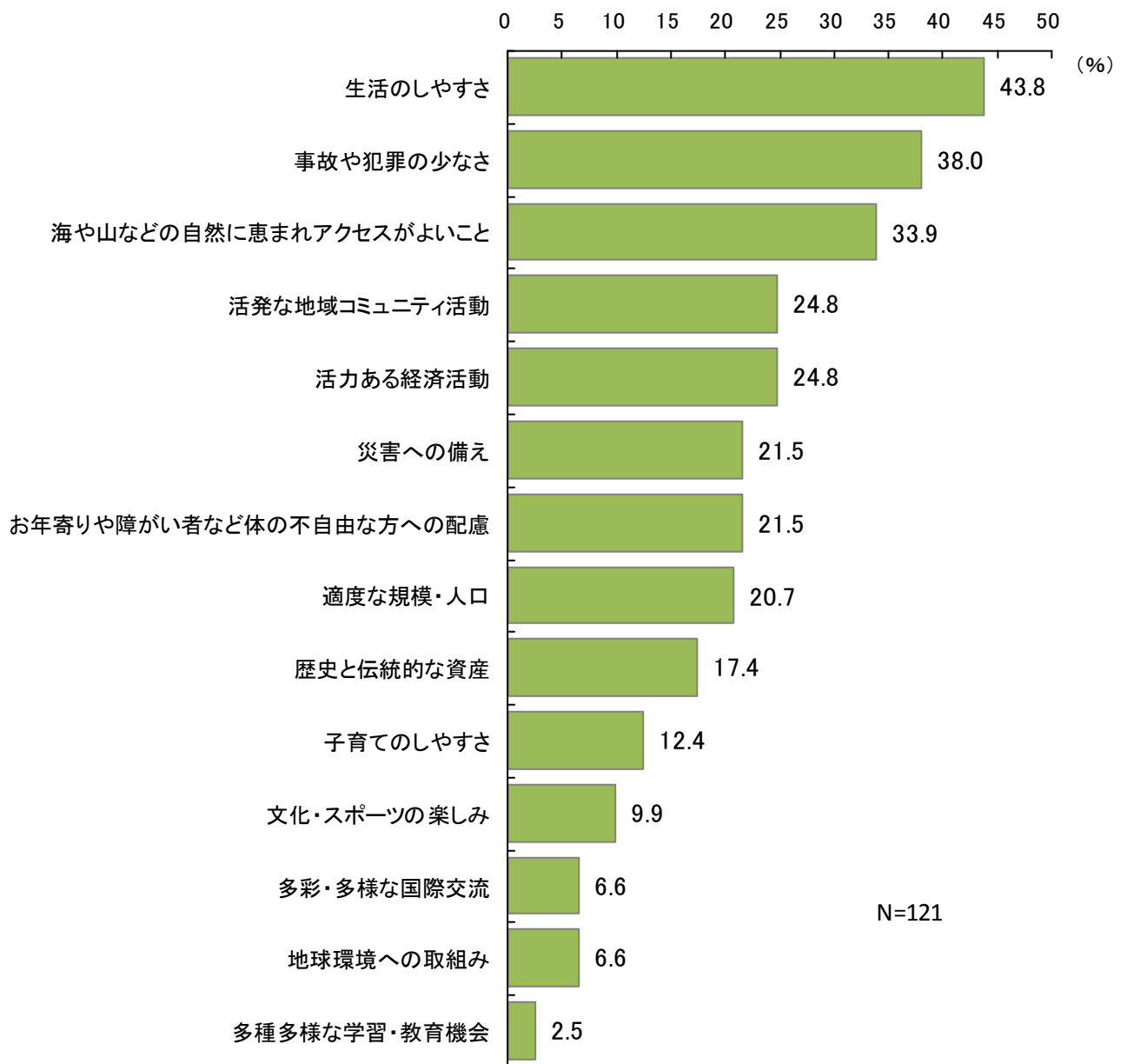
○現在の福岡市の都市環境等についての満足度



※「満足している」と「どちらかといえば満足」を足した計が高い順に並べています。

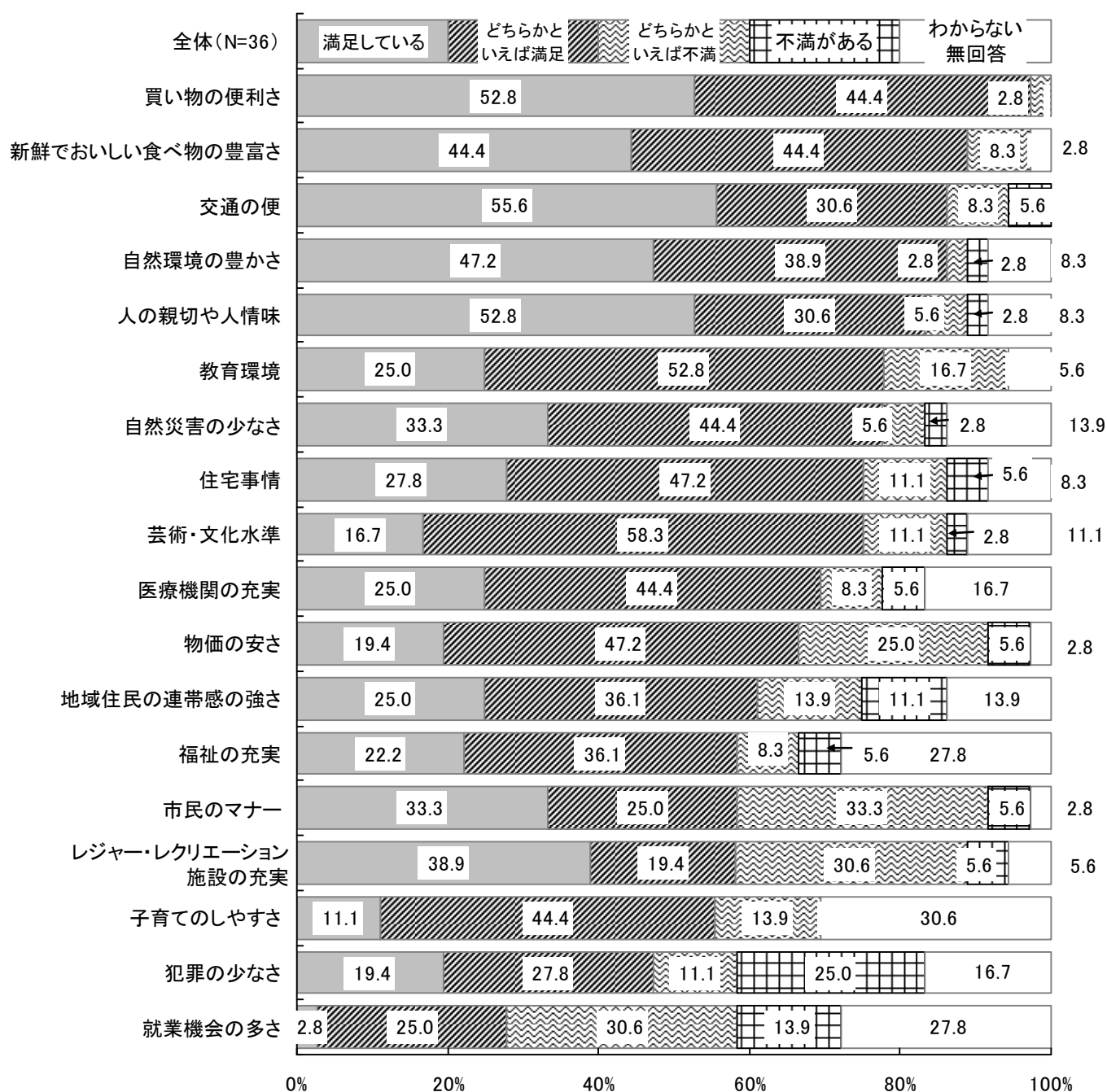
※四捨五入しているため、横の計は100%にならない項目があります。

○福岡市を将来どのような点で魅力ある都市にしたいか（3つ回答）



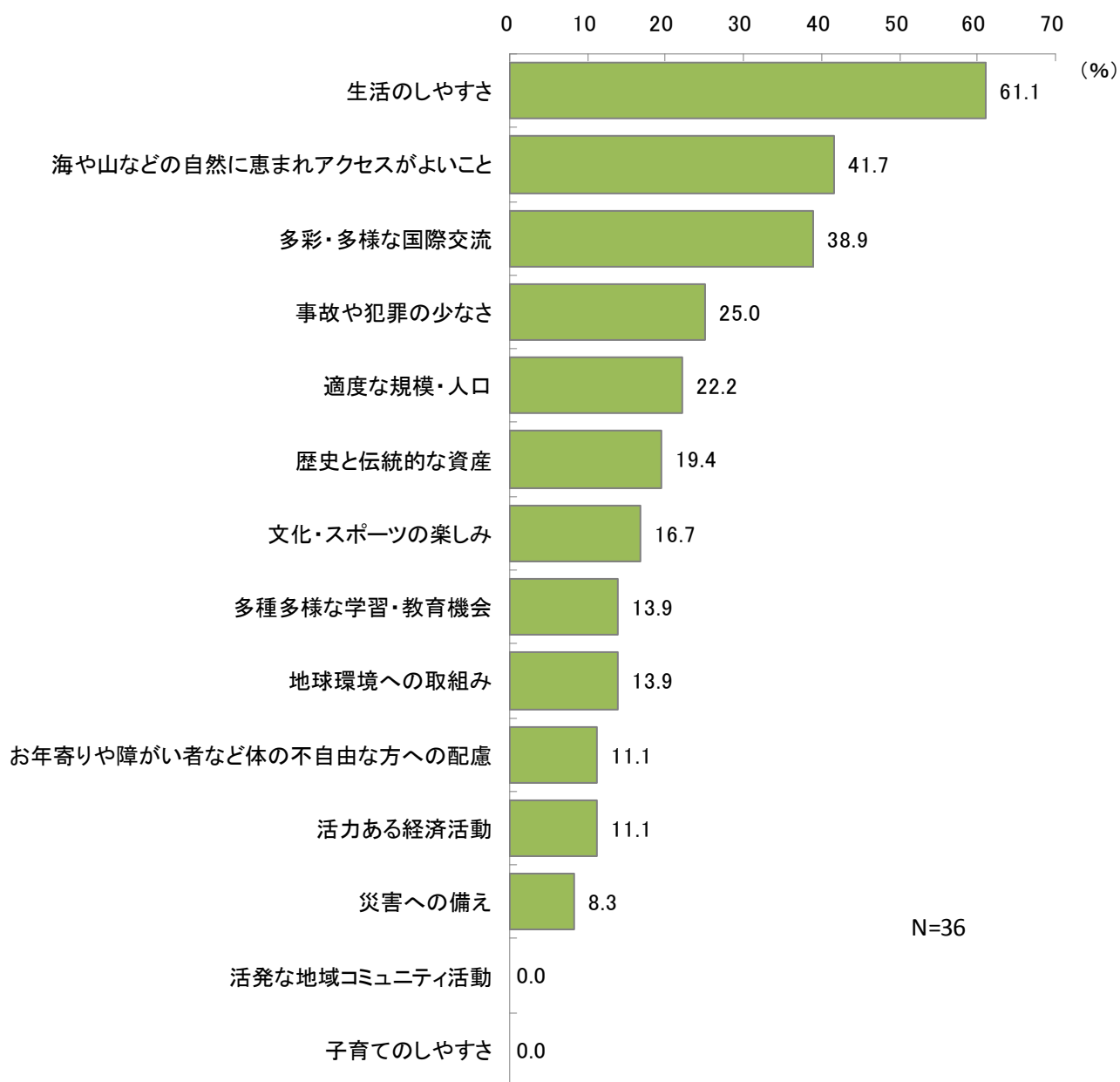
(3) 外国人留学生と日本人ボランティアスタッフ（回答数36人）

○現在の福岡市の都市環境等についての満足度



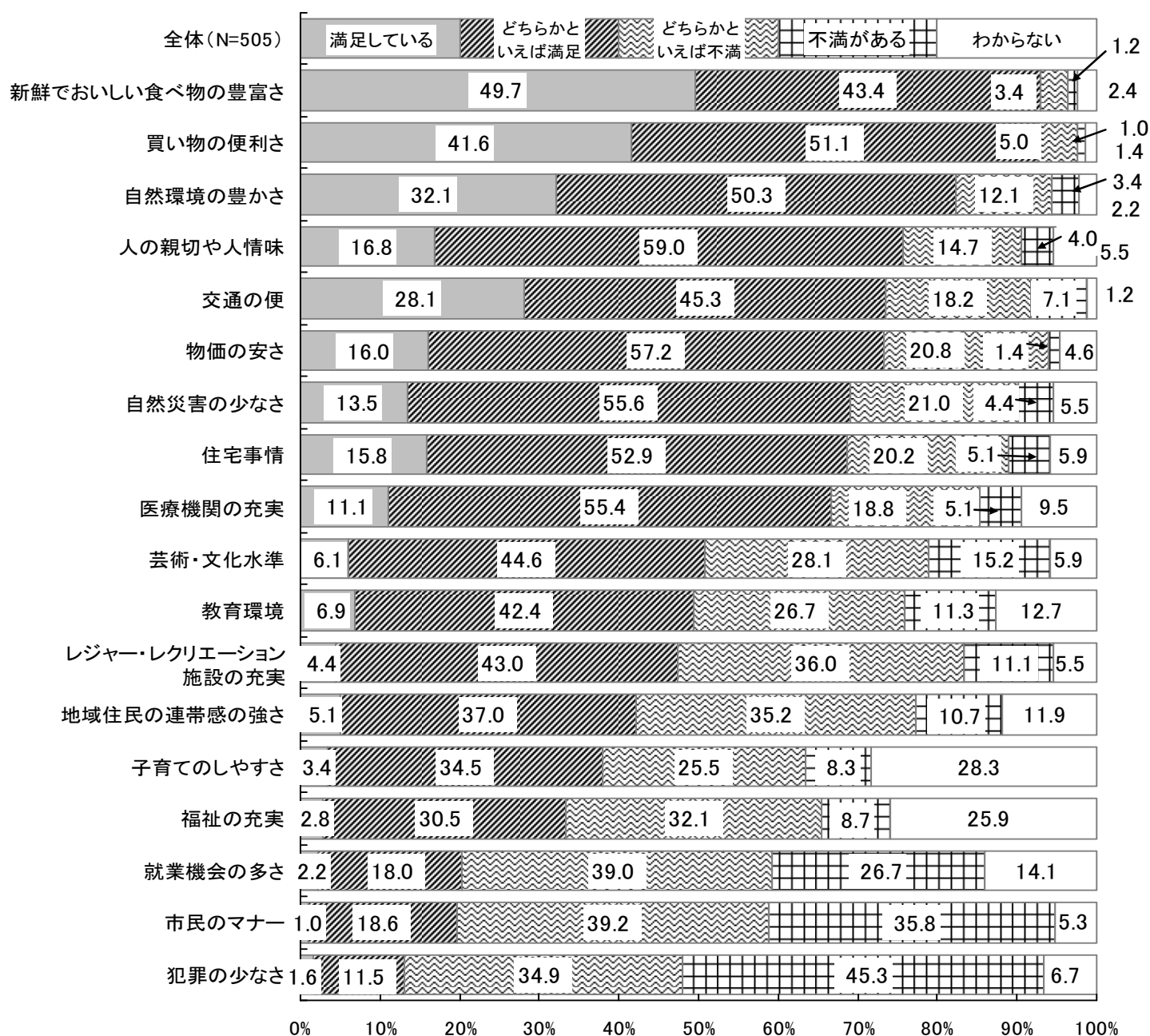
※「満足している」と「どちらかといえば満足」を足した計が高い順に並べています。
 ※四捨五入しているため、横の計は100%とならない項目があります。

○福岡市を将来どのような点で魅力ある都市にしたいか（3つ回答）



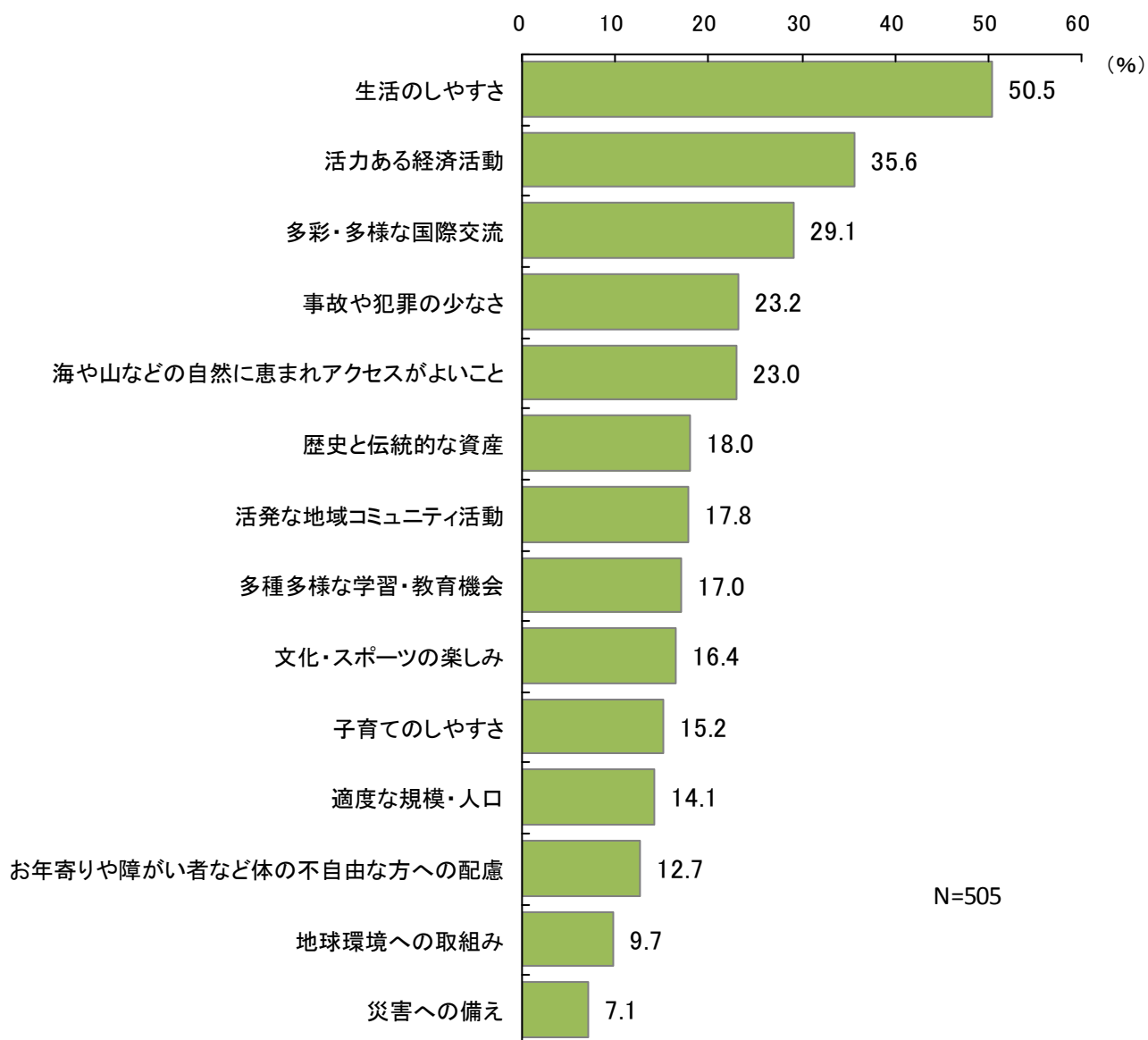
(4) フォーラム参加者（回答数505人）

○現在の福岡市の都市環境等についての満足度



※「満足している」と「どちらかといえば満足」を足した計が高い順に並べています。
 ※四捨五入しているため、横の計は100%とならない項目があります。

○福岡市を将来どのような点で魅力ある都市にしたいか（3つ回答）



4 論文

「私の提言『25年後のふくおか〜人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市を目指して』というテーマで、これから先の福岡市はどうあるべきか、何をすべきかなどについて、論文の募集を行いました。

(1) 優秀賞論文

「25年後も、夢が実現できる福岡であるために」(橋詰信吾氏)

○今後力を入れていくべき4つの施策の柱

1. 「海・陸・空でつながる交流のまち」
 - ・博多港に貨物線を再び引き込み、直接国内のコンテナ貨物を貨物線で集約・分散させるターミナル機能を構築する。
 - ・博多港と函館港が同様の機能をもつ姉妹都市となり、貨物列車を行きかわせることで、全国のコンテナ貨物を効率的に集配する物流システムを構築する。
 - ・アイランドシティの国際コンテナターミナルに貨物線を引き込むことで、博多港に寄航した基幹航路や上海スーパーエクスプレス（上海から約1日で博多港に到着する高速コンテナRORO船）からのコンテナを直接貨車に載せ日本全国に配送し、また全国からの鉄路経由でのコンテナ貨物を受領できる環境を作る。
2. 「才能を磨き育てるまち」
 - ・福岡の進取性やアジア文化への親和性などを生かし、多様な価値観やライフスタイルを許容する文化を醸成する文化施策と、利便性の高い都心に立地する古いビルの所有者の行動を変化させ、リノベーションしてそこそこの使い勝手を実現した低廉な活動の場が市場に提供されるよう誘導を図る。
 - ・海・陸・空というさまざまな環境で、船、飛行機、新幹線、電車、様々な自動車など、たくさんの交通具が行きかう交流のまちであるという特性を生かし、現在の少年科学文化会館を発展させ、「海と交流と環境」をテーマとした科学館として再出発させる。
3. 「家族の幸せを実現するまち」
 - ・公園利用の改善、具体的には、住宅地の身近な公園の建設や管理に地元の人材・財力の協力を導入することや、福岡市の誇るべき資産である1小学校区に1つずつ設置された公民館をこれまで以上に子育て拠点として活用するため、魅力付けとしての図書館機能の向上などに取り組む。
 - ・高齢者の外出の動機付けのひとつとして、住宅街に残された未利用農地を市民農園（家庭菜園）として活用する。
4. 「自然エネルギーを活用するまち」
 - ・技術として成熟し、普及することで価格の低減が期待できる太陽光発電や風力発電などにも当然取り組むが、新たな都市の未利用エネルギーの活用として、都心部で排出される生ごみをバイオマス資源として活用し、都市として不可欠の電気・熱エネルギーとして還流させる。

「スマート×エコな自転車都市 FUKUOKA」(古舘美紀氏)

○交通事故多発都市からの脱却にむけた3つの提案

1. クルマから自転車への大胆なシフト
 - ・自転車の販売台数は毎年1000万台前後を維持している一方、乗用車の販売台数は減少の傾向にあることから、クルマ社会からの転換はもう既に始まっている。特に若者世代ではクルマ離れが進み、以前のような強い関心や所有の必要性が薄れてきている。自転車の場合は、従来と異なり大人用の自転車消費が増え、販売される自転車の種類も変化している。
2. 法律順守の徹底
 - ・まずは自転車が車両であり車道を走行すべきであること、かつ左側通行が徹底されることが最優先で急がれる。これだけでも自転車に関わる事故が減り、負傷の重篤度が激減する。
 - ・クルマ利用者と自転車利用者の双方が法律を順守し、海外などからの訪問者を驚かせることのない、当たり前の安全な都市になることを目指したい。
3. 自転車インフラの整備
 - ・自転車レーンが整備されれば自転車のスピードは上がり、場合によってはクルマより目的地に早く着くことが分かってくる。「毎日の移動には自転車が便利で早い」、「自転車に乗ることはスマートな選択」というコンセンサスがあれば、通勤や通学での利用者が自然に増えていくだろう。
 - ・通勤手段としての自転車利用を推し進めるためには、企業などが協力し、従業員用の駐輪場を拡充整備することが求められるだろう。企業が自転車通勤者に対してのインセンティブとして「自転車通勤手当」を支給すれば、社員の通勤手当代や有酸素運動効果による病気のリスクも軽減されてコスト削減が可能になりうる。
 - ・さらに進んで、公共交通機関と自転車での移動を組み合わせ（コンビネーション交通）、車両内に自転車を乗せたのち、駅に着いたら目的地まで自転車で移動するという仕組みも注目に値する。

○スマートでエコな自転車先進都市へのイメージチェンジ

- ・他の都市でまだなされていないこと、例えばアジアの自転車製造業との協働や、リサイクル自転車市場の集積地化など、地の利を生かしたプラスアルファを加えることで、福岡独自の都市デザインを描くことができる。
- ・交通は人の流れを変え、考え方や行動をも変えていく。九州新幹線が全線開通してからは鹿児島への観光客が急増しており、九州一の都市という福岡の優位性にも変化が訪れるかもしれない。全国でも人口の流出入が最も活発なこの街で、移住者たちは福岡という地域を冷静に評価している。
- ・他の都市と比較して暮らしやすいか、安全が守られているか、自治体は長期的戦略を持っているか、など移住してきた人々から多様な考え方を聞き、彼らから学んでいく必要がある。
- ・なぜなら彼ら一人一人が福岡市民であり、今後は違う場所に移り住んだとしても、福岡のことを良くも悪くも広範囲にPRしてくれる重要な存在だ

からである。福岡の強みは、実はこういった身近な隣人にあるのではないだろうか。

(2) 佳作論文

「25年後のふくおかを支える人材育成への提言」(中尾雅幸氏)

- ・25年後の福岡が真のアジアのリーダー都市になるためには、人材育成が欠かせません。
- ・学校教育面で教育の根幹に関わる学制の見直しを行うとともに高校改革、新たな大学づくりを提言しています。自分に自信を持つ子どもの割合を増大させ、コミュニケーション力に秀でた人材を育て、職業に直結するキャリア教育を推進します。
- ・また、学校卒業後も福岡の地域特性を活かし、地域と密接に関わりながら支援体制を整備するとともにコミュニティビジネスを育てることを提言しています。
- ・「人材育成」は、アジアの理想的な未来に向け、役割を分担しながら、街を創り上げていくことが望ましいと考えます。福岡は、人をテーマとして、存在感を増していくのが望ましく、25年後「どのような時代になろうと」「どのような分野が注目されよう」と人が育つ街は魅力にあふれ、活力を持ち続け、アジアのリーダーにふさわしい都市になります。

「福岡市に『九州マルシェ』を創ろう！」(針貝礼子氏)

- ・京都市の人口を追い抜いて発展を続ける福岡市。反面、九州の大半を占め、高齢化と人口減少に悩む過疎地。繁栄を謳歌する福岡市とは言え、エネルギー資源の制約、迫る食糧不足、地球環境からくる制約など、時代の制約を受けざるを得ない。また、陰の部分を放置して真の繁栄はもたらされない。それらの解決に向けて、福岡市はリーダーシップを発揮しなければならない。
- ・そこで、アジア近隣諸国への玄関都市として、九州最大都市福岡市にマルシェを創ることを提言する。たとえば、様々な可能性を有する第1次産業であるが、それを引き出すための場を提供する。生産者は生きるためにいかにすれば売れるかを必死で考える。そこで、新たな加工品と販売についてのノウハウが生まれる。同様に、九州各地の工芸品なども常時展示させることで消費者に身近な存在となって生産と消費が活発になる。
- ・また、新規技術開発等の情報発信役も担う。こうしてマルシェにおいて、消費者と生産者が密接交流・刺激しあう、楽しさと真の豊かさを九州やアジアの人びとにもたらそう。

「『子育てしたいまち』福岡へ」(宮原章氏)

- ・25年後のふくおかについて考えると、少子高齢化という課題があり、そ

の克服のため、子育てしたいまちを実現する。実現のためには、長期的な視点からの継続政策が必要である。また、子育ては経済、教育、環境、文化等、生活全般に関わる。まちの将来は子ども達が担うのであり、上記ビジョンを実現し、山笠に大勢の子どもが参加するような、福岡市を全世代で活気づくまちにしたい。

- ・そのビジョン実現のため「合計特殊出生率日本一」を目標とし、下記施策を実施する。
 - ①幼児保育の充実、子育てモデルの提示
 - ②虐待防止のため妊娠期からケア
 - ③各校長による学校独自の学力向上策実施
 - ④学校給食の無料化、食育の充実
 - ⑤第2子・第3子の進学へ援助
 - ⑥治安の向上、漫画・絵本等の文化の充実、誰にもやさしいユニバーサルシティの構築
 - ⑦キッズポイントによる協力企業等の支援
- ・以上施策実施の財源は、地方自治体による法定外目的税「子ども税」を市全体での議論を行った上で導入し、社会全体で子育てについて取り組む状態を実現させる。
- ・本提言を実現させ、少子高齢化という社会構造上の最大問題に対し、福岡市が少子化対策の先進的モデル都市となり、そのノウハウを日本、世界に発信し、福岡発で日本、世界全体を活気づかせ、社会全体での子育てを通じ、幸福を感じられる社会としたい。

「『ふくおか』・イノチをつなぐ物語」(村田義郎氏)

- ・〈柔らかな「ふくおか」のビジョン：まち育ての目標について〉
すでに成熟した社会では、成長ではなく持続可能な地域社会を目指すことが求められます。このような時代は、地域社会で受け継がれて来た地域文化や暮らしを基礎とした知恵や仕組みに学び、既存の枠組みを外して、今の時代にふさわしいものに仕立て直しながらまち育てを進めることが大切だと思います。
- ・「和（やわらぎ）を以て尊しと為す」
今、公共ということの意味が制度上の公共性：行政から本来の事実上の公共性：住民へと変わりつつあり、新しい意味や価値を市民が主体的に獲得してきています。行政のいう統治の論理で枠組みされた規律遵守の安心社会ではなく、市民と行政が垣根をとりはらい、正直で勤勉で、お互いを尊重した信頼社会を築き、市民誰でもが参加し、意見を言い、まち育ての目標を定め、行動するそんな「ふくおか」であってほしいと思います。
- ・また、25年後に大人になる子どもたちの育成は、何にもまして大切なことです。物語で語ったような「まち育て」のなかで、子どもたちの「センス・オブ・ワンダー」や創造力を育む環境を創り、育て、次の世代に引き継い

でいきたいものです。

- ・ブータンの国のビジョンである「国民総幸福度」に例えるならば「住民総幸福度」をビジョンに、「ふくおか」のまち育ての目標は、次のようになります。

- ①地域の個性を活かした社会経済活動を育てる
- ②祭りや芸能、食、暮らしなどの地域文化を守り、育てる
- ③広域的な環境保全に取組み、身近な自然環境、あそび環境を創造し、大切に育てる
- ④地域コミュニティと行政の信頼と自由闊達な共働によるガバナンス

(3) その他の論文

○女性・こども

- ・アイランドシティを「こどもの島」に
- ・安心して子供を産み育てることができるまち
- ・子供目線からの街作り参加

○人材・教育

- ・ヒトの気持ちを育て、意思と都市としての意図を一つの方角へ向ける
- ・「正しい歴史」を認識する、郷土を愛し「公に尽くす心」を身に付ける、「自己主張ができる」能力を持つ、そのための教育改革
- ・福岡＝「人」
- ・アジアの知的拠点都市としての福岡
- ・数多くの大学を有することを背景に、世界最高水準の産業集積

○高齢社会対応

- ・東アジアの富裕高齢者の楽園「九州」の玄関口
- ・お年寄りが生きがいをもち元気に過ごせるまち
- ・孤独死防止・無縁社会の解消

○市民主体・地域主権

- ・届かない心の声を市が知る
- ・官民共同で市民参加の勉強会を開く
- ・日本人、福岡市民として自分自身に誇りを持たなければならない
- ・「シビックプライド (Civic Pride)」に立脚して多面的に物事を捉えていく
- ・福岡市の人々が福岡市を発信できる力をつける
- ・福岡市の人々がより魅力的になるよう努力する
- ・ヒューマンシティ
- ・地域活動団体のネットワーク化
- ・都市機能の移行に伴い行政および民間の垣根を越える
- ・道州制を見据えての地域主権と共生
- ・市民主体の徹底

○インフラ・まちづくり

- ・ 100年後のことをイメージした福岡の街づくりにするべき
- ・ 職場・住宅・学校・職場がクロスする街
- ・ 海（博多湾）との連帯をメインとした都市の造り替え
- ・ 河川も海の一部と考え景観を整える
- ・ 空港のネットワーク化
- ・ 地下鉄の博多埠頭、アイランドシティへの延伸
- ・ 福岡空港を世界水準の空港として新設
- ・ 海に向かう新しい都市開発
- ・ 人工島は海浜都市として町づくり
- ・ 都心の再生と人にやさしい街に再生
- ・ 陸海空の交通インフラを効率よく接続
- ・ 歩行者専用道路の設置

○環境・クリーンエネルギー

- ・ 今以上に自然を愛し守ろうとする人々を増やしていく
- ・ 東アジアの奇跡 自然と共生する都市
- ・ 22世紀型 エネルギーサイクルの先進都市
- ・ 「サイクルシティふくおか」推進
- ・ 原発廃止：再生エネルギーに転換
- ・ 自然と調和がとれたまち
- ・ 車中心社会の都市計画の見直し
- ・ 既存の自然環境の有効利用
- ・ 自然に負荷をかけない街作り
- ・ 自転車の専用道路を整備
- ・ 市民共有自転車システムの創設
- ・ パークアンドランドの多様化
- ・ 現空港跡地を新エネルギー都市として再生
- ・ 脱原発社会を目指して
- ・ 環境・エコ・エネルギー対策

○安心・安全

- ・ フクオカハ アンゼンデスカ？
- ・ 災害に対し万全な防備がなされ、安全で安心して暮らせるまち
- ・ 住環境の充実（安心・安全・住みやすさ）
- ・ 近代都市福岡の安全安心を守る

○歴史・文化

- ・ 「和の文化」、地理的条件と九州の人特有の性格を活用して「国際的観光都市」になる
- ・ 古き伝統文化と、世界最先端の科学技術が共存する
- ・ 歴史の再発見 鴻臚館のあった ふくおか
- ・ 歴史の町福岡と福岡城の再建

- ・文化や情報の発信地としても重要な街
- ・歴史文化と食文化
- ・祭文化の醸成

○観光・交流

- ・おもてなしの心に満ち溢れた国際集客都市になる
- ・船や飛行機などとの交通網の運用面を改善し、交通の結節点としていく
- ・九州全体との連携は、必要不可欠である
- ・SYUUGAKURYOKOU のメッカ
- ・食の都
- ・世界が賞賛する住み良さ～コンベンション都市を目指して
- ・複合型観光都市
- ・国際会議とイベントの開催促進
- ・スポーツ振興とその支援

○アジア・世界

- ・東アジアの先進的なショールーム
- ・東アジアの国境の壁を低くして大交流時代の結節点
- ・東アジア有事後のリーダー都市
- ・市の公用語は日本語、第二が英語
- ・新中国街を建設
- ・外国人との共生
- ・アジアの玄関としての機能を活かした、東京や大阪に負けない西の副都心としてのまち
- ・福岡から世界を見通せ挑戦できる場所になる

○経済・活力

- ・今以上に多様な雇用の場を創出し、活力を市内に蔓延させる
- ・付加価値の高い産業に目標を定め、それを支える人材の育成を進める
- ・必要な都市インフラの整備（維持）は今後も行うべき
- ・地下街拡張
- ・半導体関連産業のさらなる誘致
- ・市域の拡大（合併）と都市圏の充実
- ・夜の自由市場建設。屋台の拡大
- ・商店や個人事業者などの零細企業者が元気に活動できるまち
- ・子供、若者、サラリーマン・お年寄りがクロスする街
- ・消費型都市からバランスの取れた都市
- ・海外向けの医療事業の創設
- ・物流拠点基地
- ・商業ビジネス集積都市
- ・お祭り特区を博多区に
- ・地産地消の推進

5 ワークショップ（ビジョンカフェ）

（１）市民ワークショップ

地域や企業、大学など少人数のグループで開催していただいたワークショップ（ビジョンカフェ）においてのご意見・ご提案をグループ分けをして集約しました。

※開催概要は、第４部（144 ページ）をご参照下さい。

①都市が持つべき、変わらぬ経営上の課題

- 未来に出会うチャンスとチャレンジのフィールド
 - 1. 夢が成長のエネルギーになるチャレンジのまち
 - 2. 国境を越えてプレイヤーが羽ばたくまち
- 来街者が魅せられ、もてなされ、交流するまち
 - 3. 来街者がドラマを感じるための魅力のステージ
 - 4. Fukuoka のすべての場所が交流のフィールドになる
 - 5. 国際的なおもてなし、心通う交流
- リーダー都市にふさわしい交通と街並みの充実
 - 6. 交通網や街並みの質が繁栄の条件
- 発展と治安、斬新さと堅牢さ
 - 7. 発展と治安の両立
 - 8. 災害に強い都市
- 戦略的選択と持続性の経済へのチャレンジ
 - 9. 発展のための新しい地域経済戦略
 - 10. 成長に依拠しない持続性の経済

② 21世紀に現れた今日的テーマ

- 見えてきた今日的テーマ～よりよい生き方
 - 11. 国境なきボーダーレス都市
 - 12. 持続可能なエネルギーのまち
 - 13. 半田舎・半都会のよさ
 - 14. 自然を損なわない都市のあり方
 - 15. やさしさとあたたかさの「生きやすい」まち
 - 16. 住む人すべてに学びと活力のあるまち
 - 17. 若者文化と大学の魅力が人をひきつける
 - 18. わたしらしい働き方・生き方～居場所と出番
 - 19. 子どもが大好きなまちに
- コミュニティのリデザイン、つながり、開放性
 - 20. 地域コミュニティのリデザイン～多世代同居
 - 21. 地域のデザインを地域が行う～当事者
 - 22. 新たなつながりが生まれる対話と交流のオープンコミュニティ
 - 23. 居心地のよいスローライフ、住み続けたい街

③未来へのキーワード

○まちに住む当事者がつくる新たな FUKUOKA

- 24. まちに住む当事者のビジョンと志
- 25. 新しい産業は新しいつくり方でつくる

○受け入れ交ざりあう自発と利他の未来

- 26. 九州における、利他の支援型リーダーシップ
- 27. 許容と寛容、包容と多様の多文化共生

○新しい行政像

- 28. 対話による都市づくり行政

【上記、28 の分類項目の細分類】

○未来に出会うチャンスとチャレンジのフィールド

- 1. 夢が成長のエネルギーになるチャレンジのまち
 - 1-1 アジアと世界を元気にする中心都市
 - 1-2 夢描き、夢叶う
 - 1-3 最先端、かっこよく、おしゃれ
 - 1-4 起業しやすいまち
 - 1-5 チャレンジできる出番がある環境づくり

2. 国境を越えてプレイヤーが羽ばたくまち

- 2-1 人が集まりビジネスや雇用が生まれる
- 2-2 国際レベルの人材を輩出するまち
- 2-3 企業の誘致・集積
- 2-4 若者が街のファッション性をリードする
- 2-5 国境を越えた交流と連携の拠点

○来街者が魅せられ、もてなされ、交流するまち

3. 来街者がドラマを感じるための魅力のステージ

- 3-1 独自のシンボル（目玉）づくり
- 3-2 緑のシンボルに支えられるまち
- 3-3 アトラクティブな観光拠点
- 3-4 食文化の充実
- 3-5 わざわざ行きたくなる吸引力のある街区
- 3-6 ビッグイベント、祝祭が年中あるまち

4. Fukuoka のすべての場所が交流のフィールドになる

- 4-1 ネットワーク性・回遊性の高いパスワーク
- 4-2 集客交流産業の振興

5. 国際的なおもてなし、心通う交流

- 5-1 自然豊かな交流拠点づくり
- 5-2 おもてなしを国際化する人づくり
- 5-3 思わず交流している

○リーダー都市にふさわしい交通と街並みの充実

- 6. 交通網や街並みの質が繁栄の条件
 - 6-1 リーダー都市にふさわしいインフラ
 - 6-2 新しい空港、新しい港
 - 6-3 観光に特化した交通整備
 - 6-4 進化・高速化する新しい交通
 - 6-5 コンパクトかつ求心力のある交通
 - 6-6 地下鉄のさらなる充実
 - 6-7 鉄道再編
 - 6-8 質の高い交通の企画と規格
 - 6-9 量の交通施策から質の交通施策へ
 - 6-10 車を中心としない社会
 - 6-11 夢のある交通手段
 - 6-12 整理された街並み
 - 6-13 暮らしのインフラ
 - 6-14 エネルギー使い放題

○発展と治安、斬新さと堅牢さ

- 7. 発展と治安の両立
 - 7-1 安心・安全な生活環境づくり
 - 7-2 飲酒運転がなくなる
 - 7-3 治安の質的向上
 - 7-4 発展と治安の両立

- 8. 災害に強い都市
 - 8-1 災害に強い都市

○戦略的選択と持続性の経済へのチャレンジ

- 9. 発展のための新しい地域経済戦略
 - 9-1 支店経済からの脱却
 - 9-2 ユニークな産業戦略
 - 9-3 未来に投資をする
 - 9-4 ウォーターフロントの機能と魅力
 - 9-5 入域拡大のための減税、規制緩和

- 10. 成長に依拠しない持続性の経済
 - 10-1 現状を維持する持続性の経済
 - 10-2 エコ社会を支える静脈産業
 - 10-3 第一次産業への回帰
 - 10-4 分散型の都市づくり
 - 10-5 コミュニティ交通
 - 10-6 カーシェアリング、自転車利用のまち

○見えてきた今日のテーマ～よりよい生き方

11 国境なきボーダーレス都市

11-1 ボーダーなき相互作用を起こす交流都市

12. 持続可能なエネルギーのまち

12-1 「もったいない」が一步進んだ環境都市

12-2 クリーンエネルギーに支えられた永住都市

12-3 エネルギーの自給力を持つまち

12-4 環境に配慮した乗りもののまち

13. 半田舎・半都会のよさ

13-1 半田舎・半都会のよさ

13-2 農漁業を感じることができる都会

14. 自然を損なわない都市のあり方

14-1 都市機能と自然の調和

14-2 自然と人が共生するまち

14-3 森や自然をたいせつにする

14-4 まちなかのたくさんのみどりが豊かさを生むまち

15. やさしさとあたたかさの「生きやすい」まち

15-1 誰にとっても生きやすく住みよいまち

15-2 やさしさこそ心の豊かさ

15-3 モラル、マナー、ルールの行き届いたまち

15-4 社会福祉の充実

15-5 医療の充実

15-6 居住都市としての魅力づくり

15-7 寄りあい休める場に囲まれた暮らし

15-8 ヘルシーホームタウン

16. 住む人すべてに学びと活力のあるまち

16-1 元気と活気にあふれるまち

16-2 スポーツから生まれる活力

16-3 文化と芸術のまち

16-4 学びから生まれる活力

17. 若者文化と大学の魅力が人をひきつける

17-1 若者文化が街を育て人をひきつける

17-2 新しい大学のあり方を見せる

17-3 大学生・留学生が快適に過ごせるまち

18. わたらしい働き方・生き方～居場所と出番

18-1 一歩先のライフスタイル

18-2 自信をもって今を続ける

18-3 わたらしい生き方

18-4 わたらしい働き方

- 18-5 働く場がたくさんあるまち
- 18-6 リタイアのない環境づくり
- 19. 子どもが大好きなまちに
 - 19-1 心のこもった独自の教育
 - 19-2 新しい教育
 - 19-3 子どもの人権
 - 19-4 子育てを中心に働き暮らす
 - 19-5 まち全体で子どもを育てる
 - 19-6 子どもの遊び場がたくさんある
 - 19-7 子どもを増やそう！
- コミュニティのリデザイン、つながり、開放性
- 20. 地域コミュニティのリデザイン～多世代同居
 - 20-1 小規模複合施設的コミュニティ
 - 20-2 面識のある場づくり
 - 20-3 地域コミュニティを深める
 - 20-4 世代間交流を盛んに
- 21. 地域のデザインを地域が行う～当事者
 - 21-1 地域の組み合わせのデザインを新しくする
 - 21-2 ふらっと行く地域の居場所づくり
 - 21-3 みどりを自分たちで育むコミュニティガーデン
- 22. 新たなつながりが生まれる対話と交流のオープンコミュニティ
 - 22-1 垣根が低いオープンコミュニティ
 - 22-2 対話の場が日々たくさん存在するまち
 - 22-3 つながりが生まれる
- 23. 居心地のよいスローライフ、住み続けたい街
 - 23-1 昔の居心地的スローライフ
 - 23-2 土の香りのする住まい方
 - 23-3 居心地がいいので引っ越したくない
- まちに住む当事者がつくる新たな FUKUOKA
- 24. まちに住む当事者のビジョンと志
 - 24-1 まちに住む当事者としての誇りを持つまち
 - 24-2 対話によるビジョナリーな市民
 - 24-3 人がうらやむ、人のすむまち
 - 24-4 「知られていない」を知らせてゆく PR 力
 - 24-5 志のコミュニティ
- 25. 新しい産業は新しいつくり方でつくる
 - 25-1 コンベンション～人と発想をつなぎなおすプロデューサー都市 Fukuoka
 - 25-2 Uターン、I ターンなどで外の知識、経験が集まる

○受け入れ交ざりあう自発と利他の未来

26. 九州における、利他の支援型リーダーシップ

26-1 支援型リーダーシップ

26-2 道州制によるリーダーシップ

26-3 福岡首都構想

27. 許容と寛容、包容と多様の多文化共生

27-1 多様性を包み込む文化

27-2 多様な言語と国籍が存在するまち

27-3 多文化が日常化している

27-4 外国人（移民）の雇用機会

27-5 外国人も住みたくなる

○新しい行政像

28. 対話による都市づくり行政

28-1 公の担い手の移行

28-2 対話による都市づくり

28-3 政治・行政サービスの質を上げる

28-4 「やさしい暮らし」に合致した市民負担の軽減

(2) 市職員ワークショップ

各局・区・室ごとに開催した、職員ワークショップ(ビジョンカフェ)での意見・提案をグループ分けをして集約しました。

①ビジョン1：今あるものをのばす、守る、着手するもの

○今ある福岡の魅力を活かすまちづくり ～美人、伝統、食文化、スポーツ、歴史～

1. 人が集まるまち
2. 美人&キラキラ輝く女性
3. 伝統や歴史を守り、活かして、魅力のあるまちづくり
4. 豊かな食文化農業振興
5. 子どもから高齢者までいつでもスポーツを楽しめる都市

○自然の豊かさと調和した美しい都市（まち）

6. 自然の豊かさ
7. 環境（自然）保全し、活かしたまち
8. 景観が美しいまち
9. 都会と自然と人々の生活が調和したまち
10. 人と環境にやさしいまち
11. 海を活かしたまちづくり

○親水都市～水を守り水に親しむ～

12. 水不足のないまち
13. 水を生かす

○歩いて良し、こいで良し、乗って良し快適・スムーズな都市！！

14. 交通網の整備、発達
15. 自転車、歩行者にやさしいまち
16. 楽に移動

○みんなが働けるまち

17. 高齢者が働ける環境づくり
18. 若年層、子ども 将来の雇用
19. 市民全体の雇用

○子どもが健やかに成長する教育都市

20. 教育（体制）の充実（体制づくり）

○安心して歳を重ねられるまち

21. 高齢者の医療 福祉の充実

○借金に頼らない健全経営都市

22. 行政体質の適正化

②ビジョン2：住んでいる人にとって普遍的なもの（主に人）

○ユニバーサルデザインですべての人が住みやすいまち

- 23. ユニバーサルデザイン
- 24. 住みやすいまち
- 25. 子どもが元気に笑顔で夢を持てるまち
- 26. 高齢者が元気で住みやすいまち
- 27. 子どもを温かく見守る、安心して子育てできるまち
- 28. 女性へのサポート体制充実
- 29. 言葉の壁をなくす

○人と人とのつながりを大切にするまち「ハートフルシティ福岡」

- 30. 思いやりのある助け合いコミュニティ「ハートフルシティ福岡」
- 31. 地域コミュニティ
- 32. 人と人との交流
- 33. ひととのつながり
- 34. 子どもから高齢者までが楽しく交流するまち
- 35. 活発な会話 コミュニケーションにあふれるまち
- 36. 人が集う場（施設）
- 37. 世代間の交流の場

○安全で安心して暮らせるまち

- 38. マナーアップ
- 39. 犯罪が少ない治安がよい
- 40. 子ども、高齢者にやさしい皆が安全で安心して暮らせるまち
- 41. 交通安全（NO飲酒運転）

○心をゆったり幸せに暮らせるストレスフリーなまち

- 42. 心を豊かに
- 43. 幸福だと思えるまち
- 44. ストレスフリーなまちへ
- 45. ゆったりすごせる空間・生活の形成

○自分らしく生きる夢を実現できるまち

- 46. 自分らしく生きる夢を実現できる
- 47. 宗教の自由都市

○身近で何でもそろう便利なまち コンパクト・シティ

- 48. 身近で何でもそろう便利なまち コンパクト・シティ

○公園・キレイな空気・緑あふれるまち

- 49. 緑あふれるまち
- 50. 皆がつどう緑あふれる公園が多くある

- 51. 緑の森の中で毎日フェスティバルが行われている
- 52. 空気がキレイなまち

○住む人が元気で笑って暮らせるまち

- 53. みんなが楽しいまち
- 54. みんなが笑っているまち
- 55. 元気に生活できるまち
- 56. 若者が多く活気あるまち
- 57. 活気あふれるまち
- 58. 歩いて楽しいまち
- 59. 楽しく遊べるまち

③ビジョン3：来街者に魅力な福岡らしさの新設

○企業から選ばれ、人々に愛され住みたいと思われる憧れのまち

- 60. 多くの人に愛されるまち
- 61. 企業から選ばれるまち
- 62. みんなに住みたいと思わせるまち

○また来たくなる観光力！ パラダイス福岡

- 63. ウェルカムトゥ福岡
- 64. また来たくなるまち
- 65. 観光資源の（目玉）更なる充実
- 66. 国際的なスポーツ都市

○アジアのリーダーとして、福岡だけにできることを実現する自立した自治都市

- 67. 自立した自治都市
- 68. 福岡だけに出来ることの実現、進化、保全
- 69. アジアの拠点都市
- 70. 九州の拠点都市

○文化の温故“創”新と場や機会の充実

- 71. 文化・伝統そのものの保存と創造
- 72. 文化に親しむ場や機会の提供

○技術革新によるクリーンエコシティ

- 73. 技術革新（ハード整備）
- 74. 原子力に頼らずクリーン・エコエネルギーでまかなえる
- 75. 世界に誇れるエコシティ

○すべての世代に開かれた学びの場の創造

- 76. 0才～お年寄り誰もが学べる場
- 77. 市立大学による一貫教育 市役所とのコラボ

6 団体等からの提言

(1) 団体の皆さま

団体の皆さまからのご意見・ご提案を抜粋しました。

○福岡商工会議所

「アジアを惹きつけ、アジアとともに成長する、活力・刺激あふれる拠点」

- ・医療ツーリズムの推進や、国際コンベンション、スポーツ、外航クルーズの誘致、大規模国際見本市の創設等を通して、観光コンベンションシティを目指す。
- ・ソフト産業の海外展開や、水素・システム LSI など最先端産業の振興を通して、次世代産業の展開拠点をめざす。
- ・アジアの人材拠点をめざし、また、安全で住みやすい住環境を目指す。
- ・具体的展開として、サービス業を核とした経済振興・雇用創出、アジアとのネットワークと交通インフラ拡充、歴史資源を活かしたまちづくり、都市景観・住環境整備、都心臨海部の再開発などを進める。

福岡商工会議所都市政策委員会 答申 ⑤-1

福岡の特徴・優位性

●地政学的優位性

地理的にもアジアと近接。福岡を中心とした半径1,500km～2,000km域内は、東京を中心とした同一半径域内に比べて、域内に入る都市・人口の規模が大きい。真に「アジアへのゲートウェイ」拠点として最適。

●アジアとの輸出入

九州経済圏における貿易額は、輸出入とも約6割をアジアが占め、とりわけ福岡市には博多港と福岡空港が西日本・九州のゲートウェイとして重要な役割を担っている。

●増加する外国人観光客、国際コンベンション、外航クルーズ船
博多港・福岡空港利用による外国人入国者数は、平成19年で約72万人、10年間で約2.3倍の伸び、クルーズ船の博多港寄港も急増。平成21年の国際コンベンション開催実績は、206件で全国第2位。東京以外の都市で初の年間200件を突破。

●世界に誇れる研究・技術の集積

世界トップレベルの水素・半導体などの研究開発。半導体、ロボットなど世界の成長産業と技術集積。こども病院・サカハイマートなど特色ある先端医療。背後には自動車産業が立地。

●ファッション・ゲームなどソフト産業

デジタルコンテンツなどソフト産業の評価は高い。また、ファッションなどは海外からの関心が高く、ファッション産業の発信拠点となるべく、FACoを開発。

●人材の集積

県内留学生は、この8年で約2倍の9,665人(全国比6.8%)。都道府県別では、東京・大阪に次ぐ第3位。内訳は、中国7.4.6%、韓国11.4%などアジア地域95.8%。(全国92.3%)。

●空港、港湾、鉄道拠点が5km圏内に位置する利便性

アジアとのネットワークの要である博多港・福岡空港・新幹線(博多駅)はいずれも都心から至近距離に位置し、人流・物流の利便性に優れている。

●都会と自然が調和した都市

ショッピング、スポーツ、エンターテインメントから豊かな自然まで気軽に楽しむことができる都市機能と自然が共存するコンパクトシティ。

「アジアを惹きつけ、アジアとともに成長する、活力・刺激あふれる拠点」

観光コンベンションシティをめざす

医療ツーリズムの推進

こども病院などの特色ある高度医療機関の集積・連携を推進し、エンターテインメントや祭り、歴史文化、観光地などと連動させた医療ツーリズムの拠点化。

国際コンベンション・スポーツ、外航クルーズ船の積極的誘致

産学官連携により、国際会議・セミナー、スポーツ大会を開催できる国際コンベンションシティを目指す。

大規模国際見本市の創設

内外から人・物・情報が集まり技術・商品開発促進と、集客による経済効果を図るため、大規模国際見本市・展示会を開催できる都市を目指す。

次世代産業の展開拠点をめざす

ソフト産業(ファッション、ゲーム、コンテンツ)の海外展開

ファッションやコンテンツ、食文化などのソフト産業はアジアからの関心・評価も高く、福岡のイメージの 프로모ーションと一体的にアジア展開を図る。

水素・システムLSIなど最先端産業の振興

次世代産業の海外からの投資・人材を呼び込み、高付加価値産業分野の研究開発の拠点とその産業化を図る。

アジアの人材拠点をめざす

アジア人材の活用・呼び込みと日本におけるアジア向け人材の育成

日本人・企業のグローバル化の推進と、アジアからの留学生、研究者の受け入れ促進を図り、アジア展開を図る企業と人材を育成する。

安全で住みやすい住環境をめざす

外国人も住みやすい住環境の整備

文化施設の充実、外国語への対応、子供の教育環境、緑地を歴史文化を活かした街並みなどの整備を図り、外国人にとっても安全で住みやすい住環境の整備を図り、グローバル企業の立地を促進する。

具体的展開

◆安心して人々が生活、投資、交流できる長期的展望に立った都市ビジョンを早急に提示することが重要。

- ① 拠点都市「福岡ビジョン」の構想とロードマップ
- ② 「アジア特区」の導入・実現に向けたビジョン

1. サービス業を核とした経済振興・雇用創出

①観光・コンベンション誘致の強化

- ・官民一体となった誘致体制の強化
- ・大規模コンベンション施設の整備(既存施設の活用を図りながら床面積10万㎡クラスのコンベンションが開催できる施設の整備、拡充)
- ・都心における大型観光バス駐車場および土産・飲食店等が一体となった拠点の整備
- ・外国人もひとりで歩けるまちづくり

②医療ツーリズムの振興、観光客受入れと「おもてなし」強化

こども病院やサカハイマートなど高度医療機関の連携と観光ルート化・パッケージ化

③外航クルーズ船の拠点

岸壁延伸とボーディングデッキ設置など、国際旅客ターミナルの新増設

2. アジアとのネットワークと交通インフラ

①福岡空港の機能拡充

- ・CIQ機能の拡充 ・国内線のエプロン改良や平行誘導路の整備
- ・国内線・国際線ターミナルのアクセス改善
- ・空港容量拡大への対応のための滑走路増設の早期着工

②博多港の整備

国際コンテナターミナルの整備 ・クルーズ客船対応のため国際旅客ターミナル整備

③CIQ機能の充実と運用 ・エコターミナルの実現

- ④福岡都市高速道路の延伸 ・アイランドシティへの早期延伸 ・都市高速3号線の福岡空港への延伸
- ・循環型に対応した出入口およびジャンクションの改善

④福岡市地下鉄の整備促進

- ・七隈線延伸区間(天神南～博多駅間)の早期着工
- ・天神の混雑緩和とウォーターフロント地区への鉄軌道の導入

⑤「地域拠点駅」の整備

- ・民間事業者との連携による「パーク&ライド」とモーター車の連携強化
- ・総合運輸連携システム構築による利便性向上(地下鉄・バス・電車等の一体的な運行、相互乗継割引、案内表示、乗り継ぎ距離の短縮化など)

3. 歴史資源を活かした街づくり

①都心の回遊性向上

- ・博多～天神～ウォーターフロントの三角地域のアクセス改善
- ・美術館や博物館などの相互連携と市民開放

②歴史資源を活かした街並み

- ・博多部の「旧町名」を活かした歴史探索コースの整備
- ・町家や博多伝統工芸品の活用

③福岡城公園 センtral・パーク(仮称)の整備

- ・「鴻巣館」「福岡城跡」を中心とした歴史公園の整備

4. 都市景観・住環境整備

①緑のネットワークの形成

- ・西公園、大濠公園、福岡城公園、油山などの拠点整備

②那珂川などの河川敷(遊歩道)の整備

- ・都市の環境・防災と市民の「健康増進」のため快適な歩行空間の整備

③電線等の地中化促進

- ・都市景観形成事業を活用したきれいな街づくり

5. 都心臨海部の再開発

- ・「須崎埠頭と基部」⇒新たな交流拠点としての一体的な計画策定と整備

- ・「中央埠頭・博多埠頭」⇒国際旅客ターミナルの増設・新コンベンション機能整備
- ・アクセス交通の整備

○南区我等のまち 「福岡都のすがた」

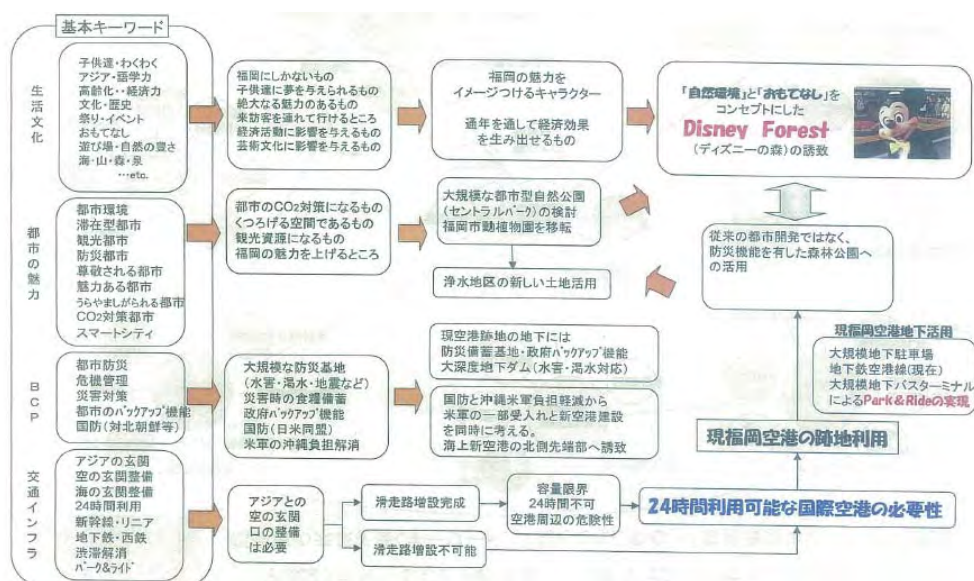
- ・国や県をリードする自治体を創るため、行政機構を改革し、自治基本条例を制定し、住民自治と行財政改革を推進する。
- ・住民生活を守る福岡都市圏の自立を目指し、福岡市の区政改革を推進して、福岡都構想を推進する。



○C&C 21 研究会福岡市の未来を描くキーワード：

「おもてなしの心」・「自然環境の創造」・「危機管理」

- ・福岡の魅力をイメージづけ、通年の経済効果を生み出す森林公園「ディズニーの森」を提言。
- ・この森林公園は、24 時間利用可能な国際空港新設にともなう現福岡空港跡地を利用する。空港跡地地下はパークアンドライド実現のための活用を進める。
- ・福岡市動植物園も移転させ、また、防災機能を併せ持たせる。



(2) 市職員提言検討チーム

市職員が局や区などの所属や所属を超えてチームを作り、自由な発想で提言を検討しました。(約400人が参加、27のチームによる提言)

○検討チームとテーマ一覧

検討チーム	テ　　マ
総務企画局	世界をひきつけるまち“Fukuoka”
財政局	25年後の都市像と財政のあり方
市民局	・自分のまちに愛着をもち、自慢したくなるまち ・安全で安心して暮らせる、笑顔あふれるまち ・一人ひとりがいきいきと輝いて暮らせるまち ・いつでも・どこでも・だれでも文化芸術・スポーツを楽しむまち ・自宅で行政サービスを受けられ、ふれあい・あたたかさのあるまち
こども未来局	ふくおかっ子は 夢おーか 福おーか ～子どもの夢が現実になるまち・福岡～
保健福祉局	～近未来ドキュメント～ “2036年 福岡市は世界で一番「やさしさに包まれたまち」になる！！”
環境局	新世代環境都市ビジョン
経済振興局	2036年「Fukuokaの時代」に備えよう
農林水産局	農林水産業を通じて「真の豊かさ」を創造する
住宅都市局	アジアとの交流の歴史を活かし、多種多様な文化や価値観を受容し、“ふくおか”に出会うすべての人たちを魅了する世界の“FUKUOKA”へ
道路下水道局	アジアで輝き続ける循環型都市ふくおかを目指して ～市民・企業等との協働、福岡都市圏との連携を基軸に～
港湾局	輝く個性で人、物を魅きつけるみなと
消防局	安全・安心からはじまるまち
水道局	福岡市の水道事業の将来像
交通局	25年後の地下鉄
教育委員会	・アジアの人々と学び合える都市づくり ・笑顔の子ども、元気な先生、楽しい学校 ・地域の力で子どもを育み、子どもの力で地域を元気にする ～ 地域と学校は共存共栄 ～ ・文化芸術を育み、発信する都市
東区役所	25年後の東区～東区未来予想図～
博多区役所	～25年後に向けた職員提言～ 博多区の将来像
中央区役所	未来への5つの挑戦（エナジーとエコと絆の中央区）
南区役所	『25年後も 子どもからお年寄りまでみんなが暮らしやすい街・南区』
城南区役所	人と出会い、対話が生まれるまち ～「おたがいさま」の気持ちが紡がれる～
早良区役所	「早良区ブランドプロジェクト もっと早良が好きになる」 「SAWARA BOWL ～日常的に人が行き交うまち早良～」 「いきいき生活支援 誰でも楽しく簡単に参加できる福祉」
西区役所	「25年後の『西区の宝』を考える!!」
所管横断A	アジア・国際戦略
所管横断B	ひと 創造 つながり ～大名小学校を創造の拠点に～
所管横断C	「ふくおかマインド」あふれるまち
所管横断D	福岡型の持続する発展
所管横断E	「学校」が変わる！？ 「つながり力」でアジアのリーダー都市に

- 提言チーム名 総務企画局職員提言検討チーム
 ○テーマ 世界をひきつけるまち **"Fukuoka"**
 ○概要



日本の人口が減少傾向にあるなか、福岡市が元気を維持し続けるには、人口の維持・増加が重要である。そこで、「福岡に住み、訪れる人を増やしたい」、「日本にとどまらず世界の人との交流を増やしたい」という思いから、25年後の福岡市の目指す姿を考えた。

25年後の福岡市：『世界をひきつけるまち **"Fukuoka"**』

- ・住んでいる人と訪れる人との様々な交流により、新しい発見や刺激がうまれるまち
- ・都市の便利さと自然がほどよく調和しており、市民が笑顔で暮らしているまち

福岡市の現状を踏まえ、世界をひきつけるまち **"Fukuoka"** の実現に向けた3つのまち像

1. 出会いがあるまち

住んでいる人や訪れる人が様々なことに出会い、新しい発見や再発見、刺激が生まれ、また訪れたい、今後も住み続けたいと思うまち

2. 元気がでるまち

福岡を訪れることで、元気をもらい、訪れてよかったと思い、住んでいる人も、福岡に住んでいてよかったと笑顔で暮らせるまち

3. 住みやすいまち

福岡市の住みやすさという強みを最大限に活かし、住みやすいまちであり続けることで、住んでみたいと思い、今後も住み続けたいと思うまち

世界をひきつけるまち **"Fukuoka"** の実現に向けた方向性、取組みの提案

- ・ **"Fukuoka"** を知ってもらう ・ 市民主体で取り組む
- ・ **"Fukuoka"** の強みを活かす ・ **"Fukuoka"** の潜在的な力をひきだす



① 出会いがあるまちの実現に向けて

- アジアタウンの設置・人材が集まるまちづくり・国際的な出会いの場づくり
- いろいろな言葉が通じるまちづくり（市職員はもちろん、小学生も！）

② 元気がでるまちの実現に向けて

- プロスポーツの活性化・スポーツ国際大会の開催・健康づくり・雇用の場づくり
- 福岡のビューティー産業のブランド化・集客施設（観光地）の充実

③ 住みやすいまちであり続けるために

- 日本の支店経済からアジア・世界の支店経済へ（世界における日本の入口に！）
- 都心部に人工海浜を整備するなど、より身近に海を感じられるようなまちづくり

④ **"Fukuoka"** を知ってもらうために

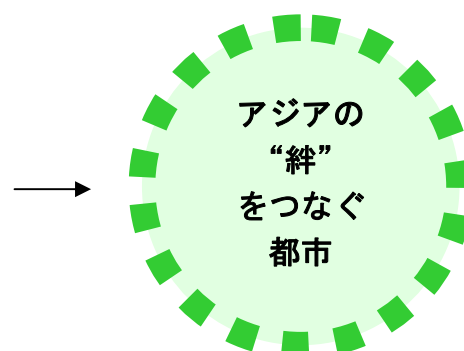
- 世界的なイベントを開催することで **"Fukuoka"** を知ってもらう
- 市民・企業も世界に進出することで **"Fukuoka"** を知ってもらう

25年後の福岡市が世界をひきつけてやまないまちでありますように…

- 提言チーム名 財政局職員提言検討チーム
○テーマ 25年後の都市像と財政のあり方
○概要

■25年後の期待する都市像

- ・アジア・九州のCapital City
- ・住みやすさの魅力溢れるまち
- ・人が生き活きと輝くまち
- ・次世代に向けて成長し続ける都市



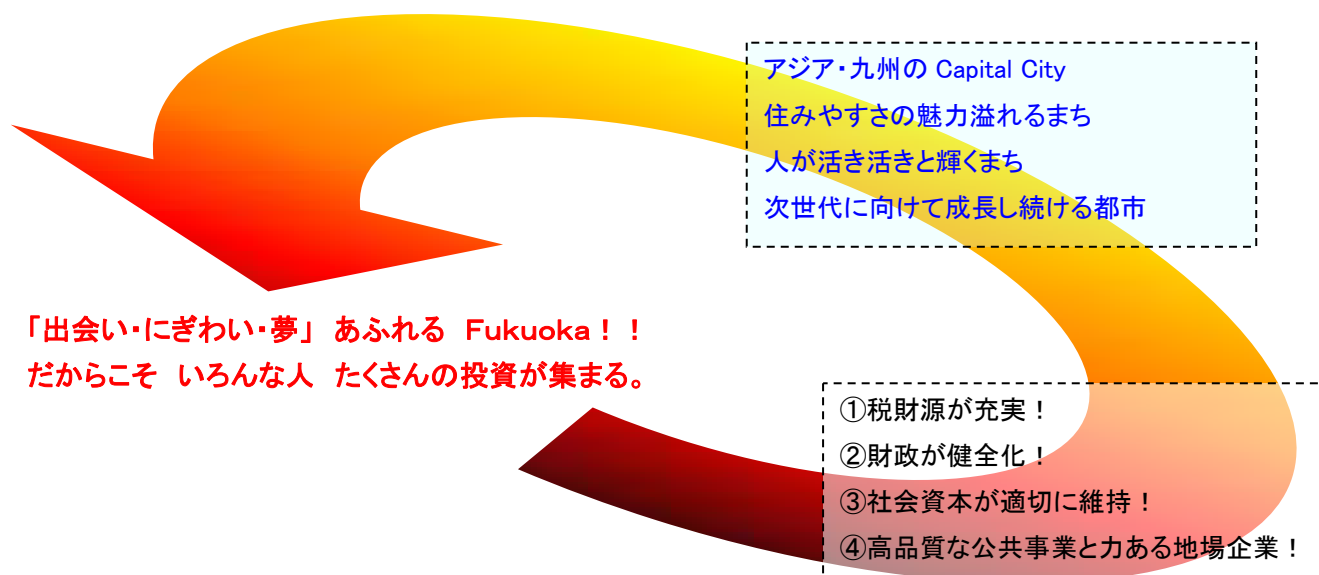
■財政の視点から25年に期待する福岡市の姿

<<<<< 財政の現状！	財政の課題！ >>>>>
・市債残高は減少傾向 ・市町村合併による公共施設の重複がない ・施設の効率的な維持管理に早い段階から取り組んでいる	・日本経済の停滞により“伸びが期待できない税金” ・急増する扶助費など“増加し続ける義務的経費” ・依然として“高い市債残高” ・膨大な社会資本の“老朽化と維持更新費用の増大” ・厳しい財政状況により“先細りする公共事業”



>>>>> 財政の視点から25年に期待する福岡市の姿 <<<<<
①税財源が充実している！ ②市債残高が圧縮され財政が健全化している！ → 都市の発展や市民サービスの充実に必要な政策に十分な投資がなされる柔軟な財政構造が実現 ③市民サービスの提供に必要な社会資本が適切に維持されている！ ④高品質な公共事業と力ある地場企業が地域経済を支えている！ → 力をつけた地場企業と信頼を得た行政が官民協働で知恵と資金を出し合いながら、既存ストックの再編と次世代型の公共事業を確立し、持続可能な社会資本（公共施設、インフラ）が実現

■アジアの“絆”をつなぐ都市 そして、人が集い交流するまち“福岡”へ



- 提言チーム名 新ビジョン・市民局職員提言検討会
- テーマ ★自分のまちに愛着をもち、自慢したくなるまち
 ★安全で安心して暮らせる、笑顔あふれるまち
 ★一人ひとりがいきいきと輝いて暮らせるまち
 ★いつでも・どこでも・だれでも文化芸術・スポーツを楽しむまち
 ★自宅で行政サービスを受けられ、ふれあい・あたたかさのあるまち

○概要 まちの理想の姿を上記テーマとし、実現するため分野別に提言

コミュニティ分野

- ・住民が共感し、自治活動に取り組んでいる。・地域ごとに個性を生かし、自律・成熟している。 ・顔なじみが多く、元気なあいさつが飛び交う。 ・誰でも出番と活躍の場がある。 ・公民館は誰もが気軽に集う「地域サロン」に。

交通安全・防犯分野

- ・規範意識が高まり、交通事故や飲酒運転がない。自転車の安全運転がされている。
- ・犯罪がおきにくく、暴力団が存在しない。住民自らが地域の安全を守る。

防災分野

- ・情報伝達手段の拡充、国内外の防災イベントの誘致等により、「5分以内に避難行動を始められる」「行政の全てに、また全ての施設に防災・減災の理念が生かされている」を目標とする。

人権分野

- ・あらゆる場における人権教育・啓発の推進により、すべての人の人権が尊重される社会を目指し、市民にとって幸せで住みよいユニバーサルシティ福岡を実現する。

男女共同参画分野

- ・様々な分野で、一人ひとりが性別にかかわらず、ライフスタイルを柔軟に選択できる男女共同参画社会において、自己実現が可能となり、豊かな人生を送ることができる。

文化・芸術分野

- ・アジアのアーティストと地元のアーティストが盛んに交流し、アジアに関連する文化事業が盛んとなっている。 ・福岡発の作品が次々に発表され、アーティストが公演だけでなく、教育や地域の間でも活躍している。福岡スタイルの文化を創造・発信している。

スポーツ分野

- ・いつでも、どこでも、だれでもスポーツ・レクリエーションを楽しめ、人が出会い、繋がっている。国境を超えたスポーツ・レクリエーションが盛んとなっている。

区政推進分野

- ・ICT技術の進歩（「テレビ電話」など）により、区役所窓口に出向かなくても手続きができるようになる。 ・「テレビ電話」を利用し様々な交流が実現している

消費生活分野

- ・ICT化が進み一人1IDの時代になっていることを活かす一方、ふれあい・あたたかさがある「安全、安心、孤独ではないまち、高い地域力」を目指す。
- ・主体的・合理的に行動する、自立した消費者力を持った市民（消費者）をつくる。

○提言チーム名 こども未来局職員提言検討チーム

○概要



「福岡市は、
子どもの夢が
現実になるまちに成長し、
福岡から世界に羽ばたく、
オンリーワンの子どもたちを
育てます」

大人

自立と貢献

若者

挑戦

中学生・高校生

夢を描こう

小学生

あかちゃん・就学前の子ども

何でもやってみる

【子どもから大人へ
それぞれのステージで目指す姿】

あんしん・ひとりでできた

子どもたちの姿

福岡の子どもは、みんなウェルカム かたらんねー

～お互いの個性や文化の違いを認め合い、笑顔あふれて思いやりのある子～

福岡の子どもは、熱か気持ちでオンリーワン

～アジアの街福岡に誇りを持ち、国際社会を力強く生き抜く子～

- ・「博多っ子スクール」の創設 福岡の文化体験、福岡を世界へ発信！
- ・「海外の友だちを10人作るプロジェクト」
- ・「おもてなし力アジアナンバー1！」

“第2アジア語”を学び、“中高生子どもガイド”が観光客をおもてなし

福岡の子どもは、なんでんかんでんチャレンジするとよ

～失敗を恐れず、やってみたいことに何度でも挑戦する、たくましくいきいきした子～

- ・自然・農漁業・飼育員体験などを制覇した子どもを“福岡自然マイスター”に認定
- ・「小中学生チャレンジ！無人島5日間アドベンチャー体験」

集

かたらんね

熱

あつかとよ

挑

やってみよう

子どもを取り巻く環境

ひとがよかまちがよか ふくおか

～一人ひとりが地域を愛して、地域の子どもの育てるまち～

- ・公民館に“駄菓子屋”“文具店”を整備 子どもの居場所と高齢者の活動の場に

のびのびっ子を育むまち ふくおか

～福岡らしさを大切にして、創造・発展するまち～

- ・音楽大学（音楽、芸能、演劇など）の設立

アジアと一緒にいっちゃん元気になるまち ふくおか

～アジア各国と一緒に成長して、リーダーシップをとれるまち～

- ・「地球っ子スクール」（英語村、中国語村、韓国語村）の創設
- ・「海外チャレンジ応援事業」 海外で技能を習得し福岡に広げていく若者を支援



○提言チーム名 保健福祉局職員提言検討チーム

○テーマ ～近未来ドキュメント～

“2036年 福岡市は世界で一番「やさしさに包まれたまち」になる！！”

○概要

～主人公・唐人町進さん（75）を通して、25年後の福岡市を疑似体験してみよう。～

25年後は「多様な人たちがイキイキ交じり合う元気なまち福岡」に

年齢、性別、国籍、人種などに関わらず、相互に興味関心を持ちながら、支え、
支えられる思いやりを持ったまち、世界で一番「やさしさに包まれたまち」

福岡市の未来像① ふくおか恋愛都市宣言（シニアが恋してよかろうもん）

「恋の力でアンチエイジング」。恋愛を後押しする施策を行うことで次のような効果が期待できる。

- ① 恋をすると生活に張りが出て健康に →医療・介護に係る費用の低減
- ② プレゼントを買うなど、消費意欲の高まり →経済効果
- ③ デートや電話・ネットでの交流 →「孤独死」のセーフティーネット

福岡市の未来像② まちの変化

- ・ **アクティブシニアのまち**：シニア向けのファッション店や趣味の店、飲食店等が建ち並ぶ地区や健康関連施設が並ぶウエルネスストリートを提案。
- ・ **アジア街の形成**：アジア各地の食事・ショッピング等が楽しめたり、アジアのスター達に会えたりする地区を形成。
- ・ **「障がい」の垣根のない豊かな交流のまち**：障がいのある人もない人も、一緒に働いたり、スポーツや芸術活動をともに楽しむ機会が日常に溢れているまちに。
- ・ **健康づくりのまち**：福岡市内の外食・中食産業は全てのメニューにカロリー表示。屋台も「健康メニュー」が並ぶ。
- ・ **バリアフリーのまち**：市内の所々にちょっと休憩できるベンチが設置されている。道路は、歩車分離が進み、アスファルトには膝に優しい特別素材が使われている。

福岡市の未来像③ IT先進都市～シニアアップリ～

様々なIT化を強力に推進。国民健康保険の手続きなどはオンラインで可能に。よかドック（特定健診）やガン検診などの受診結果もパソコンで経年結果を確認することができ、メールで情報を受取ることもできる。

また、65歳以上向けのアプリ開発を提案。公的サービスも民間サービスも、シニアに必要な情報はこれひとつに集約し、緊急時の連絡機能も登載。

福岡市の未来像④ 生きがいカフェ・チイキッザ

使用していない空き教室などを、文化活動や学習の場「生きがいカフェ」として地域が運営する。また、地域に住んでいる様々な職業人がスタッフとして協力する「地域キッザニア（チイキッザ）」をキッザニアの地域版として福岡市で試行。

○提言チーム名 環境局職員提言検討チーム

○テーマ 新世代環境都市ビジョン

○概要

地球温暖化や資源の枯渇、生態系の破壊など地球規模の環境問題が進行し深刻化する現状に加え、東日本大震災による福島第一原発事故を契機に、エネルギーの安定供給及び放射能汚染等についての懸念が高まっている。このような社会情勢の大きな変動を踏まえ、将来の本市の環境分野での都市づくりにおいて新しい価値を創造するとともに、誰もが経済的にも豊かで快適に暮らし、幸福感あふれた持続可能な社会の実現を目指す。

人と自然とアジアとともに、ときを超えて輝く地球によかまち・ふくおか

環境・エネルギー技術のショーケース都市として発展するまち・ふくおか

- ◇ 原発への依存度低減社会の下、省エネ技術により、エネルギー使用量は大幅減少。太陽光・風力・水素エネルギーを中心に、再生可能エネルギーを大幅導入
- ◇ 自立・分散型のエネルギーシステムを有し、安全・安心の観点から世界に評価され、アジアにおける環境・エネルギー技術の拠点となるショーケース都市
- ◇ 子どもから高齢者、観光客、誰もが自由に多様な手段で、カーボンゼロの移動ができるまち

生物多様性からの恵みを活力として成長する持続可能なまち・ふくおか

- ◇ 都市の魅力を支える生物多様性の重要性を認識し、地産地消を進め、その恵みである豊かな食文化を守り、発展を続けるまち
- ◇ 身近なみどり・自然とふれあえる自然資源へのアクセス性の良さを都市の魅力として発信し、まちを活性化
- ◇ 市民、事業者、行政等の多様な主体により、生物多様性の恵みによって育まれた福岡市固有の文化を継承・発展させ、地域への愛着と誇りの心によって絆をつくるまち

“大事に使う・皆で使う”スマートコンシューマーのすむ循環のまち・ふくおか

- ◇ 移住者も含めてすべての市民に“ものを大切に使う”“皆で使う”精神が根付き、ごみの排出抑制、リサイクルが自然にできる地域社会
- ◇ ごみは、再資源化・活用され、地域経済の元気の源になるまち

いつまでも住み続けたいと、誰もが思う安全・安心、快適なまち・ふくおか

- ◇ 市民の生活環境に関わる課題はほぼ克服され、次世代まで住み続けたいと市民が思う安全・安心で、快適なまち
- ◇ 気候変動への適応に先行的に取り組む、長期的展望に立った快適なまちづくりが浸透した地域社会

環境を守り社会・経済を発展させるアジアの人材を育てるまち・ふくおか

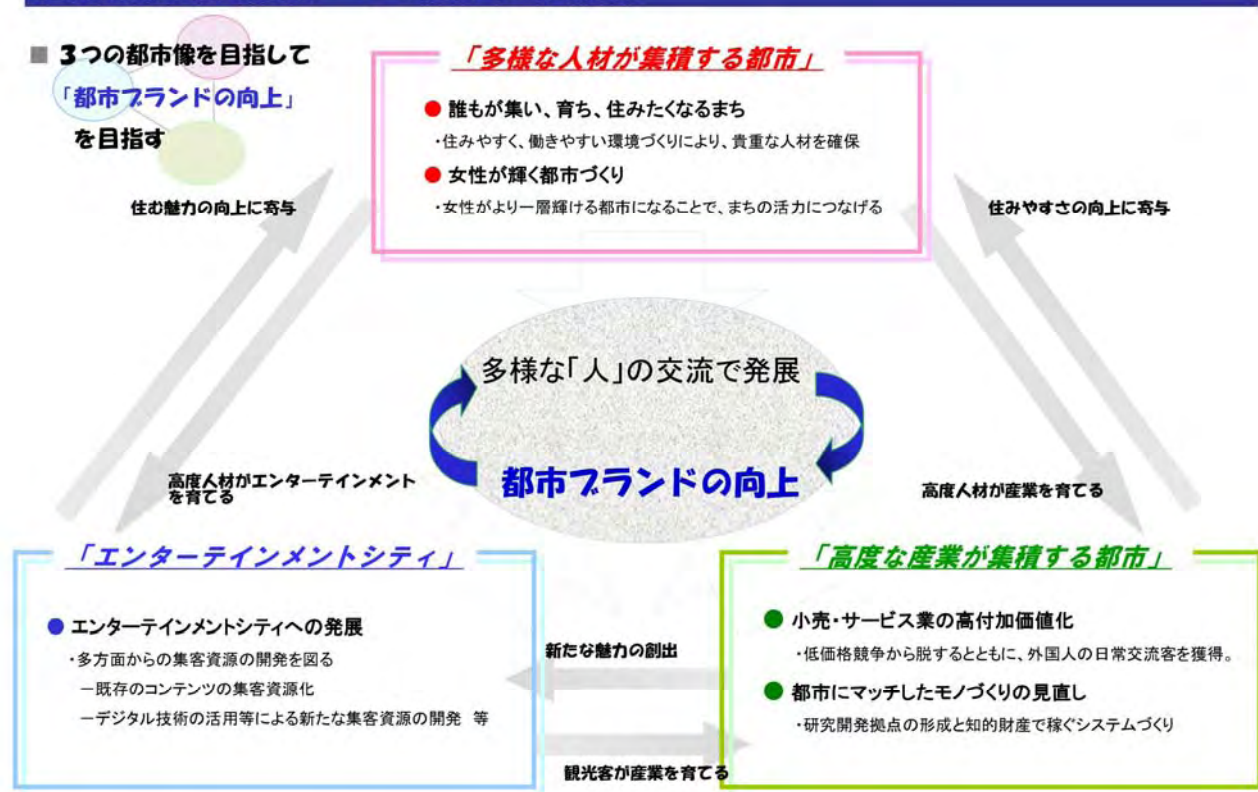
- ◇ アジアの環境分野の拠点都市となり、環境分野において最先端技術・知識を持つ人材が集まるまち
- ◇ アジアにおける環境技術のショーケース地域となり、環境技術を資源に産業・観光を興す人材がうまれるまち
- ◇ リサイクルビジネスでアジアに羽ばたく人材が育つまち
- ◇ 黄砂などの越境大気汚染の発生抑制のための技術移転・植林事業や「福岡方式」などの環境技術の活用により、国際貢献を推進

- 提言チーム名 経済振興局職員提言検討チーム
- テーマ 2036 - 「Fukuoka の時代」に備えよ -
- 概要

・将来の人口減少社会の到来が予測されるなか、福岡市が「商業都市」として発展を続けるためには、多くの、かつ多様な人が集まり、楽しみ、働くことで交流を活発化していくことが不可欠。

・「①高度な人材が集積する都市」「②エンターテインメントシティ」「③高度な産業が集積する都市」の3つの都市像を目指すことにより、多様な人の交流で発展し、本市の都市ブランドを向上させ、それがさらなる魅力につながって新たな人を惹きつける好循環をもたらし、成長していくまちを目指す。

経済振興局職員提言チームの提言〔全体概要〕



■ 「多様な人材が集積する都市」

本市のトップクラスの住みやすさや、女性・若者が多いという特性を活かすことで、多くの人が集まる都市を目指す。

■ 「エンターテインメントシティ」

本市に集積が進むデジタルコンテンツ産業のほか、観光施設、自然・歴史、文化・スポーツ等の様々なコンテンツを、エンターテインメントの観点から都市の魅力につなげ、国内外からのさらなる集客を目指す。

■ 「高度な産業が集積する都市」

本市の商業都市という特性を発展させるとともに、産業構造の重層化を図るため、第3次産業の高付加価値化と、都市にマッチしたモノづくりの見直しにより産業の振興を目指す。

- 提言チーム名 農林水産局職員提言チーム
○テーマ 農林水産業を通じて「真の豊かさ」を創造する



○概要

◆ **福岡市は恵まれた自然を有している。**

- 西部に農業振興地域，南部に森林，長い海岸線延長，博多湾を擁した独特の地形
- 人口が 145 万人超でありながら，豊かな自然に恵まれ，さらに都心部からすぐに行くことができる。
→ 豊かな自然と都市活動が調和。「ほどよく都会，ほどよく田舎」
- この「魅力」を守り，さらに磨きあげていくことが大事。この「魅力」を支えているのが農林水産業

◆ **都市の魅力に磨きをかけ，「豊かさ」を実感できる都市を目指す。**

- これからも福岡市が「住みやすい」と評価される都市であり続けるためには，「豊かさ」を実感できる都市へ
- 「豊かさ」はこれまで物質的なもので象徴されてきたが，25 年後は「お金」で買えない「精神的な豊かさ」が求められるようになる。
- 25 年後の「豊かさ」の象徴は「3C」
 - ・ 快適都市（Comfort） 豊かな自然と潤いのある空間
 - ・ 文化都市（Culture） 洗練された食文化，自然の中での活動，娯楽
 - ・ 交流都市（Communication） 都市と農村の交流，生産者と消費者の交流

◆ **農林水産業は，都市の魅力を支え，「真の豊かさ」を創造していく。**

- 農林水産業は，食糧の生産にとどまらず，様々な分野で，都市の魅力を支え，「豊かさ」を創造していく。

国土保全 → 森林の水源涵養機能，農地の治水，保水機能

環境保全 → 森林による CO2 吸収

教育・食育 → 命を育む生産活動の尊さを知り，感謝の気持ちを醸成

癒し，潤いの創造 → 田園，牧場など良好な景観の形成，家庭菜園，市民農園などによる農業との触れ合い

食の安全・安心 → 「安全」で「安心」な食物を「安定」供給する市場機能。朝市，直売所における新鮮な農産物，魚介類の販売（生産者と消費者の交流）

経済振興（観光） → 地元の食材は食文化を支え，魅力ある観光資源。生産，流通，消費が近接している強みを活かす。

○提言チーム名 住宅都市局職員提言検討チーム

○概要

本市は、これまでの様々なまちづくりなどにより、コンパクトな市街地を形成し、快適便利な都市となっているが、経済活動の停滞、少子高齢化や人口減少など、都市を取り巻く社会情勢が厳しさを増す中、「海を体感できない」などといったまちづくりの課題も多く、今後は、アジアのパワーを取り込み、世界へ展開・情報発信することなどが必要となっている。

そこで、今後の都市づくりの基本的なスタンス、5つの「新たな都市像」を以下のとおり提言する。

《都市づくりの基本的なスタンス》

アジアとの交流の歴史を活かし、多種多様な文化や価値観を受容れ、
“ふくおか”に出会うすべての人々を魅了する世界の“FUKUOKA”へ

《5つの「新たな都市像」》

都市像1：豊かな自然環境を守りながら、持続的発展を続ける

美しく風格ある環境共生都市“FUKUOKA”

立花山・脊振山などの山並みを背景に、アジアへの玄関口として玄海灘・博多湾がお出迎え。足を伸ばせば「あっ」という間に豊かな自然を身近に感じることができる都市。

市街地では、社会資本の更新や都市機能の充実が進むと同時に、自然・都市・歴史が調和した美しく風格ある街並みを創出し、特に都心部では緑やオープンスペースがあふれ、歩いて気持ち良い都市空間の中で、「海」を身近に感じることができる都市。

また、日常生活や経済活動、交通などにおいて、スマートエコロジーな都市をめざす。

都市像2：輝きを増した伝統文化・歴史資産が人々を魅了し、目を輝かせた

ビジネスパーソンが行き交うアジアの交流創造都市“FUKUOKA”

「YATAI（屋台）」「YAMAKASA（山笠）」など福岡の文化が世界共通言語として発信されるとともに、福岡城の天守閣などの歴史的シンボルが復元されることで、観光を目的とした来訪者が増え、来訪者との多言語コミュニケーションやおもてなしで魅了できる都市。

同時に、本市の成長産業であるICTやファッション産業、物流業界などでは、アジアをリードするビジネスパーソンとの交流が活発になり、新たなビジネスチャンスが創出され、そこで生まれたモノがアジアへ羽ばたける都市をめざす。

都市像3：「職住健学遊」が充実し、

誰もが安心して住み続けたいくなる快適安全都市“FUKUOKA”

高齢者、障がい者、子育て世代、学生、外国人など、誰もが安心して住み続けたいくなる、職（が）あり・住（まい）があり・健（やか）で・学（び）・遊（ぶ）のバランスが整ったユニバーサルな都市。

また、福岡県西方沖地震などの経験を踏まえ、大規模な災害にも対応できる建物の不燃化・耐震化や警固断層上の対応など、都市防災基盤のハード・ソフト整備が進んだ都市をめざす。

都市像4：一人ひとりが主役となって、「いつでも」「なんでも」「なんどでも」、

夢を持って挑戦できる元気活躍都市“FUKUOKA”

市民一人ひとりが社会との強いつながりを保ち、その知恵や技能など個性を生かしながら、学校、ビジネス、地域社会などにおいて、主体性を発揮できる都市。

セーフティネットが行き届き、誰もが世代を問わず、志を持って失敗を恐れずに、自分の夢に向かってチャレンジ可能な都市をめざす。

都市像5：市民・企業・NPO等の自立的活動が進み、

誰もが実感できる自治先進都市“FUKUOKA”

市民・企業・NPO等の社会貢献、地域貢献が日常的に行われ、各々の活動範囲における地域の魅力が向上し、さらにこれらの自立的活動が活性化していく都市。

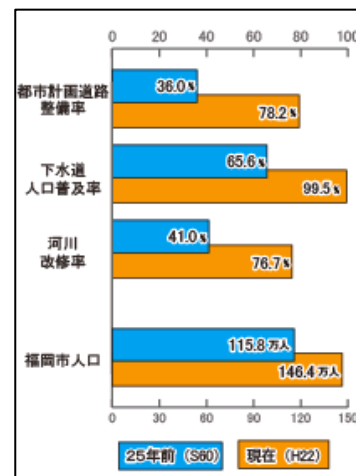
また、地域づくりにおける役割を果たしていく中で、市民一人ひとりが充足感を持って自分の住む地域を創出していくことが実感できる都市をめざす。

- 提言チーム名 道路下水道局職員提言検討チーム
- テーマ アジアで輝き続ける循環型都市ふくおかを目指して
～市民・企業等との協働、福岡都市圏との連携を基軸に～

○概要

＜現状分析とこれからの福岡市の発展のために＞

- ① 福岡市は、今までの25年間、市民ニーズに応じて道路・下水道・河川のハード整備を行い、世界の中でも有数の住みやすい都市として成長してきた。
- ② 現在では、都市の成長に伴う新たな市民ニーズやゲリラ豪雨など新たな自然災害、人口減少など社会の変化、温暖化など世界的な環境問題等に対応する必要性が出てきている。
- ③ これからの福岡市の発展には、市民・企業との協働や福岡都市圏との連携により諸問題に対応し、安全、環境、活力の視点を大切にして「住みやすさ」「街の活力」「アジアとの近さ」といった本市の強みを強化する必要がある。



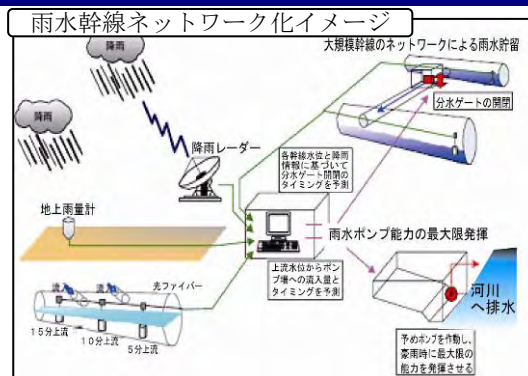
＜目指すべき社会と具体的な施策＞

上記①から③を踏まえ、福岡市が目指すべき社会と具体的な施策を提案する。

【Ⅰ 安全】地球温暖化の進行や大規模地震などの自然災害に対応できる強靱な社会

福岡都市圏の流域単位の総合的な治水・浸水対策

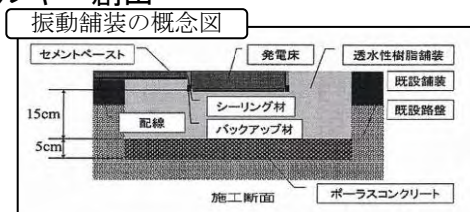
- ・ 県から市への二級河川の権限委譲
- ・ 既存施設の有効活用
(雨水幹線のネットワーク化等)
- ・ 人口減少に伴う空き地を活用した土地利用規制・誘導による床上げ規制、遊水池設置等、雨水貯留施設の整備



【Ⅱ 環境】住みやすさを維持・強化しつつ資源の逼迫に伴う省（創）エネルギー型社会

既存資産（道路空間、下水道施設）を活用した新エネルギー創出

- ・ 通行車両の振動を元に発電する振動舗装
- ・ 都心のビル風を活用する照明灯と一体式の風力発電施設
- ・ 太陽光など自然エネルギーを活用した電力100%自給型下水処理場



【Ⅲ 活力】既存資産や地域特性を活かした人が集う魅力ある社会

アジアに向けたビジネスを創出する社会

都市空間の積極的な活用による魅力向上

- ・ 渡辺通りなど一定規模の道路を中心とした都市空間においてイベント実施
- ・ イベントの実施と合わせて、バス・自転車の利用を促進

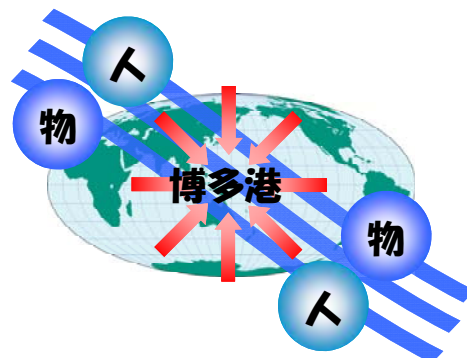


○提言チーム名 港湾局職員提言検討チーム「みなとチーム」

○テーマ 輝く個性で**人**、**物**を魅きつけるみなと

○概要

- ・人、物の「流」れがまちを活性化させる。
- ・一方、流しっぱなしにせず、博多港の地理的歴史的優位性を活かして人、物を「集」めてまちを活性化させる。
- ・集まった「人」をただ流すのではなく、いかにふくおかに「留」めてから流すかが重要。
- ・集めた「物」については、博多港独自の付加価値を加えたものを「創」りだして流す。



⇒みなとの元気をまちの元気につなげ、ふくおかのまちを支えられるみなとになるため、「人を**集**め、**留**めて**流**すみなと」「物を**集**め、**創**りだして**流**すみなと」を提案する。

「人流」～人を集め、留めて流すみなと～



- 日帰りされないための、夜と朝の魅力づくり
 - 中心部から離れた東西の核に人を集めることで、みなと全体をうるおすシャワー効果
- 提言 1** 人を魅惑するウォーターフロントと路面電車
- ・「集」都心部ウォーターフロントをアジアクルーズの拠点に
 - ・「流」大博通りに2階建て路面電車(博多駅からウォーターフロントを通じて世界へ)
 - ・「留」夜の中華街・屋台、朝の魚市場
- 提言 2** 東のグリーンアイランド ～アイランドシティ～
- ・「集」環境配慮型のまち、文化産業の拠点
 - ・「流」種々の公共交通が選択できる交通体系の確立
 - ・「留」高度医療の集積による医療ツーリズム、留学生の受入れ
- 提言 3** 西のグリーンアイランド ～能古島～
- ・「集」観光資源の掘り起こし、PR
 - ・「流」歩行者・公共交通に限定した橋を架橋
 - ・「留」季節ごとの夜のイベント、夜景

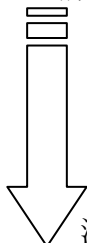
「物流」～物を集め、創りだして流すみなと～



- 安定した貨物獲得のための、博多港オリジナル製品を創出
 - 物流コストの低減と手続きの簡素化による、選ばれるみなとづくり
- 提言 1** アジアの台所『Kitchen of Asia』でつくる『Gameni がめ煮』
- ・「集」ブランド食材、九州産の食材を充実した国内輸送網を活かし市場に集荷
 - ・「創」例えば九州の食材が詰まった『Gameni がめ煮』などのように、鮮度が命のオリジナル惣菜を博多港で創出
 - ・「流」鮮度を保ったまま東アジアへ惣菜・食材をすぐにお届け
- 提言 2** 使用料の引下げと手続きの簡素化
- ・「集」みなと関連企業等の税の一部を港湾施設費に使える仕組みづくり
 - ・「流」車両の国際間相互交通、車上通関等の規制緩和
- 提言 3** エネルギー革命と水ビジネス
- ・「創」荒津地区を自然エネルギー創出の拠点に
 - ・「流」下水処理水のバラスト利用、海水淡水化施設での水ビジネス

- 提言チーム名 消防局職員提言検討チーム
 ○テーマ 安全・安心からはじまるまち
 ○概要

【人口構造の変化に伴う都市の変化】



・・・少子化，高齢化が更に進展し，災害時
 要援護者の増加，救急需要の増加が深
 刻化することが予想される。



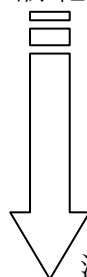
消防局が取り組むべきこと

- ・関係部局，医療機関，福祉施設等との緊密な連携
- ・防災教育・普及啓発の積極的な実施

例：市民病院に消防ヘリコプター
 を配置

- 救急の高度化による救命率の向上
- 関係部局，医療機関，福祉施設との連携強化による救急需要増加への対応
- 小・中一貫の防災教育による防災の担い手の育成

【国際化の進展】・・・観光客，ビジネスマン，留学生等の



外国人来訪者の増加が予想される一方
 で，防災に対する意識の相違や言葉が
 通じないことなどにより，災害時の救
 護が必要となる。



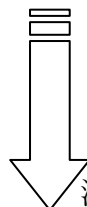
消防局が取り組むべきこと

例：海外への専門職員の派遣

- ・外国人来訪者が安全に過ごせるように防災面に配慮したユニバーサルなまちづくり

- 職員の職務に必要な語学能力の向上
- 避難経路などの案内標識や避難誘導アナウンスの多言語化の推進
- アジア各国の消防組織との人材交流

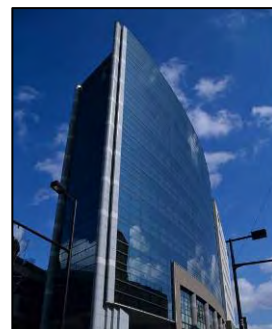
【地域性の変化】・・・都市化に伴うコミュニティ機能の更なる低下や，高齢者世帯の増
 加，住居形態の変化（核家族化）などにより，地域防災力の低下，
 情報格差の拡大，防災に対する市民ニーズ
 の多様化が予想される。



消防局が取り組むべきこと

- ・防災面からもバリアフリーのまちづくりの推進
- ・地域の特性に応じたきめ細やかで高水準のサービスの提供

- 防災活動を通じたコミュニティの強化
- 防災に関する知識，技術の提供
- 緊急情報提供サービスの充実
- 地域の防災リーダー（消防団，防災士など）の育成と活用
- 関係機関と連携した災害時要援護者情報の把握



例：各区に防災コミュニ
 ティセンターが
 オープン

- 提言チーム名 水道局職員提言検討チーム
○テーマ 福岡市の水道事業の将来像
○概要

福岡市水道局は、九州最大の都市で水道水を供給するとともに、他の都市が経験していない大渇水という苦難に対して市民とともに取り組み続けてきた事業者でもある。

水道局の使命は、25年後においても現在と変わらず、市民への「安全で良質な水の安定供給」が基本である。

また、気象の変動による降水量の偏在化や人口増減に伴う水需要の変化、水道施設の老朽化、大規模災害への対策、さらにはリーダー都市として果たすべき役割など、今後、新たな局面に対応していくことになるが、この中において、福岡市の水道事業は、

- 水道局の使命を将来に渡って実現していく「市民に信頼される水道」、
- これまでの経験や財産を活用し、福岡市と共通した課題を持つ九州地区の事業者の水の安定供給に関わる「九州を牽引する水道」、
- さらに深刻化すると考えられる世界的な水問題の解決への答えを持つ都市のひとつとして存在感を高めていく「世界へ発信する水道」

を将来像として目指していくべきと考えられる。

将来像の実現に向けた提言

将来像1「市民に信頼される水道」

- (提言 1-1) 浄水場の集約化等による浄水処理の効率化
- (提言 1-2) 水管理センターの事故・災害対応拠点化
- (提言 1-3) お客さまのニーズに合わせた水道水のおいしさの追求と取り組みのアピール
- (提言 1-4) 水道局が所有する水源林を活用した自然環境への取り組み
- (提言 1-5) 水道事業の特徴を活かした新エネルギーの導入
- (提言 1-6) スマートメーターの導入による経費削減と節水意識の向上

将来像2「九州を牽引する水道」

- (提言 2-1) 災害等への広域的協力体制の強化
- (提言 2-2) 九州内の中小水道事業者の支援体制の確立

将来像3「世界へ発信する水道」

- (提言 3-1) 水道技術集積都市「福岡市」の世界への発信

【水管理センター(配水調整システム)】

配水管の水圧、流量を常時監視し、遠隔操作でバルブをコントロールすることにより、浄水場相互間の流量調整や水圧調整を行うシステム。昭和56年に全国に先駆けて導入。



○提言チーム名 交通局職員提言検討チーム

○テーマ 25年後の地下鉄

○概要

- ・地下鉄は昭和 56 年に開業し、今年度で開業 30 周年。現在では 3 路線合計で 29.8 キロ、1 日に 34 万人以上のお客様にご利用頂いており、市民生活、都市活動に不可欠な都市基盤施設として、これまでも福岡市の発展に大きく貢献してきた。
- ・25 年後の福岡は人口の減少や高齢者割合の増加が予想されるとともに、さらなる環境への配慮など、様々な課題に対応していく必要がある。地下鉄がこれから迎える時代にふさわしい公共交通機関であるために、安全・安心、快適・便利なサービスを追求していくとともに、さらなる利用促進に努めていく必要がある。

25 年後の地下鉄像を

「人と環境にやさしく、都市に活力を与え、お客様に愛される地下鉄」

とし、その実現のため下記 4 項目を提言する。

提 言 項 目	提 言 要 旨
①未来につながる地下鉄 ・地下鉄七隈線の延伸 (天神南～博多駅) ・既設の地下鉄の活用	・地下鉄七隈線延伸計画の早期実現を目指すとともに、地下鉄の既存のストックを最大限に活用し利用促進を図る。 ・これからも関係局や他事業者等と連携しながら福岡の街とともに地下鉄も成長を続ける。
②自然環境と共生する地下鉄 ・自然エネルギーの活用 ・消費エネルギーの削減 ・自家用車からの転換	公共交通事業者としてできる低炭素社会の実現に向けた取組をさらに進めるとともに、今後とも「自然環境と共生する地下鉄」をコンセプトに、自家用車から地下鉄へ移動手段を転換したいと考えていただけるような、魅力ある地下鉄を目指す。
③人にやさしい地下鉄 ・すべての人が使いやすく 分かりやすい地下鉄 ・便利で生活に密着した地下鉄 ・心が癒されるあたたかい地下鉄	今後とも少子高齢化や国際交流の活性化などによる社会情勢の変化に適時適切に対応しながら、快適・便利で心癒される地下鉄を目指す。
④楽しい地下鉄 ・企画列車の運行 ・駅の個性化 ・地下鉄主催のイベントの開催 ・ＩＣカード「はやかけん」の活用	地下鉄に「お楽しみ」の要素を加えることで、今よりももっと親しみを持っていただくとともに、地域に密着した、皆様に愛される交通機関を目指して、今後さらに利用促進につなげていく。

《1時間目》アジアの人々と学び合える都市づくり

「アジアの一員としての福岡市民との意識」を醸成し、「様々な文化を持つ人々との共生を双方向で目指す態度」を身につけ、世界に目を向けた国際都市になろう。

◆ポイント◆

- ①英語以外でも簡単な会話ができるように小学校高学年から中国語、韓国語を必修化!!
- ②校内放送の多言語化やアジアの学校との交流などアジアを意識した学校づくり!!
- ③身につけた語学力で住民レベルで伝統行事を紹介しあうなどの地域交流を!!

《2時間目》笑顔の子ども、元気な先生、楽しい学校

障がいの有無に関わらず全ての子どもが通い、いつも笑顔で学べる学校、教員が子どもと向き合い、教育活動に専念できる学校を作ろう。

◆ポイント◆

- ①全校でスロープなどの整備や福祉・医療の専門職の配置などユニバーサルスクール化!!
- ②ITを活用し、学校に登校できない子どもが授業に参画できるような仕組みづくりの推進!!
- ③道徳や社会教育を中心とした「福岡版生きる力」を育てる学習を充実!!



○
月
△
日

日
直
×
×

《3時間目》地域の力で子どもを育み、子どもの力で地域を元気にする

～ 地域と学校は共存共栄 ～

学校と地域が共存共栄するために、学校と地域がそれぞれの課題を共有・解決したり、海や山、農業や商店街など地域の特色を活かしたり、地域の方々が常に学校に関わっていく仕組みを作ろう。

◆ポイント◆

- ①高齢者による遊びの伝承やスポーツ選手による部活など地域の達人による指導!!
- ②学校で子育て相談やコミュニティ支援が受けられるなど学校のコンビニエンス化!!
- ③地域が抱える課題に子どもが職業訓練として関わり、課題解決という収益が地域に還元される(コドモコミュニティビジネス)仕組みの確立!!

《4時間目》文化芸術を育み、発信する都市

福岡市が国際都市として発展するため、歴史・文化・芸術を創造・共生・発信することで「文化・芸術の街ふくおか」「歴史ある都市ふくおか」などと呼称される都市になろう。

◆ポイント◆

- ①芸術家による作品発表や絵画教室、講演等を芸術村で開催し、若手育成や情報発信を!!
- ②芸術家や音楽家などを学校に招聘し、子どもの頃から「本物」に親しむ教育の推進!!
- ③国内外に福岡市の歴史を学び、理解してもらうために、福岡城・鴻臚館を復元するなど、福岡市が歴史・文化を守り、活かす都市であることを発信!!



○
月
△
日

日
直
×
×

○提言チーム名 東区職員提言検討チーム
○テーマ 25年後の東区～東区未来予想図～
○概要



- ・豊かな自然や悠久の歴史・文化に富み、多くの大学が立地するなど地域資源に恵まれているまち『東区』。
- ・将来にわたり元気で魅力を生み出すまちであり続けるには、社会の変化に柔軟に対応し、人・自然・文化が共存するとともに、互いの持つ力を最大限に引き出すことが重要。そのためには、今以上に市民・企業・行政が一体となり、まちづくりに取り組むことが必要。

→今あるものを『磨き、引き継ぐ』力、守るだけでなく『新しい魅力』を創り出す力、人と人がまちづくりに『かかわり育む』力、これら3つの力が東区が未来へと歩む原動力となる。

○提言

『みんなで磨き創り、未来へと歩むまち、東区』を東区の将来像（ビジョン）とし、その実現に向けた施策を下記のとおり提言する。

【磨き、引き継ぐ】

1. 自然

- ・体験型環境保全活動の推進（親子参加型、スポーツとしての保全活動 など）
- ・エコツーリズムの推進（宿泊型ボランティア活動 など）

2. 文化

- ・九州大学移転跡地を生かしたアーティストの育成（アートヴィレッジ開設）

【新しい魅力】

1. アイランドシティ周辺

- ・海のセントラルパークづくり（エコパークゾーン周回海岸遊歩道の整備、東区校区対抗大運動会の開催、中核的体育館等スポーツ関連施設の整備）

2. 千早駅周辺

- ・行政機能の集積
- ・東区ミュージックフェスタの開催

3. 香椎駅周辺

- ・香椎まるごとマーケット（学生が企画運営する個性豊かなショップ など）
- ・香椎まるごとミュージアム（東区アートフェスタの開催）

4. 箱崎周辺

九州大学移転跡地・建物を活用した

- ・文化交流センターの整備（建物を多様な文化が交流できる場として提供）
- ・芸術家村の整備（建物をアトリエとして提供）
- ・大芝生広場の整備（敷地の地下に雨水貯水槽などの防災機能を付加）

【かかわり育む】

1. 地域貢献ポイントカードの導入（優秀者・企業へは市税減免やPRなどのメリット）

○提言チーム名 博多区職員提言検討チーム

○テーマ 「25 年後に向けた職員提言」 博多区の将来像

○概要

【将来像 1】

地域への愛着を持ち、みんなが参加する活発なコミュニティがあるまち



◇取り組みの方向

- 1 高齢者や障がい者の地域活動参加の促進と子ども達への経験や伝統の継承
- 2 イベントなどを通じて誰もが参加しやすいコミュニティづくり
- 3 共用スペースなどを活用した集合住宅のコミュニティづくり
- 4 企業メリットを踏まえた事業所のコミュニティ参加促進（地域広報で取組み紹介）
- 5 子どもの頃から住みやすさを繰り返し学習するなど博多区への関心と愛着の醸成

【将来像 2】

子どもや高齢者・障がい者に優しく、みんなが健康で生きがいを持てるまち



◇取り組みの方向

- 1 異世代間交流や高齢者・障がい者の社会参加促進等による見守り体制の構築
- 2 博多の健康的な郷土料理を活かした食育推進と食文化の伝承
- 3 メディアや企業を利用した生活習慣改善に向けた啓発（イベントとのコラボ等）
- 4 楽しみながら自分に合った健康づくりができる環境整備（公園設備の整備等）

【将来像 3】

夏涼しく、環境と共生するまち



◇取り組みの方向

- 1 ヒートアイランド現象の抑制（屋上緑化、ミスト冷却装置等）
- 2 環境意識の啓発による再生可能エネルギーの導入促進
- 3 事業所や街中のごみ減量促進（優良事業者への税制優遇措置等）

【将来像 4】

交通や防犯に関する基盤整備が進んだ安全で住みやすいまち



◇取り組みの方向

- 1 博多駅筑紫口側の整備や空港周辺道路の整備
- 2 交通結節機能の強化による南部交通利便性の向上（フィーダーバス普及等）
- 3 良好な自転車走行空間の確保と危険走行等の解消（小学生からの啓発等）
- 4 公共建築物の形状の工夫や防犯設備の充実による犯罪防止

【将来像 5】

変化に富んだ観光のまち



◇取り組みの方向

- 1 回遊路の整備や外国語などのおもてなしスキルの向上
- 2 伝統工芸のブランド化と芸能人の活用等による P R
- 3 大規模駐車場の整備や駅や港から観光地への移動利便性の向上

○提言チーム名 中央区職員提言検討チーム

○テーマ 未来への5つの挑戦(エナジーとエコと絆の中央区)

○概要 「エナジー＝ずっと活力が続くまち」「エコ＝環境にやさしいまち」「絆＝人と人とがつながるまち」から生まれる、「5つの未来像」に挑戦することを提言。

エナジー

絆

提言1 多文化共生の街 中央区 ～商業と住環境の両立～

25年後も商業の中心であり続けるため、購買力のあるアジアの人々の居住を促進し、商業の振興を図ります。また、都心から近い須崎埠頭を開発します。

- ・ マンションの建設、インターナショナルスクールや、外国人医師の診察可能な病院の設置など居住環境を整備し、アジアの外国人の居住を促進。
- ・ 副次的に外国人に対する「おもてなしの心」や、観光客の増加を実現。

エナジー

提言2 アジアに開かれた魅力ある中央区

世界中から観光客やビジネスマンが集まる活力あふれる都市となるため、須崎埠頭を既存のコンベンションゾーンと併せて開発し、アジアの玄関口として整備します。

- ・ 須崎埠頭に第2コンベンションゾーンや国際港ターミナル等の整備。
- ・ これを支える柱として、①食をテーマにした市場等の再編、②観光をテーマにした名所の開発、③活気をテーマにしたイベント会場の充実 を実施。

絆

提言3 人 つながる 中央区

～ as you like(あなた次第)のまちを目指して～

コミュニティが持つ「課題解決」と「自然発生」の二面性の接点こそ、人がつながるきっかけとなり得ます。そんな「まちのコラボステーション」を提案します。

- ・ 課題解決に向かう「必然のつながり」と背景を持たない「偶然のつながり」を連携させる場として、「公民館」を地域の居間「まちのコラボST」に転換し、地域が運営。
- ・ 「まち・地域」支える緩やかな「つながり」の中で、人々の多様な物語を生み出す。

エナジー

エコ

提言4 チャリシティ 中央区

自転車の放置や事故件数が多い中央区は、自転車の大きなメリットに注目し、「乗りやすい・とめやすい・歩きやすい」チャリシティを目指します。

- ・ ハード面の整備；アーケード付自転車専用レーンを整備など。
- ・ ソフト面の整備；自動車を規制する「自転車天国」や、「自転車保険の加入」など。

エナジー

エコ

提言5 緑と憩いとエコの空間 中央区

ネット・高齢化社会においても活気溢れる街であるために、緑とエコをキーに新しい街の魅力を創造し、憩いを求める多くの人が集まる街を目指します。

- ・ 都心部に「グリーンベルト」を設け、自動車に代わる足として路面電車を整備。
- ・ 市役所跡地と既存の公園が一体となった「天神セントラルエコパーク」の整備。
- ・ 警固屋台公園と屋台リーグによる魅力ある屋台の創造。

中央区職員提言チーム
Dramatic Future Chuo !



○提言チーム名 南区職員提言検討チーム

○テーマ 『25 年後も 子どもからお年寄りまでみんなが暮らしやすい街・南区』

○南区の概況

- ・面積は全市の 9 %で 7 区中 5 番目だが、人口は 16.9%で 2 番目。
- ・昭和 30 年代半ばから開発が進んだ戸建住宅や大規模団地が広がる「生活のまち」。
- ・人口は横這い傾向（H22 国勢調査確定値）。高齢化率は 26%を超える校区もある。

○提言概要

「若者や子育て家族が住みたくなる街」「お年寄りがいつまでも元気で暮らせる街」の 2 つの視点から、暮らしのいろいろな分野にわたって提案。

●住みたくなる街並みづくり

- ・自然環境調和型の新しい暮らしの街を創造
- ・2 世代、3 世代住宅を応援
- ・オシャレな街区を整備
- ・子育てに優しいマンションを普及促進

●自然を楽しむ暮らしをしよう

- ・森や池のそばにステキなお店誘致
- ・自然体験イベント充実
- ・周辺市町村とコラボ
産直店、新規就農者養成など

●仕事環境

- ・交通不便地に環境関連産業や社会貢献
企業を誘致
雇用拡大、高齢者の職場提供
交通利便性も同時に向上

●交通システム

- ・新交通システム導入
LRT（軽量軌道交通）など
- ・新幹線の新駅を誘致
- ・巡回バス・タクシー運行
- ・カーシェアリング促進
主要ポイントにステーション設置、
電気自動車など低公害車を利用

●魅力、アトラクションづくり

- ・自然動植物園を整備
既存施設をパワーアップ
- ・プロスポーツチームのホームタウン
- ・賑わいスポットづくり
B 級グルメロードなど

●学校や医療機関など

- ・全国ブランドになる特色ある学校や、
保育所、幼稚園を整備 or 誘致
- ・メディカルモール整備
いろいろな分野の医療機関を集積

●健康づくり

- ・自転車やウォーキングの普及促進
- ・アスレチック公園など環境整備
- ・健康食を区役所食堂などから普及拡大
- ・元気な高齢者を応援

●地域コミュニティ

- ・公民館をコミュニティ・ステーション化
カーシェアリングやレンタサイクルの
ステーションとしても活用、
教養・スキルアップ講座充実
- ・世代間交流を促進

●社会貢献活動などの促進

- ボランティアポイントなど普及拡大
の仕組みづくり

さあ、みんなで、
明るい未来をつくろう！



南区広報担当キャラクター ため蔵ファミリー

- 提言チーム名 城南区職員提言検討チーム
- テーマ 人と出会い、対話が生まれるまち
～「おたがいさま」の気持ちが紡がれる～

○概要

市内で最も高齢化率の高い城南区は、企業で能力を培ったり人脈を豊かにした高齢者が多いばかりでなく、区内に2校の大学（学生数は約2万5千人）があることから、専門性のある人材にも恵まれ、平日の昼間は「人材の宝庫」である。

このような人材が持つパワーを積極的にまちづくりに活かすためには、お互いが出会うための「場」「拠点」、対話が生まれるための「共通体験・共通活動」が必要である。

そこで、職員提言チームは、区内に「ニッコりんC a f e」と「ニッコりんセンター」の設置を提案する。

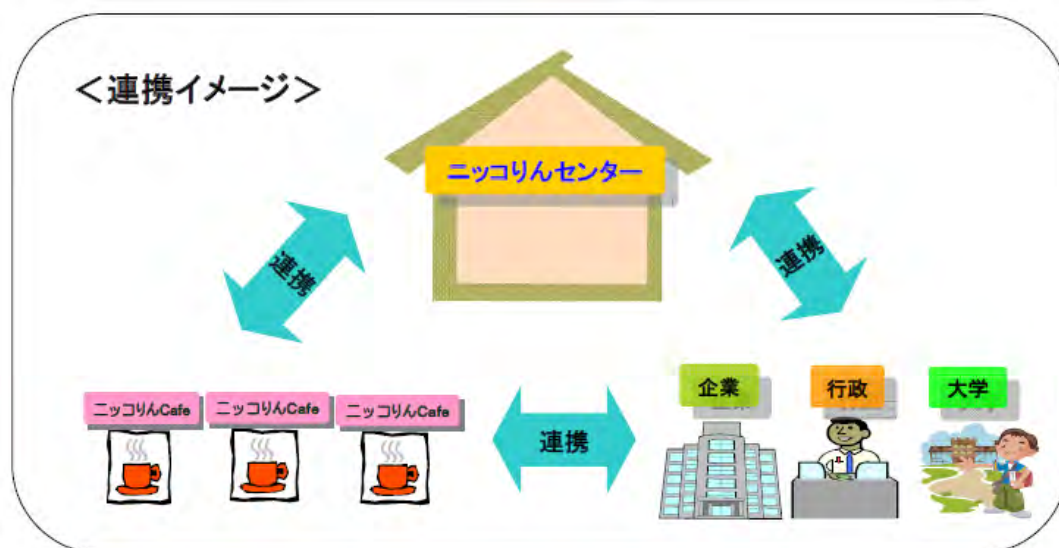
「ニッコりんC a f e」と「ニッコりんセンター」って
どんなところだろう？



城南区シンボルキャラクター
油山の妖精 ニッコりん

誰でもふらりと立ち寄れる「ニッコりんC a f e」は、毎日のように講座や催しものが行われる地域住民憩いの場であり、地域で困ったことも、常駐するスタッフが必要な機関に連絡をとって、スピーディに解決に導いてくれる。

「ニッコりんセンター」は、コーディネーターを中心に企業や大学、行政などの関係者が集まり、「ニッコりんC a f e」では解決できないような困難な課題も、コミュニティビジネスをはじめとする様々な手段で解決していく拠点である。



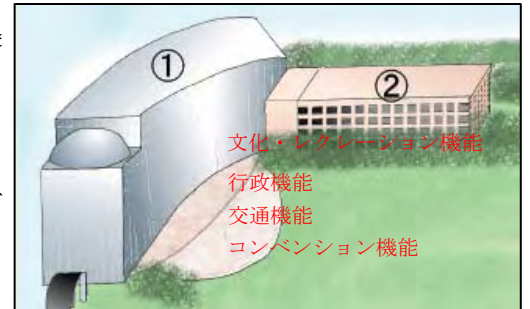
職員提言チームは、これからの地域社会や地域づくりには、「ニッコりんC a f e」や「ニッコりんセンター」のような世代を超えて集まることのできる「温もりのある場所づくり」とともに、対話が生まれ「おたがいさま」の気持ちが紡がれる「共通体験や共通活動」が必要不可欠であると考えている。

○提言チーム名 早良区職員提言検討チーム1班

○テーマ 「早良区ブランドプロジェクト もっと早良が好きになる」

○概要

- ・ 現早良区役所は、地下鉄・バスの結束地点に位置し、立地条件が非常によい。ここに西部副都心の文化拠点としてSCM（サワラ・カルチャー・ミュージアム）を整備。区役所は、早良区の人口密集地である区中部へ移転。
- ・ ももち地区のブランド力を強化。観光客向けのショッピングストリートや、外国語サインの整備。まちの緑化を推進し、快適でおしゃれな生活ができるまちへ。
- ・ 早良区を縦断する交通網を整備するとともに、歩道のバリアフリー化や、街路樹、街灯の整備を進め、まちあるきイベントを実施し、快適に「まちあるき」ができるまちへ。
- ・ 早良区南部の自然を活用し、食と健康、美（芸術）をキーワードとしたイベント「大早良祭」を開催。日本国内、世界へ向けて、魅力発信・集客を行う。



○提言チーム名 早良区職員提言検討チーム2班

○テーマ 「SAWARA BOWL ～日常的に人が行き交うまち早良～」

○概要

- ・ 25年後、福岡市が活力あるまちであり続けるためには、チャレンジする人を創出し続けるまちであることが大切。その土壌となるのが「ひと」の「交流」である。
- ・ ひとの交流拠点、まちづくり活動の拠点「SAWARA BOWL カフェ」をオープン。
- ・ 単身赴任や地元を離れ一人暮らしする学生などを地元住民と結びつけ、福岡市（早良区）を第二の故郷として、交流を深めるしくみ「疑似親戚倶楽部」。
- ・ 女性や学生、若者、業種転換を図ろうとする人などの起業を支援。人材交流、情報交換、人材発掘の場となる「プチ起業塾」の開校。
- ・ 豊かな自然を有する福岡市の貴重な憩いの空間である脊振山麓に芸術村を整備。クリエイターや、芸術家、有名人、富裕層らの活動地・避暑地へ。
- ・ 外国人が活動しやすいまち「外国人うえるかむプロジェクト」（無料外国語講座、教室受講生は語学・観光ボランティア登録。英語村における異文化交流、語学研修）
- ・ ももち～西新地区を中心に持続可能な都市（サスティナブル・シティ）として、人中心の社会を構築。

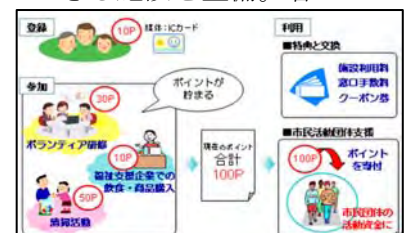


○提言チーム名 早良区職員提言検討チーム3班

○テーマ 「いきいき生活支援 誰でも楽しく簡単に参加できる福祉」

○概要

- ・ 子ども園を中心に、赤ちゃんから高齢者・障害者まで利用することができる施設を整備。昔の大家族のような空間をつくり、世代間交流を通じて地域の活性化に繋げる。また、ボランティアをしたい人・欲する人の情報拠点としての機能を兼ねる。
- ・ ボランティアポイントの創設。ボランティアを行うことで、ポイントがもらえて、さまざまな特典を付与。ボランティア参加のきっかけとインセンティブを高める。
- ・ ボランティアコーディネータを育成し、さまざまな関係機関と連携し、住民と共同しながら、ボランティア活動をコーディネートしていく。



- 提言チーム名 西区職員提言検討チーム
- テーマ 「25年後の『西区の宝』を考える!!」
- 概要

西区の25年後を見据えた提言

→ 現在の「西区の宝」を磨き、新たな「西区の宝」を築き上げる。

●現在の「西区の宝」 （「西区基本計画（平成16年度策定）」より）

- ・身近にある多様な「**自然**」
- ・温もりのある「**市民**」
- ・「**大学**」の知と人材

→ 現在の「西区の宝」を磨きつづける。

●25年後の新たな「西区の宝」

- ・魅力を気軽に味わえる「**リゾート**」
- ・みんなが安心して暮らせる「**福祉のまち**」
- ・いつでもどこへでも行ける「**便利なまち**」

→ 現在の3つの宝に加え、新たな「西区の宝」を築き上げる。



★25年後のイメージ★（抜粋）

○今津～北崎の自然のままの美しい海岸線を残し続けている。

→ **西区のひととき優れた自然美を「世界的遺産」へ**

○地産地消直売所、花市場、レストランが開設され、西区の自然を「食べる」ことや、「香る」ことができる。

→ **西区の魅力を賑わいに!! 自然を「五感で味わう」**

○九州大学の伊都キャンパスへの移転が完了し、学生の賑わいに溢れ、周辺地域との交流が広がり、一帯が「学園都市」として発展を遂げ、次世代エネルギーの開発が進み、身近なところで実用化されている。

→ **世界から注目される「学術エコ都市」へ**

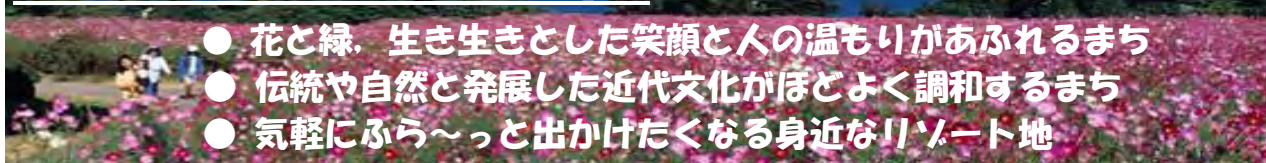
○能古島が小戸や今津からロープウェイで繋がれ、また、3つの島（能古島・玄界島・小呂島）が観光潜水艇で結ばれるなど、身近な「都会のアウトドアリゾート」として、多くの人々が訪れている。

→ **中心部から30分の「1Dayトリップ」～ふらっと、何度でも行きたいまち～**

○姪浜～橋本が地下鉄で結ばれることにより、福岡の地下鉄環状線が完成し、利便性が向上すると共に、北崎～今津～九州大学～九大学研都市駅などの拠点が無人モノレールで結ばれ、交通不便地が解消されている。

→ **お出かけしやすい「交通」で、住む人・来る人の回遊が盛んに!!**

☆25年後の「西区キャッチコピー」☆



- 花と緑、生き生きとした笑顔と人の温もりがあふれるまち
- 伝統や自然と発展した近代文化がほどよく調和するまち
- 気軽にふら～っと出かけたくなる身近なリゾート地

○提言チーム名 所管横断職員提言検討チームA

○テーマ アジア・国際戦略

○概要

・25年後の世界は…

「アジアの時代」：アジアを中心とした大交流時代

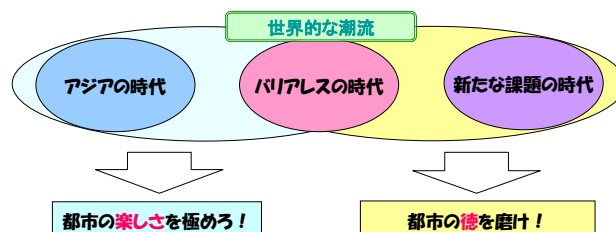
「バリアレスの時代」：人、モノが障壁なく行き交う時代

「新たな課題の時代」：新たな課題に世界で協調して取り組む時代

・25年後も福岡は…

「国境」に接した「国境」を越えていくまち
であるという事実には変わりはない。

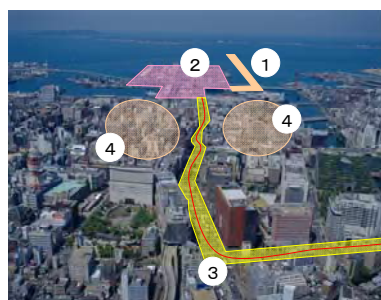
・世界の潮流の中で福岡が目指すべきは…



提言1「都市の楽しさを極めろ！」

・得意なこと（ポテンシャル）を最大限に発揮でき、「発見」「体験」「ふれあい」の楽しさを極めることで、**アジアの観光客**を惹き付ける。

エンターテインメントシティFUKUOKAへの大改造計画



1 クルーズ船ハブ港

国際旅客船のターミナルを須崎ふ頭に集中させて、天神のまちとリンクさせる。都心に近いことで利便性を向上させる。

2 楽市楽座特区

自由に交易を行える特区を設け、自由市場を設置。ヒトとモノが福岡で出会う象徴となる場所として整備する。夜には屋台も出て、一大観光地とする。

3 天神ー博多間 歩行者天国

須崎ふ頭から博多駅まで続くルートを歩行者天国化する。歩行者天国の中央にはLRTが博多駅まで延び、天神ー博多間の人の流れを作る。道路の両脇には、露店や屋台が並び一年中お祭りのような賑わいが形成されている。どんたけのようなお祭りが頻繁に開催され、訪れた観光客を楽しませている。

4 食とエンターテインメントのエリア

「食」と「エンターテインメント」のエリアを整備。親富孝通り付近を、アジアのグルメが集まる一大「食」のエリアとして整備する。通りごとに「中華路」「韓国路」「インド路」などと名付け、本場の食が楽しめる料理店を集める。「エンターテインメント」は競艇場を中心に整備し、外国人も気軽に楽しめるギャンブルしてとして競艇を売り込み、その他の体験型エンターテインメント施設の集積をはかる。

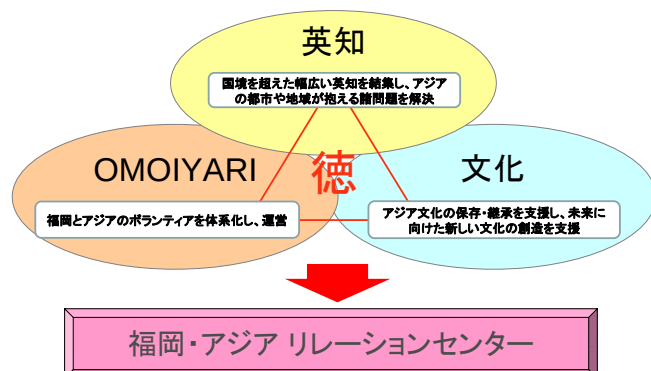
イメージ図



提言2「都市の徳を磨け！」

・都市の「徳」を磨き続けることで、25年後のアジアの隣人から信頼・共感を勝ち得る。

「福岡・アジア リレーションセンター」の設置



活動イメージ

英知：
福岡がこれまで克服してきた都市問題解決の経験を提供

OMOIYARI：
アジア全域で活動する新しいボランティアシステムを創設

文化：
蓄積したアジア文化の共有、活用を促進

○提言チーム名 所管横断職員提言検討チームB

○テーマ ひと 創造 つながり
～大名小学校を創造の拠点に～

○概要

- ・福岡はアジアに近いという地理的特性により、様々な文化交流を繰り返し、変化・発展
- ・魅力ある都市として生き残るには、社会の変化に対応していくこと、対応する人材の育成が必要
- ・多様な価値観を受け入れ、創造力を豊かにすることを志す「創造びと」が活躍するまち
- ・「創造びと」を育成する場、「創造びと」を呼び込む場を作り、そこで創造の誘発が繰り返される場が求められる。

⇒大名小学校をリノベーションし、クリエイティブを象徴する福岡の新たな顔として発信する『大名創造がっこう』を提案する。

『大名創造がっこう』のコンセプト

1. 交流・出会いの場

～世代や国籍を問わず、
あらゆる人が交流～

- ・気軽に立ち寄れる場
(カフェやギャラリー等)
- ・都心の憩いの場
(校庭でのイベント等)
- ・多様な価値観と出会う入口
(アートセンター)

明治6年(1873)創設
学校番号1

大名小学校

昭和4年(1929)築の現存
する市内最古のコンクリ
ート校舎

平成26年度(2014)から
舞鶴小・簀子小と合併し、
新校舎へ



2. 子ども達の創造性を育む場

- ・先進的な保育所で、幼少期から様々な人・モノと触れ合う
- ・乳幼児から本物の芸術に触れる機会を提供
- ・遊びや体験を通じ、創造性を育む(デザイン等)
- ・社会経験の場(子どもが運営するカフェなど)

3. 大人の創造性を誘発する場

- ・チャレンジする人材や外国人の創造びとの場
(レジデンス等)
- ・個人事業主の活動の場(シェアオフィス)
- ・社会的な課題解決の実践の場(ワークショップ)
- ・大人の学びの場(自由大学)



大名から福岡の新たな魅力、文化を創造する！

○提言チーム名 所管横断職員提言検討チームC

○テーマ 「ふくおかマインド」 あふれるまち

○概要

- ・福岡の人は、人なつっこい、人情に厚い、サービス精神旺盛などの気質を持つ
- ・まちとしてハードの整備は進んできた。これからの時代に必要なのは、整備されたハードの中で、どうやって「人」が幸せに暮らしていくか。



福岡市に住む人みんなが共感・共有できる「ふくおかマインド」があふれるまちを目指すことを提案する。

「ふくおかマインド」は、昔から福岡の人がもっている気質とも相容れるもので、共感・共有することで、みんなの住みやすい福岡市につながる。

ふくおかマインド

働き方に優しさを(ふくおかマインド1) → 働きやすいまちへ

① 仕事と生活のバランスを保つ。

働く人にはそれぞれの家庭生活があること、働き手の代わりはいるが、家族の代わりはいないことをすべての人が理解する。(福岡型ワークシェアリングの推進など)

② 女性が活躍できる環境をつくる。

子どもは社会全体で育てるという理解のもと、女性が出産、育児をしながら活躍できる社会の必要性を認識する。(フレックスタイム制度の普及など)

みんなで安心・安全なまちを(ふくおかマインド2) → 安心・安全に暮らせるまちへ

自助・共助・公助の考えのもと、自分たちのまちは自分たちの手で良くしていこうという考えの浸透・共有を目指す。

① 治安の良いまち

シルバーポリス発足、自主防犯活動等の支援(パトロール等)、モラルの向上(広報・啓発及び教育等)、環境の美化・浄化(綺麗なまちは犯罪が少ない)

② 災害に強いまちづくり

ユニバーサルデザインを用いた防災環境の整備、地域のつながりの強化による自主防災機能強化、行政による災害対策強化、素早く確実な情報提供

地域に思いやりと調和を(ふくおかマインド3) → 人と人がつながるまちへ

地域社会はあくまで人のつながりが重要であり、これにより解決できる社会問題がたくさんあることを理解する。

- ・地域活動につながる働き方の見直し(働き方編参照)
- ・地域活動へのインセンティブ(地域活動オリンピック)など

地域コミュニティの活性化

災害時の体制強化、助け合い

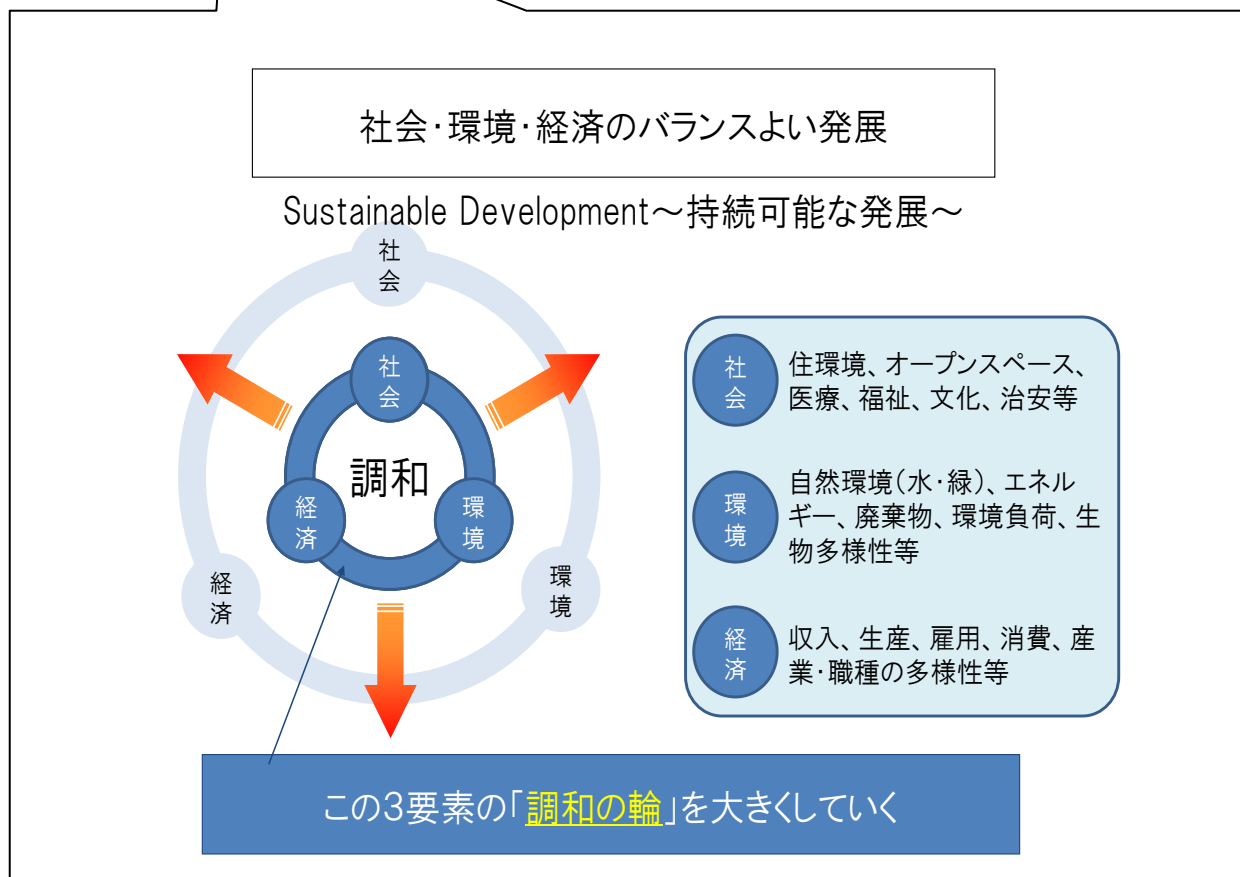
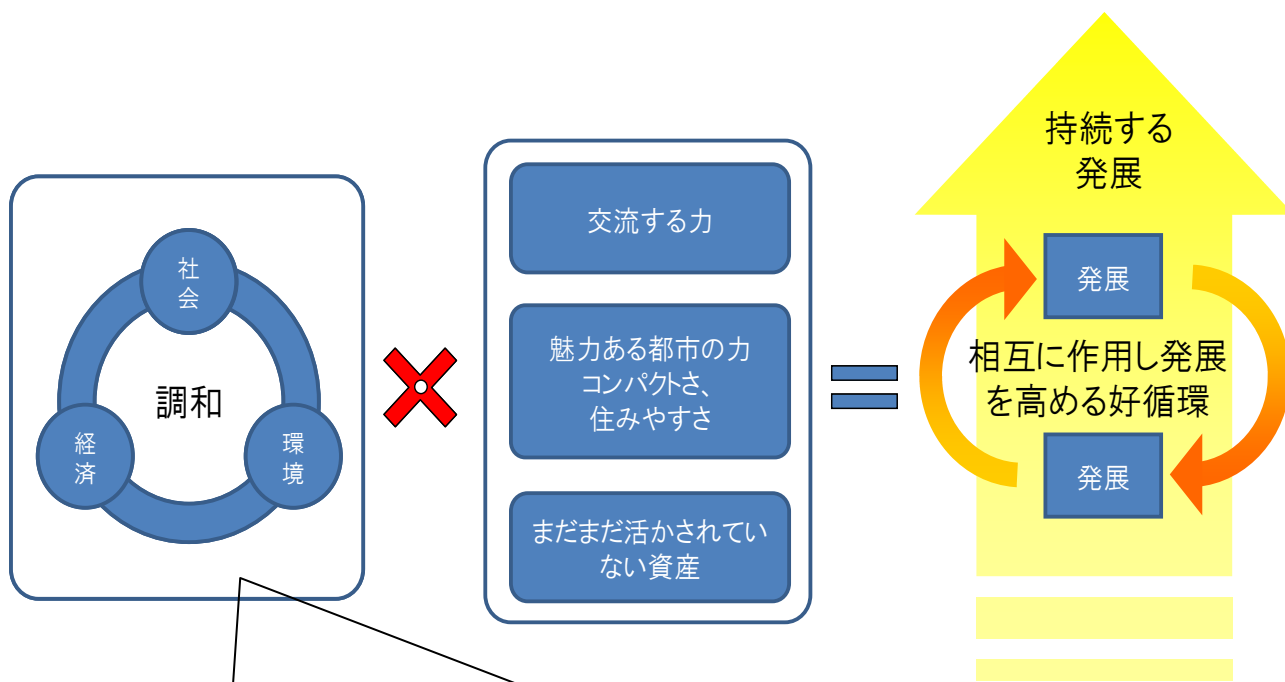
近隣からの孤立や孤独死の防止

子育て世帯へのバックアップ、児童虐待防止

不審者情報の共有などによる防犯対策

新ビジョンへの提案：福岡型の持続する発展

「調和」と「強み」により、発展が発展を生む好循環をつくる



○提言チーム名 所管横断職員提言検討チームE

○テーマ 「学校」が変わる！？ 「つながり力」でアジアのリーダー都市に

○概要

- 1 このまま25年後を迎えたら・・・→「暗黒の底なし沼シナリオ」へ
 - ・市の人口の1/3以上が60歳以上になる！50歳以上だと過半数。
 - ・既に高齢世帯の約6割が高齢者のみの世帯。25年後は孤独な高齢世帯ばかり！？
 - ・高齢単身世帯の心配は、健康、生活費、孤独。しかも医療費負担は増える。
 - ・全自殺者の約4割が60歳以上。要因の8割は健康、生活問題。
 - ・福岡市の高齢者は、就業機会の少なさに不満。
 - ・アジアの国々も急速に高齢化
- 2 「つながり力」でシナリオを書き換えよう！ アジアのリーダー都市へ
～「暗黒の底なし沼シナリオ」を「Good 輪（グリーン）シナリオ」に～

Vision 1 人々のつながりからワクワクを生み出すまち

Vision 2 「年寄り」がいないまち 生きがいと「トキメキ」を持って歳を重ねる

Vision 3 三世代で住みたいまち 地域全体で子育て、孫育て

3つの Vision へ向かって「つながり力」でまちもココロも潤い豊かなアジア各国のお手本となる都市～アジアのリーダー都市～へ

- 3 3つの Vision の実現する「コミュニティ・オン・スクール事業」

- ・「つながり力」を向上させる場として「学校」に着目。
- ・「学校」は地域に根差した、誰もが知っている場所
- ・「学校」を人が集まるつながりを生み出す「ハブステーション」にしよう。
- ・「学校」で遊ぶ、学ぶ、仕事をする。
(語学、楽器、農業、ゲームなど興味の湧く色々なことを学び、仲間に出会い、
培った技能でビジネスの機会も)
- ・「学校」を変える。地域、企業、NPO との共働による学校運営へ。

- 4 「コミュニティ・オン・スクール事業」で生み出す効果と可能性

生み出す効果

- ・仲間と居場所ができて、引きこもり防止。健康になって医療費削減。一人よりエコ。
- ・世代を超えた交流により教育力向上。みんなで子育て、孫育て
- ・ビジネスチャンスが生まれ、雇用創出
- ・見守り合いで防犯、非行防止、防災

可能性～こんなことが起こるかも！？

- ・「学校」が地域の憩いの場、地域を良くするための共働の場に。
- ・「学校」で磨いた知識技能で、趣味の甲子園開催、起業、海外進出、国際交流

7 お手紙、ホームページなどによる提案

(1) 市民の皆さま

いただいたご意見・ご提案をグループ分けをして集約しました。

1. アジアを実感し、世界を意識する国際経済都市
 - 1-1 世界を意識した経済発展がなされている都市
 - 1-2 アジアを実感する国際都市
2. 発展のために総合的な戦略を立案する
 - 2-1 まち全体を総合的に捉え、戦略を立案し発展する都市
 - 2-2 街の動脈となる中央交通の戦略的整備
3. 治安がよく、マナーもよい、責任ある防災都市
 - 3-1 治安がよく、マナーもあり、防災が考えられたまち
 - 3-2 私たちが責任を持って行動する自立した市民都市
4. 自然と共生する静かな発展の熟成都市
 - 4-1 自然との共生により豊かな人間環境があるまち
 - 4-2 熟成の余地がある静かな発展をする調和都市
 - 4-3 自転車なども活用した全ての人にマッチした交通があるまち
 - 4-4 地産地消を大事にする政令指定都市
 - 4-5 動物愛護都市
 - 4-6 費用対効果を考慮した極力お金のかからないまち
5. 人のつながりに安らぐ、居場所と出番のあるまち
 - 5-1 ホッと癒やされる、ありがとうが沢山使われる安心のまち
 - 5-2 街ぐるみで目指す健康都市
 - 5-3 人のつながりによる居場所と全ての人に「出番」のあるまち
 - 5-4 地域外との円滑な往来のあるまち
 - 5-5 三世代近居など育児環境が充実したまち
6. 多様な人が働き、学び、文化を誇り、支え合うまち
 - 6-1 老若男女・民族・人種を問わず支え合う多様性都市
 - 6-2 夢につながる学びが得られるまち
 - 6-3 誰でも勤労の義務を全うできるまち
 - 6-4 将来の社会を支える人に投資するまち
7. 歴史に依拠し、文化を誇るまち
 - 7-1 歴史やスポーツ、音楽などが誇れる文化都市
 - 7-2 まちの歴史に依拠した個性が明確な都市
8. 新しい産業が創造され発信されるまち
 - 8-1 国内外への発信を重視したまち
 - 8-2 知識産業などの新しい産業が創造されるまち

(2) 市職員（研修等参加者）

研修等の場でも出された市職員の意見・提案をグループ分けをして集約しました。

1. アジアの玄関・拠点都市で、国際的な交流が行われている
 - 1-1 世界へ向けたアジアの玄関・拠点都市
 - 1-2 国際的な交流が行われているまち
2. あふれる活気が九州を結び、実らせる
 - 2-1 九州を結び、実らせるまち
 - 2-2 活気にあふれる新進気鋭のまち
3. 福岡らしいシンボルがあり、交通も洗練されまち全体がつながっている
 - 3-1 福岡らしいシンボルのようなスポットのあるまち
 - 3-2 洗練された交通インフラによりまち全体がつながる都市
4. 食、水、エネルギーを地産地消する安全都市
 - 4-1 食や水、エネルギーなどの地産地消を意識したまち
 - 4-2 エネルギーそのものや、その利用法が今とは違う安全都市
5. 自然との共存が居心地いい、くつろぎの都市
 - 5-1 自然との共存による居心地の良い環境があるまち
 - 5-2 発展とともにくつろぎのある都市
6. 互いに拒絶しない、愛と好感のハートフルシティ
 - 6-1 誰もが住みやすく感じるよう互いに拒絶しないまち
 - 6-2 好かれ愛でられるハートフルシティ
7. 自律分散しながら多種多様につながり合うまち
 - 7-1 小さな単位で自律分散し支え合っているまち
 - 7-2 多種多様なコミュニティがあり、人と人のつながりが強いまち
8. スポーツや文化など特徴をブランド化するプロデュース都市
 - 8-1 まちの特徴をブランド化するプロデュース都市
 - 8-2 思わずあらゆる人に自慢したくなるようなまち
 - 8-3 プロスポーツと生涯スポーツが定着したまち
 - 8-4 文化的発展を妥協しないまち
9. 市民の夢がどんどん生まれ、広がるまち
 - 9-1 市民の夢がどんどん生まれ、広がるまち
10. みんながゆとりを意識し自分のペースで歩くまち
 - 10-1 みんながゆとりを意識し自分のペースで歩くまち
11. 充実した子ども時代が過せるまち
 - 11-1 充実した子ども時代が過せるまち
12. スマートな行政運営が行われているまち
 - 12-1 スマートな行政運営が行われているまち

8 ソーシャルメディア（ツイッター、フェイスブック）

ツイッターやフェイスブックを通じていただいたご提案をグループ分けをして集約しました。

※実施概要は、第4部（145 ページ）をご参照下さい。

1. アジアの架け橋となり、アピール力と課題解決力で世界に出る
 - 1-1 アジアとの架け橋による世界進出
 - 1-2 外に出る街
 - 1-3 課題解決先進都市
 - 1-4 アピールによるアジアの中での存在感
2. 交流拠点として様々な言語が飛び交うもてなしの街
 - 2-1 アジアとの交流拠点
 - 2-2 海外との便利な交通
 - 2-3 外国人をも招きもてなしたくなる街
 - 2-4 一部の言語だけでなく、様々な言語が飛び交う街
3. 都市機能や制度の成熟による活性化
 - 3-1 交通網の発達と成熟による活性化
 - 3-2 点から面へ
 - 3-3 バブルを起こさないで！
 - 3-4 災害に強く柔軟な街
 - 3-5 統計による街づくり
 - 3-6 福祉サービスの中身が充実した街
 - 3-7 交流の妨げにならない制度や自治
4. 食の魅力が向上し新しい特徴的なスポットを市民が案内している
 - 4-1 個性と特色に選択と集中
 - 4-2 クリエイティブなオリジナリティ
 - 4-3 新しく特徴的なスポット
 - 4-4 更なる食の魅力向上
 - 4-5 イベントによる交流拠点
 - 4-6 気軽に観光案内できる市民たち
5. 憩い、対話し、学ぶ、ルール違反のない利他のまち
 - 5-1 コミュニティデザインがされている街
 - 5-2 ICT を全員が使える距離短縮ツールに
 - 5-3 誰でも憩える便利な空間
 - 5-4 対話による街づくり
 - 5-5 利他と他地域からの学び
 - 5-6 犯罪やルール違反のないまち

6.市民という多様な担い手が実感し誇り学び働き楽しむ街

- 6-1 市民という多様な担い手が支え合う街
- 6-2 市民1人1人が実感を持った魅力ある街
- 6-3 企業や人が行動する
- 6-4 自らを誇り合うことで繋がる街
- 6-5 元気に学び働く市民
- 6-6 スポーツを楽しめる街

7.自然エネルギー活用の庭園都市

- 7-1 田舎と自然を感じる庭園のような都市空間
- 7-2 自然エネルギーの活用

8.市民が持つ歴史と文化のまちづくり

- 8-1 博多文化など文化によるまちづくり
- 8-2 歴史、文化を持った市民たち
- 8-3 歴史・文化の観光活用
- 8-4 外から見た魅力、内から見た魅力を忘れない都市

9.子どもと若者に未来を託す

- 9-1 若者と才能に投資する
- 9-2 大学・学生を活用した産業振興
- 9-3 海外を意識した教育拠点
- 9-4 子どもたちの未来に安心する街
- 9-5 子育てしやすい街

第4部 意見募集メニューごとの実施方法

各意見募集メニューごとの主な実施方法等を記載しました。

1 有識者インタビュー

(1) 目的

将来像を検討するにあたり、経済社会の動きなどについての現状認識と将来の見通しを確認するため、学識経験者、経済人などを中心にご意見を伺いました。

(2) 手法

- 有識者と対面で、約1時間～1時間半談話する方式
- インタビュアーは、福岡アジア都市研究所の研究員

(3) インタビュー項目

- 下記、5項目を設定し、インタビューを実施。
 1. これまでの25年間、これからの25年間に対するご見解（世界・アジア・日本・福岡市などの視点から）
 2. 福岡市に目指してもらいたい（目指すべき）都市像
 3. 福岡市が成長する過程で伸ばすべき良いところ
 4. 福岡市が克服すべき課題
 5. その他、ご自身の事業や職業等からのご提言
- 52人の有識者にインタビュー実施。

2 フォーラム （アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクトリレーフォーラム）

- 将来像を検討するにあたり、切り口や、視点・論点になるのではないかと考えられるテーマを各回ごとに設定し、そのテーマに造詣が深い、多彩なゲストを迎え、フォーラムを開催することで、専門的な知識等に基づくご意見をいただきました。
- 全11回の開催。53人のゲストが登壇し、延べ約1,100人が参加。

【各回におけるテーマとゲスト】 ※肩書きはフォーラム開催時点

■第1回「福岡市の未来を描くキーワード」

- ・平成23年6月18日（土）

福岡市役所 15階講堂 参加者約200人

〔パネリスト〕

- ・大塚 ムネト 氏（劇団ギンギラ太陽's 主宰）
- ・川原 正孝 氏（㈱ふくや代表取締役社長）
- ・後藤 太一 氏（福岡地域戦略推進協議会事務局長、
福岡アーバンラボラトリー代表社員）
- ・久留 百合子 氏（㈱ビスネット代表取締役）
- ・山崎 朗 氏（中央大学経済学部教授）

〔コーディネーター〕

- ・中川 茂 氏（西日本新聞社報道センター本部長）

■第2回「生物多様性とまちづくり」

- ・平成23年6月25日（土）

福岡市美術館 講堂 参加者約80人

〔パネリスト〕

- ・浅羽 雄一 氏（㈲ウィロー代表）
- ・小野 仁 氏（日本野鳥の会福岡代表）
- ・半田 孝之 氏（福岡市漁業協同組合伊崎支所）
- ・矢部 光保 氏（九州大学大学院農学研究院教授）

〔コーディネーター〕

- ・朝廣 和夫 氏（九州大学大学院芸術工学研究院准教授）

■第3回「アクティブエイジング～いくつになってもいきいきと暮らせるまち」

- ・平成23年7月2日（土）

福岡市立婦人会館 9階大研修室 参加者約70人

〔パネリスト〕

- ・伊原 ルリ子 氏（㈱晴天代表取締役）

- ・小川 全夫 氏（福岡アジア都市研究所副主幹研究員、九州大学名誉教授）
 - ・福嶋 明子 氏（FuAri communications 代表、（元ぐらんぞ総研所長））
- 〔コーディネーター〕
- ・十時 裕 氏（アーバンデザインコンサルタント取締役、
（元福岡市NPO・ボランティア交流センター長））

■第4回「おもてなしが育むまち」

- ・平成23年7月9日（土）
博多小学校 表現の舞台 参加者約70人
- 〔パネリスト〕
- ・井手 修身 氏（NPO法人アイデア九州・アジア代表）
 - ・上田 啓蔵 氏（はかた部ランド協議会議長）
 - ・山下 真輝 氏（㈱JTB旅行事業本部地域交流ビジネス推進室）
- 〔コーディネーター〕
- ・帆足 千恵 氏（（財）福岡観光コンベンションビューロー）

■第5回「人をひきつけるクリエイティブなまち」

- ・平成23年7月16日（土）
福岡アジア美術館 8階あじびホール 参加者約100人
- 〔ゲスト〕
- ・伊藤 総研 氏（伊藤総研㈱代表）
 - ・江口 カン 氏（KOOKI代表／映像ディレクター）
 - ・藤 浩志 氏（藤浩志企画制作室／美術作家）
- 〔コーディネーター〕
- ・伊藤 敬生 氏（九州アートディレクターズクラブ代表）

■第6回「スポーツとまちの元気」

- ・平成23年7月22日（金）
福岡アジア美術館 8階あじびホール 参加者約80人
- 〔パネリスト〕
- ・伊藤 清隆 氏（リーフラス（株）代表取締役社長）
 - ・小林 至 氏（福岡ソフトバンクホークス（株）取締役）
 - ・下田 功 氏（アビスパ福岡（株）代表取締役専務）
- 〔コーディネーター〕
- ・森本 博樹 氏（西日本新聞社スポーツ本部長）

■第7回「人が仕事を生み、仕事人が人を呼ぶ」

・平成23年7月28日（木）

アクロス福岡 円形ホール 参加者約90人

〔パネリスト〕

- ・安藤 貴文 氏 (PicoCELA(株)ソリューション営業部<九州大学発 IT ベンチャー>)
- ・池内 比呂子 氏 (株テノ. コーポレーション代表取締役社長)
- ・柳瀬 隆志 氏 (嘉穂無線(株) (グッデイ) 取締役営業本部長)

〔コーディネーター〕

- ・坂本 剛 氏 (株産学連携機構九州代表取締役、
九州大学産学連携センター客員教授)

■第8回「都心のまちづくり」

・平成23年8月7日（日）

福岡アジア美術館 8階あじびホール 参加者約120人

◇第1部：基調講演

- ・出口 敦 氏 (東京大学大学院新領域創成科学研究科教授
九州大学大学院人間環境学府 客員教授)

◇第2部：トークセッション

〔ゲスト〕

- ・岩永 真一 氏 (NPO法人グリーンバード福岡チーム事務局長、
福岡テンジン大学学長)
- ・大坪 恵太郎 氏 (福岡地所(株)開発事業本部課長)
- ・酒井 咲帆 氏 (株アルバス代表)
- ・原口 可奈子 氏 (編集者・ライター／Wonderscope)

〔コーディネーター〕

- ・出口 敦 氏

■第9回「誰もが思いやりを持ち、すべての人に優しいまち～ユニバーサルシティ福岡」

・平成23年8月19日（金）

アクロス福岡 円形ホール 参加者約100人

〔パネリスト〕

- ・張 愛 氏 (外国語翻訳、中国ビジネス支援)
- ・西 政宏 氏 (福岡県立柳河特別支援学校英語教諭)
- ・平井 康之 氏 (九州大学大学院芸術工学研究院准教授)
- ・和栗 百恵 氏 (福岡女子大学国際文理学部准教授)

〔コーディネーター〕

- ・定村 俊満 氏 (株ジーエータップ代表取締役社長)

■第10回「25年後のために～次世代の育成」

・平成23年8月27日（土）

福岡ビル 9階大ホール 参加者約80人

◇第1部：トークセッション「25年後の福岡を語る」

〔ゲスト〕

- ・古池 梨紗 氏（福岡雙葉高等学校2年生）
- ・庄 善勇 氏（九州大学大学院修士課程）
- ・三船 正士 氏（書家、九州大学21世紀プログラム課程4年）
- ・楊 帆 氏（九州大学大学院博士課程）

〔コーディネーター〕

- ・加藤 暁子 氏（「日本の次世代リーダー養成塾」事務局長）

◇第2部：トークセッション「次世代の育成」

〔ゲスト〕

- ・栗栖 慎治 氏（NPO アジア太平洋こども会議・イン福岡専務理事）
- ・中垣 量文 氏（㈱全教研 常務取締役管理本部長）

〔コーディネーター兼ゲスト〕

- ・加藤 暁子 氏

■第11回「人が集い、躍動する都市を目指して」

・平成23年10月30日（日）

福岡市役所 15階講堂 参加者約130人

◇基調講演 日本「再創造」～「プラチナ社会」実現に向けて～

講師 小宮山 宏 氏（㈱三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問）

◇パネルディスカッション

〔パネリスト〕

- ・小宮山 宏 氏（㈱三菱総合研究所理事長、東京大学総長顧問）
- ・鍋山 徹 氏（㈱日本政策投資銀行産業調査部チーフエコノミスト）
- ・野田 順康 氏（国連ハビタット福岡本部 本部長）
- ・中村 文香 氏（九州大学経済学部4年）

〔コーディネーター〕

- ・大久保 昭彦 氏（西日本新聞社都市圏総局長）

※ 第1～10回までのフォーラムでは、「データで語る福岡の今・未来」として、各回のテーマに関連のある福岡市に関する様々なデータを財団法人福岡アジア都市研究所専門研究員である山下永子氏にご紹介いただきました。

3 市民アンケート

現在の福岡市の都市環境等についての満足度及び福岡市を将来どのような点で魅力ある都市にしたいかアンケート調査を行いました。(延べ3, 250人から回答)

(1) 市民の皆さま4, 500人を対象としたアンケート

- 実施先 福岡市内に居住する満 20 歳以上の市民の皆さまから無作為に抽出した 4,500 人
- 実施方法 郵送法
- 回収数 2,588、回収率 57.5%

(2) 各区自治協議会会長の皆さまへのアンケート

- 実施先 各区自治協議会会長
- 実施方法 自治協議会会長会などにおいて説明し、その場で記載回収又は郵送による返送
- 回収数 121

(3) 外国人留学生と日本人ボランティアスタッフへのアンケート

- 実施先 あったか福岡 ～福岡外国人学生支援の会～
- 実施方法 日本語おしゃべりサロンの場において説明しその場で記載回収
- 回収数 36 (中国人 14、台湾人 2、韓国人 1、
日本人ボランティアスタッフ等 19)

(4) フォーラム参加者へのアンケート

- 実施先 アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクトリレーフォーラムへの参加者の皆さま
- 実施方法 フォーラム会場において記載回収
- 回収数 505 (複数回のフォーラム参加者の重複回答あり)

※ なお、上記(2)～(4)においては、福岡市の将来像についての自由記述欄を設けました。ご意見・ご提案については、お手紙などと合わせて集約しました。

4 論文

「私の提言『25年後のふくおか〜人と環境と都市が調和のとれたアジアのリーダー都市を目指して』というテーマで、これから先の福岡市はどうあるべきか、何をすべきかなどについて、提言論文を募集し、26作品の応募がありました。

(1) 実施主体

福岡市, 西日本新聞社 共催

(2) 応募総数

26作品

(3) 審査結果 (各賞ごとの氏名五十音順) ※最優秀賞は、該当なし

○優秀賞 (2作品)

◇橋詰 信吾 氏 (福岡市早良区在住)

私の提言〜25年後も、夢が実現できる福岡であるために〜

◇古舘 美紀 氏 (福岡市早良区在住)

スマート×エコな自転車都市FUKUOKA

○佳作 (4作品)

◇中尾 雅幸 氏 (福岡市東区在住)

〜25年後のふくおかを支える人材育成への提言〜

◇針貝 礼子 氏 (糸島市在住)

福岡市に「九州マルシェ」を創ろう!

◇宮原 章 氏 (福岡市中央区在住)

『子育てしたいまち』福岡へ

◇村田 義郎 氏 (福岡市城南区在住)

「ふくおか」・イノチをつなぐ物語

(4) 私の提言「25年後のふくおか」審査委員会審査員

長谷川 法世 氏 (博多町家ふるさと館館長)

村山 由香里 氏 (福岡県男女共同参画センターあすばる館長)

八尋 和郎 氏 (九州経済調査協会調査研究部研究主幹)

妹尾 克彦 氏 (西日本新聞社編集企画委員会委員長)

貞刈 厚仁 (福岡市総務企画局長)

5 ワークショップ（ビジョンカフェ）

（１）市民ワークショップ

①目的

地域、企業、大学など少人数のグループで、ワークショップ（ビジョンカフェ）を実施していただき、そこでの対話を通して生まれたご意見・ご提案をいただきました。

②ビジョンカフェとは

ワールドカフェの手法を用いた新ビジョン検討のためのワークショップ。話し合いのテーマ「２５年後の福岡がすばらしいまちになっているとしたら、そこではどんなことが実現しているのでしょうか？」について対話をしていただき、最後に参加者一人ひとりのご意見を記載していただきました。

※ワールドカフェとは

○簡単な手順でリラックスした雰囲気を作り出し、自由に意見を出し合えるようにする話し合いの手法です。全参加者をカフェテーブルのような小グループに分け、時間を区切り、たびたび相互にメンバー交換をしながら、多様な会話と組み合わせの偶然性を楽しむものです。

○従来は、できるだけ多くの人を一堂に集め、数百人での開催という大集会型でしたが、「アジアのリーダー都市ふくおか！ プロジェクト」では、市民が自発的に数十人単位の集会をいくつも開くという方式を導入し、市民自身による身近な集まりで「新ビジョン」について考えていただくこととしました。

③開催実績

市民団体、高校生・大学生、地域（自治協議会役員の皆さん、男女共同参画推進協議会の皆さん、公民館館長・主事の皆さんなど）、民間企業などにより開催

○全９１回開催（うち１７回は福岡市主催）し、延べ約１，８００人参加

（２）市職員ワークショップ

職員も各局・区・室ごとに、ビジョンカフェを実施しました。

○全１８回開催し、延べ約７００人の職員が参加

6 団体等からの提言

(1) 団体の皆さま

「福岡商工会議所」、「南区我等のまち」、「C & C 2 1 研究会」の3団体の皆さまからご提案をいただきました。

(2) 市職員提言検討チーム

各局等や各区に所属するあるいは所管横断的に職員がチームを作り、自由な発想で提言を検討しました。

○約400人が参加、27の提言検討チームによる提言

7 お手紙、ホームページなどによる提案

(1) 市民の皆さま

市政だよりの紙面で、募集記事等を掲載し、郵送や専用ホームページ、アンケート自由記述、電話、電子メール、FAX、持参などによりご提案いただきました。

○391件のご提案

(2) 市職員（研修等参加者）

係長研修や新規採用職員研修等における研修プログラムの一部に市の将来像を話し合うグループワークを設けるなどいたしました。

○約700件の提案

8 ソーシャルメディア（ツイッター、フェイスブック）

ツイッターやフェイスブックなどソーシャルメディアを利用されている方が増えてきていることから、これらを活用した意見募集を行いました。

○提案数：207件

○登録数：約1,600

（ ツイッターフォロワー数 1,003、 フェイスブック “いいね” 数 642
※平成23年11月30日時点 ）

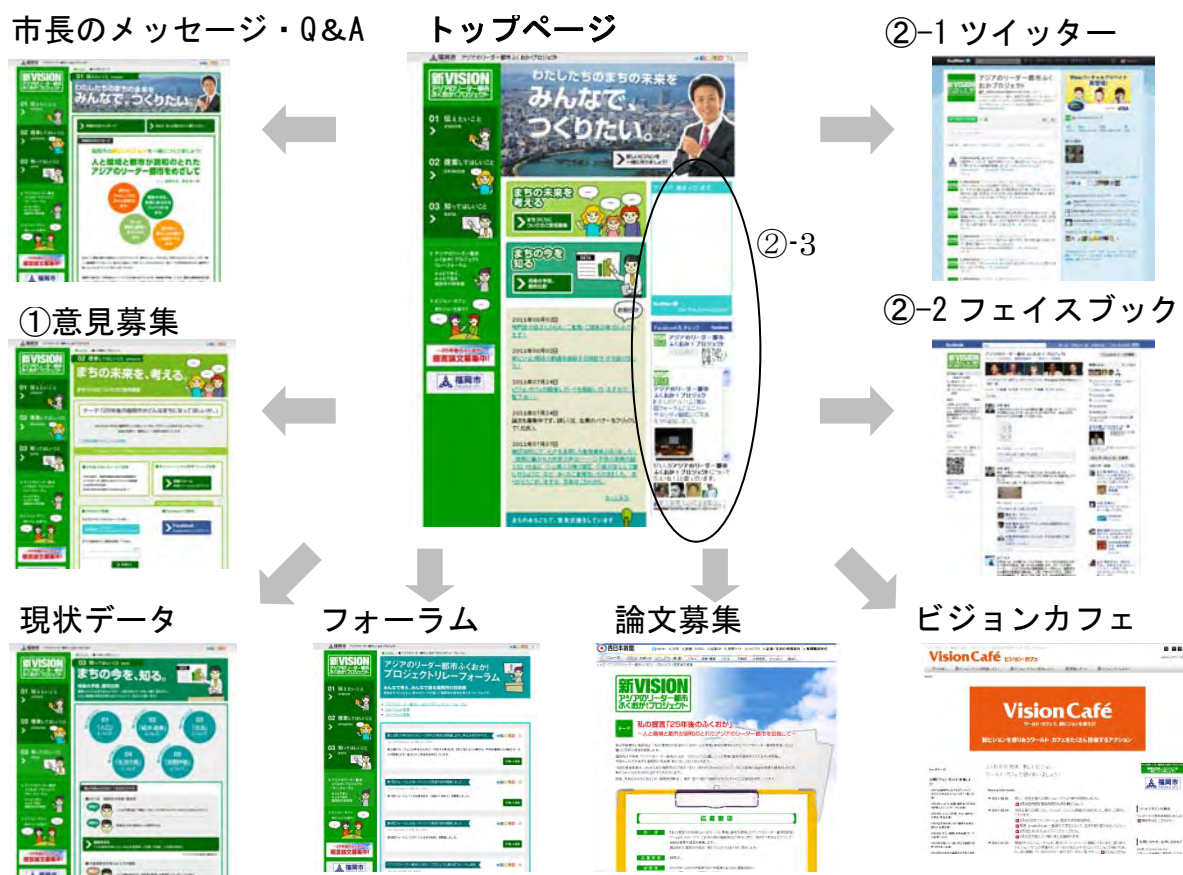
※インターネットを利用した情報発信、意見募集について

(1) 目標

- 新ビジョン検討の取組み・成果を情報発信する。
- ソーシャルメディアであるツイッターやフェイスブックを活用した意見募集などを行う。

(2) ホームページ構成

〔構成図〕



〔主な内容〕

- ①ホームページ内に設けた投稿フォームによる意見募集
- ②ツイッター、フェイスブックによる意見募集
 - ・意見募集の投げかけや、フォーラムの開催案内等の情報を発信
 - ※いただいたご意見については、事務局から返信をすることで、ソーシャルメディアの利点を活かした双方向のコミュニケーションが図れるよう心がけました。
 - ・いただいたご意見・ご提案を新ビジョンホームページのトップページに表示（上記、構成図中②-3）

〔ホームページ閲覧数〕

- ・10万件を超える閲覧をいただきました。

【実施結果概要一覧】

項 目	結 果
1 有識者インタビュー	インタビュー数：52人
2 フォーラム (アジアのリーダー都市ふくおか！ プロジェクトリレーフォーラム)	11回開催 ゲスト：53人 参加者：延べ約1,100人
3 市民アンケート	回答数：延べ3,250人
4 論文	応募数：26作品
5 ワークショップ (ビジョンカフェ)	・市民ワークショップ 91回開催 参加者：延べ約1,800人 ・市職員ワークショップ 18回開催 参加者：約700人
6 団体等からの提言	・団体 3団体 ・市職員提言検討チーム 27チーム 参加者：約400人
7 お手紙、ホームページなどによる 提案	・市民の皆さまからの提案：391件 ・市職員（研修等参加者）：約700件
8 ソーシャルメディア (ツイッター、フェイスブック)	提案数：207件 登録数：約1,600 （ ツイッターフォロワー数：1,003 フェイスブック“いいね”数：642 ※平成23年11月30日時点 ）

※上記、5，7，8については、カードインテグレーションの手法を用いて集約しました。

用語集

アルファベット順、五十音順

用 語	内 容
B R T	〔Bus Rapid Transit〕 バス専用路線などを使った高速輸送システム
I C T	〔Information and Communication Technology〕 情報通信技術
L R T	〔Light Rail Transit〕 軽量電鉄交通システム。路面電車のシステム全体を近代化・ハイテク化した新しい都市交通システム。フランスでは「トラム」と呼ばれている。
M I C E	〔マイス〕 企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、イベント、展示会・見本市 (Event/Exhibition) の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。(Eには、エンターテインメント (Entertainment) を含む場合もある。)
N P O	〔nonprofit organization〕 政府・自治体や企業とは独立した存在として、市民・民間の支援のもとで、医療・福祉、環境、国際協力・交流など社会的な公益活動を行う組織・団体。民間非営利団体。法人格を持たない団体、ボランティア団体を含む。
P D C A	政策の企画立案 (Plan)、実践・執行 (Do)、評価・点検 (Check)、改革・対策の実施 (Action) のくり返しにより経営管理を行う手法。マネジメント・サイクル。
R O R O 船	〔ローローセン、Roll-on/roll-off ship〕 貨物をトラックなどの車両に積んだまま積み降ろしできる形態の船で、荷役作業の時間が短く、揺れや衝撃が少ないといわれている。
アクティブシニア	元気に活動する高齢者 (シニア) 層
インキュベーション	創業間もないベンチャー企業の育成機関としてアメリカで生まれた概念で、安価なスペースと共用のビジネスサービス等を提供し、成長を加速させるための施設。本来の意味は、「保育器」。
インセンティブ	人の意欲を引き出すために、外部から与える刺激。
インバウンド	海外等他地域からの観光客
ウォーターフロント	臨海部

用 語	内 容
エンジェルファンド	エンジェルとは、資金を提供したり経営に助言したりして、ベンチャー起業家を支援する個人投資家をいう。エンジェルファンドとは、個人投資家が意欲的な起業家やベンチャー企業を資金面等で支援（出資）するための資金。
カードインテグレーション	ある事柄に関する多くの意見を類似性や共通性のあるもの毎に、まずは小さい集まりで数多くのグループ分けをし、それらを徐々に大きな集まりへと統合していく集約方法。 一つの意見を一枚のカードに記載したものを用いる。
環境オフセット制度	事業者が大規模開発をする際、開発によって失われた生態系と同程度かそれ以上のものを提供しないと、開発が行えないという制度。
グローバルシチズン	世界を見据えて物事を考える市民。
国際地域ベンチマーク協議会	2008年にシアトルの提唱で設立され、都市規模や経済特性などにおいて類似性を有した世界10地域で構成する国際的な都市ネットワーク。
コスモポリタンシティ	民族や国籍にとらわれることなく共生できる街。
コミュニティビジネス	地域の様々な課題を解決するために、地域にある資源(労働力、原材料、技術力等)を活用して取り組む地域密着型の事業活動。働く場や生きがいづくり、コミュニティの再生・活性化などの効果が期待される。
コンベンション	人を中心とした物、知識、情報などの交流の場。会議、学会、見本市、展示場、博覧会、スポーツ大会、発表会など。
サスティナビリティ	持続可能性
サプライチェーン	供給連鎖。原材料の調達から生産・販売・物流を経て最終需要者に至る、製品・サービス提供のために行われるビジネス諸活動の一連の流れのこと。
ジェントロジー	人間の老化現象を生物学、医学、社会科学、心理学など多面的、総合的に研究する学問。
シビックプライド	市民が都市に対してもつ誇りや愛着。
スマートコンシューマー	賢い消費者
ソーシャルメディア	誰もが参加できる拡張可能な情報発信技術（掲示板、インターネット等）を用いて、社会的な相互作用・コミュニケーションを通じて広がっていくように設計されたメディア。代表的なサービスに、mixi(ミクシー)、twitter(ツイッター)、facebook(フェイスブック)などがある。
ダイレクトサーフェイス	船が、途中でどこへも寄らず、直接目的地に航行すること。

用 語	内 容
トランジットモール	歩行者の安全性や快適性を確保しつつ、公共交通機関による市民のアクセス性を確保するため、原則としてバスなどの公共交通機関のみの通行を許容した空間。
パーキングパーミット	本当に身障者用駐車場を必要とする人に共通する利用証を交付することで、駐車場を利用できる人を明らかにし、駐車スペースを確保するサービス。
パークアンドライド	自らが自家用車を運転し、郊外部の駅などの周辺に駐車し、鉄道などの公共交通機関に乗り継いで目的地へ移動する形態。
バイオマス	バイオ（生き物）＋マス（物の集まり）のことで、家畜のふんや生ごみ、下水汚泥などを指す。このバイオマスから作り出す燃料で発電することを「バイオマス発電」、熱を作ることを「バイオマス熱利用」という。
バウチャー	割引券。金券。クーポン券。
ハブステーション、ハブ港	ハブとは、自転車などの車輪の中心部にあつて、車輪の外周にあるリムから出た全てのスポークが一点に集中する部分。ここから連想して「交通のハブ」といった拠点を表す用語に転用された。
バリアフリー	高齢者、障がい者、妊産婦やベビーカーを利用する人などが社会生活をしていく上で障壁（バリア）となるものを除去するという意味。
フィーダーバス	住宅地と鉄道の駅を結んだ路線バス。
フィッシャーマンズワーフ	アメリカ合衆国カリフォルニア州のサンフランシスコにある代表的な観光地。
ベロタクシー	自転車タクシー
ポケットパーク	道路わきや街区内の空き地などわずかの土地を利用した小さな公園または休憩所。
ホスピタリティ	お互いを思いやり、手厚くもてなすこと。
マルシェ	フランス語で市場のこと。
ユニバーサルデザイン	障がいの有無や年齢、性別を問わず、すべての人が自由に、快適に利用でき、行動できるような思いやりあふれる配慮を、まちづくりやものづくりなどのあらゆる場面で、ハード・ソフトの両面から行っていこうという考え方。自転車を違法に駐輪しない、困っている人に手を貸すなどの心の持ちようも含むもの。
リノベーション	建物の改修時に、用途や機能を変更して性能を向上させたり価値を高めたりすること。
ワークショップ	政策形成や公共施設の整備計画づくりなどにおいて、市民、専門家、行政などが共同で作業し知恵を出し合いながら、案をつくりあげていく手法。



福岡市総務企画局企画調整部

(アジアのリーダー都市福岡!プロジェクト事務局)

〒810-8620

福岡市中央区天神1丁目8-1

TEL (092) 711-4093 **FAX** (092) 733-5582

MAIL shinvision@city.fukuoka.lg.jp

URL <http://f-shinvision.jp/>